

— 令和2年度日常生活圏域ニーズ調査 —

結果報告書

令和3年2月

逗子市

<目次>

I	調査概要	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
2	生活機能	4
(1)	運動	4
(2)	閉じこもり	13
(3)	転倒	22
(4)	栄養	27
(5)	口腔	34
(6)	認知機能	42
(7)	うつ予防	55
(8)	虚弱	69
(9)	旧二次予防事業対象者	78
(10)	総合事業対象相当	84
3	日常生活	90
(1)	手段的自立度（IADL）	90
4	社会参加	94
(1)	知的能動性	94
(2)	社会的役割	98
(3)	老研式活動能力指標総合評価	108
(4)	生きがい	111
(5)	趣味	112
5	疾病	113
(1)	病気全体	113
(2)	高血圧	114
(3)	高脂血症（脂質異常）	115
(4)	筋骨格の病気	116
(5)	目の病気	117
(6)	糖尿病	118
(7)	心臓病	119
(8)	脳卒中	120
(9)	通院	122
6	健康・生活習慣	124
(1)	主観的健康感	124
(2)	肥満度	127
(3)	飲酒	128
(4)	喫煙	130

(5) インターネットの利用	131
(6) 就労	133
7 介護の状況	134
(1) 介護・介助の必要性	134
(2) 要介護・介助の原因	135
(3) 介護者	136
(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし	137
8 保健福祉サービス	138
(1) 運動や栄養改善への関心度	138
(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス	138
(3) 利用しているサービス	139
(4) 介護予防教室への参加意向	140
9 住宅・暮らし	141
(1) 住宅の所有関係	141
(2) 現在の暮らしの状況	142
(3) 終の住み家、エンディング	143
10 圏域別の概況	147
(1) 生活機能等リスク該当者	147
(2) 疾病	148
(3) 健康に関する事項	149
参考資料（調査票）	150

I 調査概要

1) 調査対象

- ・令和2年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上の方です。
(要介護認定を受けている方及び施設に入所している方を除く)。

2) 調査方法

- ・郵送による配布・回収

3) 調査期間

- ・令和2年8月31日～9月22日
(その後未回収者に対しては調査票を再送付して11月1日まで回収)

4) 調査項目

- ①家族や生活状況について
- ②からだを動かすことについて
- ③食えることについて
- ④毎日の生活について
- ⑤地域での活動について
- ⑥健康について
- ⑦認知症にかかる相談窓口の把握について
- ⑧運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービスについて

5) 回収結果

単位:人

性別	調査対象者数	有効回収数	有効回収率(%)
男性	2,367	1,921	81.2
女性	2,882	2,377	82.5
総数	5,249	4,298	81.9

1 回答者の属性

II 調査結果

1 回答者の属性

1) 年齢構成

単位:上段:%/下段:人

性別	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
男性	25.4 488	23.8 457	49.2 945	18.7 360	20.7 398	8.9 171	2.4 47	50.8 976	100.0 1,921
女性	22.2 528	23.5 558	45.7 1,086	19.2 457	22.3 531	9.4 224	3.3 79	54.3 1,291	100.0 2,377
総数	23.6 1,016	23.6 1,015	47.3 2,031	19.0 817	21.6 929	9.2 395	2.9 126	52.7 2,267	100.0 4,298

※上段の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

2) 認定・該当状況

単位:上段:%/下段:人

性別	非該当	該当	要支援者	不明	総数	総合事業 対象相当
男性	67.5 1,297	25.4 487	4.5 87	2.6 50	100.0 1,921	60.8 1,168
女性	59.7 1,420	29.6 704	7.7 182	3.0 71	100.0 2,377	65.8 1,563
総数	63.2 2,717	27.7 1,191	6.3 269	2.8 121	100.0 4,298	63.5 2,731

※該当者とは、旧二次予防対象者のこと(要支援者を除く回答者のうち、基本チェックリストの運動、口腔、栄養、虚弱のいずれかに該当すると判定された者)

※総合事業対象相当とは、要支援者と上記の旧二次予防対象者、回答者のうち認知機能とうつ予防のリスク該当者、いずれかに該当する者

3) 住宅の所有関係

単位:上段:%/下段:人

性別	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答	総数
男性	77.0 1,480	10.9 209	1.5 29	1.1 22	4.7 90	1.5 29	1.2 23	2.0 39	100.0 1,921
女性	74.0 1,760	14.0 333	2.7 64	0.9 22	3.6 85	1.3 31	1.0 24	2.4 58	100.0 2,377
総数	75.4 3,240	12.6 542	2.2 93	1.0 44	4.1 175	1.4 60	1.1 47	2.3 97	100.0 4,298

4) 世帯構成

単位:上段:%/下段:人

性別	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳 以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳 以下)	息子・娘と の2世帯	その他	無回答	総数
男性	11.7 225	46.9 901	7.3 140	16.8 323	15.0 288	2.3 44	100.0 1,921
女性	22.6 537	36.7 873	1.3 32	20.3 483	15.9 377	3.2 75	100.0 2,377
総数	17.7 762	41.3 1,774	4.0 172	18.8 806	15.5 665	2.8 119	100.0 4,298

5) 世帯構成別年齢構成

単位:上段:%/下段:人

世帯構成	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
1人暮らし	17.2 131	19.7 150	36.9 281	19.2 146	25.5 194	13.8 105	4.7 36	63.1 481	100.0 762
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	20.6 365	26.9 478	47.5 843	20.9 370	23.1 409	7.3 129	1.3 23	52.5 931	100.0 1,774
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	64.5 111	18.6 32	83.1 143	7.6 13	7.6 13	1.7 3	0.0 0	16.9 29	100.0 172
息子・娘との 2世帯	19.4 156	21.7 175	41.1 331	19.9 160	21.1 170	13.3 107	4.7 38	58.9 475	100.0 806
その他	36.1 240	22.9 152	58.9 392	16.2 108	16.2 108	5.6 37	3.0 20	41.1 273	100.0 665
無回答	10.9 13	23.5 28	34.5 41	16.8 20	29.4 35	11.8 14	7.6 9	65.5 78	100.0 119
総数	23.6 1,016	23.6 1,015	47.3 2,031	19.0 817	21.6 929	9.2 395	2.9 126	52.7 2,267	100.0 4,298

6) 圏域

単位:上段:%/下段:人

性別	東部	中部	西部	総数
男性	39.2 753	27.8 534	33.0 634	100.0 1,921
女性	37.4 888	28.6 679	34.1 810	100.0 2,377
総数	38.2 1,641	28.2 1,213	33.6 1,444	100.0 4,298

※東部・・・桜山3・4・5丁目(35～37番、葉桜団地を除く)、沼間、池子
 中部・・・逗子、桜山1・2・5丁目35～37番、葉桜団地のみ・6～9丁目、山の根、
 新宿1～3・4丁目1～5番(2番29～59号を除く)・6番38～42号・5丁目
 西部・・・久木、小坪、新宿4丁目2番29～59号・6～16番(6番38～42号除く)

7) 圏域別年齢構成

単位:上段:%/下段:人

圏域	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
東部	23.6 387	23.7 389	47.3 776	19.3 316	22.2 364	8.5 139	2.8 46	52.7 865	100.0 1,641
中部	24.3 295	24.9 302	49.2 597	18.3 222	20.4 248	9.2 111	2.9 35	50.8 616	100.0 1,213
西部	23.1 334	22.4 324	45.6 658	19.3 279	22.0 317	10.0 145	3.1 45	54.4 786	100.0 1,444
総数	23.6 1,016	23.6 1,015	47.3 2,031	19.0 817	21.6 929	9.2 395	2.9 126	52.7 2,267	100.0 4,298

2 生活機能

2 生活機能

(1) 運動

ア 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下と判定されます。

図表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

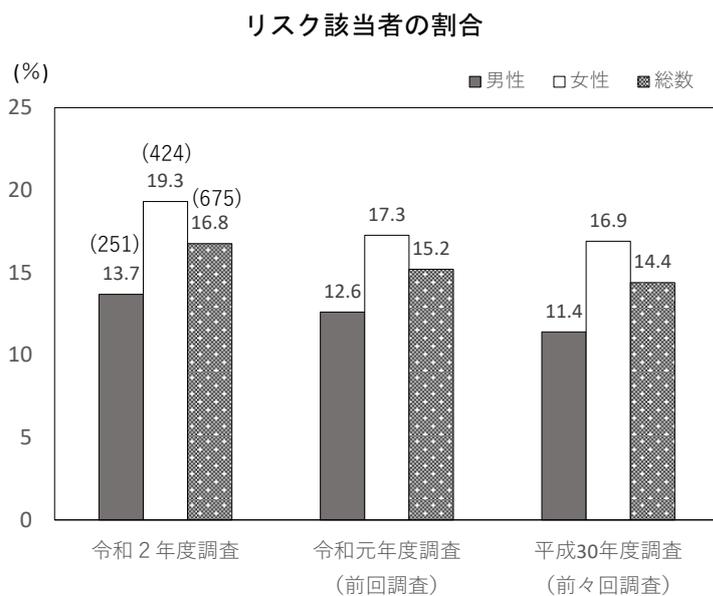
問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問2・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問2・Q4	過去1年間に転んだことがありますか	「1. 何度もある」または 「2. 1度ある」
問2・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または 「2. やや不安である」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で675人、16.8%（男性251人13.7%、女性424人19.3%）が運動器の機能低下のリスク該当者となっています。男性より女性でリスク該当者の割合が高くなっています。

過去の調査と比べると平成30年度調査（前々回調査）から増加傾向となっており、全体では平成30年度調査（前々回調査）より2.4ポイントリスク該当者割合が高くなっています。

図表 リスク該当状況－運動器の機能低下



※ グラフ上の()書きは、リスク等の該当者数(以下同じ)。

2 生活機能

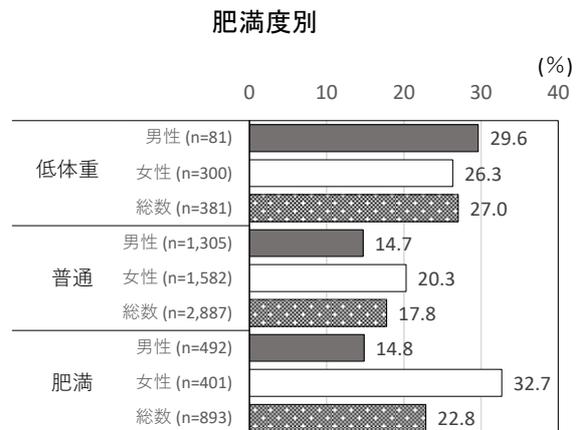
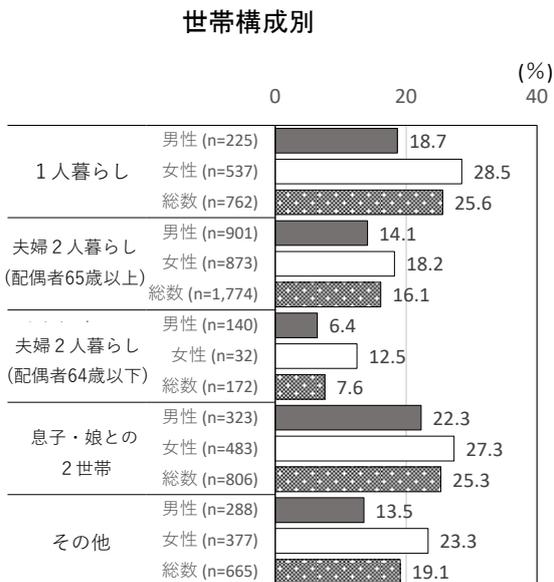
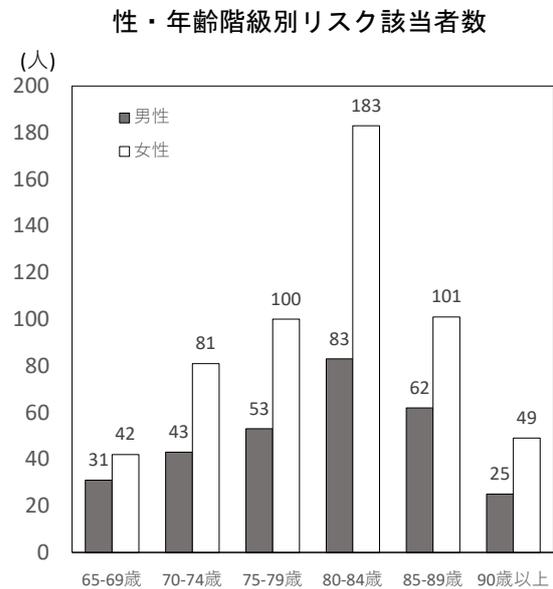
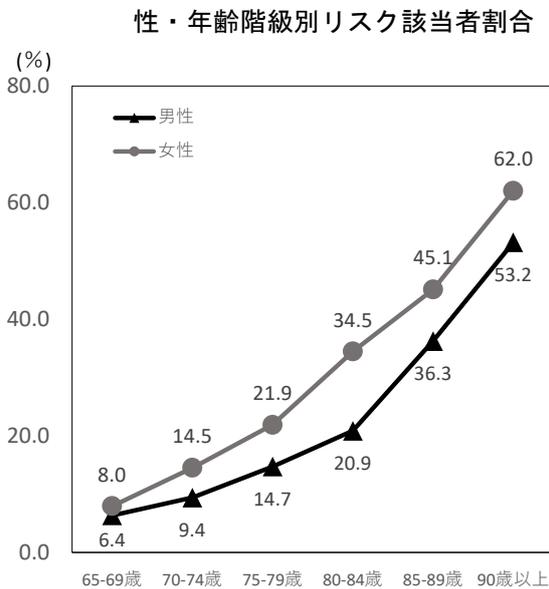
性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。リスク該当者数でみると、男女ともに80～84歳がそれぞれ83人、183人でピークになっています。

認定・該当状況別をみると、該当者では全体の56.7%が、要支援者では66.2%が運動器の機能低下にリスク該当しています。

これを世帯構成別にみると、男女ともに1人暮らし世帯と息子・娘との2世帯でリスク該当者の割合が比較的高くなっています。

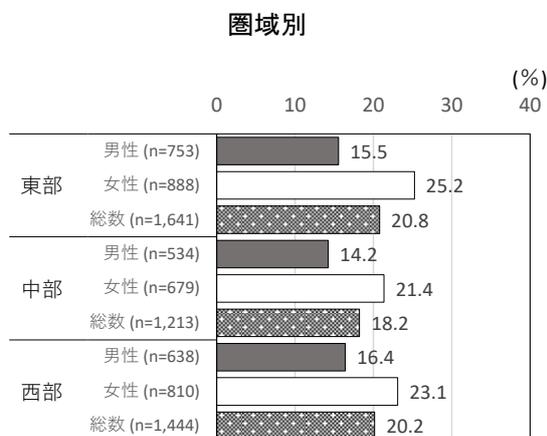
さらに肥満度別に結果をみると、男性では低体重(BMI18.5未満)のリスク該当者が29.6%と普通体重の男性に比べ14.9ポイント高く、女性では肥満者(BMI25以上)のリスク該当割合が32.7%と、普通体重の女性に比べて12.4ポイント高くなっています。男性では低体重が、女性では肥満が運動器の機能に影響を及ぼしていることがうかがえます。

図表 運動器の機能低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別にみると、東部圏域の女性が 25.2%と高くなっています。一方、中部圏域の男性が 14.2%と低くなっています。ただ、圏域ごとに年齢構成も異なるため、それが影響していることも考えられます。

図表 運動器の機能低下 リスク該当状況－圏域別



そこで、こうした圏域別の年齢構成の差を取り除いた形でリスク該当者数を比較するため、標準化死亡比（SMR）の考え方に準じて、年齢調整済みの指数を算出しました。

この指数は、今回の調査結果全体の性・年齢階級別のリスク該当者割合を各圏域に当てはめた場合に、各圏域の期待されるリスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の比率となります。全体の平均が 100 となり、この指数が 100 を超す場合は全体の平均よりリスク該当者が多く、逆に 100 未満の場合はリスク該当者が少ないと判断できます。

具体的にこの指数を運動器の機能低下のリスク該当者について各圏域別に算出すると下の図表のとおりとなります。リスク該当者割合が高い東部圏域は、年齢構成を加味した指数でも 106.2 と最も高くなっています。

図表 圏域別の性・年齢階級別回答者数

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69歳	189	144	155	198	151	179
70～74歳	172	132	153	217	170	171
75～79歳	147	92	121	169	130	158
80～84歳	169	101	128	195	147	189
85～89歳	57	54	60	82	57	85
90歳以上	19	11	17	27	24	28

2 生活機能

図表 圏域別の実際のリスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69歳	9	7	15	20	10	12
70～74歳	17	10	16	37	17	27
75～79歳	24	13	16	44	25	31
80～84歳	38	21	24	75	47	61
85～89歳	19	20	23	32	30	39
90歳以上	10	5	10	16	16	17

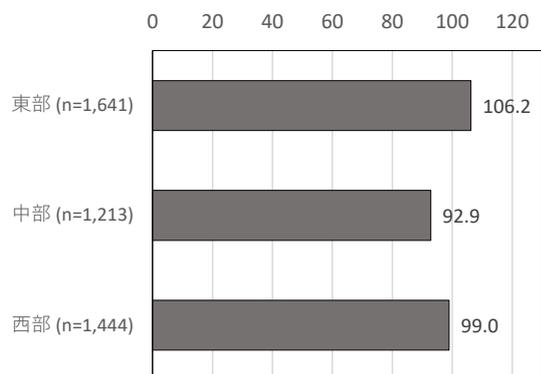
図表 圏域別の期待リスク該当者数：運動器の機能低下

単位：人

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69歳	12.0	9.1	9.8	15.8	12.0	14.2
70～74歳	16.2	12.4	14.4	31.5	24.7	24.8
75～79歳	21.6	13.5	17.8	37.0	28.4	34.6
80～84歳	35.2	21.1	26.7	67.2	50.7	65.1
85～89歳	20.7	19.6	21.8	37.0	25.7	38.3
90歳以上	10.1	5.9	9.0	16.7	14.9	17.4

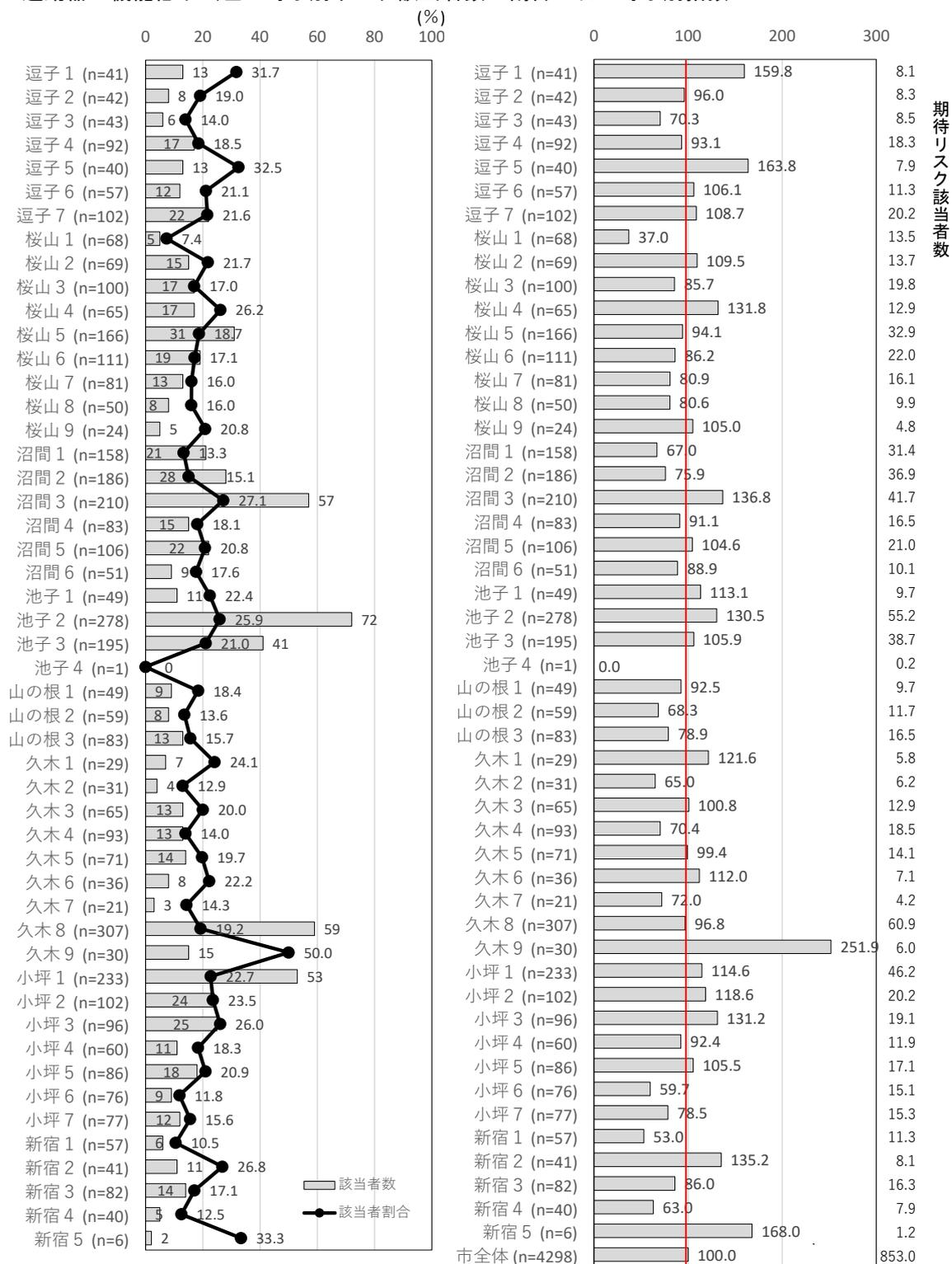
図表 圏域別の指数：運動器の機能低下

	東部	中部	西部
実際の該当者数(a)	341	221	291
期待該当者数(b)	321.0	238.0	294.0
指数(a/b*100)	106.2	92.9	99.0



さらに、町丁別に該当状況を見ると、逗子1丁目、逗子5丁目、久木9丁目、新宿5丁目の該当者割合がそれぞれ30%以上と比較的高くなっています。指数においても、逗子1丁目、逗子5丁目、久木9丁目、新宿5丁目などが高くなっています。

図表 運動器の機能低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数



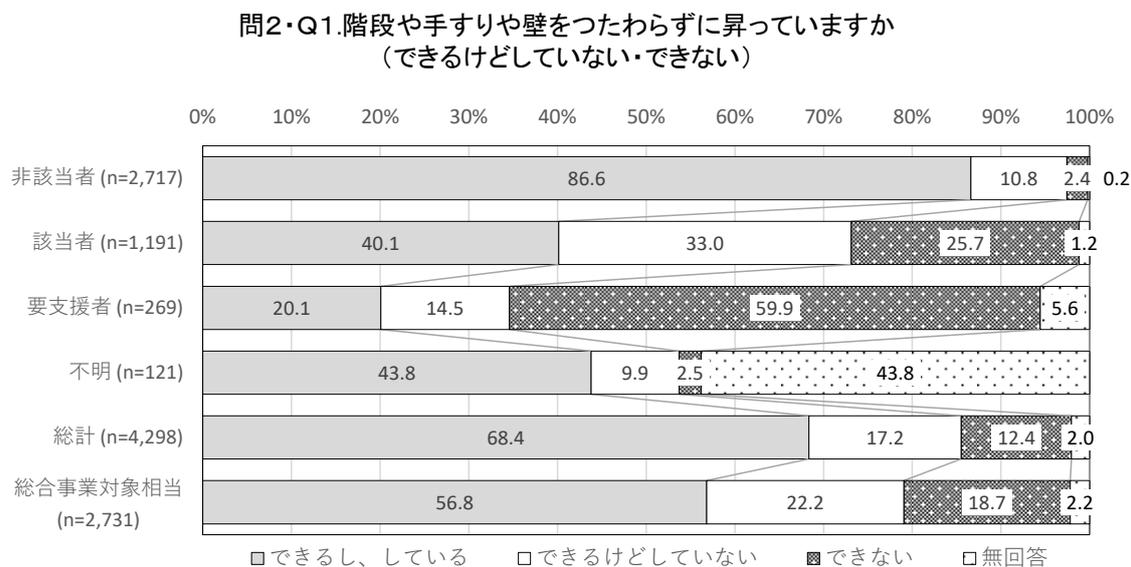
指数は、市全体の年齢別リスク該当者割合に各町丁別の年齢別回答者数を乗じることによって求められる各町丁別期待リスク該当者数に対する実際のリスク該当者数の割合を示したものです。100が市全体の平均となり、それを上回る場合は、年齢構成からすると市全体の平均よりリスク該当者が多いことを示す（以下同じ）。

ウ 回答結果

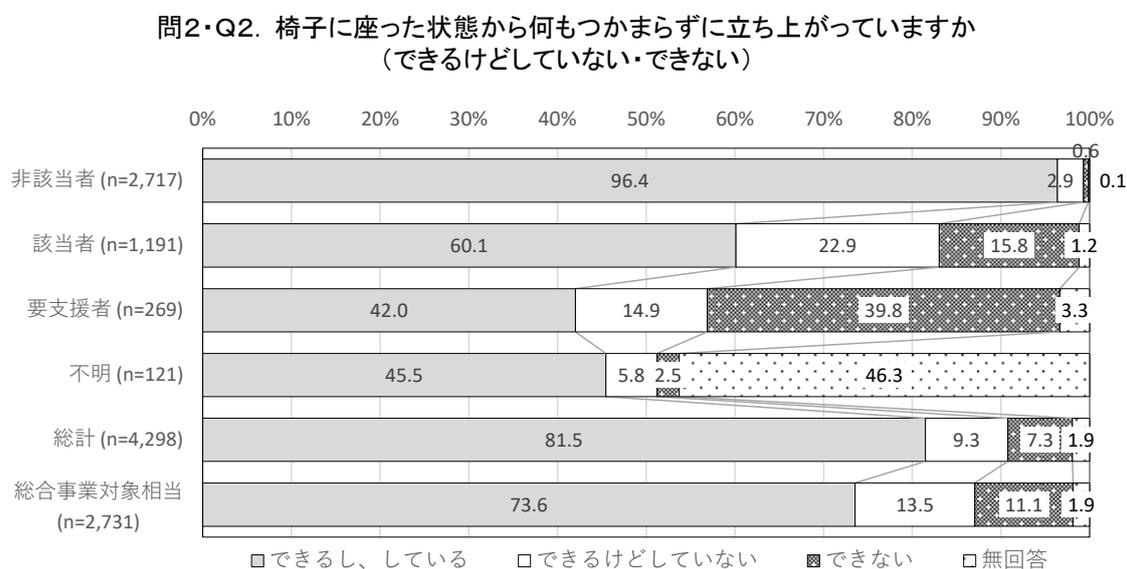
評価の基礎になった設問に対する回答結果を非該当者、該当者、不明者、要支援者、総合事業対象相当ごとにとみると、下の図表のとおりとなっています。

個々の設問でリスクの該当に係る回答をした割合（該当率）が高いのは、該当者、要支援者ともに、「転倒に対する不安は大きいですか」（問2・Q5）が7割を超えています。

図表 回答結果-1



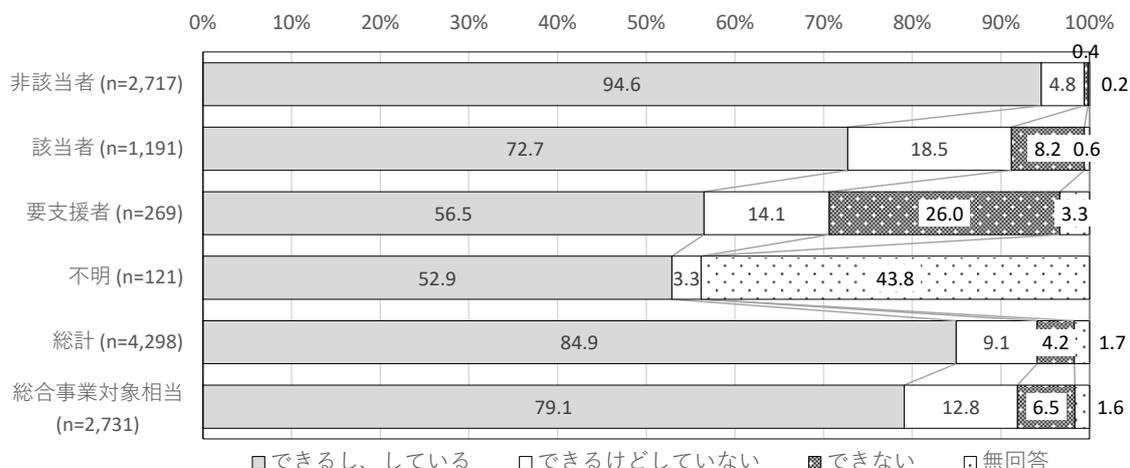
※設問文末尾の（ ）内は、該当する回答（以下同じ）



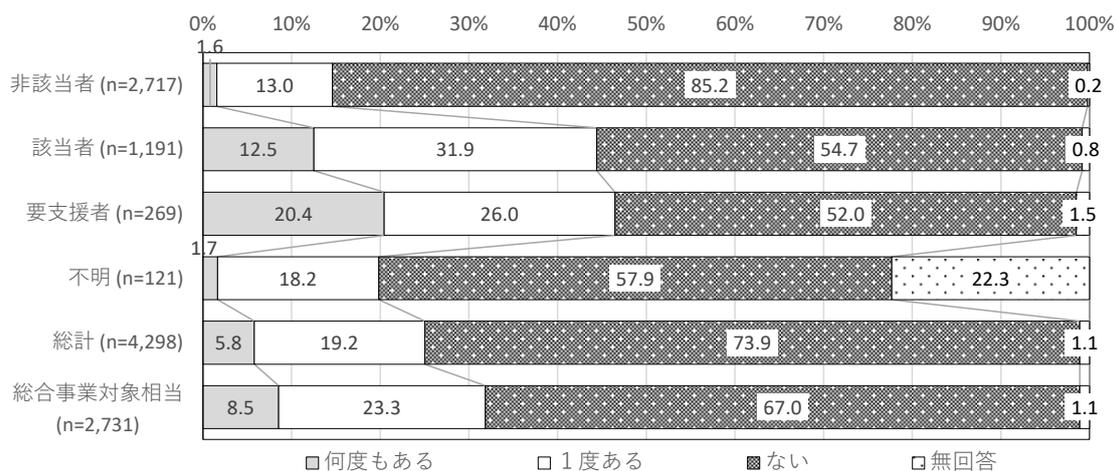
2 生活機能

図表 回答結果-2

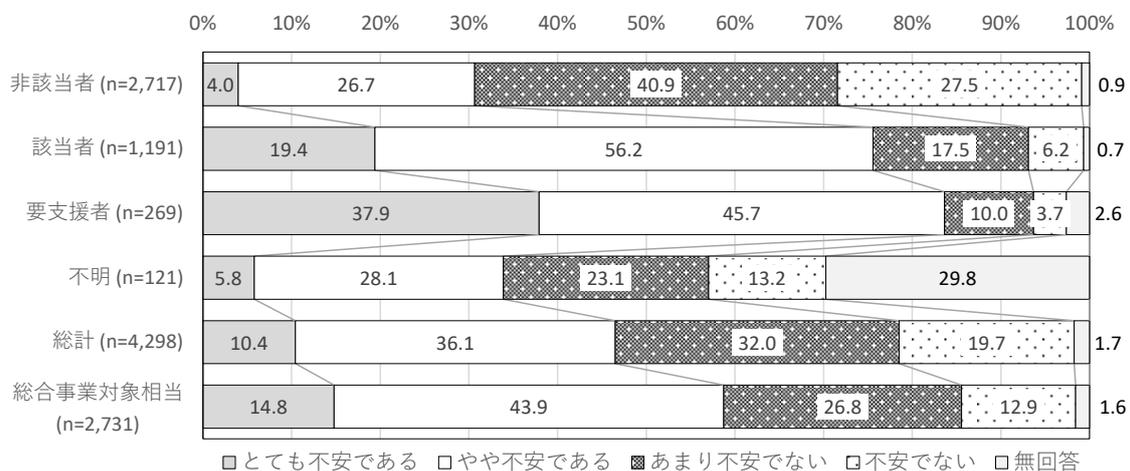
問2・Q3. 15分位続けて歩いていますか(できるけどしていない・できない)



問2・Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか(何度もある・1度ある)



問2・Q5. 転倒に対する不安は大きいですか(とても不安である・やや不安である)



(2) 閉じこもり

ア 設問と評価

基本チェックリストには、運動に関連する指標として、閉じこもりのリスクに関する設問が2問含まれています（下表参照）。

具体的には、問2・Q9に該当した場合、閉じこもりに該当し、介護予防・生活支援サービスの対象者になります。問2・Q10にも該当している場合は、より注意が必要という評価になります。

外出回数が週1回以下の場合には、寝たきりの要因の一つといわれる閉じこもりリスクがあると考えられるため、週2回以上外出していないと回答している場合をリスク該当者として評価しています。

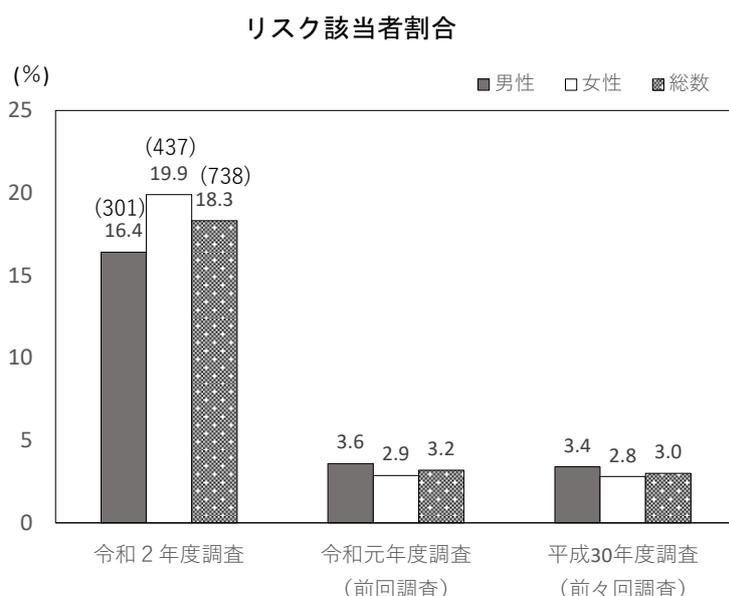
図表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問2・Q9	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」
問2・Q10	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または 「2. 減っている」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で738人、18.3%（男性301人16.4%、女性437人19.9%）が該当者となっています。過去の調査結果と比較すると全体でも約6倍高くなっています。これは昨年度に発生した新型コロナウイルス感染症による外出自粛が大きな要因となっています。

図表 リスク該当状況－閉じこもり

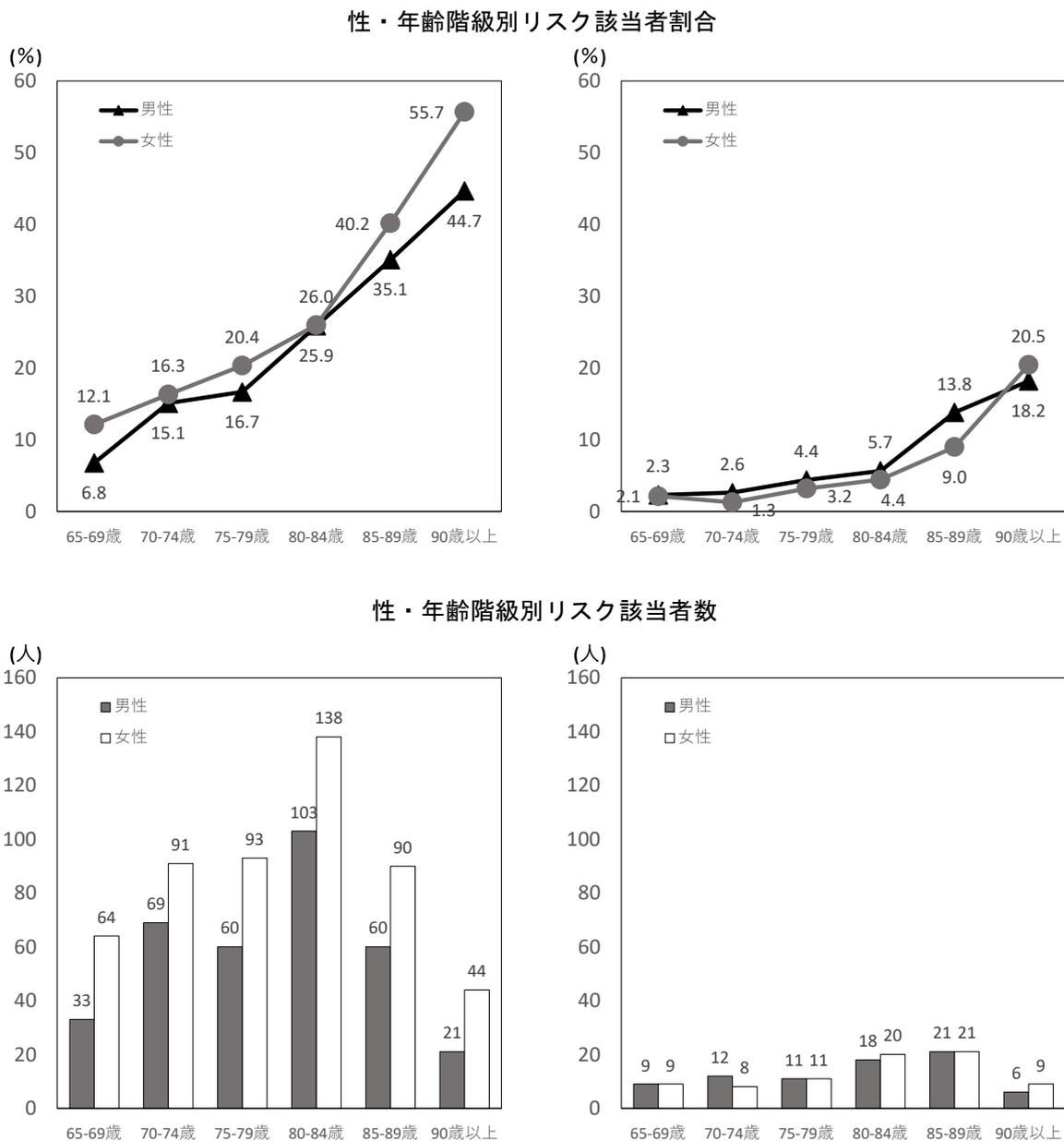


2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともに閉じこもりリスクの該当者割合が高くなっています。該当者数でみると、男女ともに80～84歳で男性が103人、女性が138人と最も多くなっています。

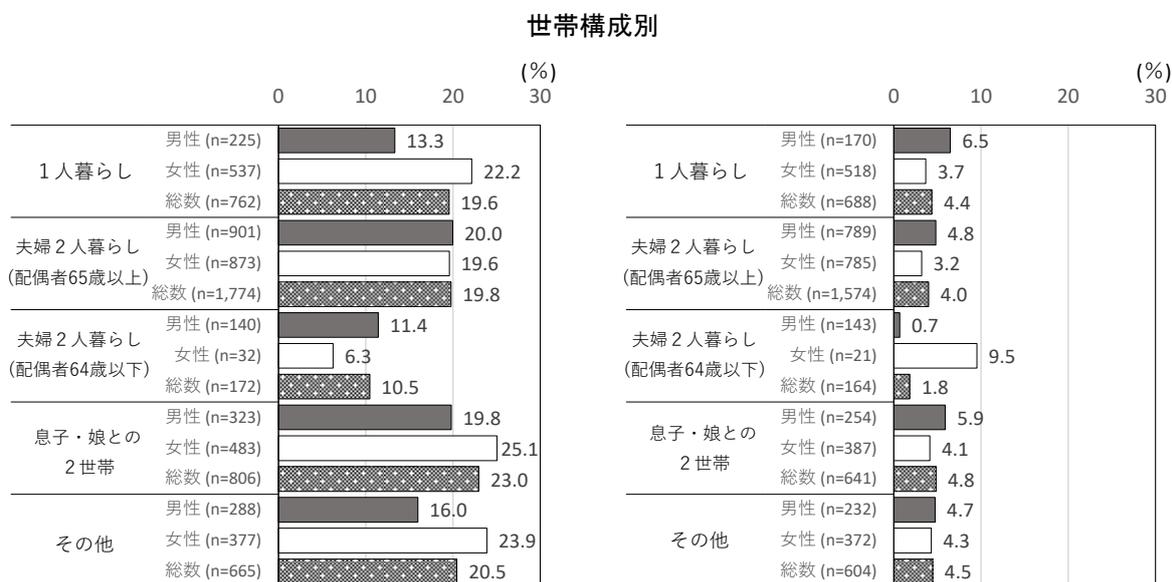
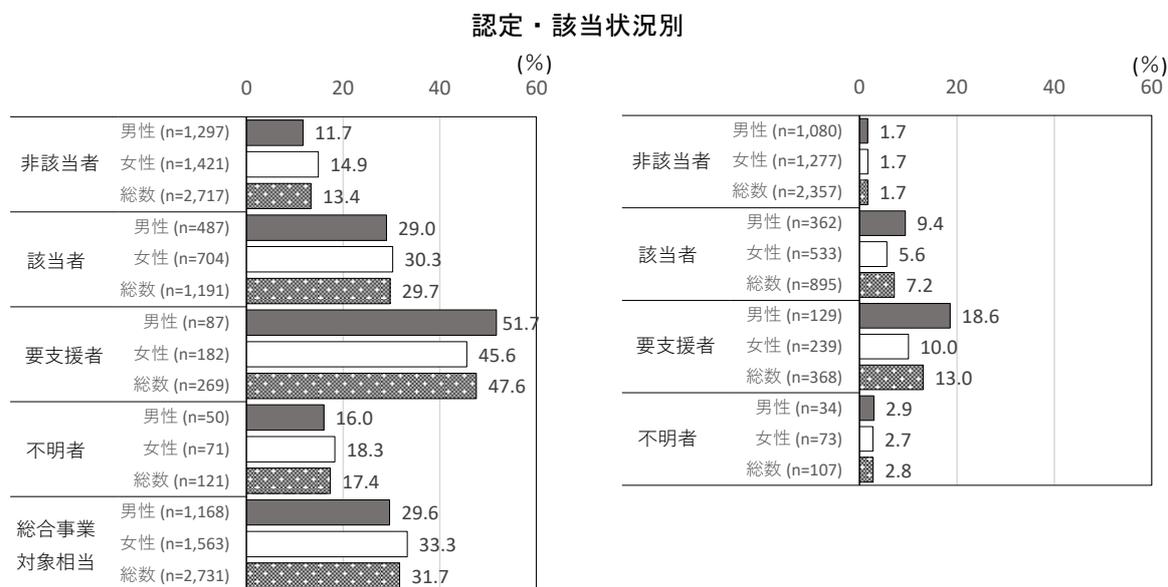
図表 閉じこもり リスク該当状況一性・年齢階級別

(左：令和2年度調査 右：令和元年度調査(前回調査))



認定・該当状況別にみると、非該当者 13.4%、該当者 29.7%、要支援者 47.6%、不明者 17.4%、総合事業対象相当 31.7%と、要支援者でリスク該当者割合が最も高くなっています。
世帯構成別にみると、女性の息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。

図表 閉じこもり リスク該当状況－認定・該当状況別、世帯構成別
(左：令和2年度調査 右：令和元年度調査(前回調査))

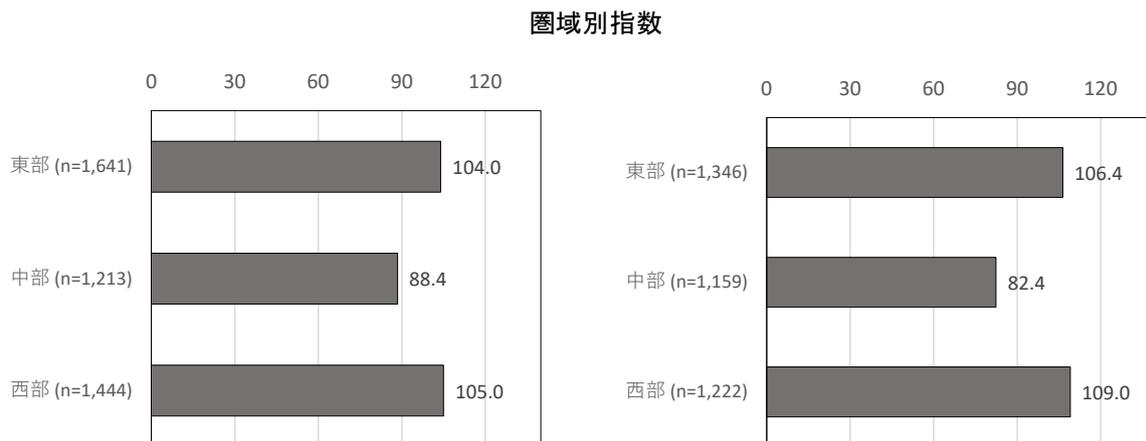
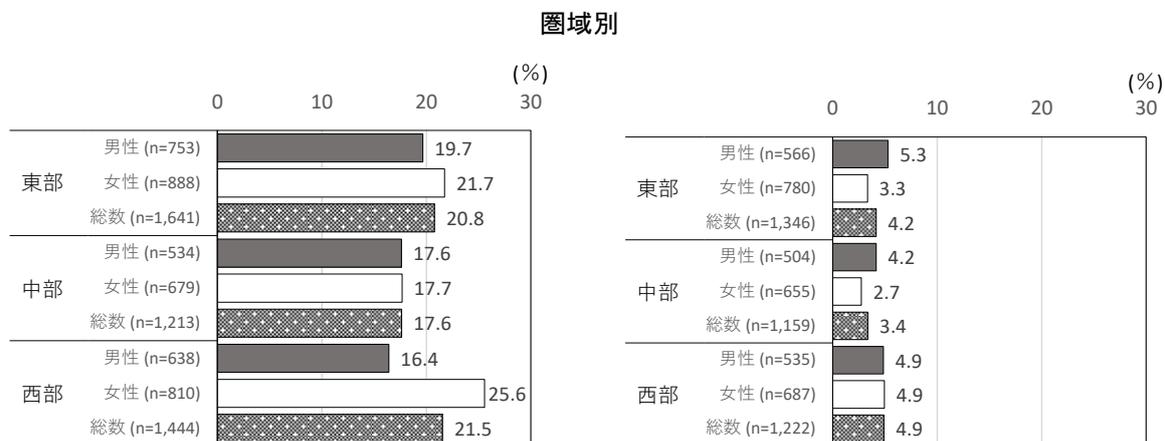


2 生活機能

圏域別にみると、西部圏域の女性が25.6%と他圏域に比べて高くなっています。指数では、中部圏域が82.4と低くなっています。

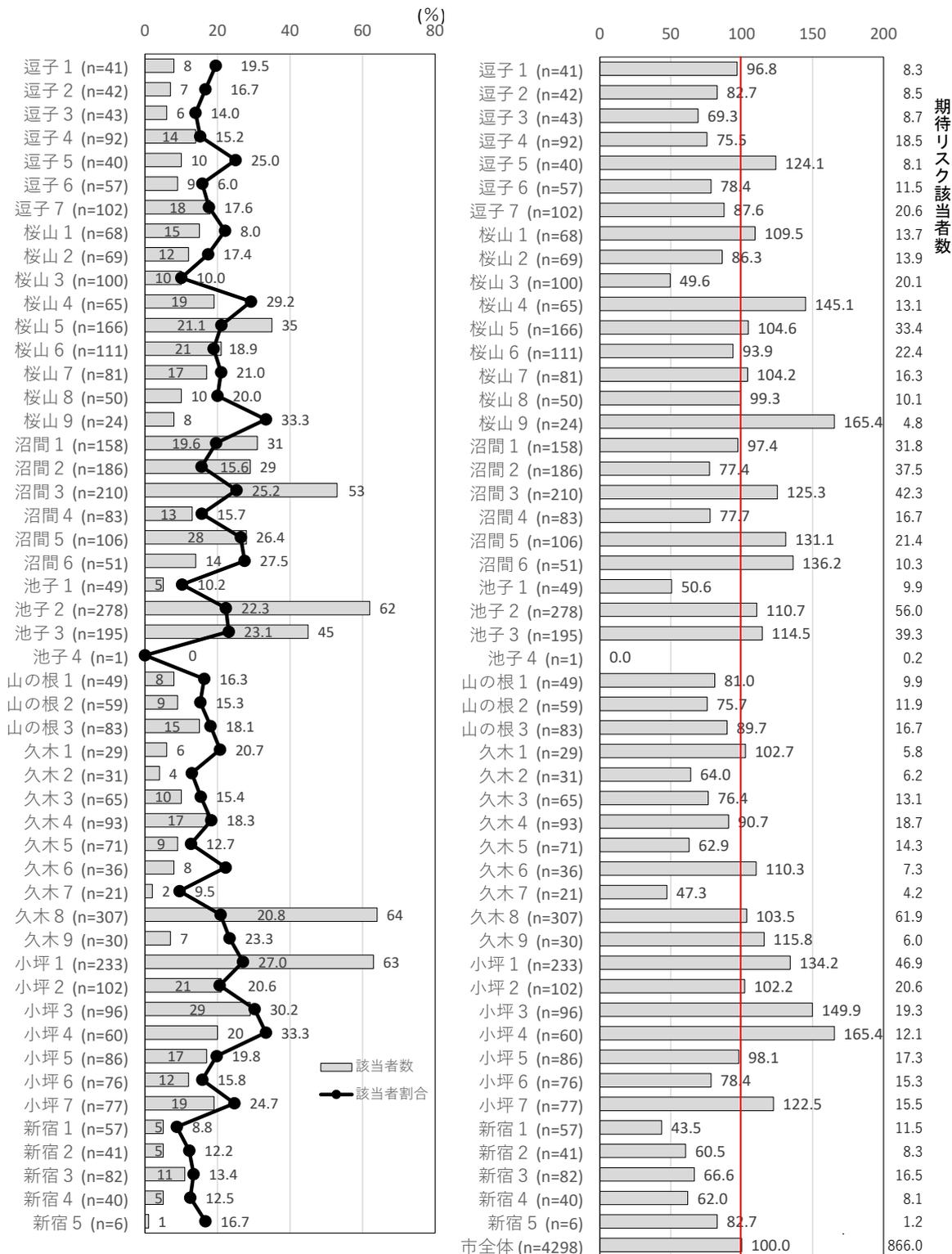
図表 閉じこもり リスク該当状況－圏域別

(左：令和2年度調査 右：令和元年度調査(前回調査))



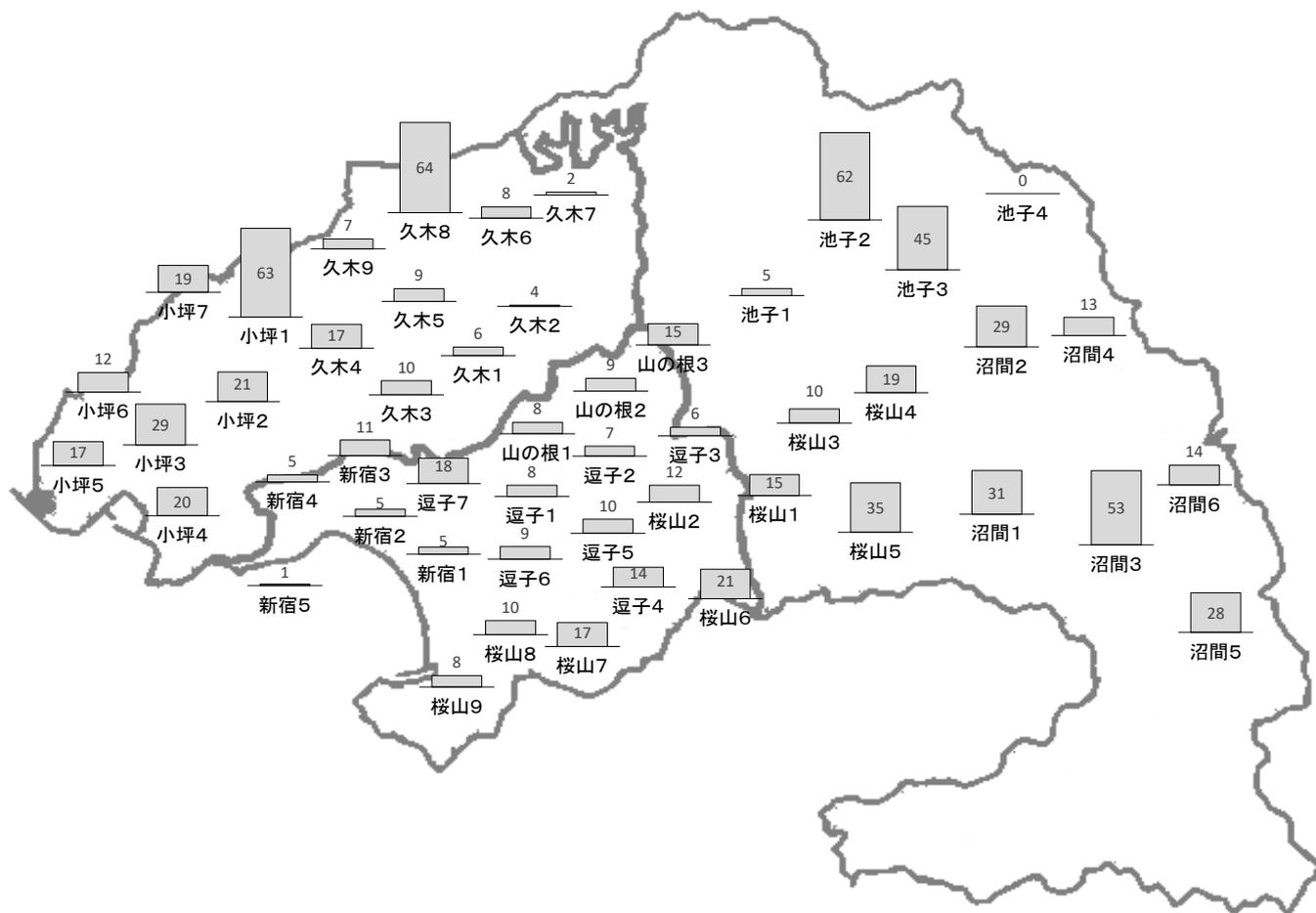
さらに、町丁別にリスク該当状況をみると、桜山9丁目、小坪3丁目、小坪4丁目でリスク該当者割合が3割を超えて高くなっています。指数では桜山4丁目、桜山9丁目、小坪3丁目、小坪4丁目などで高くなっています。

図表 閉じこもり（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：閉じこもり

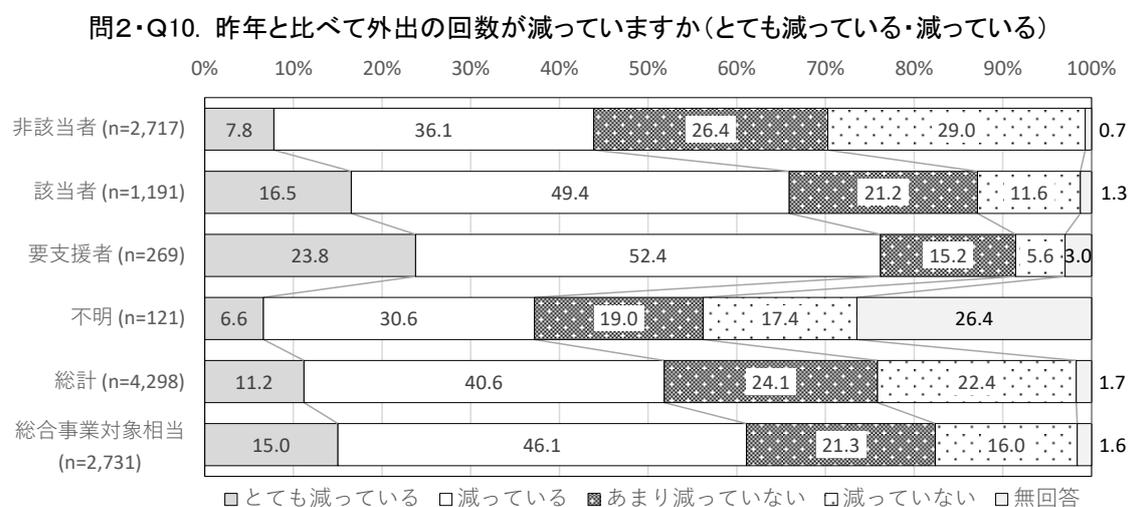
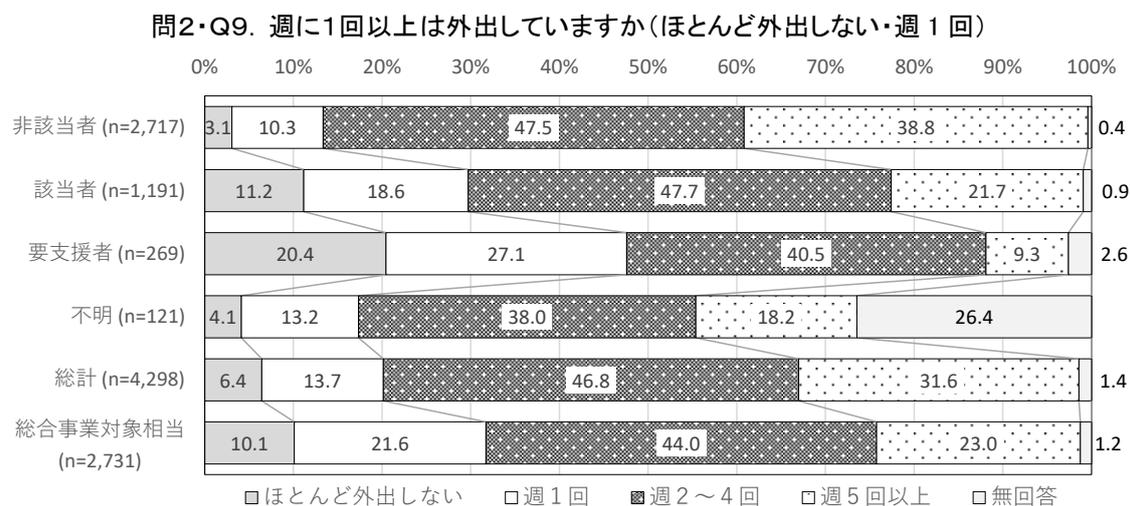


ウ 回答結果

個々の設問に関する回答を認定・該当状況みると、「1週間に1回以上は外出していますか」(問2・Q9)については、要支援者でリスク該当者割合が47.5%と高くなっています。

「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」(問2・Q10)でも、要支援者で「減っている(とても減っている+減っている)」の割合が76.2%と高くなっています。

図表 回答結果



2 生活機能

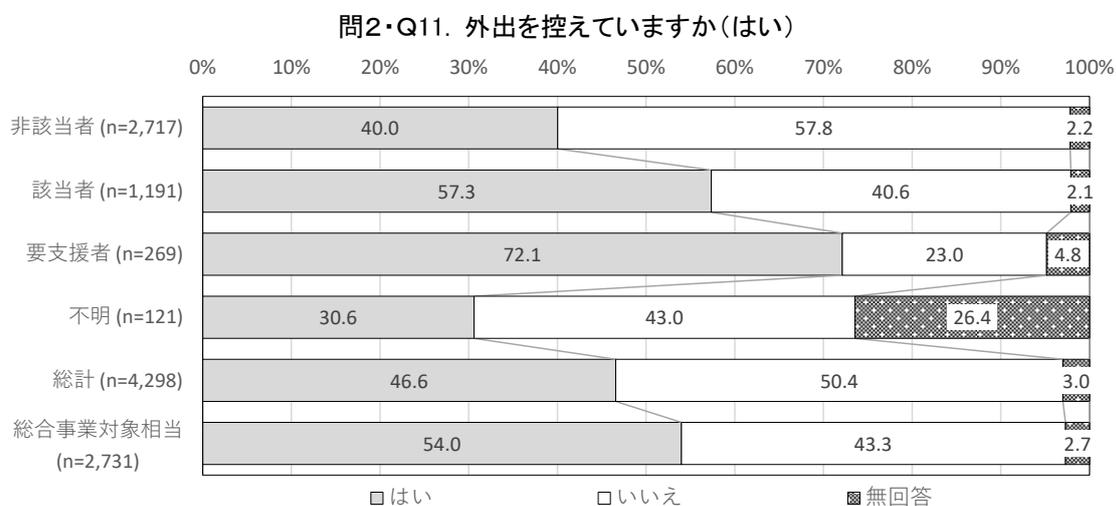
エ 関連設問

(問2・Q11)「外出を控えていますか」の回答を認定・該当状況みると、要支援者では「はい」が72.1%で最も多く、次いで該当者(57.3%)、総合事業対象相当(54.0%)になっています。

外出を控えていると回答している方にその理由を質問したところ、最も多いのは「その他」(68.9%)と半数を超えています。内訳をみると、「新型コロナウイルス感染症による外出自粛」がほとんどで全体の割合で65.1%となっています。次いで「足腰などの痛み」(18.1%)などが続いています。

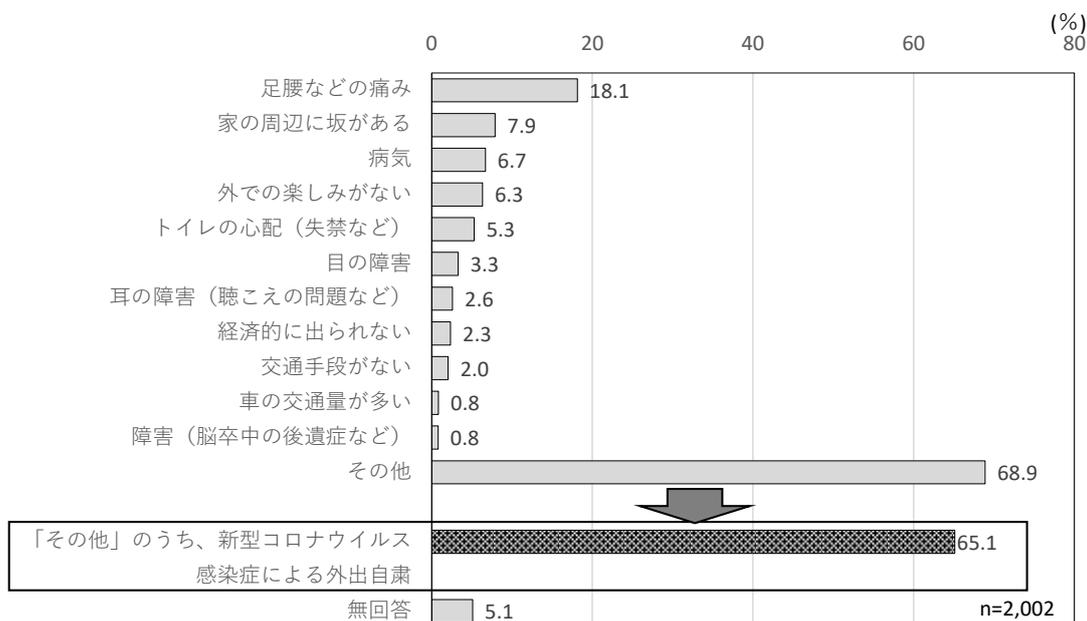
また、外出する際の移動手段としては、「徒歩」が79.3%で最も多く、次いで「電車」(55.7%)「路線バス」(46.6%)、「自動車(自分で運転)」(35.7%)などが続いています。

図表 外出を控えているかの有無



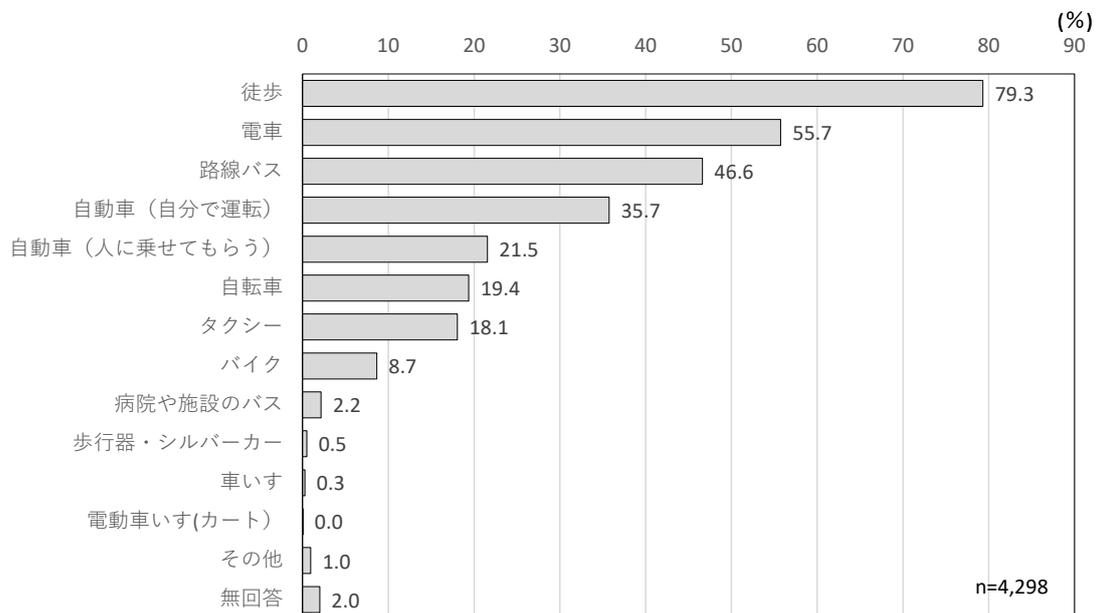
図表 外出を控えている理由

問2・Q11-1. 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)



図表 外出の際の移動手段

問2・Q12. 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)



2 生活機能

(3) 転倒

ア 設問と評価

本調査では、基本チェックリストの運動機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられています。

具体的には、調査票の問2・Q4、Q6～8、問6・Q12-1の5問が該当します。

内容としては、転倒経験（基本チェックリストと重複）、背中の変化、杖の使用、歩行速度の変化、多剤服用の有無となっています。

評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりで、転倒経験が5点、その他が各2点で、13点満点のスコアとして評価が可能となっています。

評価としては、介護予防も前提に6点以上を転倒リスクありとして評価しています。

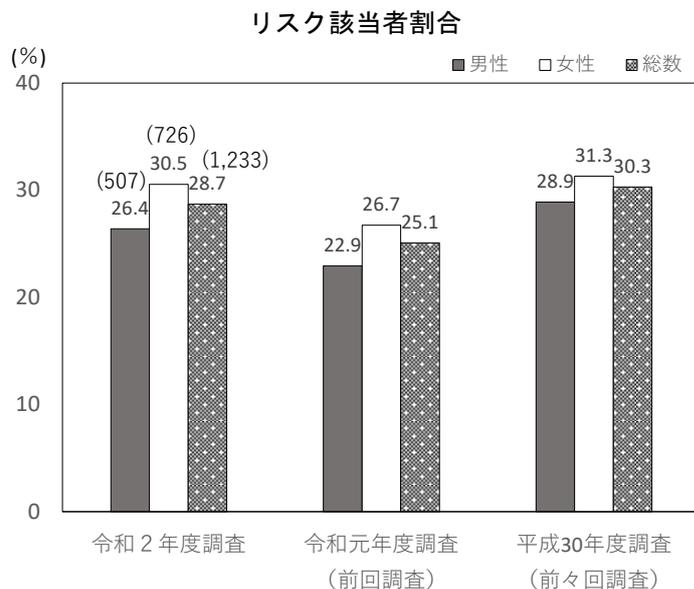
図表 転倒リスクに関する設問

問番号	設問	配点と選択肢
問2・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	5:「1. 何度もある」「1. 1度ある」 0:「2. ない」
問2・Q6	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問2・Q7	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問2・Q8	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問6・Q12-1	(通院している方のみ)現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか	2:「5. 5種類以上」 0:5以外

イ 評価結果

結果をみると、全体で1,233人、28.7%（男性507人26.4%、女性726人30.5%）がリスク該当者（転倒しやすい）となっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前回調査）よりも全体で3.6ポイント高くなっていますが、平成30年度調査（前々回調査）よりはやや低くなっています。

図表 リスク該当状況－転倒

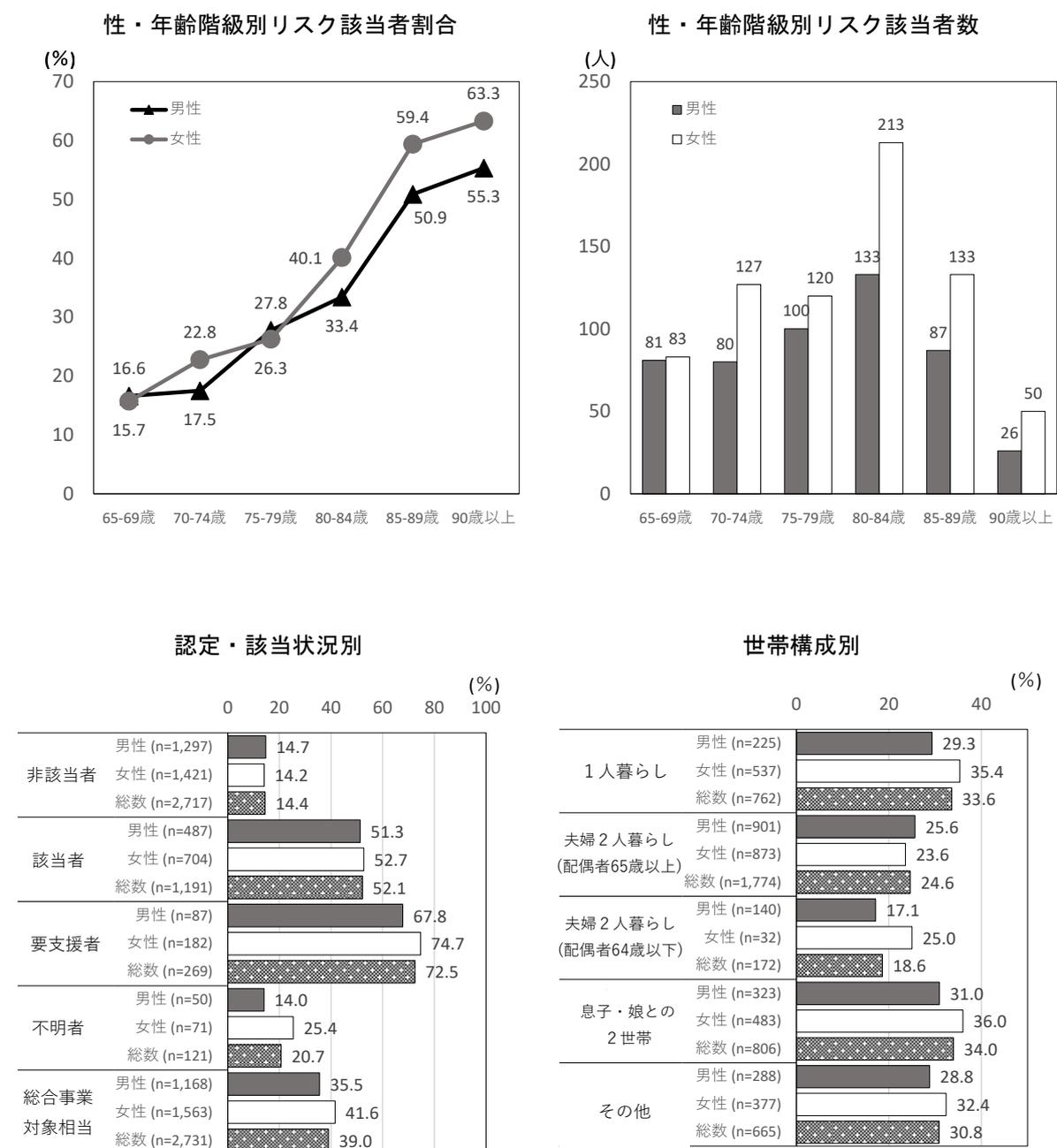


性・年齢階級別にみると、年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。リスク該当者数でみると、男女ともに80～84歳がそれぞれ133人、213人で最も多くなっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者は14.4%、該当者は52.1%、要支援者は72.5%、不明者は20.7%、総合事業対象相当は39.0%と要支援者でリスク該当者割合が高くなっています。

世帯構成別にみると、男女ともに1人暮らし世帯と息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。

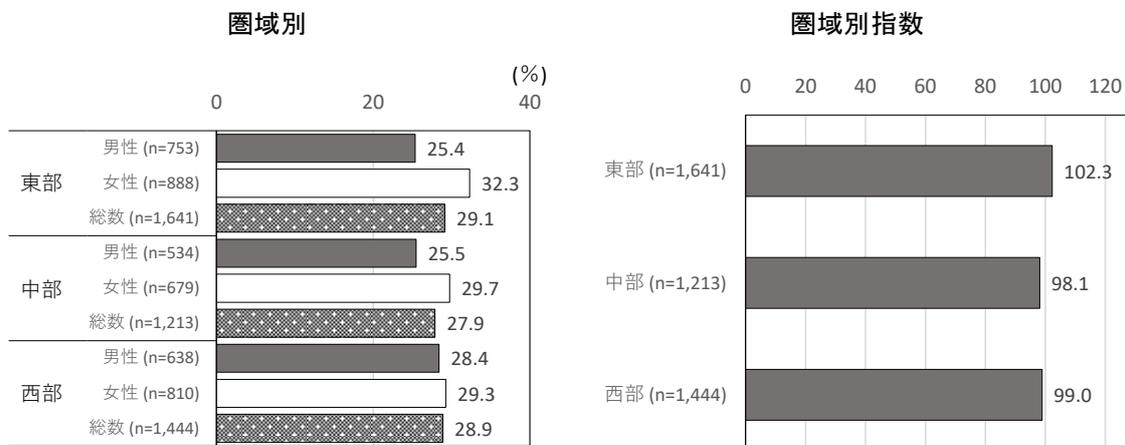
図表 転倒リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

圏域別にみると、東部圏域が29.1%と他圏域に比べてやや高くなっています。指数でも比較すると、東部圏域が102.3で高くなっています。

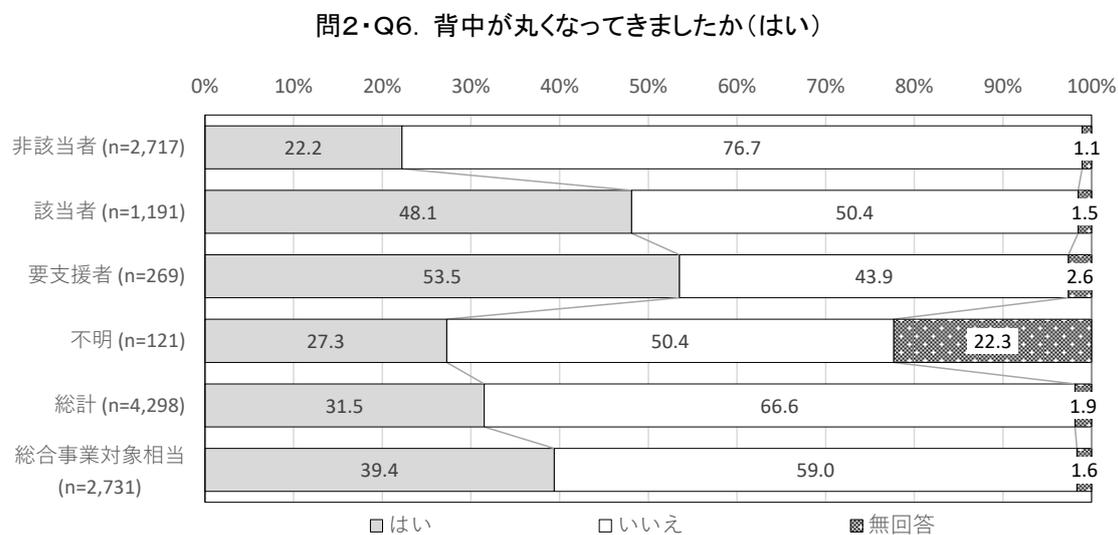
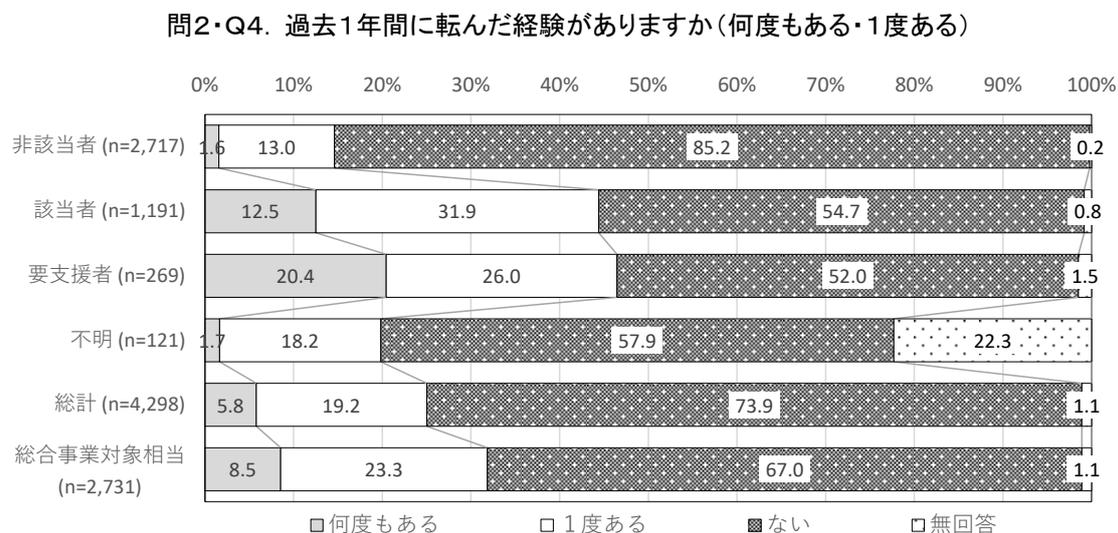
図表 転倒リスク該当状況－圏域別



ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、歩行速度の変化に関する設問(問2・Q7)が、要支援者で92.6%、該当者で87.6%、非該当者でも56.2%でリスク該当に係る回答をしています。杖の使用(問2・Q8)では、非該当者で1.8%、該当者で16.3%、要支援者で58.0%と、要支援者でリスク該当に係る回答割合が高くなっています。

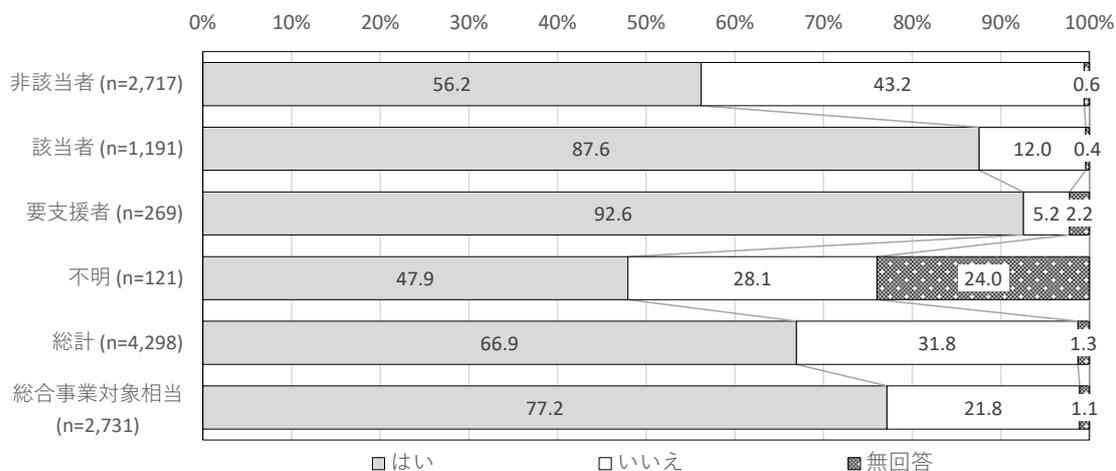
図表 回答結果-1



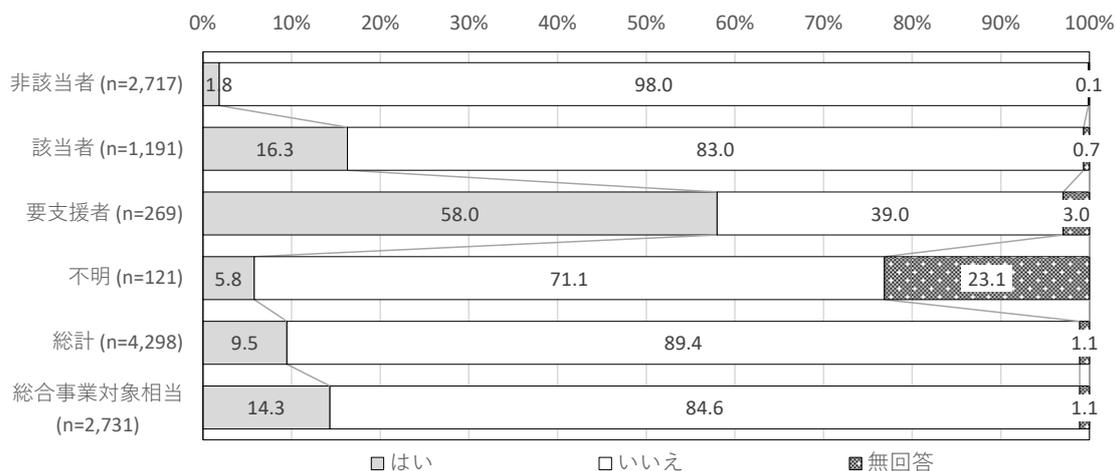
2 生活機能

図表 回答結果-2

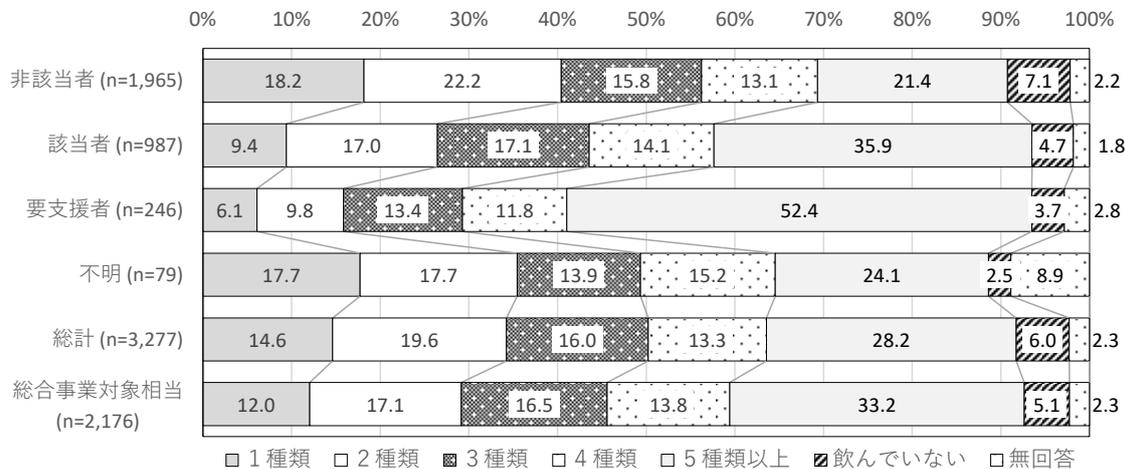
問2・Q7. 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか(はい)



問2・Q8. 杖を使っていますか(はい)



問6・Q12-1. 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでますか(5種類以上)
(Q12で通院していますか(はいと回答した方))



(4) 栄養

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、下の2つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養リスクの判断を行っています。

具体的には、設問2問中2問に該当した場合（BMI＝体重kg／身長m／身長mが18.5未満で、ここ6か月間で2～3kg以上の体重減少があった場合）に低栄養状態と判定されます。

図表 栄養に関する設問（基本チェックリスト）

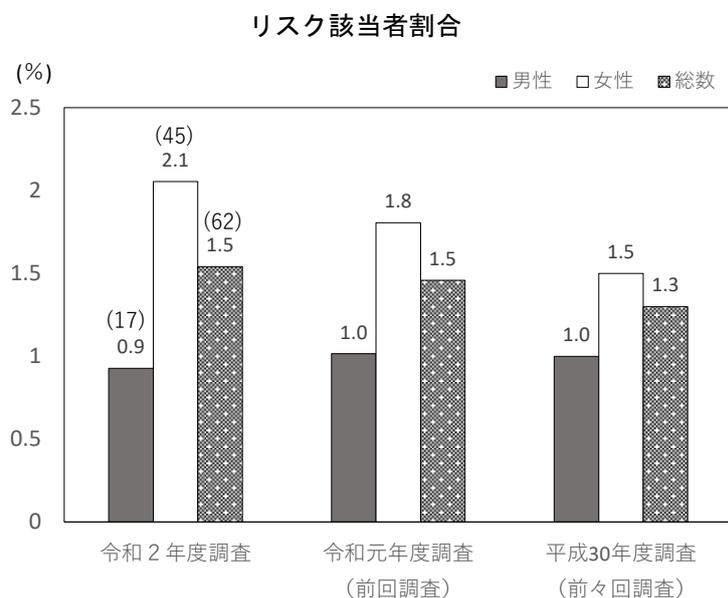
問番号	設問	該当する選択肢
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q9	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

※BMI（肥満指数）：体重（kg）／身長（m）／身長（m）によって求められる値。18.5未満が「やせ」、25以上が「肥満」。

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で62人、1.5%（男性17人0.9%、女性45人2.1%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比べると、全体では前回調査（令和元年度）と同じですが、女性では平成30年度調査（前々回調査）からは増加傾向となっています。

図表 リスク該当状況－低栄養状態

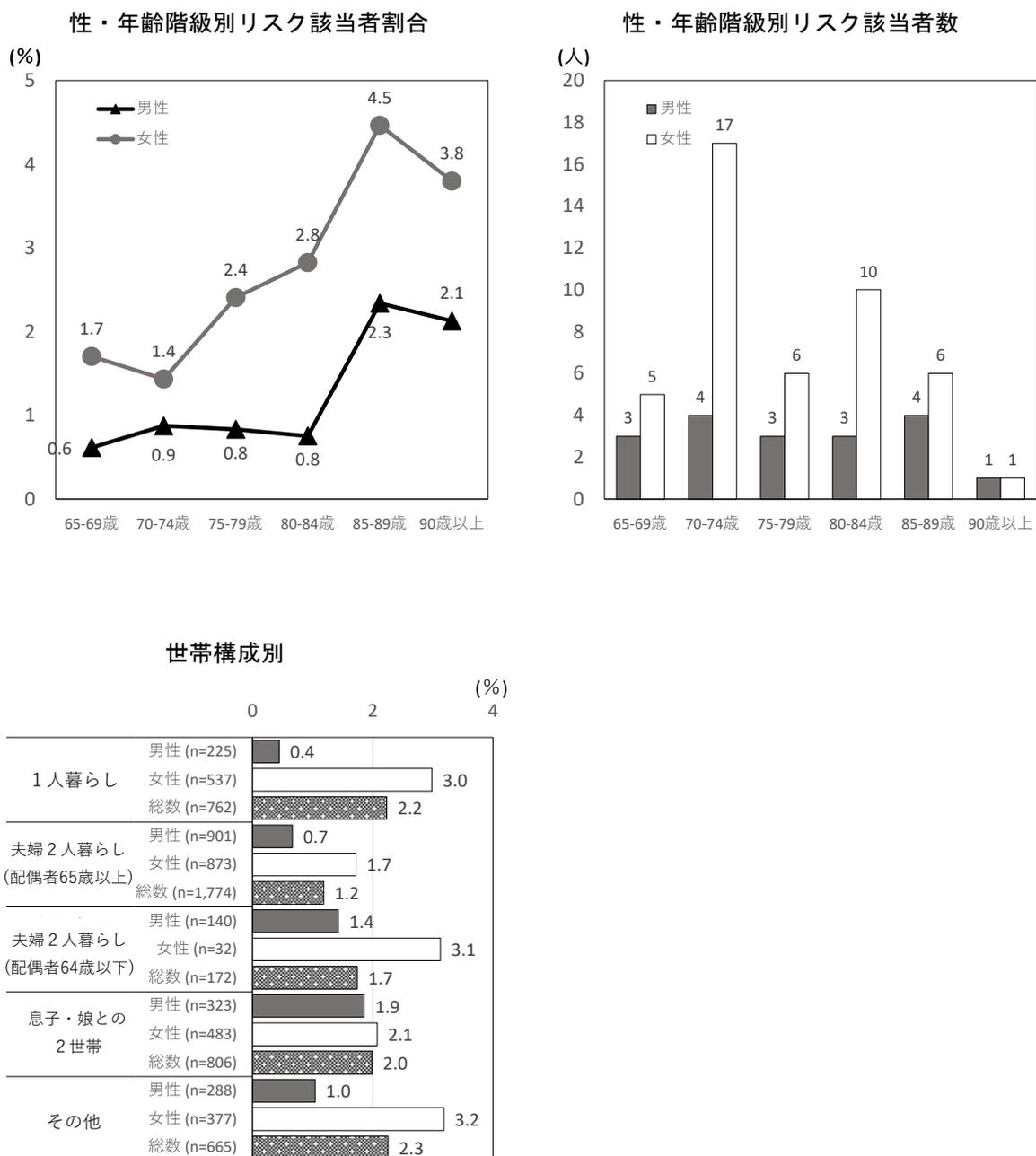


2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに 85～89 歳のリスク該当者割合が高くなっています。リスク該当者数をみると、女性では 70～74 歳が 17 人と最も多くなっています。

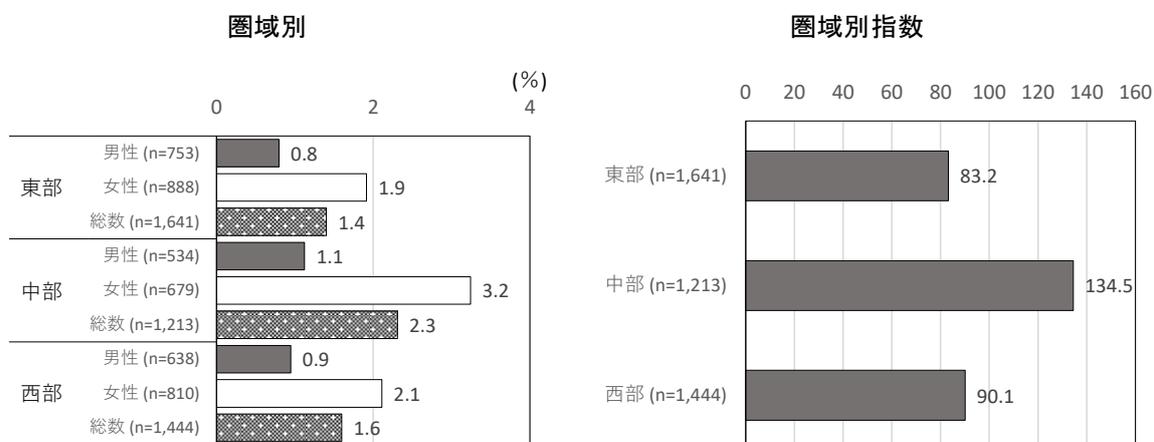
世帯構成別では、1 人暮らし世帯、夫婦 2 人暮らし（配偶者 64 歳以下）、その他世帯の女性でリスク該当者割合が 3 % を超えています。

図表 低栄養状態リスク該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別にみると、中部圏域の女性が3.2%と他圏域に比べて高くなっています。指数で見ると、中部圏域が134.5で最も高くなっています。

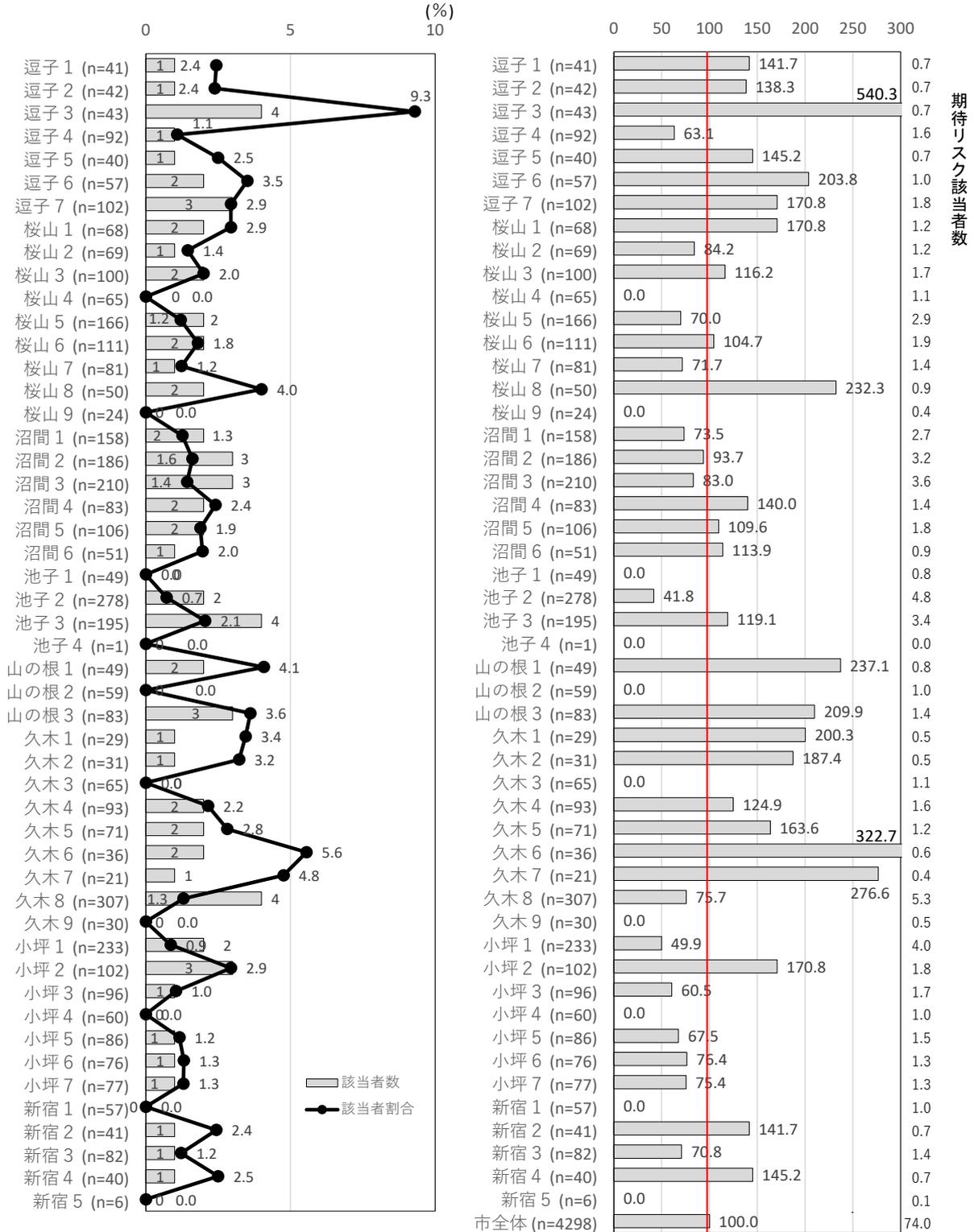
図表 低栄養状態リスク該当状況—圏域別



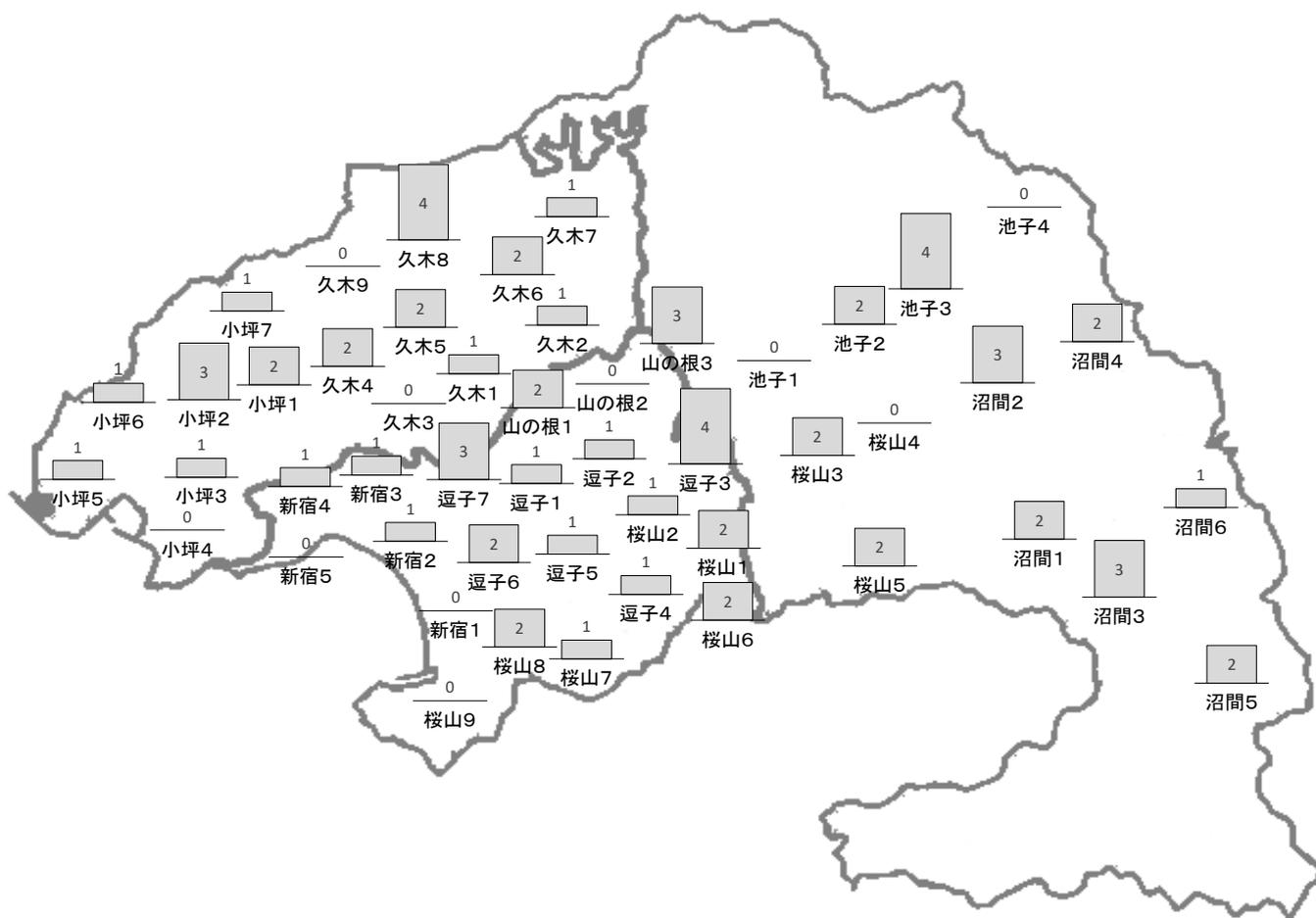
2 生活機能

町丁別にリスク該当状況をみると、逗子3丁目、池子3丁目、久木8丁目で該当者が4人と多くなっています。指数においては、逗子3丁目、逗子6丁目、桜山8丁目、山の根1丁目、山の根3丁目、久木1丁目、久木6丁目、久木7丁目が200を超えて高くなっています。

図表 低栄養状態リスク該当状況（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



図表 町丁別リスク該当者数の分布：低栄養状態



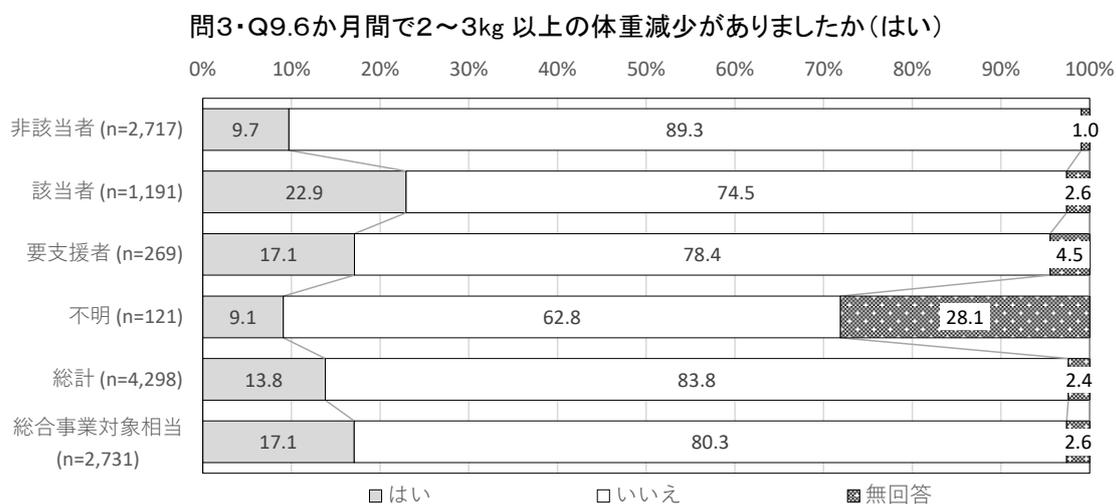
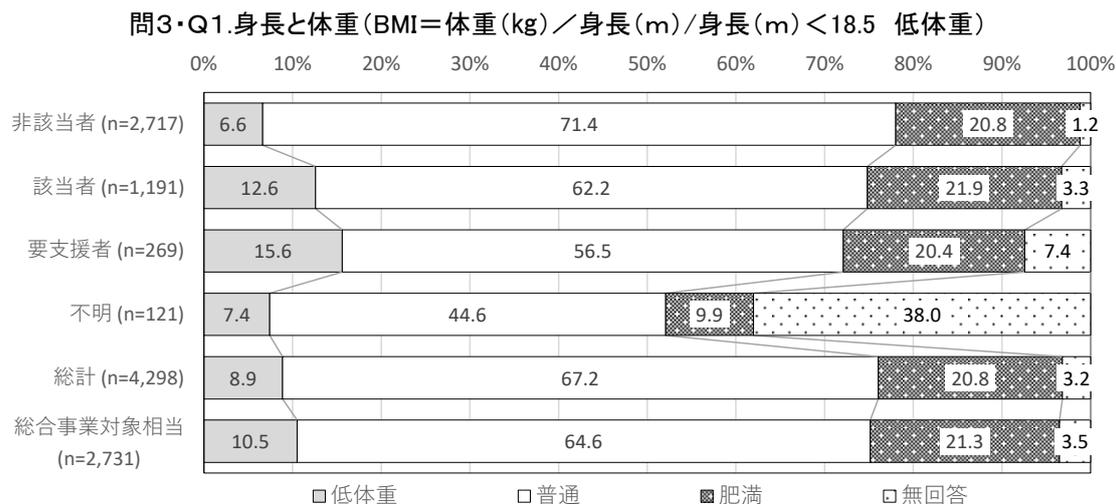
2 生活機能

ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、体格指数（BMI）については、非該当者 6.6%、該当者 12.6%、要支援者 15.6%、不明者 7.4%、総合事業対象相当 10.5%が低体重となっており、非該当者にも潜在的な低栄養リスク者がいることがうかがえます。

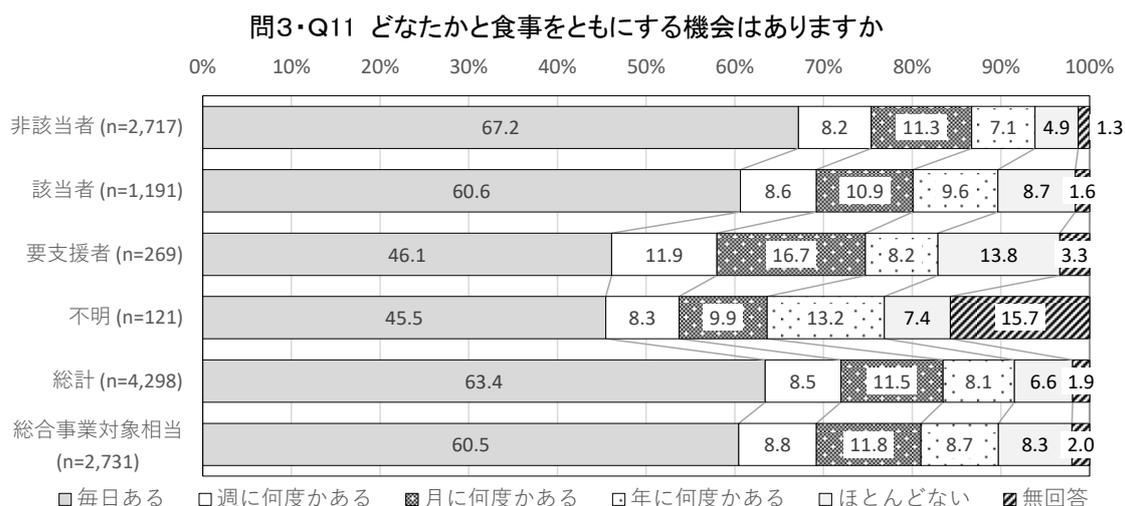
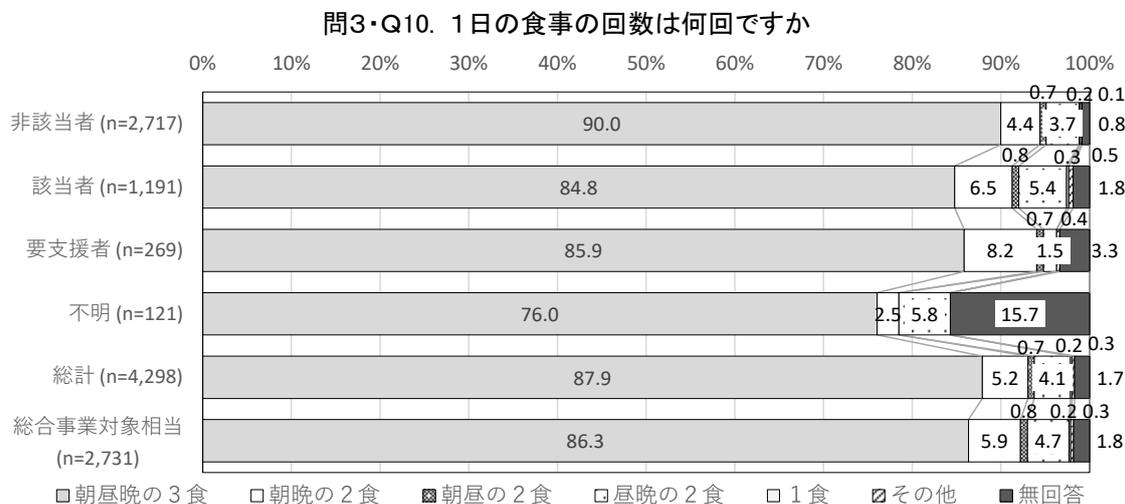
2～3kg以上の体重減少に関する設問（問3・Q9）で「はい」と回答したのは、非該当者 9.7%、該当者 22.9%、要支援者 17.1%、不明者 9.1%、総合事業対象相当 17.1%となっています。

図表 回答結果



また、1日の食事の回数（問3・Q10）に関する設問では「朝昼晩の3食」がほとんどを占めていますが、誰かとともに食事をする機会（問3・Q11）に関する設問では、要支援者の「毎日ある」が半数を割っています。

図表 回答結果-2



2 生活機能

(5) 口腔

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、栄養と関連する指標として口腔機能のリスク判定がされます。

具体的には、3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下と判定されます。

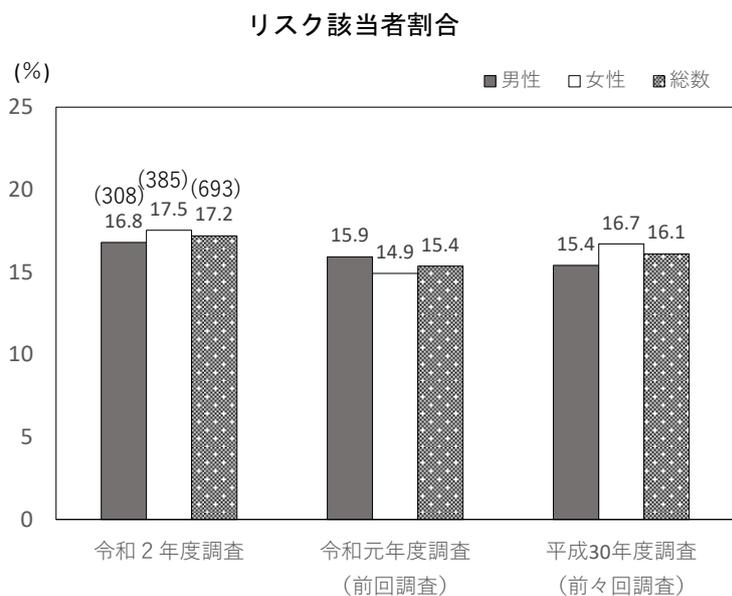
図表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問3・Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で 693 人、17.2%（男性 308 人 16.8%、女性 385 人 17.5%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、令和元年度調査（前回調査）、平成 30 年度調査（前々回調査）よりも高くなっています。

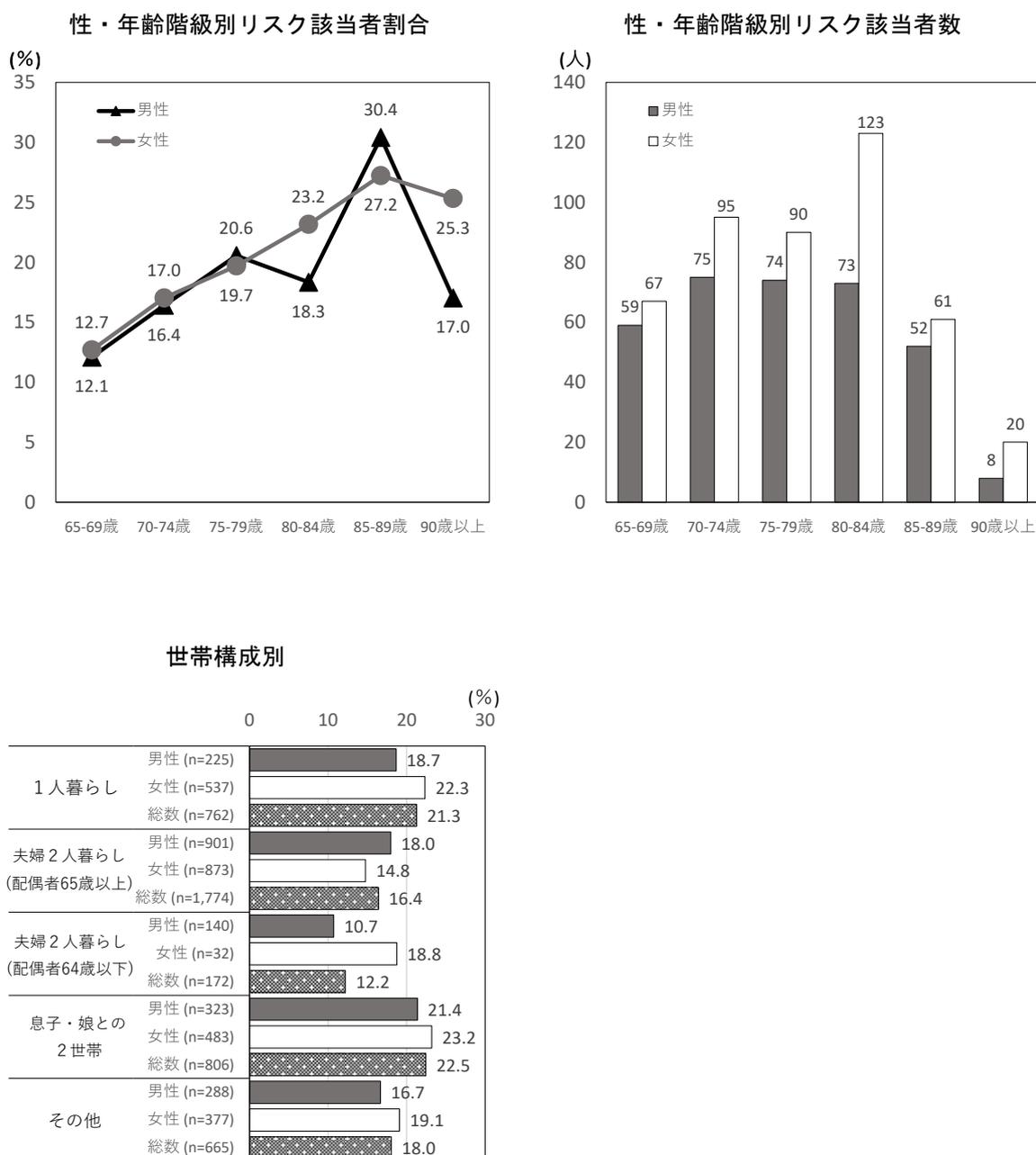
図表 リスク該当状況－口腔機能の低下



性・年齢階級別にみると、男女ともに85～89歳がリスク該当者割合で高くなっています。リスク該当者数でみると、男性では70～74歳が75人、女性では80～84歳が123人で最も多くなっています。

これを世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯の女性でリスク該当者割合が比較的高くなっています。

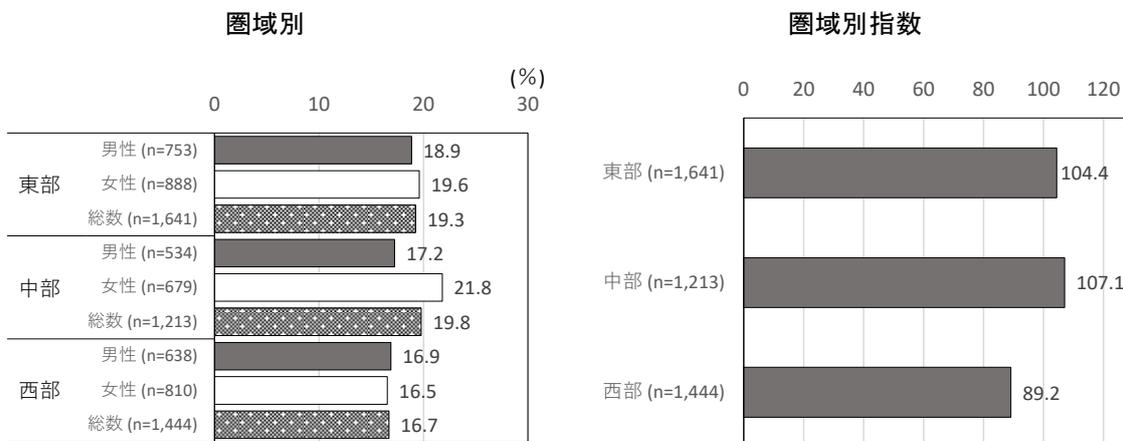
図表 口腔機能の低下 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

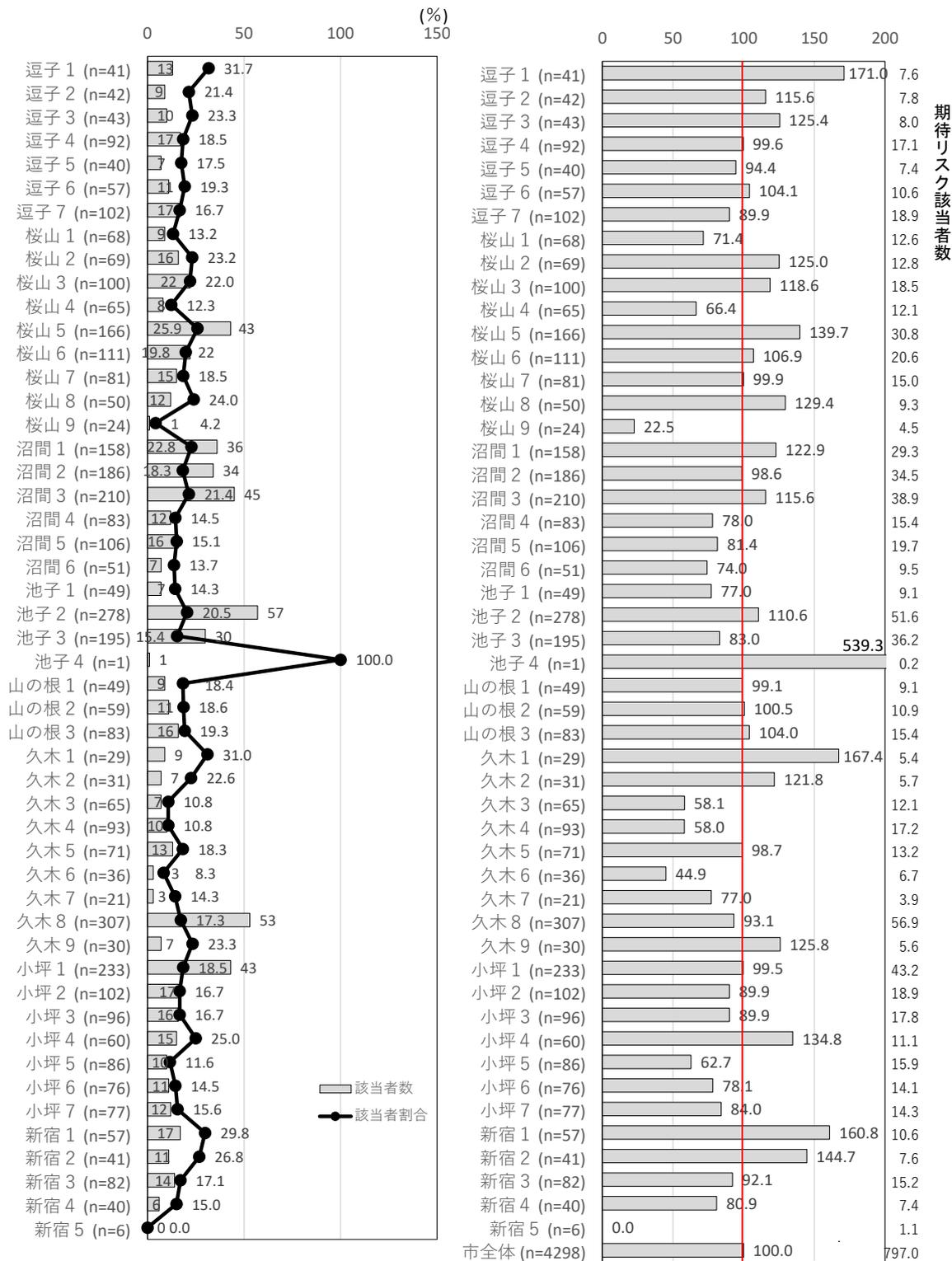
圏域別にみると、中部圏域の女性で、21.8%と高くなっています。指数で比較すると、中部圏域が 107.1 と高くなっています。

図表 口腔機能の低下 リスク該当状況一圏域別



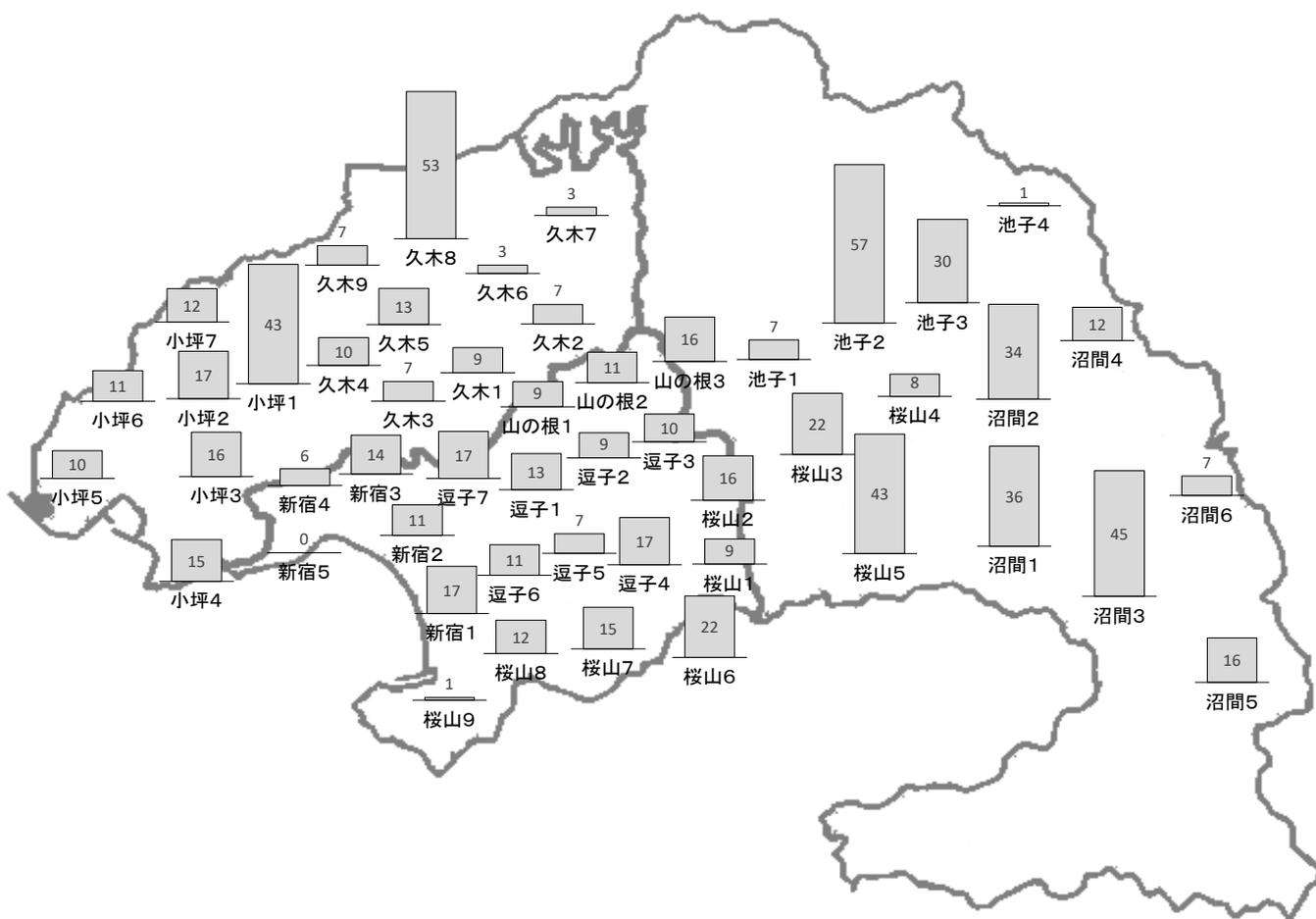
町丁別にリスク該当状況をみると、池子2丁目と久木8丁目で該当者が50人を超えて多くなっています。指数で見ると、逗子1丁目、池子4丁目、久木1丁目、新宿1丁目が150を超えて高くなっています。

図表 口腔機能の低下（左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数）



2 生活機能

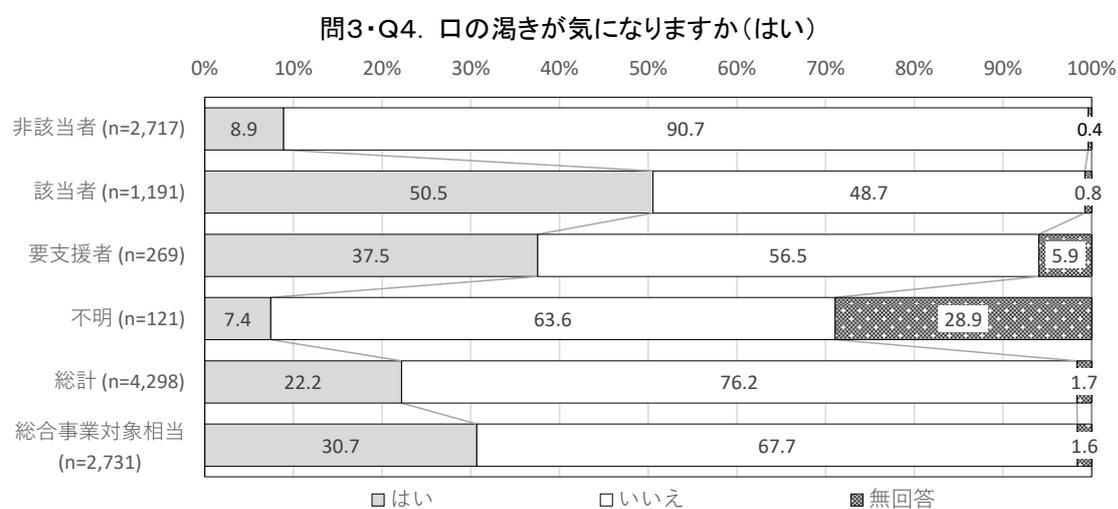
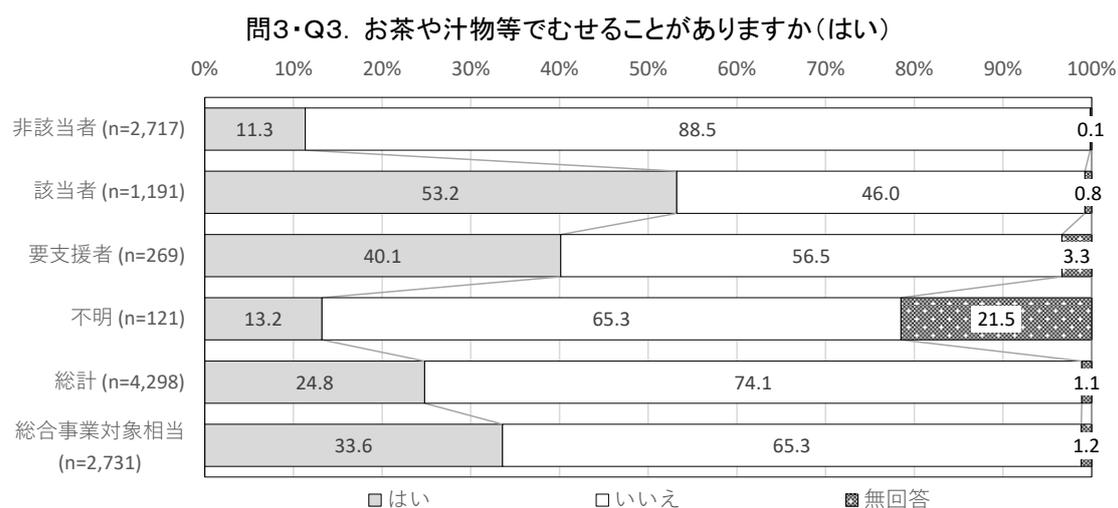
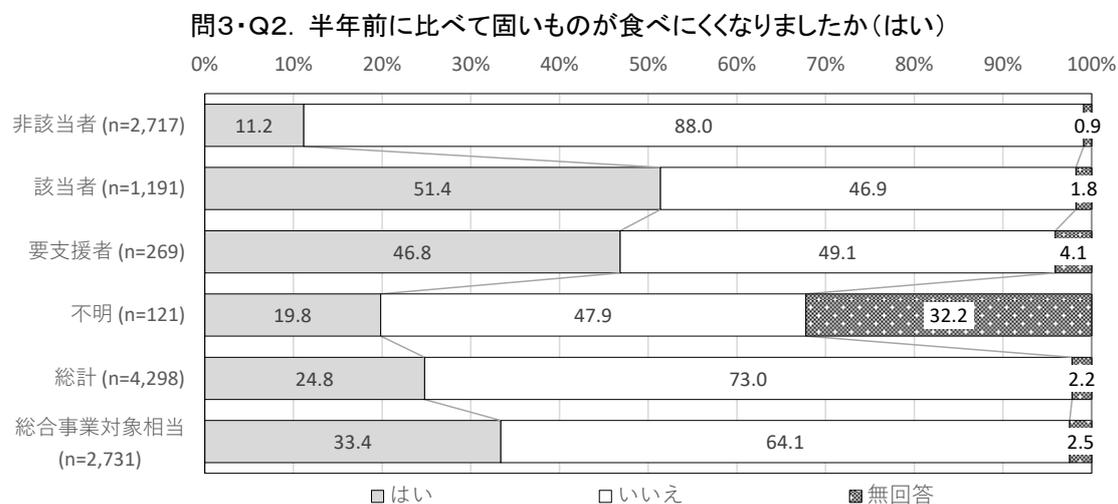
図表 町丁別リスク該当者数の分布：口腔機能の低下



ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、3問とも該当者で半数以上、要支援者では約4割がリスク該当に係る回答をしています。

図表 口腔に関する設問



2 生活機能

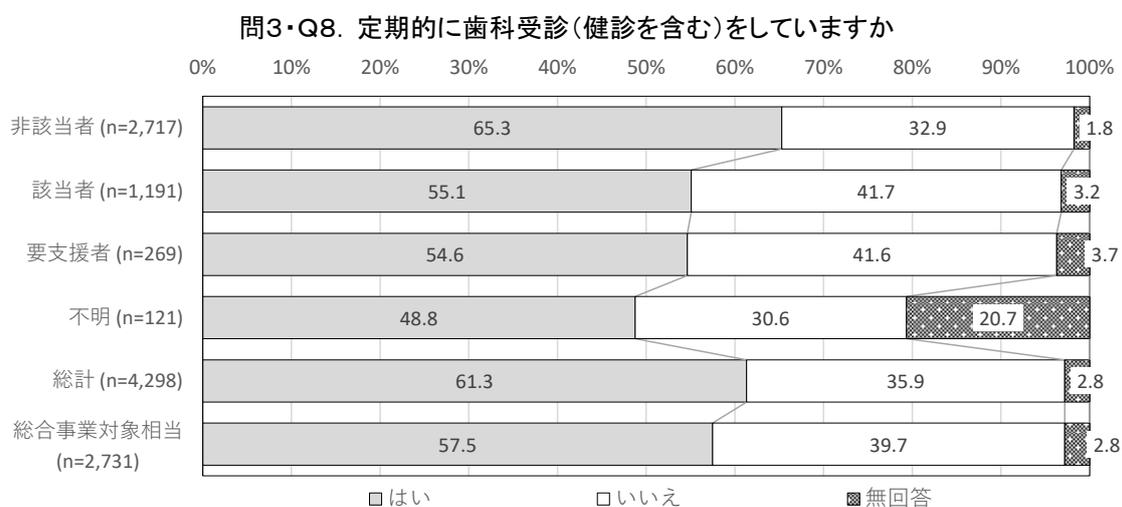
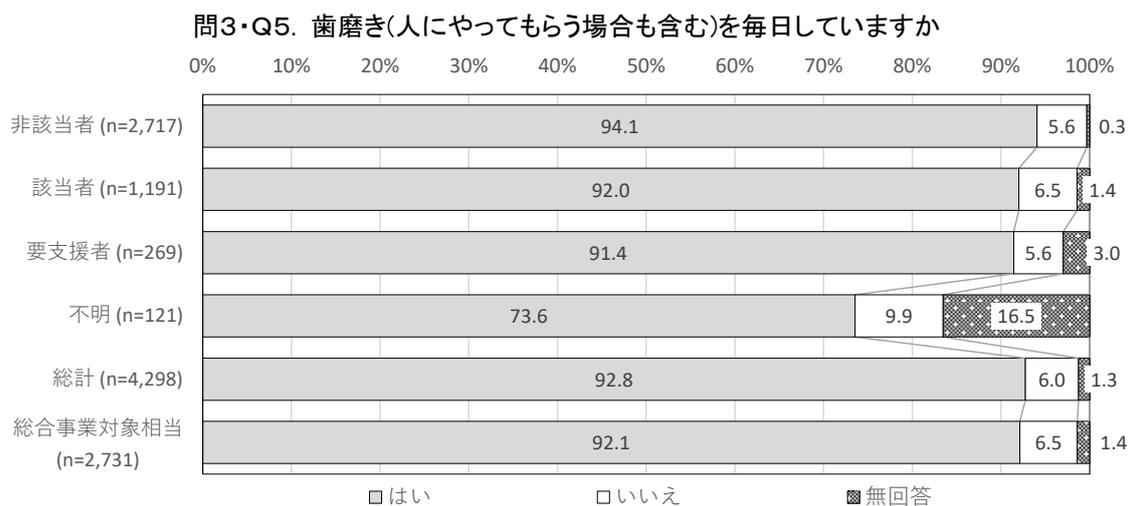
エ 関連設問

関連設問に対する回答をみると、毎日の歯磨きをしているかについては、全体で 6.0%が「いいえ」と回答しています。また、定期的に歯科受診（健診）をしているかについては、非該当者、該当者、要支援者の順に「はい」が少なくなっています。

歯の数と入れ歯使用の有無をみると、全体で比較的多いのは「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯の利用なし」（39.9%）、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を使用」（30.1%）となっています。「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（18.1%）も含めると、入れ歯を利用している人の割合は全体の 4 割を超えています。

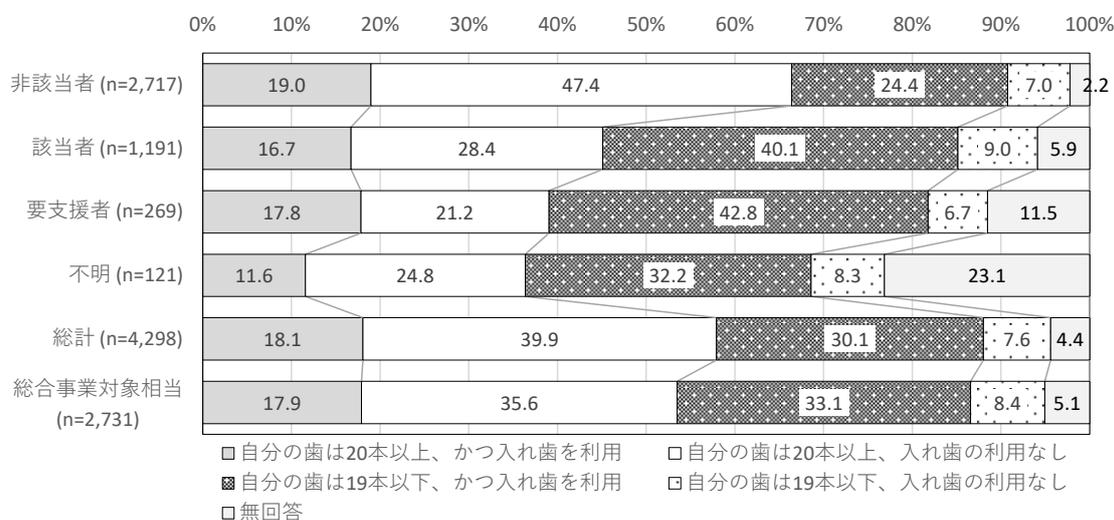
入れ歯を利用している方に、「毎日入れ歯の手入れをしているか」について聞くと、「はい」との回答が全体で 88.1%、「いいえ」との回答が 5.2%となっており、認定・該当状況別においても同様の割合となっていますが、噛み合わせが良いかについては、非該当者では「いいえ」が 8.3%に対し、該当者では 20.7%、要支援者では 17.1%、総合事業対象相当では 15.7%と多くなっています。

図表 口腔に関する設問・回答-1



図表 口腔に関する設問・回答-2

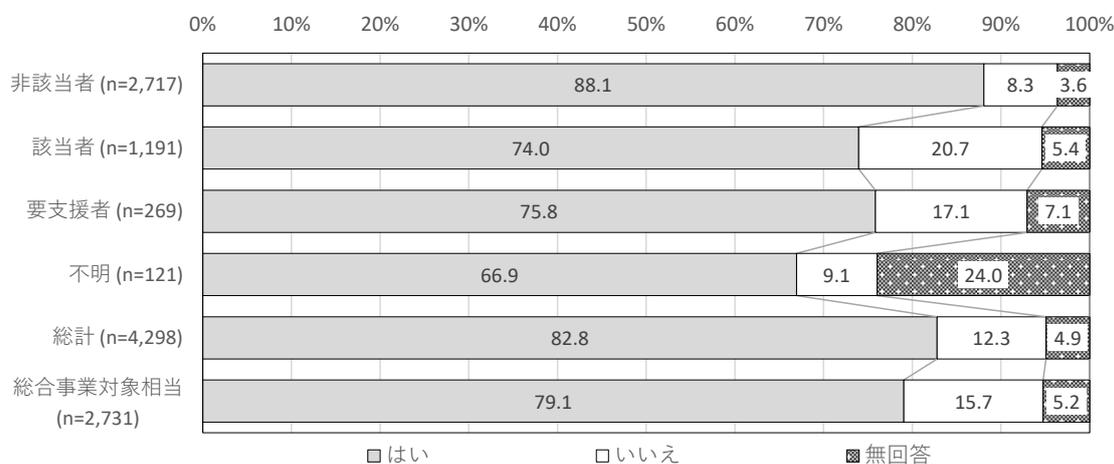
問3・Q6. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)



問3・Q6-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか



問3・Q7. 噛み合わせは良いですか



2 生活機能

(6) 認知機能

ア 設問と評価

今回、国のニーズ調査の手引きより、問4・Q1設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定をしています。

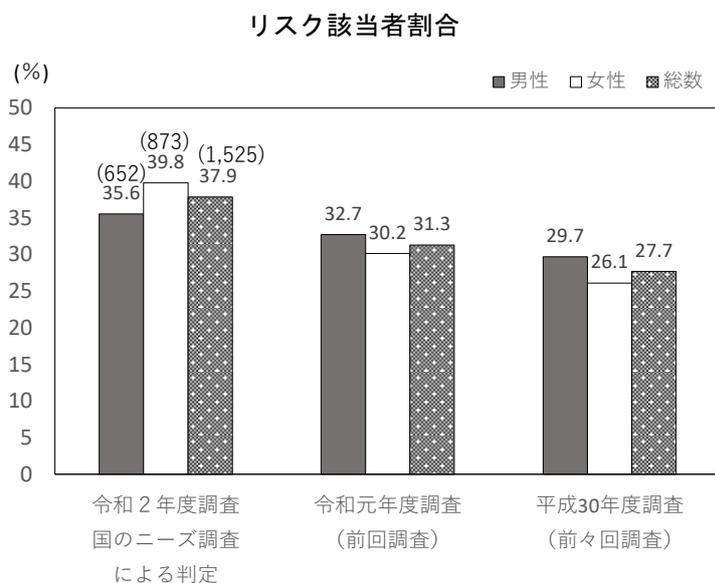
図表 認知機能に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

問番号	設 問	該当する選択肢
問4・Q1	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」

イ 評価結果

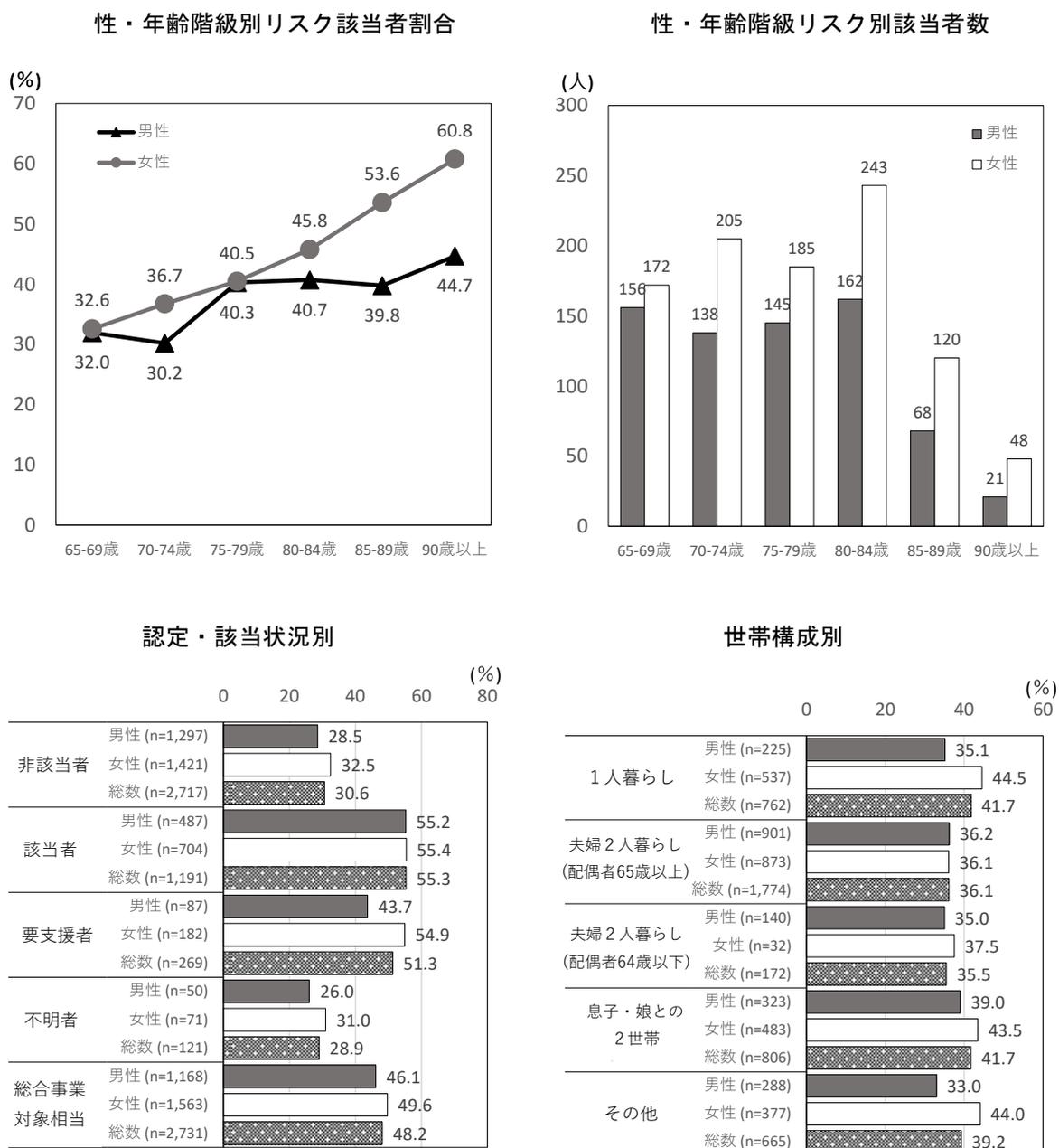
結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で、1,525人37.9%（男性652人35.6%、女性873人39.8%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で平成30年度調査（前々回調査）から増加しています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下



性・年齢階級別にみると、男女ともに90歳以上のリスク者割合が最も高くなっています。該当者数でみると、男女ともに80～84歳が他の年齢と比べて多くなっています。認定・該当状況別にみると、該当者が55.3%、要支援者が51.3%と半数を超えています。世帯構成別では、女性の1人暮らし世帯で44.5%、息子・娘との2世帯で43.5%、その他の世帯で44.0%と比較的高くなっています。

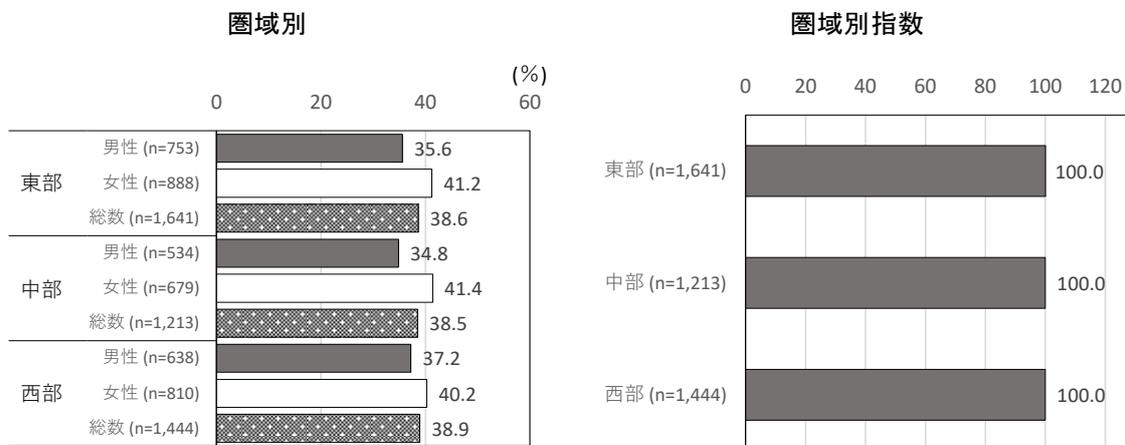
図表 認知機能低下 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

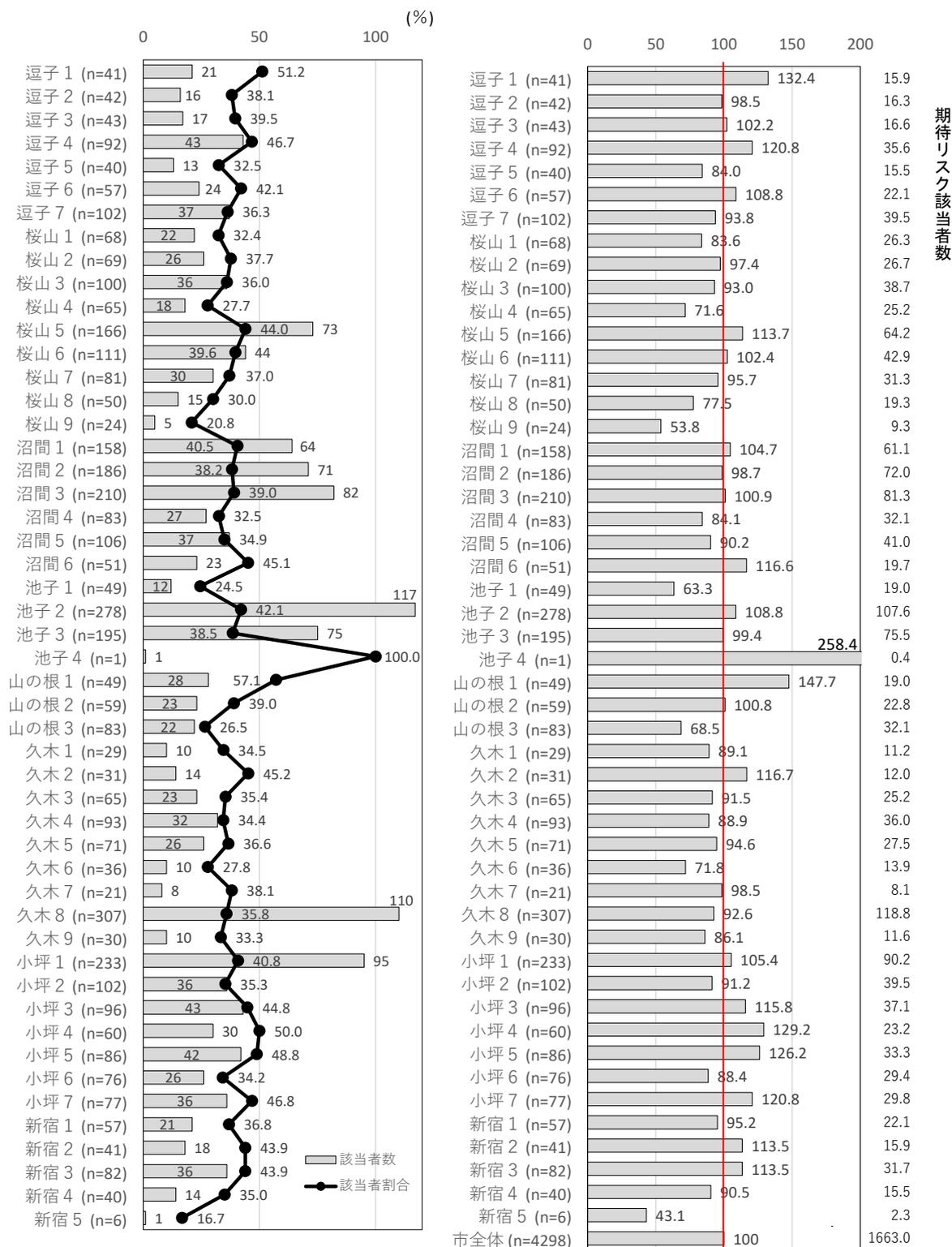
圏域別にみると、各圏域の女性においてリスク該当割合が4割を超えています。指数は各圏域ともに大きな差はありません。

図表 認知機能低下 リスク該当状況－圏域別



町丁別にリスク該当状況をみると、池子2丁目と久木8丁目で100人を超えて多くなっています、指数をみると、逗子1丁目、逗子4丁目、池子4丁目、山の根1丁目、小坪4丁目、小坪5丁目、小坪7丁目が120を超えて高くなっています。

図表 認知機能低下- (左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数)

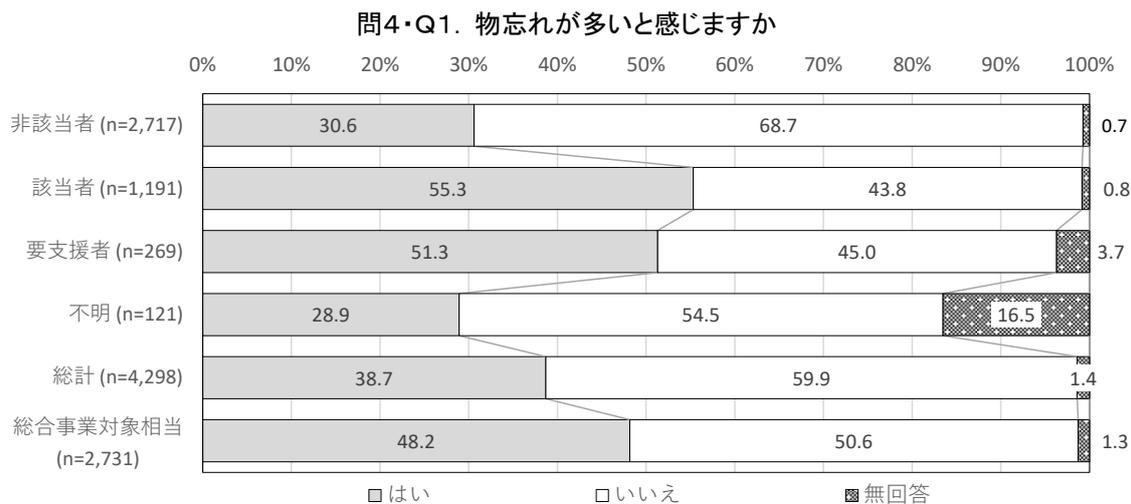


ウ 回答結果 - 1

物忘れが多いかについては、国のニーズ調査の手引きによる認知機能の低下を問う設問で、この設問に「はい」と回答した場合は、認知機能の低下が疑われる高齢者となります。全体では38.7%が「はい」と回答しています。

認定・該当状況別では、該当者で30.6%、要支援者で55.3%、要支援者で51.3%、不明で28.9%、総合事業対象相当で48.2%が「はい」と回答しており、認知機能の低下が疑われる高齢者が多いと考えられます。

図表 物忘れ



2 生活機能

エ 回答結果 - 2

基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定ができます。

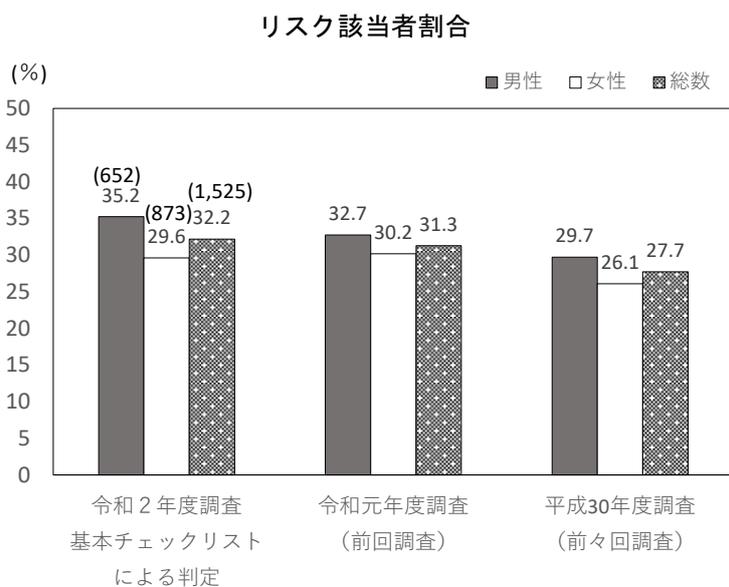
具体的には、3問中1問以上に該当した場合に、認知機能低下と判定されます。

図表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問4・Q2	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q3	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q4	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で、1,525人 32.2%（男性 652人 35.2%、女性 873人 29.6%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で平成30年度調査（前々回調査）から増加傾向となっています。

図表 リスク該当状況－認知機能低下



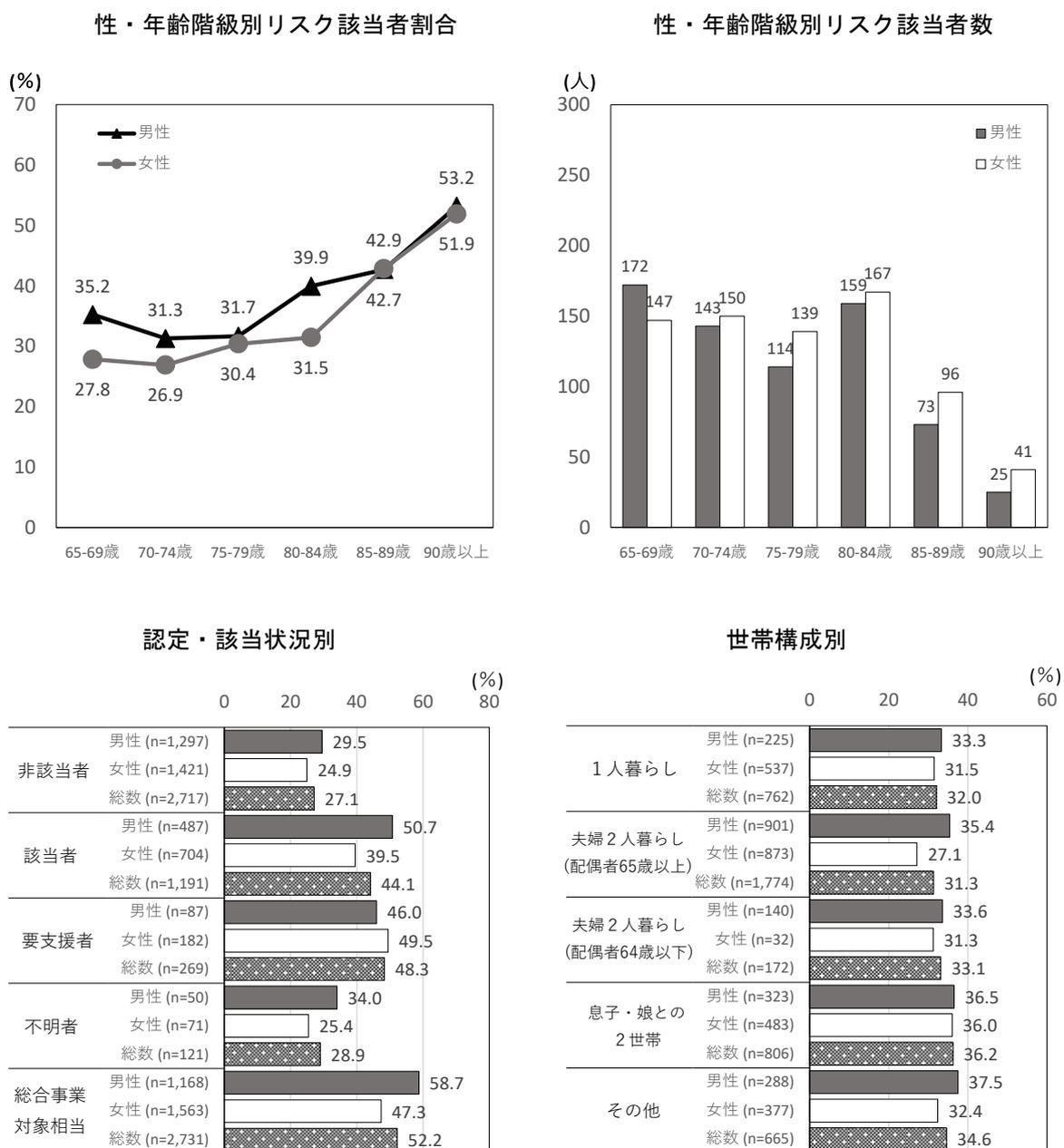
性・年齢階級別にみると、男女ともに90歳以上のリスク該当者割合が最も高くなっています。

該当者数でみると、基本チェックリストによる判定では男性は65～69歳が172人、女性では80～84歳が167人と多くなっています。

認定・該当状況別にみると、総合事業対象相当が52.2%と半数を超えています。

世帯構成別では、息子・娘との2世帯でリスク該当者割合がやや高くなっています。

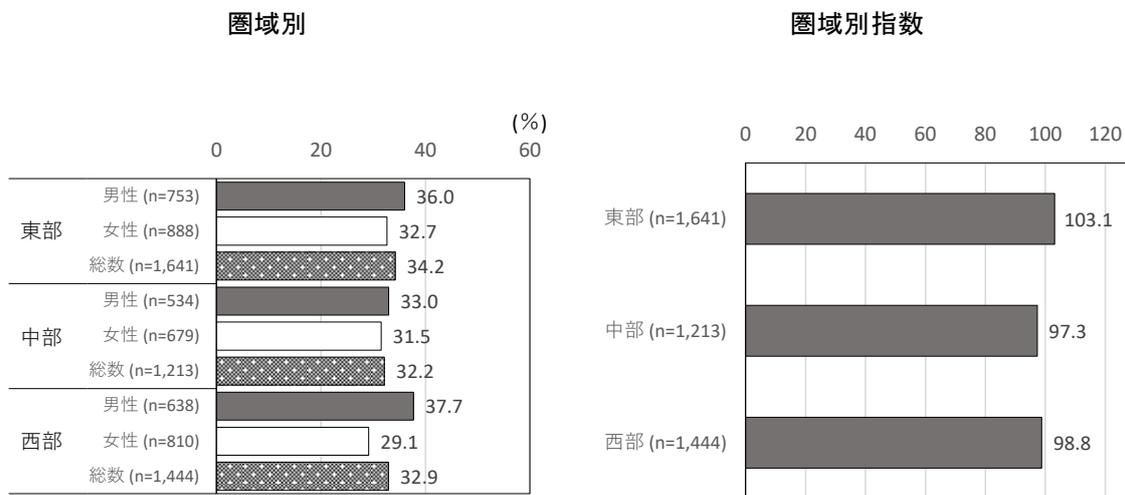
図表 認知機能低下 リスク該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

圏域別にみると、西部圏域の男性が 37.7%とリスク該当割合がやや高くなっています。指数で比較すると、東部圏域が 103.1 で高くなっています。

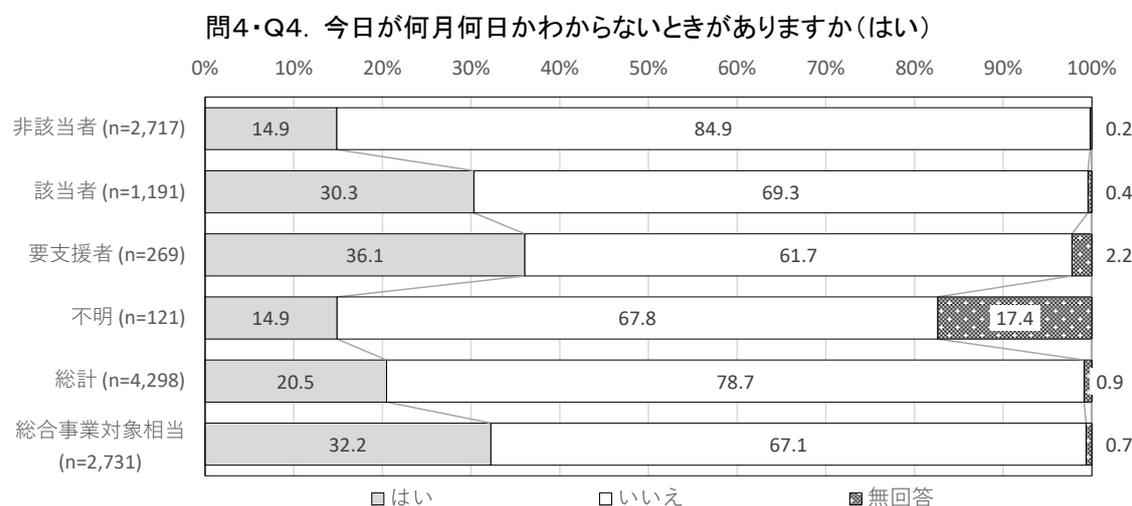
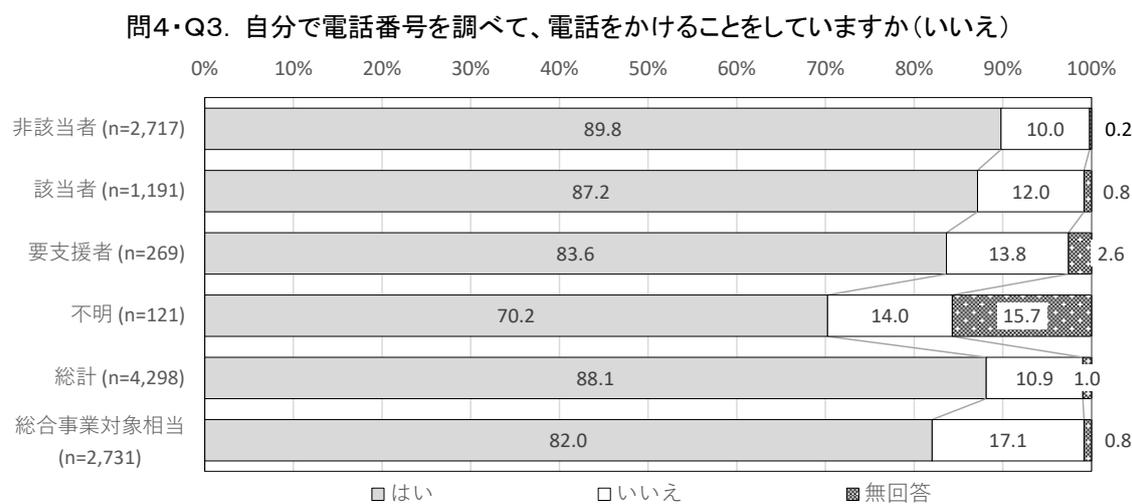
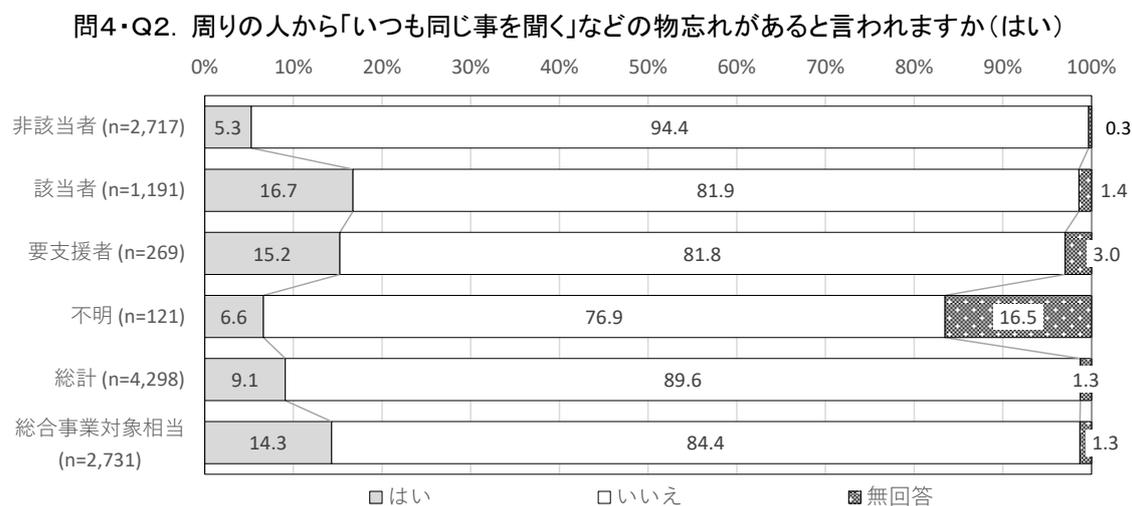
図表 認知機能低下 リスク該当状況－圏域別



基本チェックリストによる判定となる設問に対する回答をみると、電話番号を調べての電話利用（問4・Q3）では全体で「いいえ」が10.9%となっています。

一方、日付の認識（問4・Q4）については、全体で「はい」が20.5%と比較的多くっており、認定・該当状況別にみると、該当者と認定者、総合事業対象相当で3割を超えて多くなっています。

図表 回答結果



2 生活機能

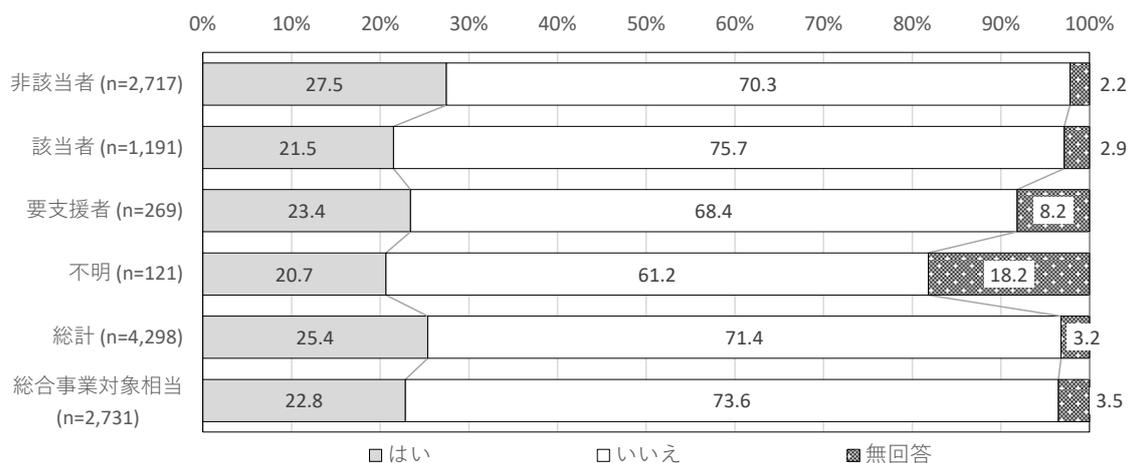
オ 関連設問

なお、自身を含め周りに認知症がいるか（問7・Q1）については、認定・該当状況別に関わらず、1割未満となっています。認知症の相談窓口の認知度についても2割台となっており、認知度が高いとはいえません。

問7・Q1. 認知症の症状がある又は家庭に認知症の症状がある人がいますか



問7・Q2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか



(7) うつ予防

ア 設問と評価

国のニーズ調査の手引きにより、下の2つの設問に対する回答でうつリスクの判定をしています。

具体的には、2問中1問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者（うつリスク該当者）となります。

図表 うつ予防に関する設問（国のニーズ調査の手引き）

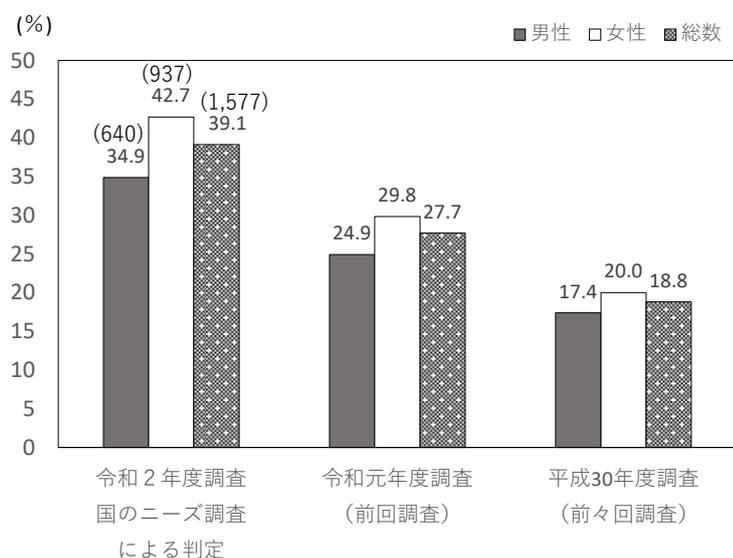
問番号	設 問	該当する選択肢
問6・Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問6・Q4	この1か月間、どうしても物事に関して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で、国のニーズ調査の手引きによる判定では1,577人39.1%（男性640人34.9%、女性937人42.7%）が該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で平成30年度調査（前々回調査）から増加しています。

図表 リスク該当状況—うつ予防

リスク該当者割合



※平成30年度調査(前々回調査)では基本チェックリストで、令和元年度調査(前回調査)では国のニーズ調査の手引きから判定をしている

2 生活機能

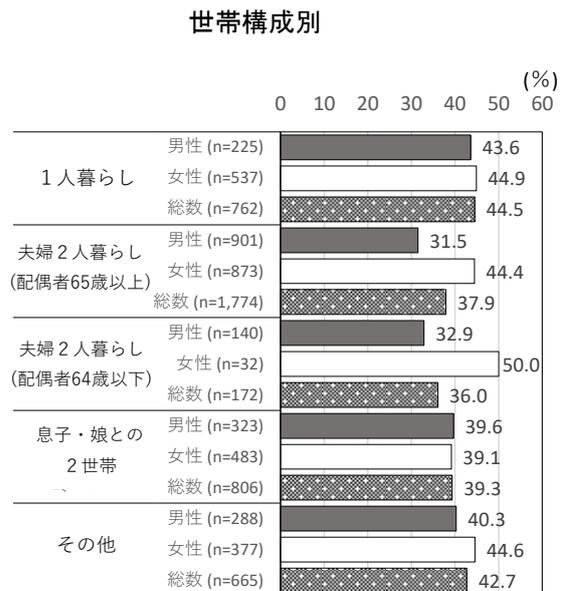
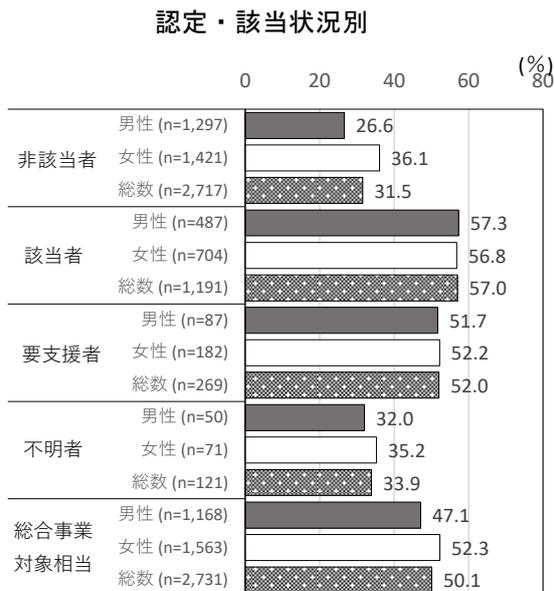
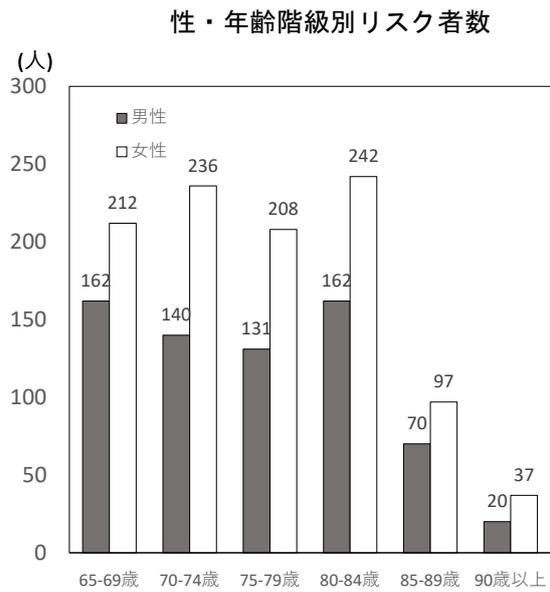
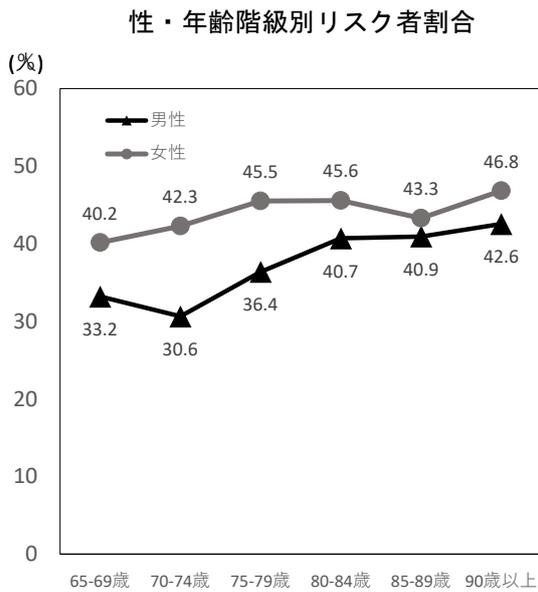
性・年齢階級別にみると、女性においては各年齢ともにリスク割合が4割を超えています。

リスク該当者数でみると、男性では65～69歳と80～84歳が、女性では80～84歳が最も多くなっています。

認定・該当状況別にみると、該当者が57.0%、要支援者が52.0%、総合事業対象相当が50.1%と5割を超えています

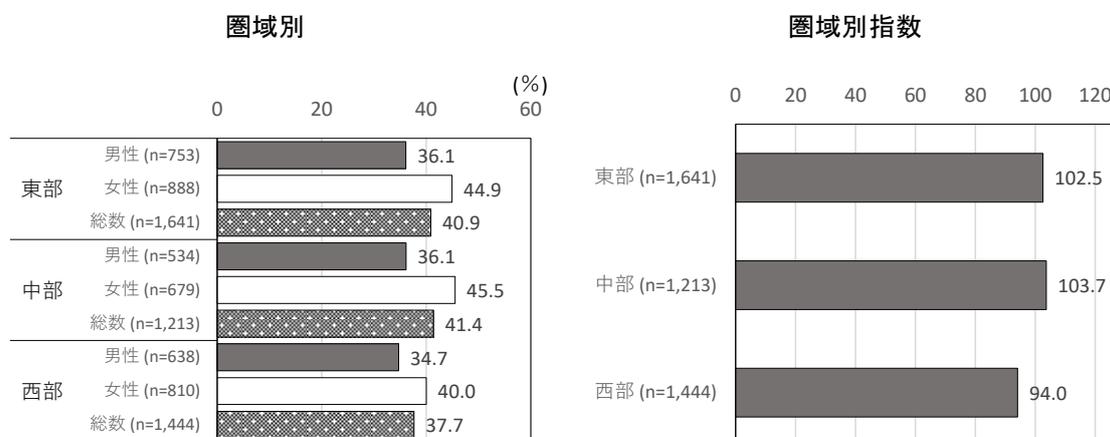
世帯構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性で50.0%とリスク該当者割合が比較的高くなっています。

図表 うつ予防 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、中部圏域の女性が45.5%と他圏域に比べて該当者割合が高くなっています。指数でも中部圏域が103.7と高くなっています。

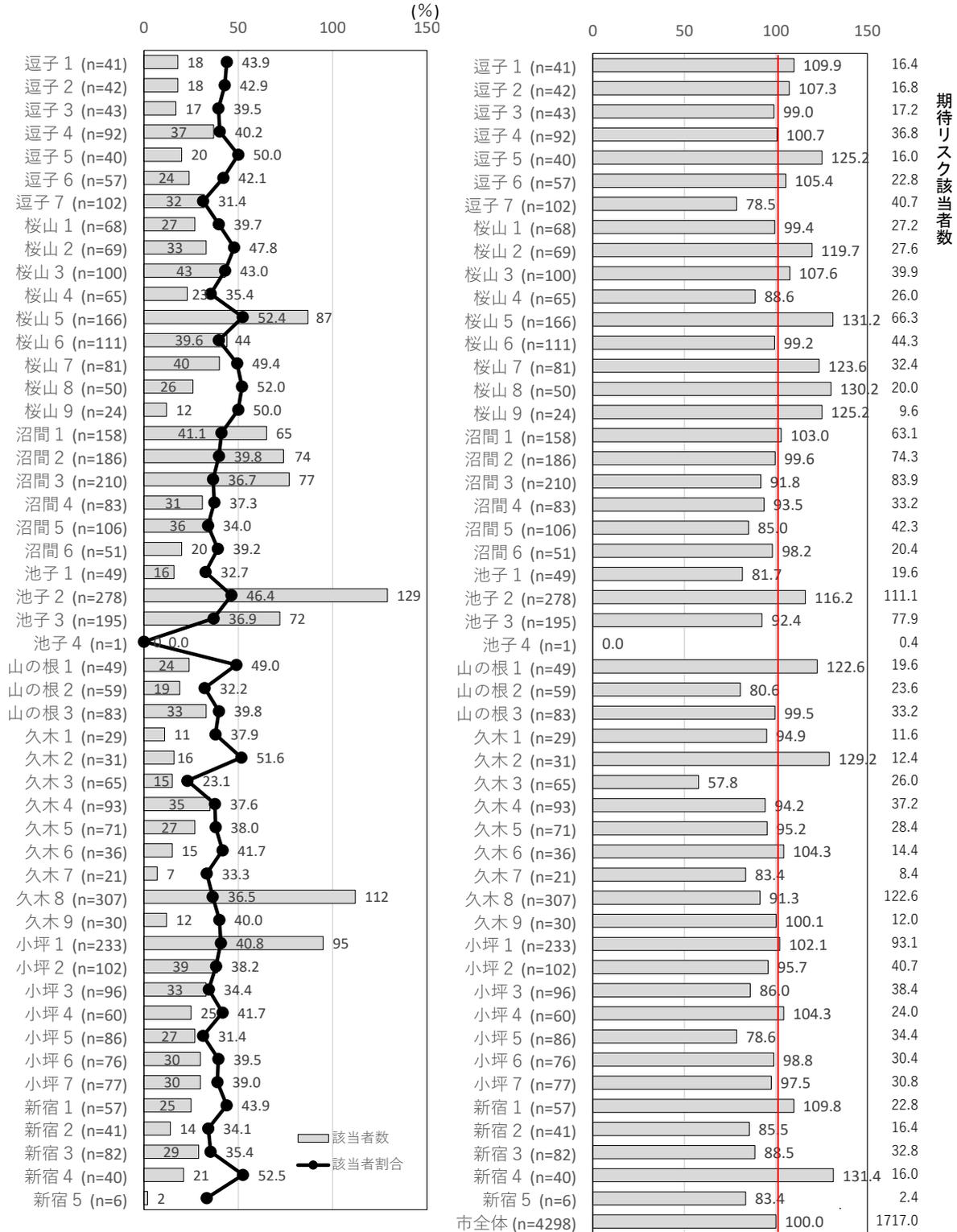
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別



2 生活機能

町丁別にリスク該当状況をみると、池子2丁目、久木8丁目で100人を超えて多くなっています。指数においては桜山5丁目、桜山8丁目、新宿4丁目で130を超えて高くなっています。

図表 うつ予防- (左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数)

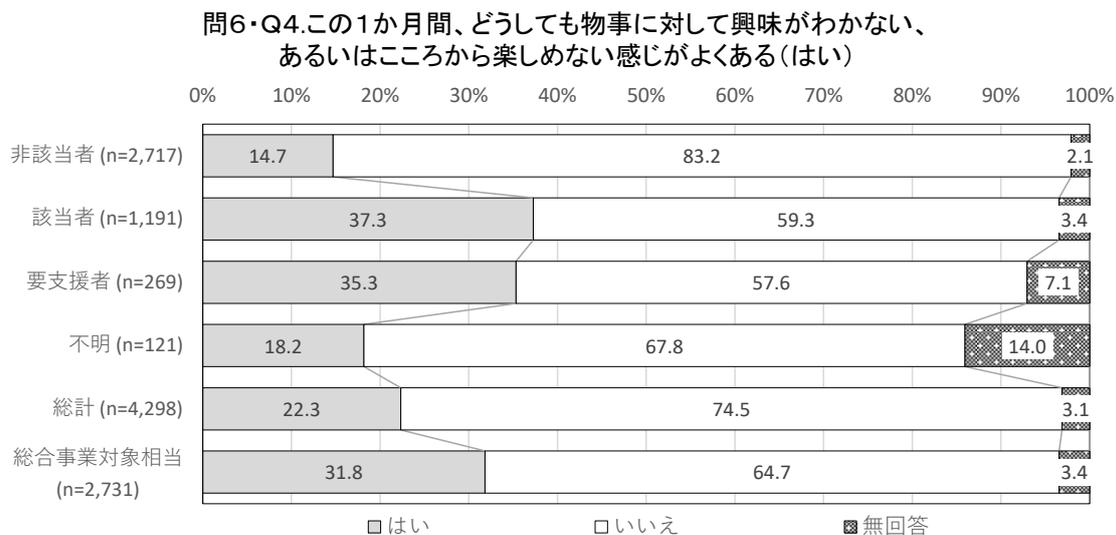
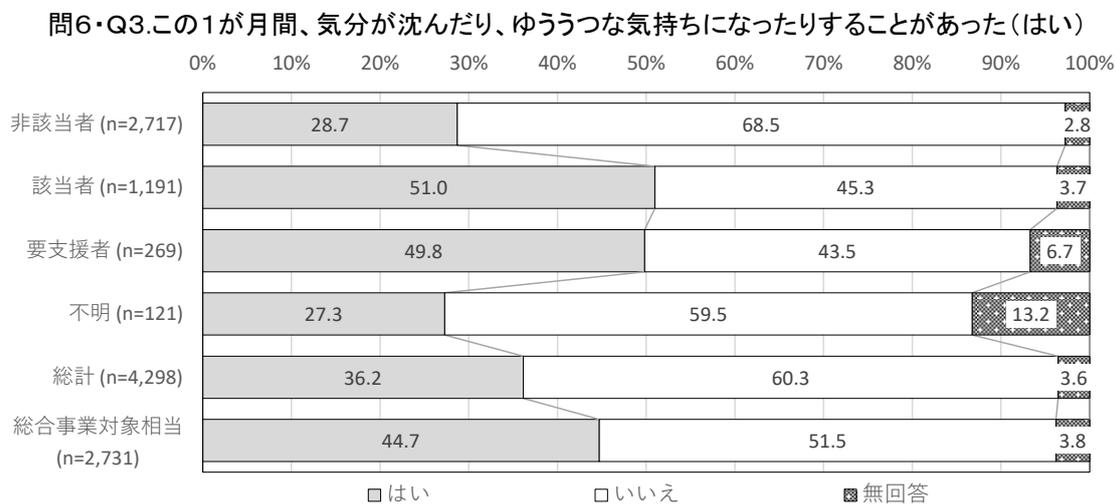


2 生活機能

ウ 回答結果-1

国のニーズ調査の手引きによる評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問6・Q3、Q4ともに該当者、要支援者、総合事業対象相当、非該当者の順に該当回答の割合が高くなっており、非該当者と比べると割合に大きな差があります。

図表 回答結果



エ 回答結果-2

基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、うつリスクの判定をします。

具体的には、5問中2問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者となります。

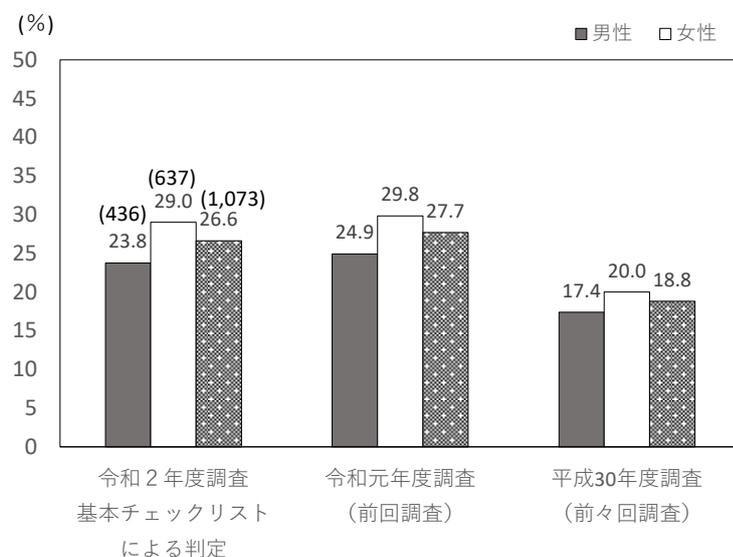
図表 うつ予防に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問6・Q5	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問6・Q6	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問6・Q7	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
問6・Q8	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問6・Q9	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で、1,073人 26.6%（436人男性 23.8%、637人女性 29.0%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、全体で令和元年調査（前回調査）から1.1ポイント低くなっていますが、平成30年度調査（前々回調査）よりも高くなっています。

図表 リスク該当状況—うつ予防

リスク該当者割合



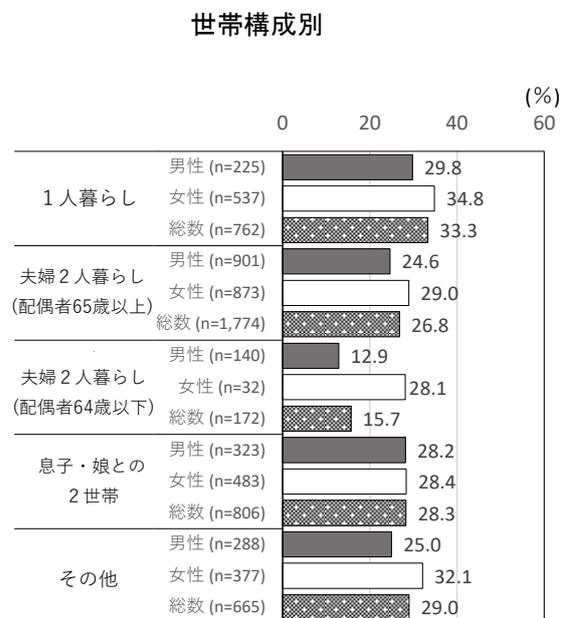
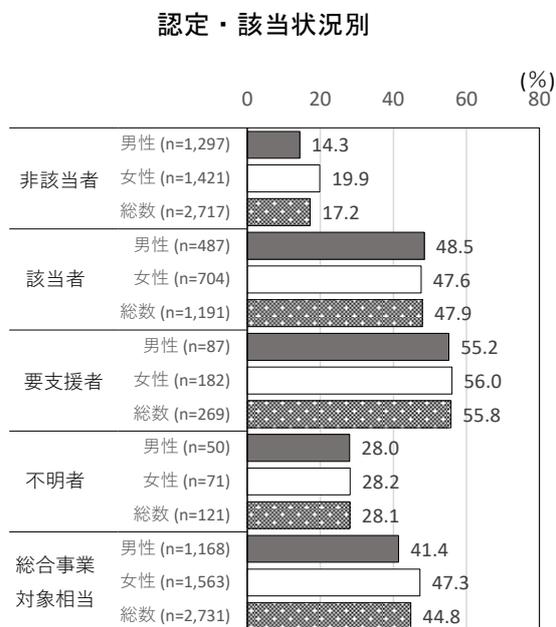
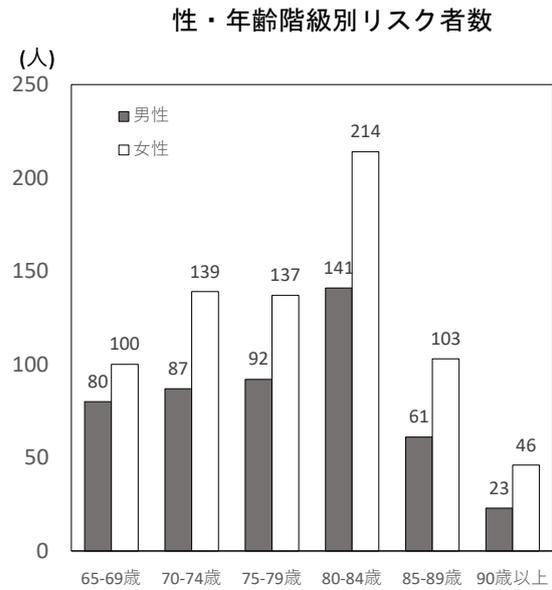
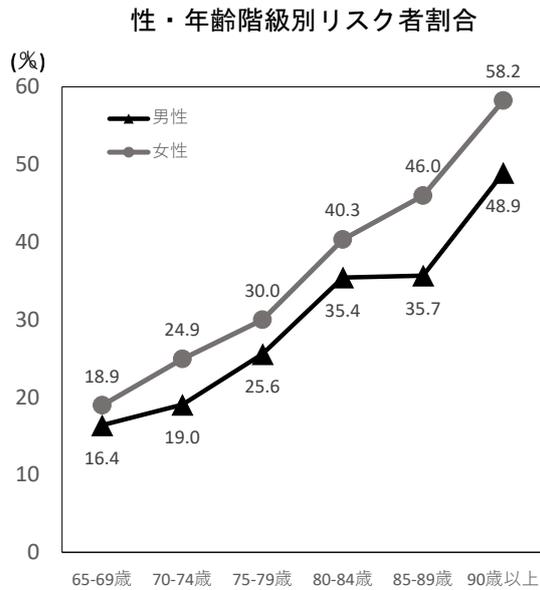
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女とも年齢とともにリスク該当者割合が増加しています。リスク該当者数でみると、どちらの判定でも80～84歳が最も多くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者が55.8%と半数を超えて高くなっています。

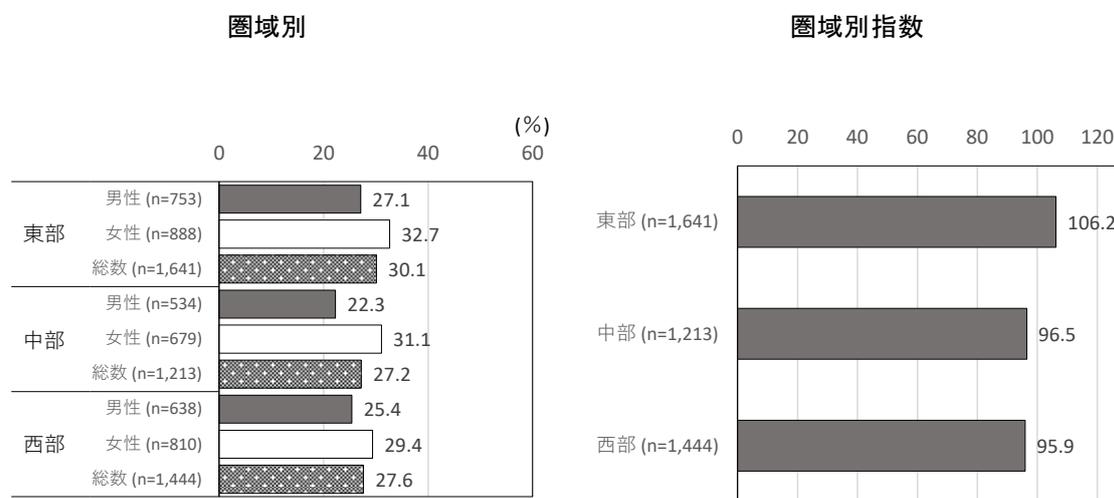
世帯構成別では、全体で夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)のリスク該当者の割合が15.7%と低くなっています。

図表 うつ予防 リスク該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、東部圏域が30.1%と他圏域に比べて該当者割合がやや高くなっています。指数でも東部圏域が106.2と高くなっています。

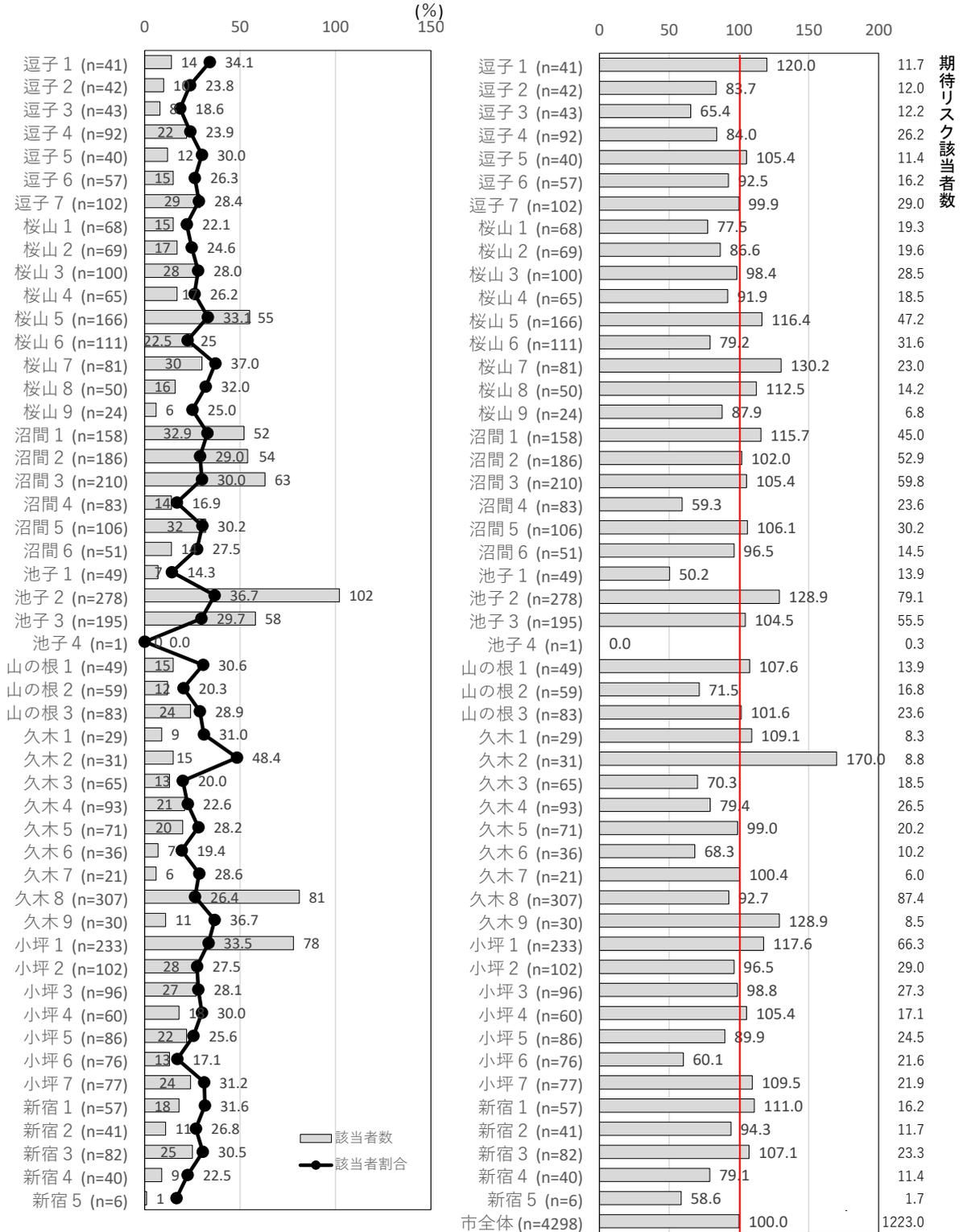
図表 うつ予防 リスク該当状況—圏域別



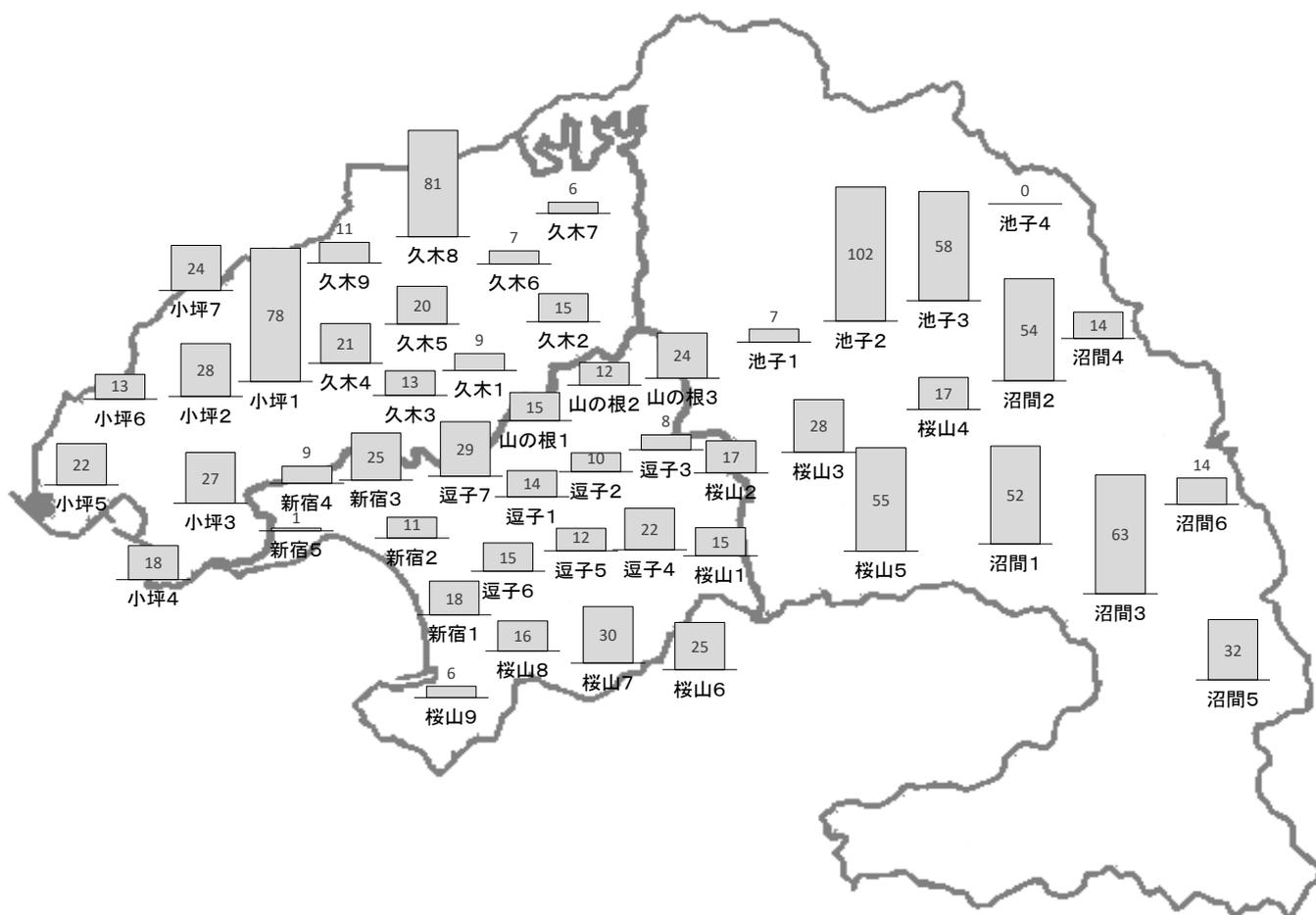
2 生活機能

池子2丁目で102人、久木8丁目で81人、小坪1丁目で78人とリスク該当者が多くなっています。指数においては久木2丁目が170.0と最も高く、次いで逗子1丁目、桜山7丁目、池子2丁目、久木9丁目で120を超えて高くなっています。

図表 うつ予防- (左：町丁別リスク該当者数・割合 右：町丁別指数)



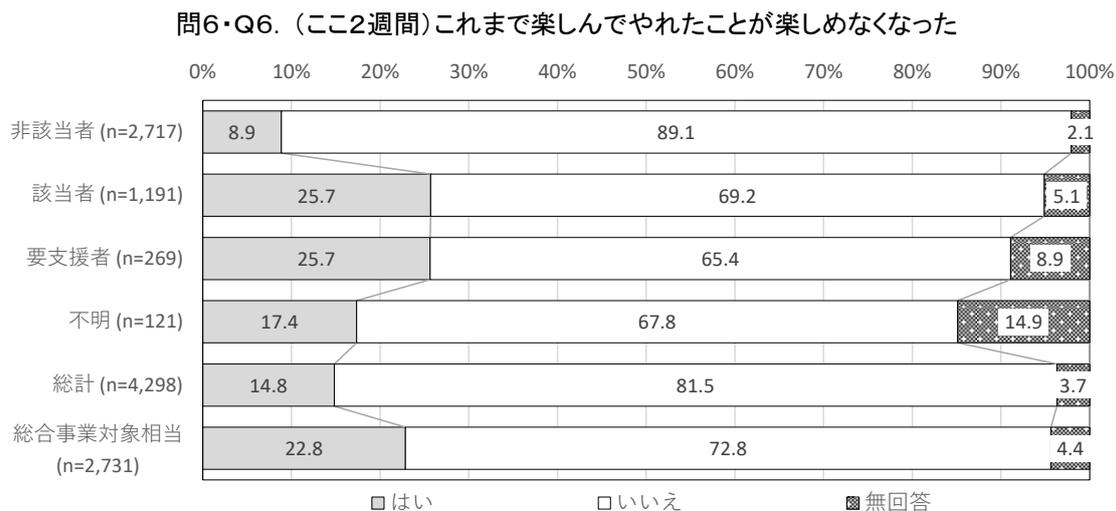
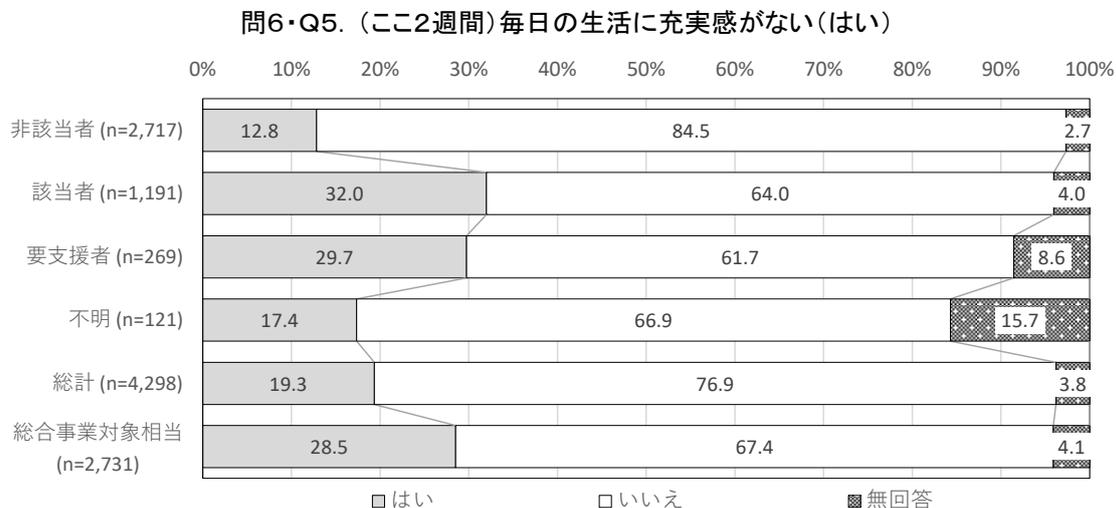
図表 町丁別リスク該当者数の分布：うつ予防



2 生活機能

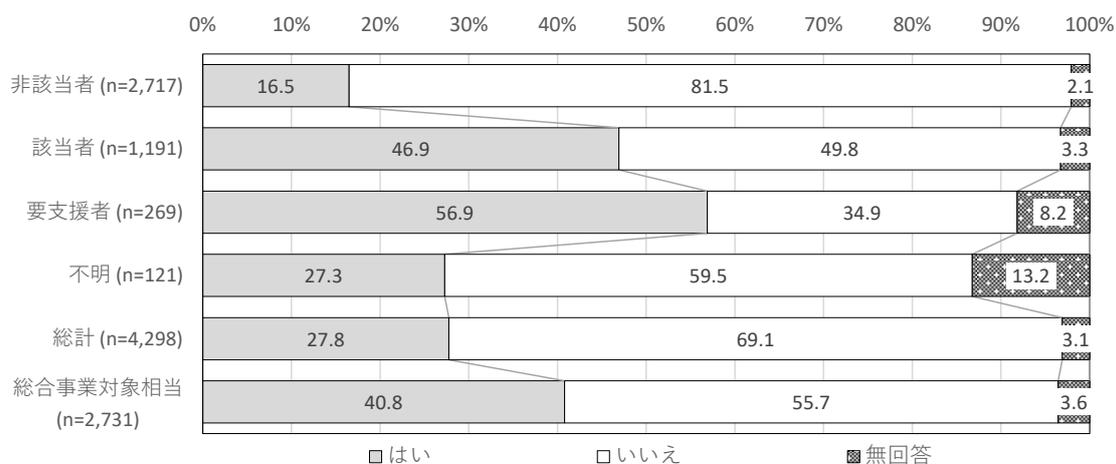
基本チェックリストによる評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問6・Q7～Q9において要支援者、該当者、総合事業対象相当、非該当者の順にリスク該当に係る回答の割合が高くなっており、非該当者の割合と大きな差があります。

図表 回答結果-1

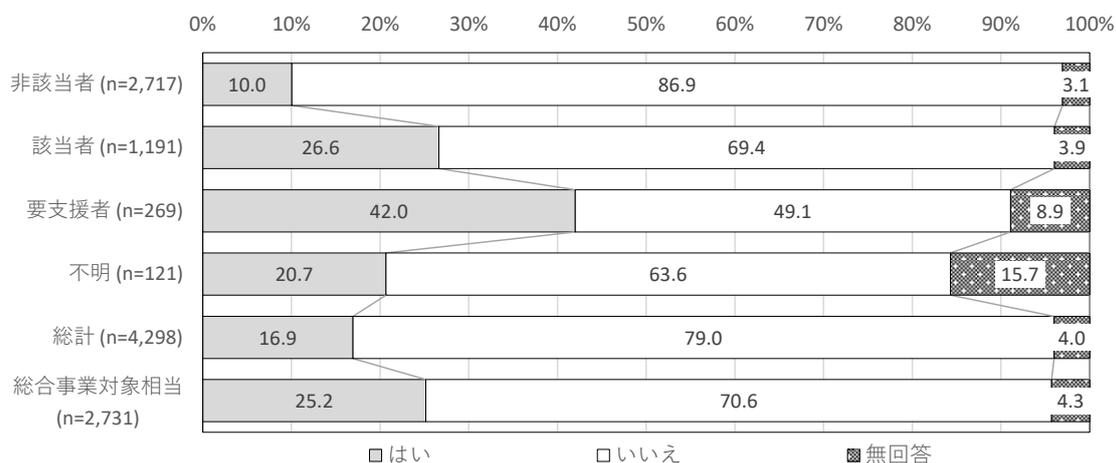


図表 回答結果-2

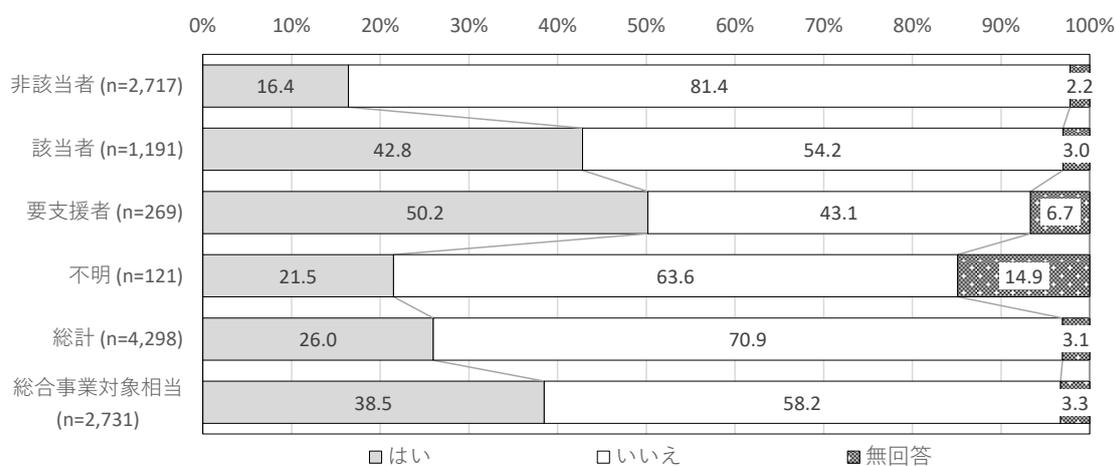
問6・Q7. (ここ2週間)以前は楽にできたことが、今ではおっくうに感じられる(はい)



問6・Q8. (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない(はい)



問6・Q9. (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする



2 生活機能

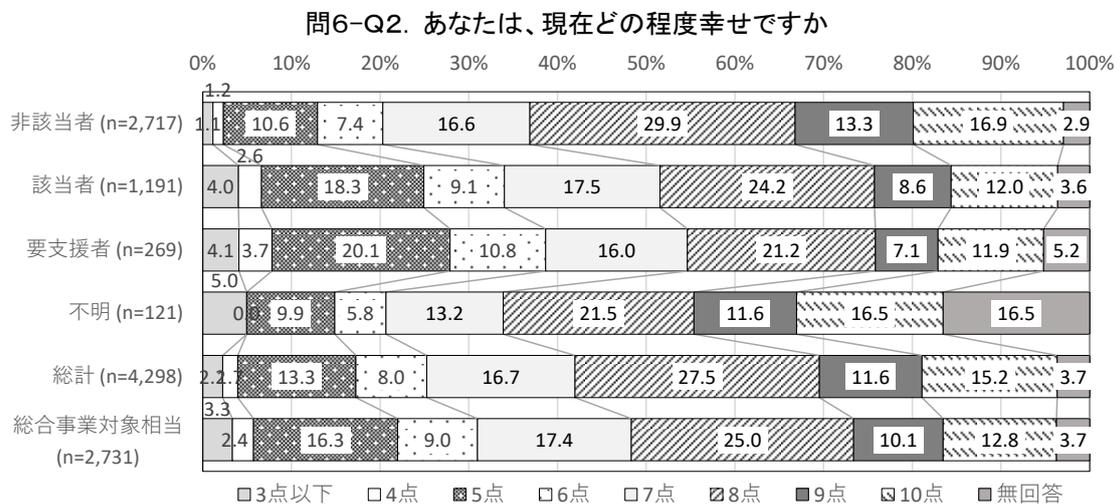
オ 関連設問

うつ傾向と関係すると言われている主観的幸福感についてみると、全体を11段階に点数化した回答で「8点」が27.5%で最も多く、次いで「7点」(16.7%)、「10点」(15.2%)、「5点」(13.3%)、「9点」(11.6%)等が続いています。

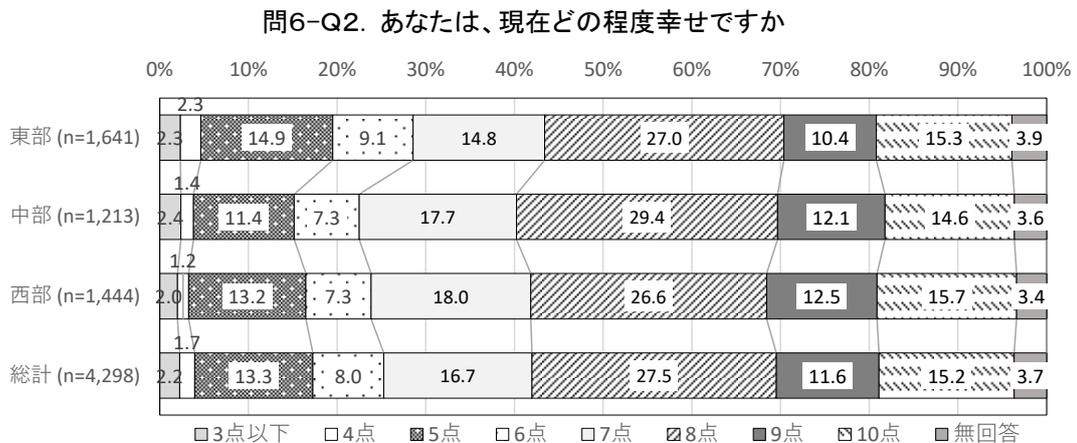
認定・該当状況別に5点以下の割合をみると、非該当者は12.9%、該当者は24.9%、要支援者は27.9%、不明者は14.9%、総合事業対象相当は22.0%と、生活機能が低下しているほど主観的幸福感も低下している方が多いことがうかがえます。

そのため、主観的幸福感や地域の精神面での健康度のアウトカム指標として活用ができると考えられ、圏域別に5点以下の割合をみると、東部圏域では19.5%と最も高く、次に、西部圏域が16.4%、中部圏域が15.2%となっており、東部圏域の幸福感が他の地域よりもやや低くなっています。

図表 幸福感-認定・該当状況別



図表 幸福感-圏域別



(8) 虚弱

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、うつ予防に関する5問を除いた20問中10問以上にあてはまる場合、虚弱リスク該当者となります。

この項目は、運動や栄養などの個別の評価項目にIADLや社会生活に関する設問を加えた生活機能の総合評価としての位置づけになります。

図表 評価に使用する設問（基本チェックリスト）

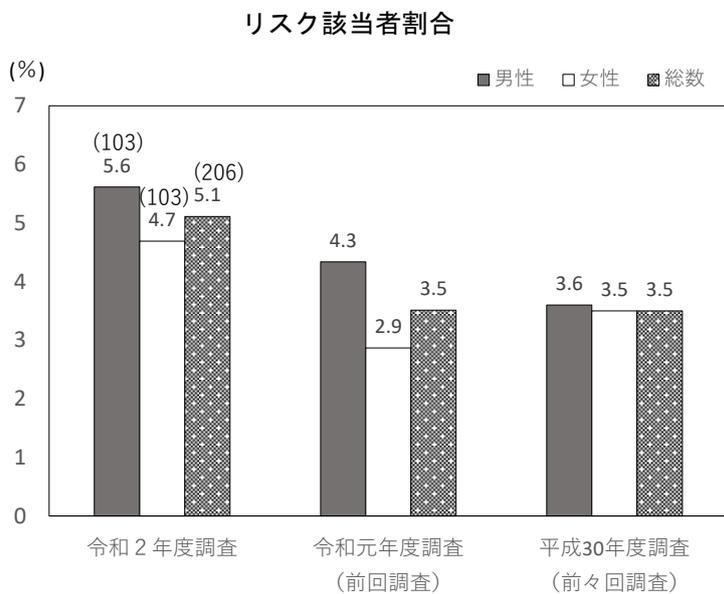
問番号	設 問	該当する選択肢
問2・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または「2. 1度ある」
問2・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」
問2・Q9	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問2・Q10	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 または「2. 減っている」
問3・Q1	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問3・Q9	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3・Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3・Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3・Q4	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問4・Q2	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問4・Q3	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4・Q4	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問4・Q5	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q7	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q10	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q16	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問4・Q17	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

2 生活機能

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で206人、5.1%（男性103人5.6%、女性103人4.7%）がリスク該当者となっています。過去の調査と比較すると、平成30年度調査（前々回調査）から増加傾向しています。

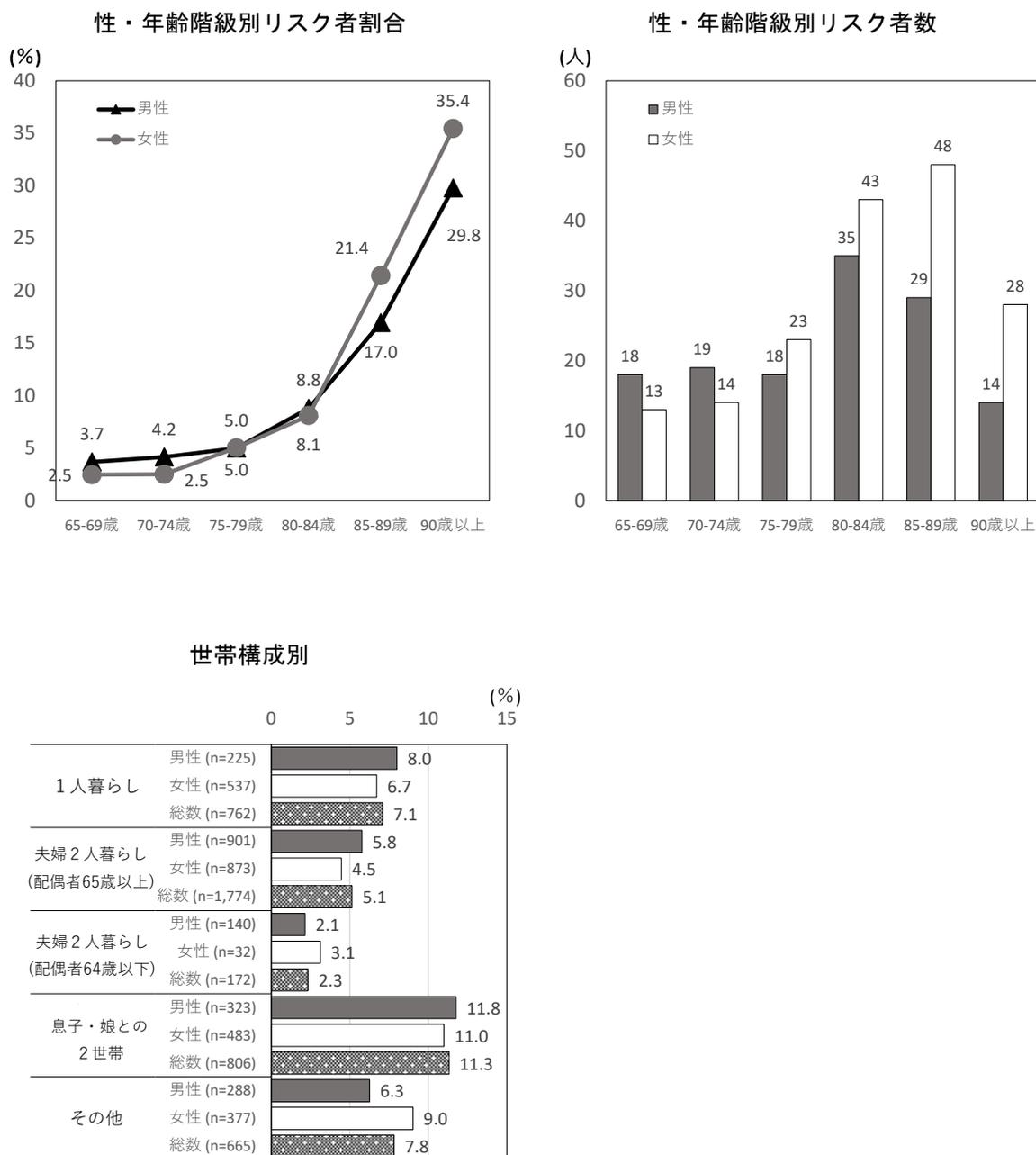
図表 リスク該当状況－虚弱



性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともにリスク該当者割合が高くなっています。リスク該当者数でみると、男性では80～84歳で35人、女性では85～89歳で48人が多くなっています。

世帯構成別では、息子・娘との2世帯でリスク該当者割合が高くなっています。

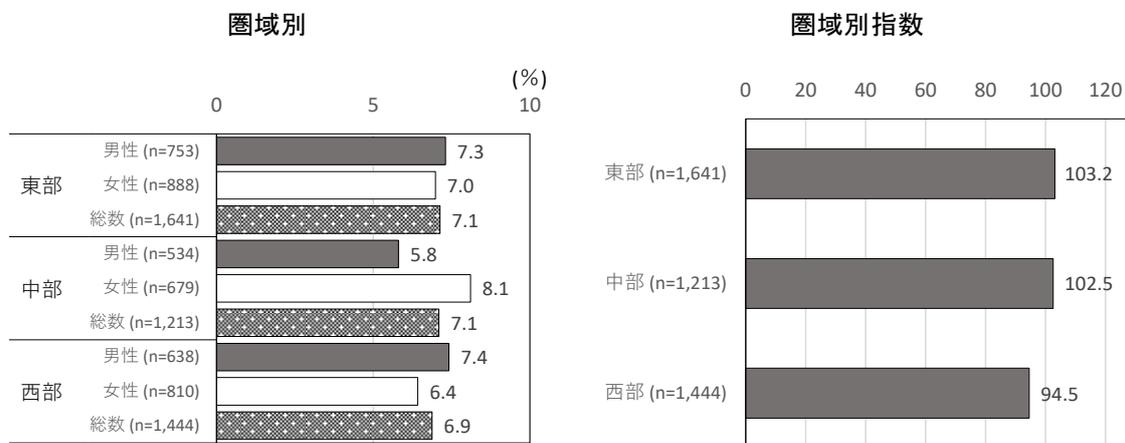
図表 虚弱 リスク該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

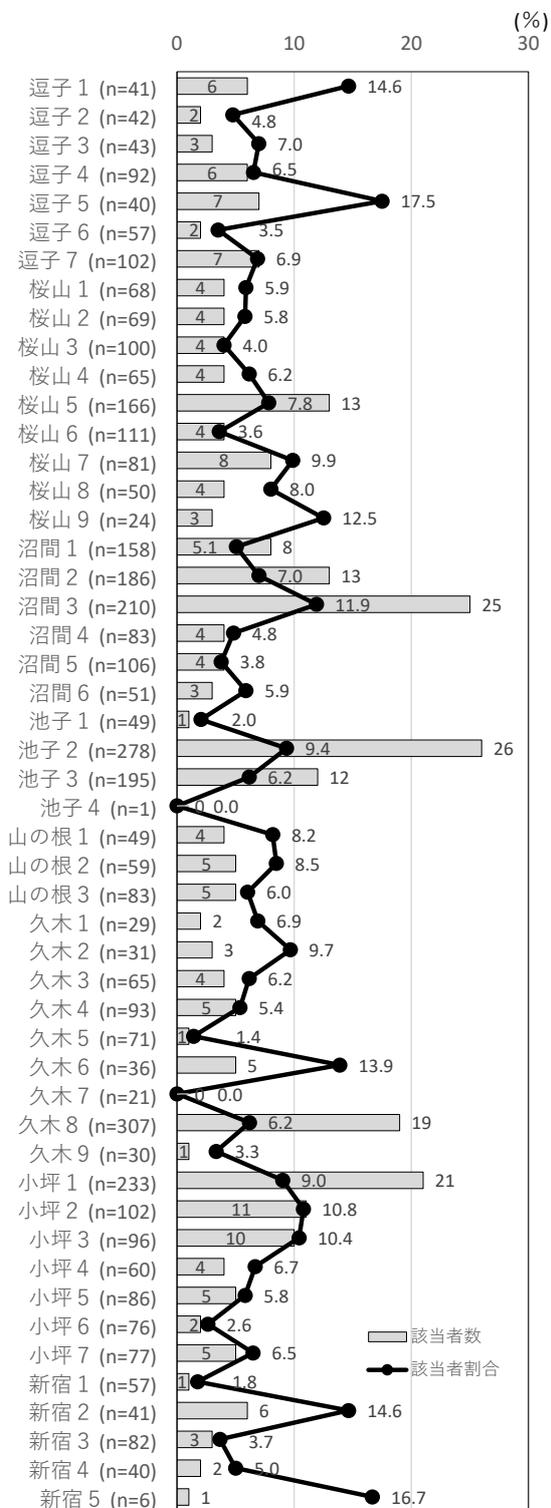
圏域別にみると、中部圏域の女性で8.1%と他圏域に比べてリスク該当者割合が高い一方、中部圏域の男性では5.8%で低くなっています。指数で見ると東部圏域が103.2と高くなっています。

図表 虚弱 リスク該当状況－圏域別

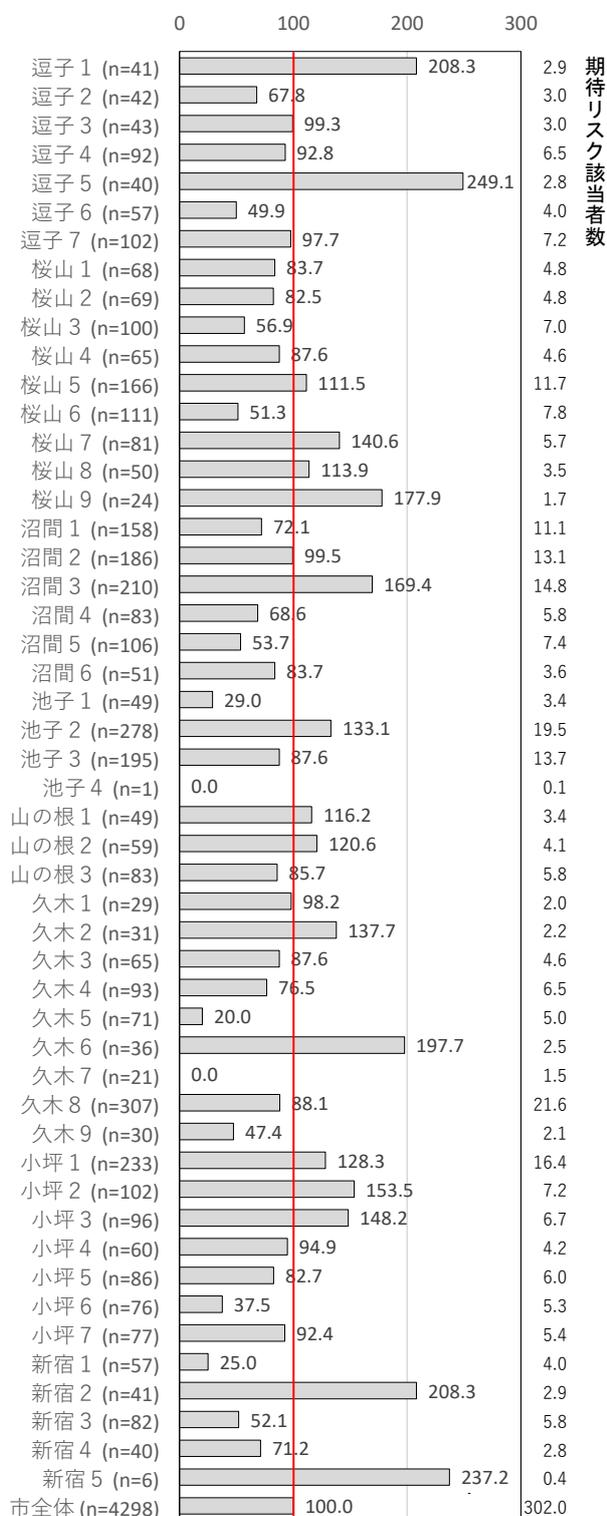


町丁別にリスク該当状況をみると、沼間3丁目が25人、池子2丁目が26人、小坪1丁目が21人と20人を超えて多くなっています。指数をみると、逗子1丁目、逗子5丁目、新宿2丁目、新宿5丁目が200を超えて高くなっています。

図表 虚弱 町丁別リスク該当者数・割合

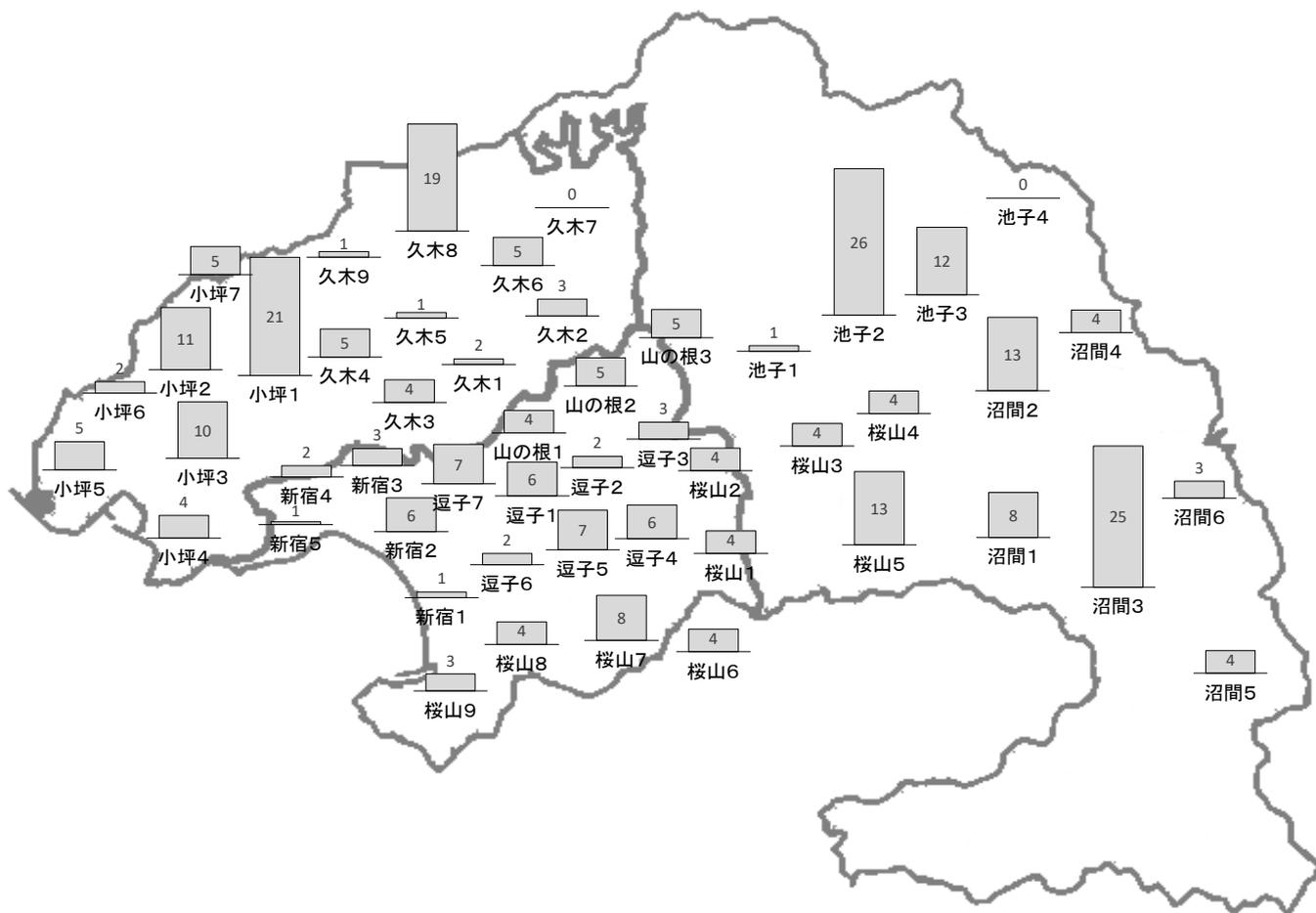


図表 虚弱 町丁別指数



2 生活機能

図表 町丁別リスク該当者数の分布：虚弱

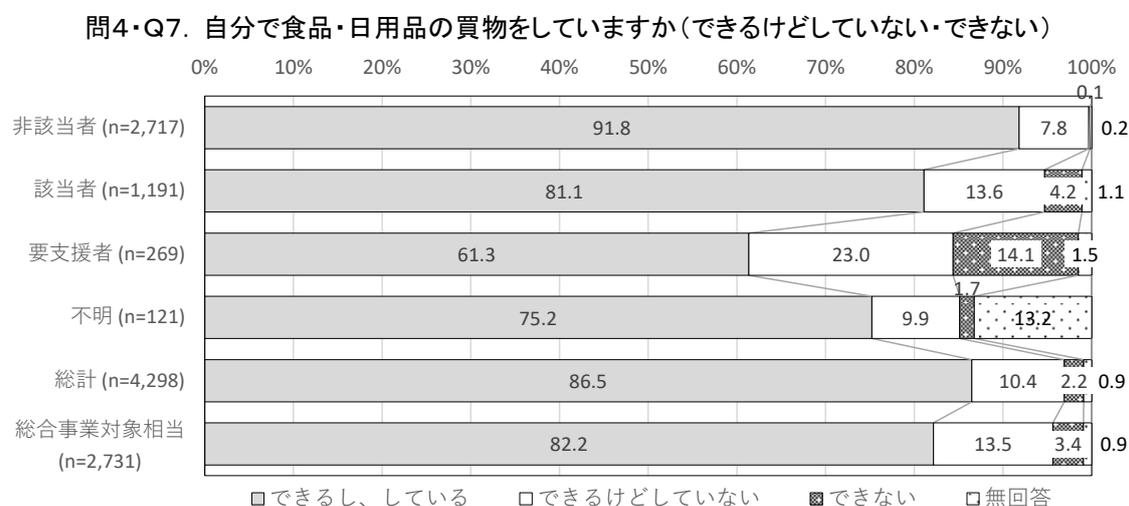
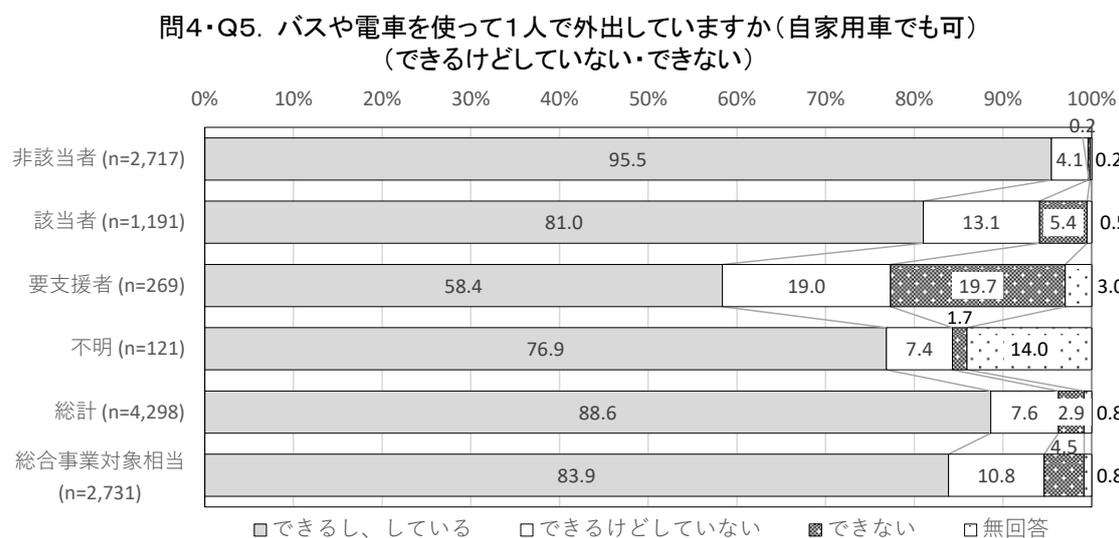


ウ 回答結果

評価の基礎になった 20 問のうち、他の評価項目に含まれない 5 問についてそれぞれの回答結果をみてみます。

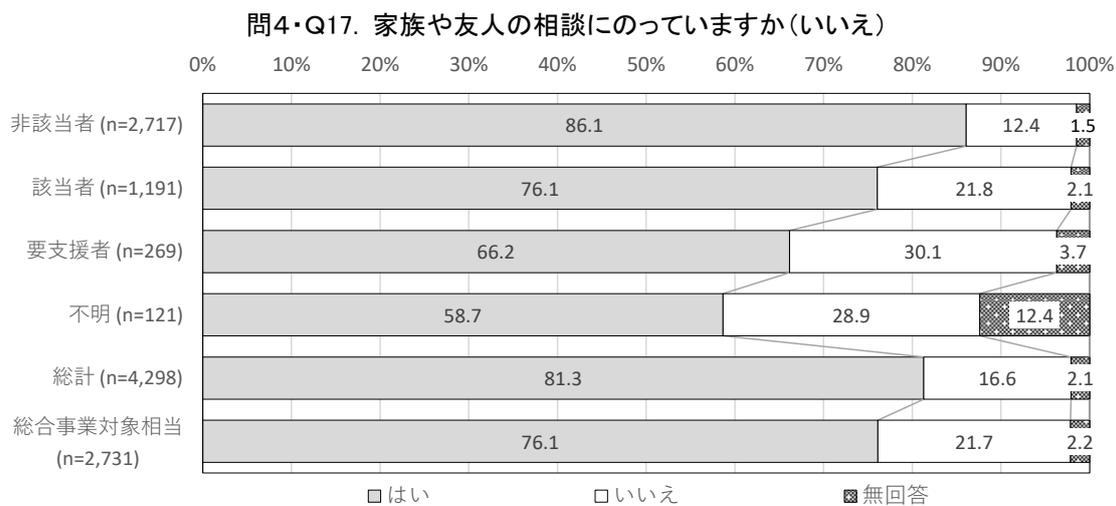
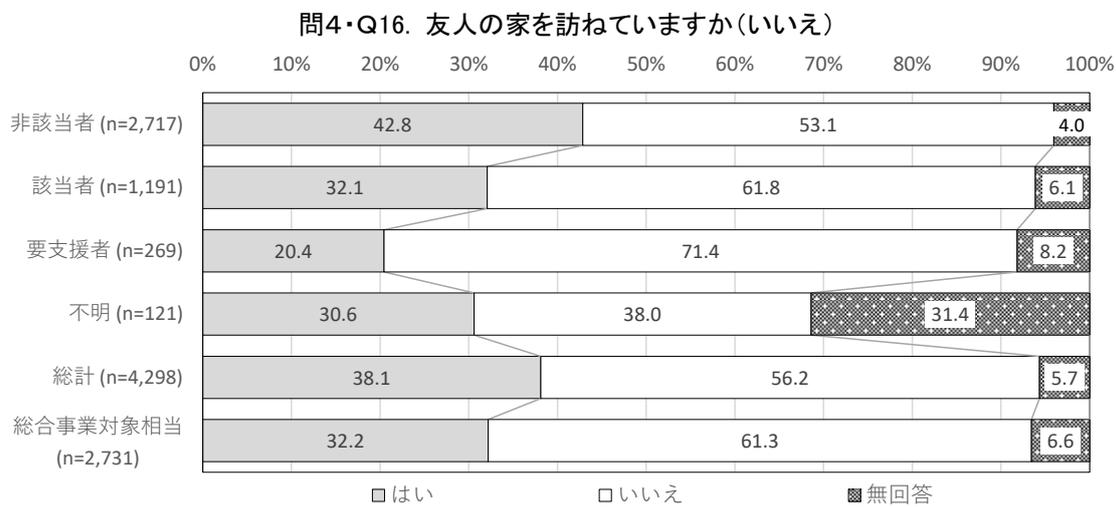
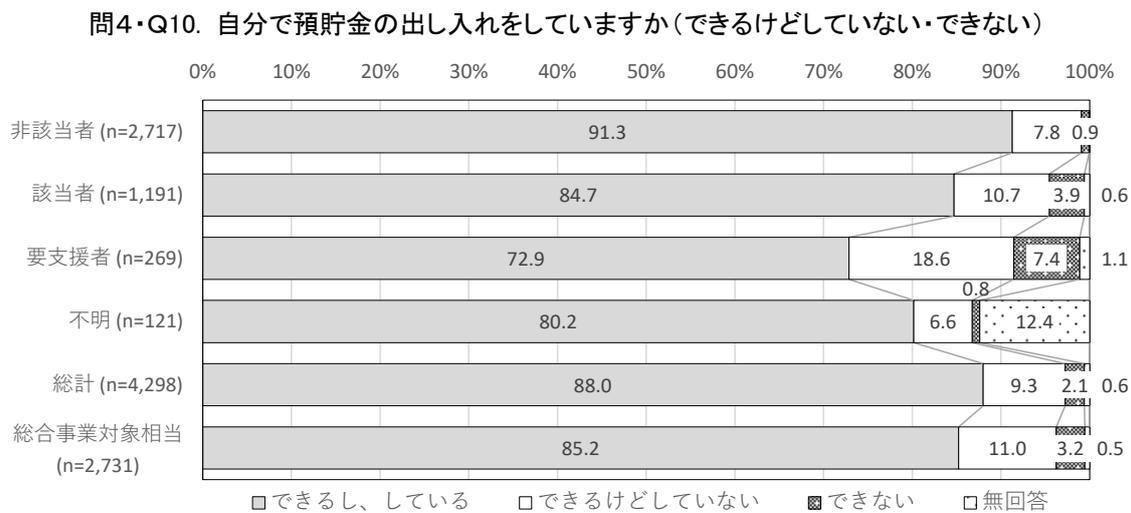
いずれの設問についても、要支援者でリスク該当に係る回答率が最も高くなっていますが、要支援者で最も割合が高いのは、友人宅への訪問（問 4・Q16）で 71.4%となっています。

図表 回答結果-1



2 生活機能

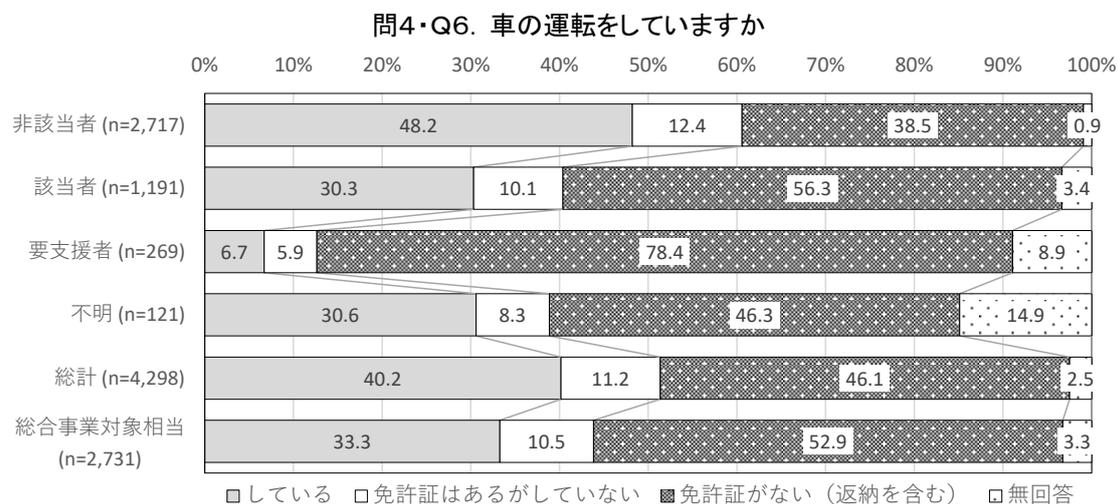
図表 回答結果-2



エ 関連設問

車の運転をしているかについては、全体では「している」「免許証はあるがしていない」がそれぞれ40.2%、11.2%と回答している一方、「免許証がない（返納を含む）」が46.1%となっています。特に、要支援者では、7割以上で免許証がない（返納を含む）と回答しています。

図表 車の運転



2 生活機能

(9) 旧二次予防事業対象者

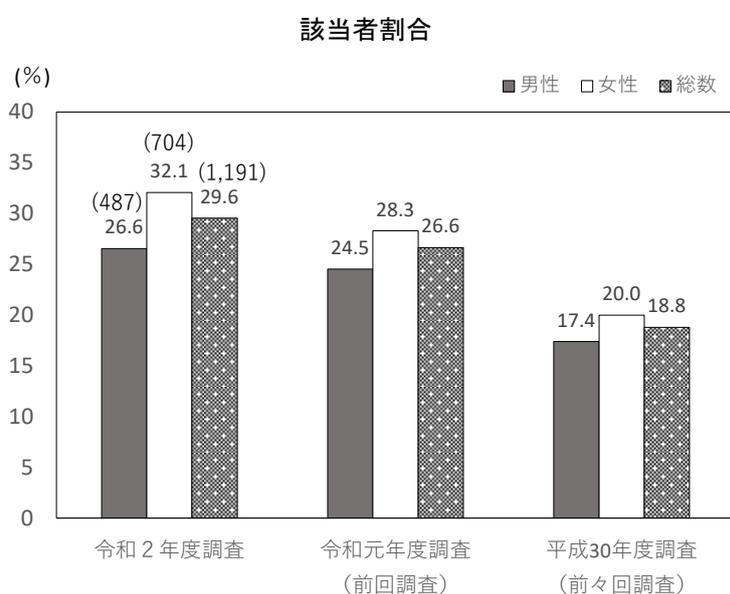
ア 設問と評価

従来の二次予防事業では、これまでに述べた運動、栄養、口腔、虚弱で該当した場合にその対象者となりますが、同一人が重複して該当している場合があるため、ここではこうした重複を除いて評価します。

イ 評価結果

全体で 1,191 人 29.6%（男性 487 人 26.6%、女性 704 人 32.1%）が該当者となっています。男性より女性で該当者割合が高くなっています。過去の調査と比較すると、平成 30 年度調査（前々回調査）から増加しており、全体で令和元年度調査（前回調査）より 3.0 ポイント高くなっています。

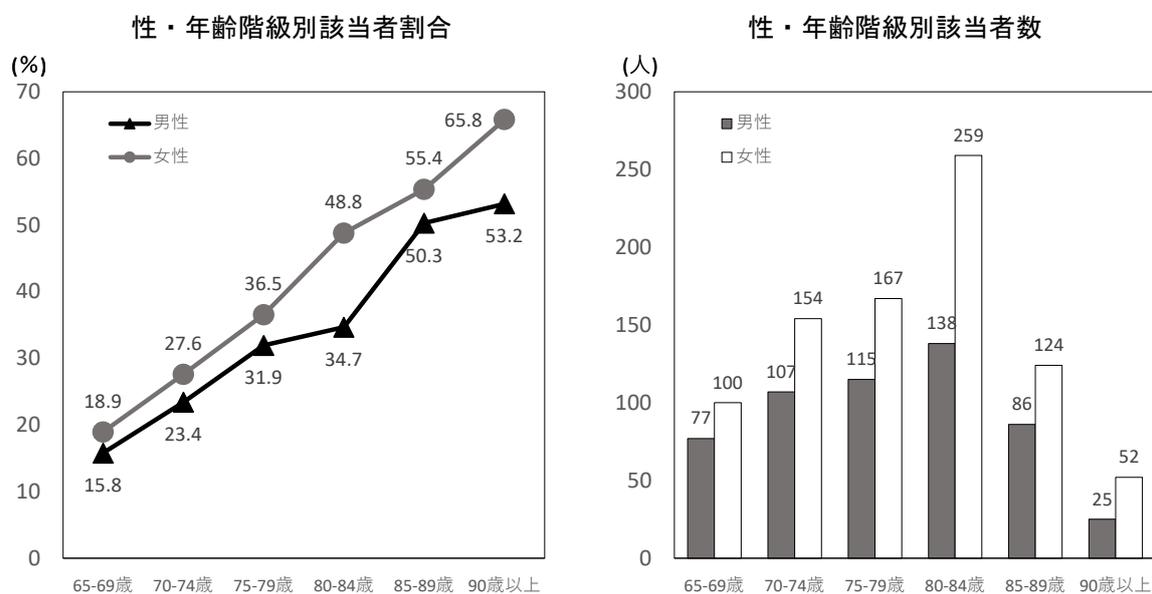
図表 該当状況—旧二次予防事業対象



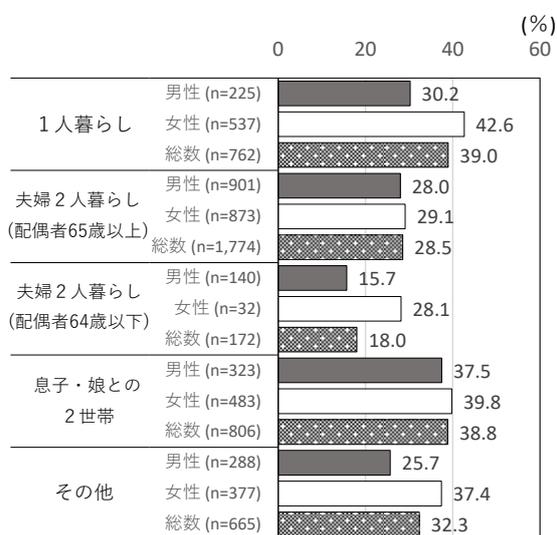
性・年齢階級別にみると、年齢とともに該当者割合が高くなっています。該当者数で見ると、男女ともに80～84歳で138人、259人と多くなっています。

世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の女性で42.6%と比較的高くなっています。

図表 旧二次予防事業対象 該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



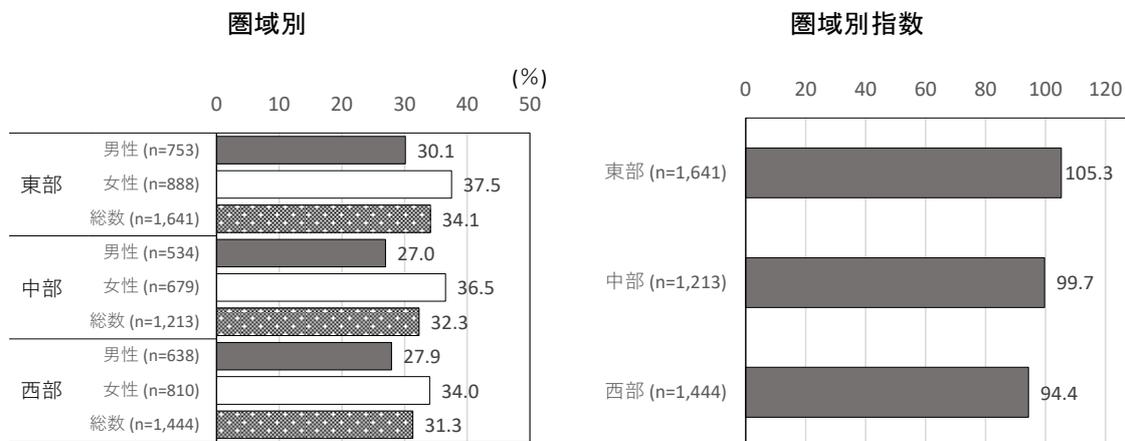
世帯構成別



2 生活機能

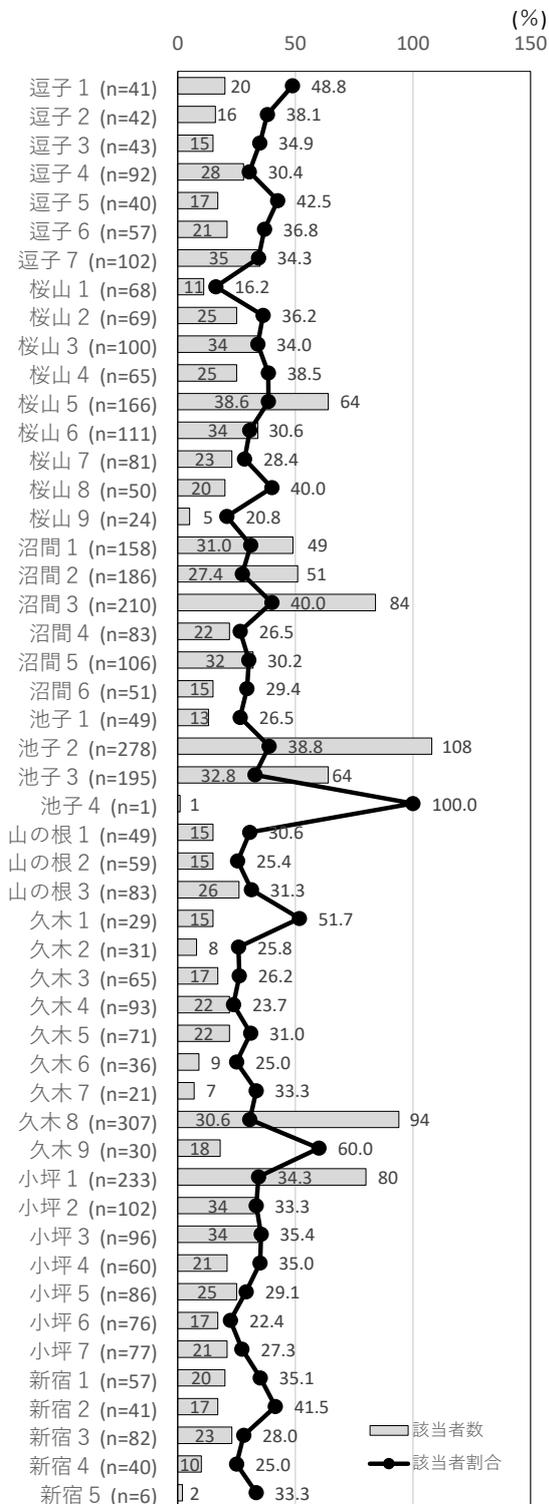
圏域別にみると、東部圏域が34.1%と他圏域に比べて若干割合が高くなっています。指数でみると東部圏域が105.3と高くなっています。

図表 旧二次予防事業対象 該当状況－圏域別

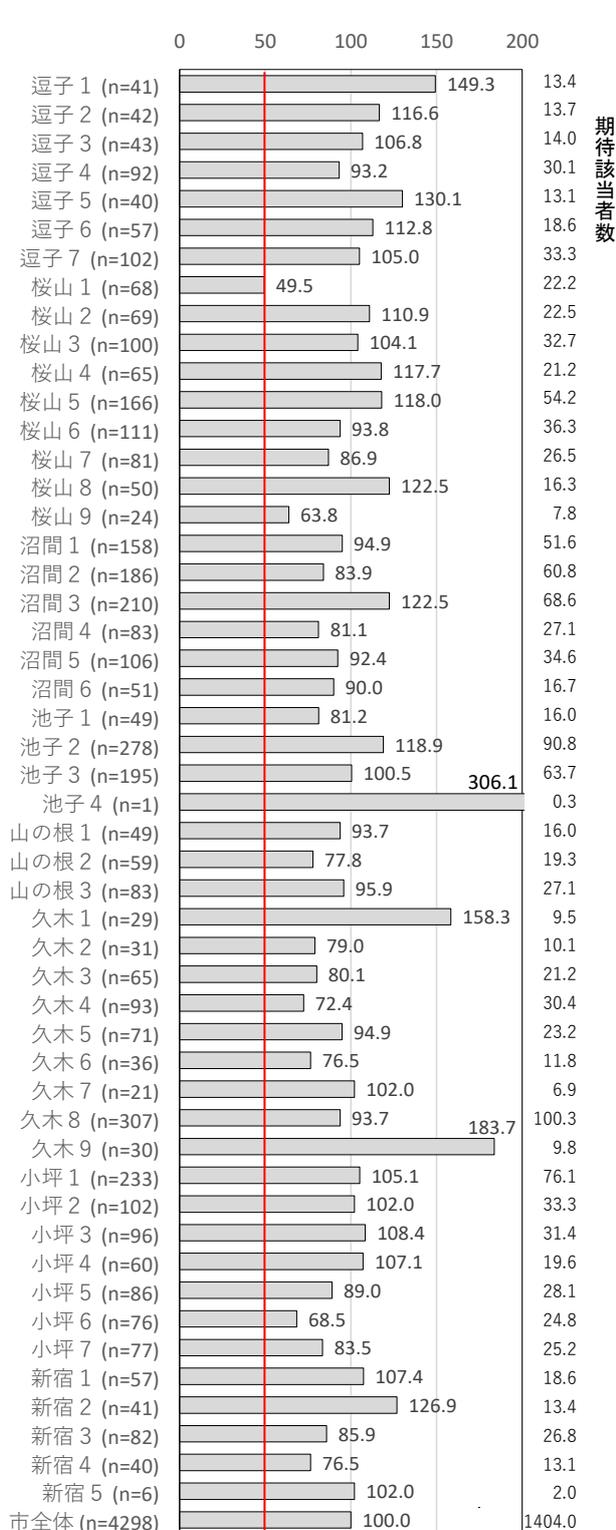


町丁別に該当状況をみると、池子2丁目で108人、久木8丁目で94人、沼間3丁目で84人、小坪1丁目で80人と該当者数が多くなっています。指数では池子4丁目、久木1丁目、久木9丁目で150を超えて高くなっています。

図表 旧二次予防事業対象 町丁別該当者数・割合

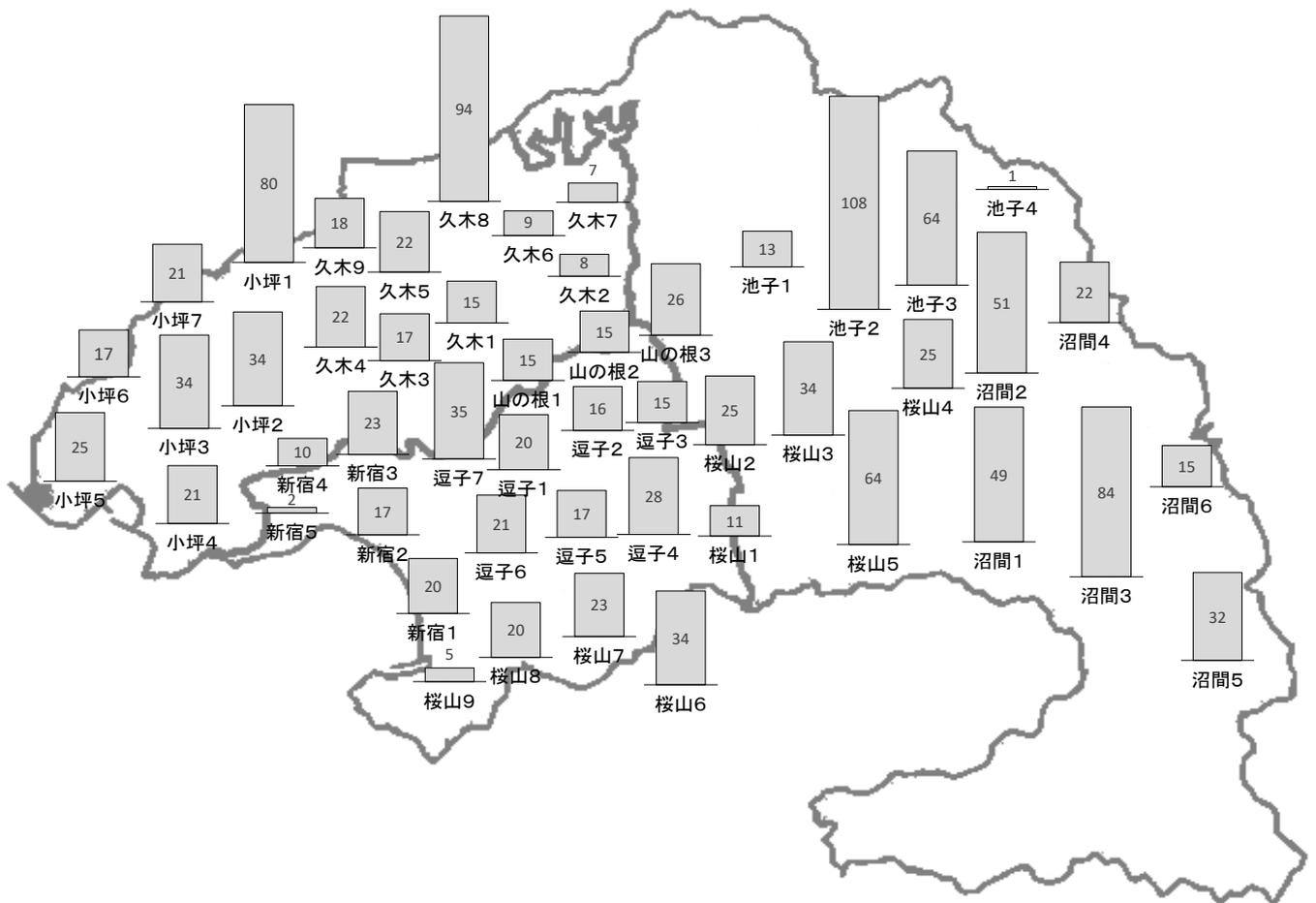


図表 旧二次予防事業対象 町丁別指数



2 生活機能

図表 町丁別該当者数の分布：旧二次予防事業対象



ウ 該当項目組合せ

従来の二次予防事業対象者選定のための評価項目（運動、栄養、口腔、虚弱）については、重複して該当している方がいます。

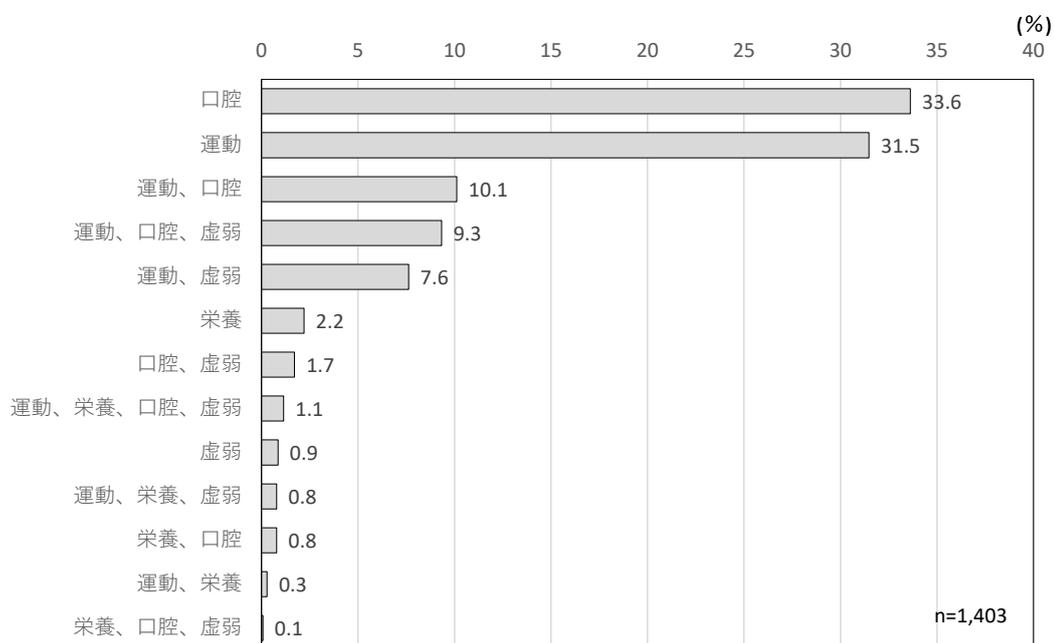
そうした該当項目の組合せ別の回答者数をまとめたのが以下の図表となっています。

評価項目組合せで最も多いのは口腔のみで該当者全体の 33.6%となっており、次いで運動のみが 31.5%となっています。

2項目以上の組み合わせで最も多いのは、運動・口腔で 10.1%、次いで運動・口腔・虚弱が 9.3%となっています。

こうした該当項目の組合せをベースに、複合型のプログラムの実施も検討していく必要があると考えられます。

図表 該当項目組合せ別構成比



2 生活機能

(10) 総合事業対象相当

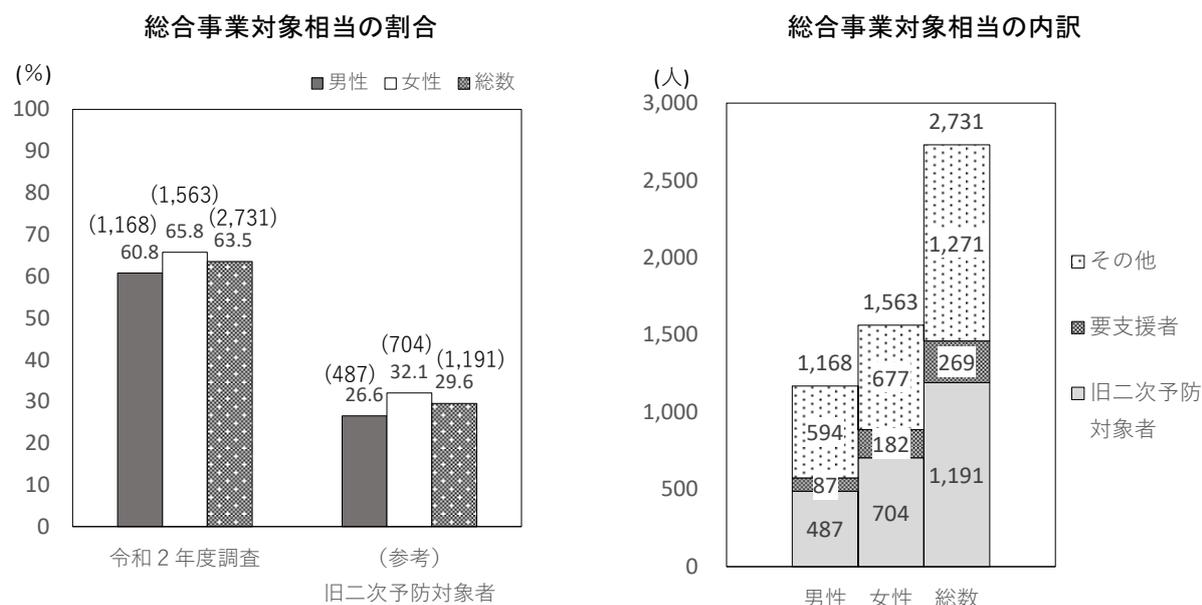
ア 設問と評価

総合事業において対象に相当する方は要支援者と基本チェックリストによる評価（運動、栄養、口腔、虚弱、閉じこもり、認知機能、うつ）のいずれかにあてはまる方になります。

イ 評価結果

全体で 2,731 人 63.5%（男性 1,168 人 60.8%、女性 1,563 人 65.8%）が総合事業対象相当となっています。男性より女性で割合がやや高くなっています。

図表 総合事業対象相当の該当状況



図表 総合事業対象相当のうち、「その他」におけるリスク該当状況

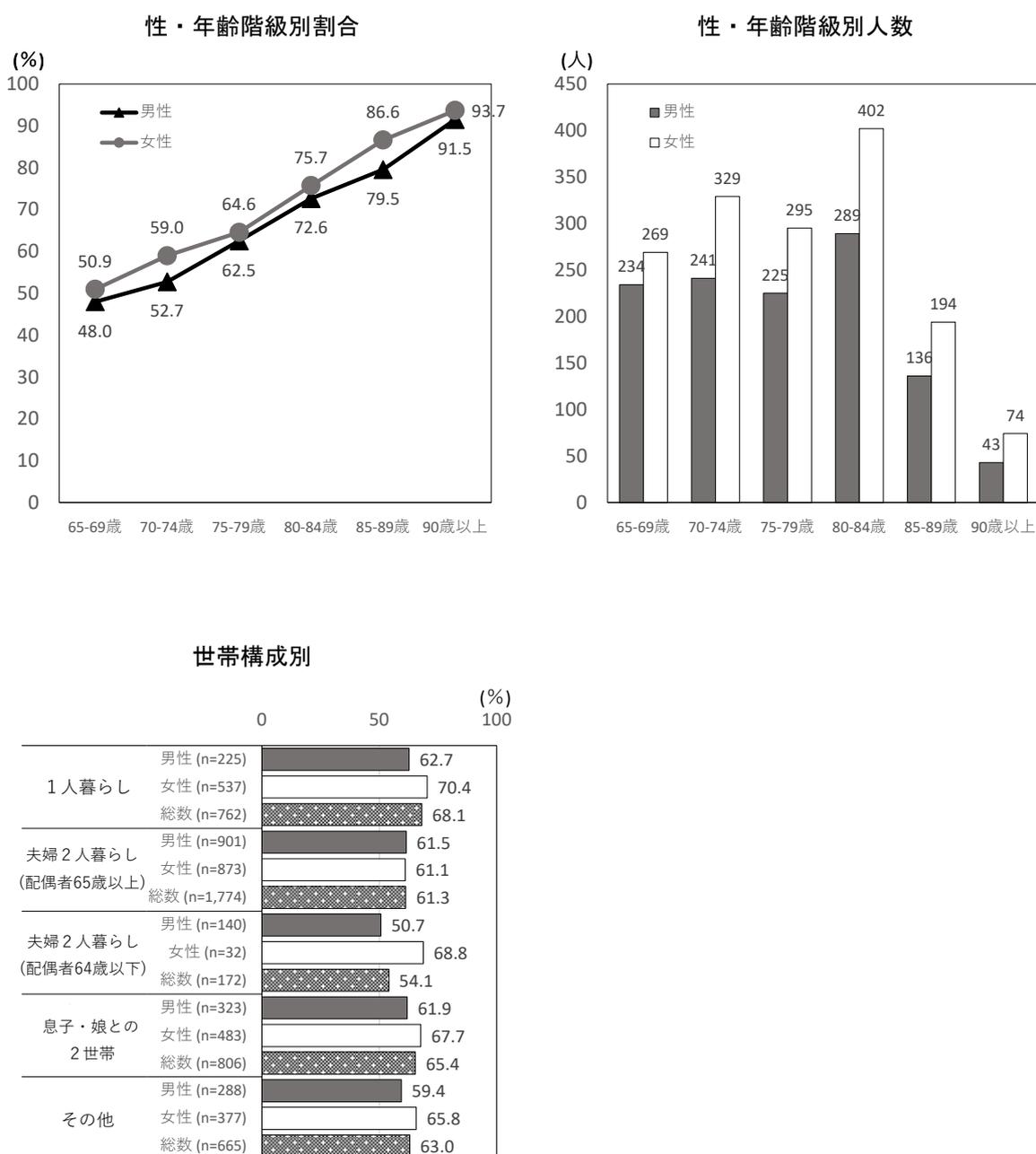
単位: 上段:%/下段:人

性別	認知機能	うつ	閉じこもり	認知機能 うつ	閉じこもり 認知機能	閉じこもり うつ	閉じこもり、 認知機能、うつ	合計
男性	45.6 271	15.0 89	14.5 86	12.5 74	6.2 37	3.4 20	2.9 17	100.0 594
女性	34.0 230	21.7 147	15.5 105	11.2 76	5.9 40	7.8 53	3.8 26	100.0 677
総数	39.4 501	18.6 236	15.0 191	11.8 150	6.1 77	5.7 73	3.4 43	100.0 1,271

性・年齢階級別にみると、年齢とともに総合事業対象相当の割合が高くなっています。総合事業対象相当者数でみると、男女ともに80～84歳で289人、402人とピークになっています。

世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の女性が70.4%と最も高くなっています。一方、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）世帯の男性が50.7%と最も低くなっています。

図表 総合事業対象相当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

認定・該当状況別で見ると、男性では非該当が、女性では該当がそれぞれ 48.3%、45.0%と最も多くなっています。

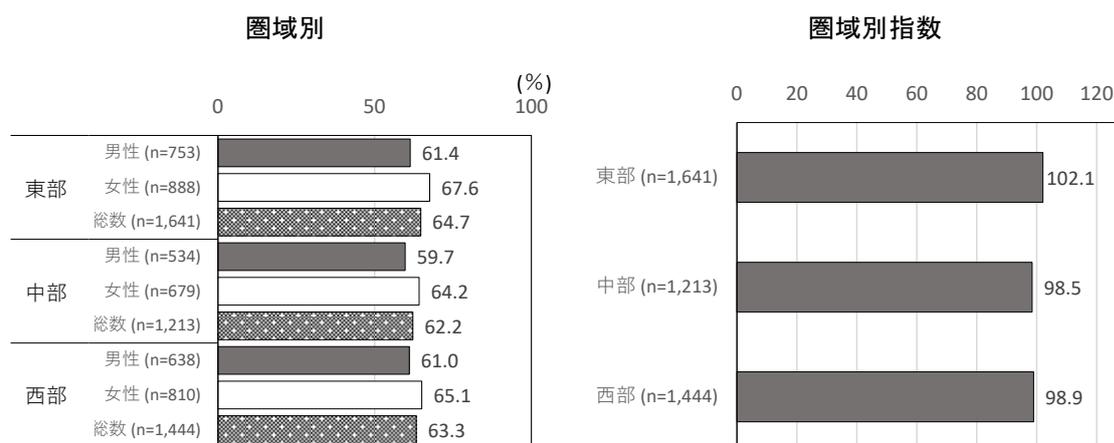
図表 総合事業対象相当-認定・該当状況別

単位: 上段:%/下段:人

性別	非該当	該当	要支援者	不明	総合事業対象相当
男性	48.3	41.7	7.4	2.6	100.0
	564	487	87	30	1,168
女性	41.0	45.0	11.6	2.3	100.0
	641	704	182	36	1,563
総数	44.1	43.6	9.8	2.4	100.0
	1,205	1,191	269	66	2,731

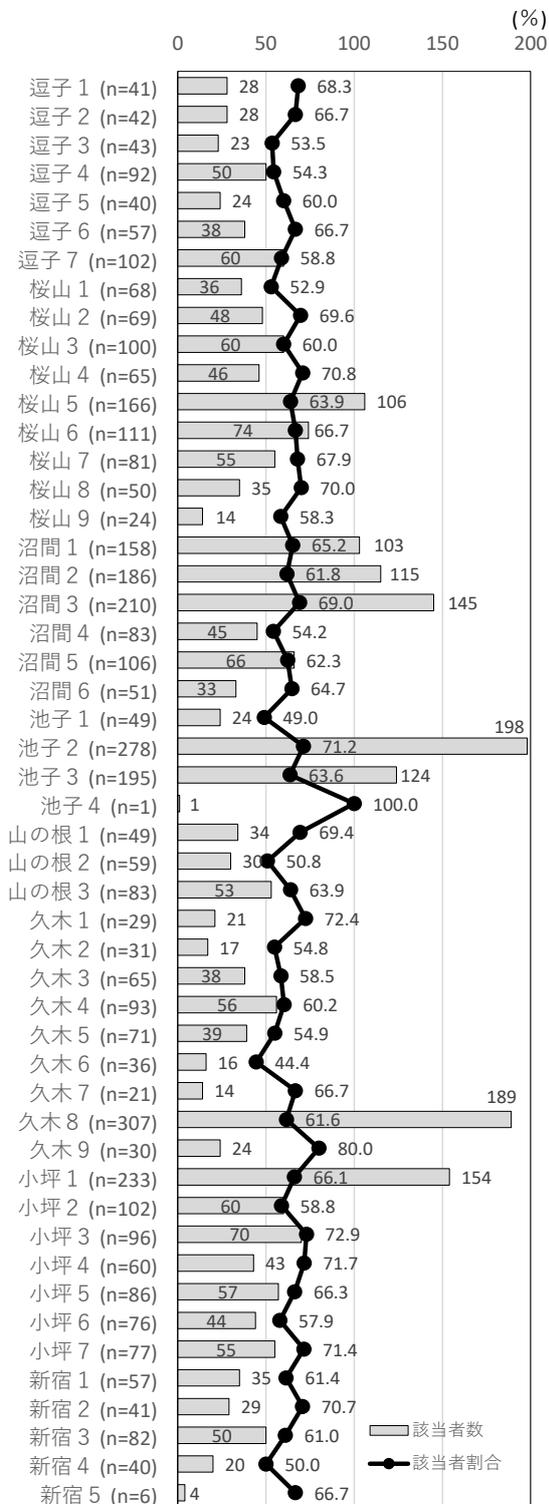
圏域別にみると、東部圏域が 64.7%と他圏域に比べて若干高くなっています。指数でも東部圏域が 102.1 と高くなっています。

図表 総合事業対象 該当状況-圏域別

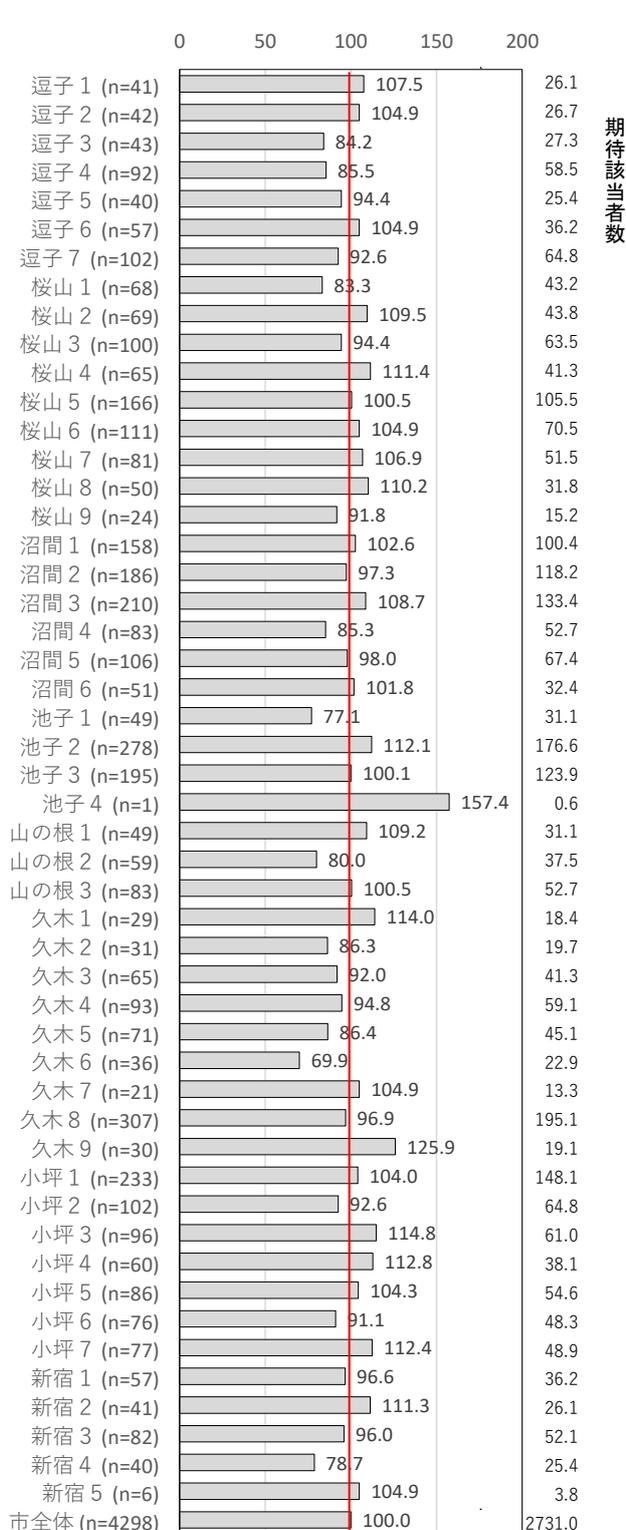


町丁別に総合事業対象相当状況をみると、桜山5丁目、沼間1丁目、沼間2丁目、沼間3丁目、池子2丁目、池子3丁目、久木8丁目、小坪1丁目で100人を超えて多くなっています。指数では池子4丁目、久木9丁目などで高くなっています。

図表 総合事業対象 町丁別人数・割合

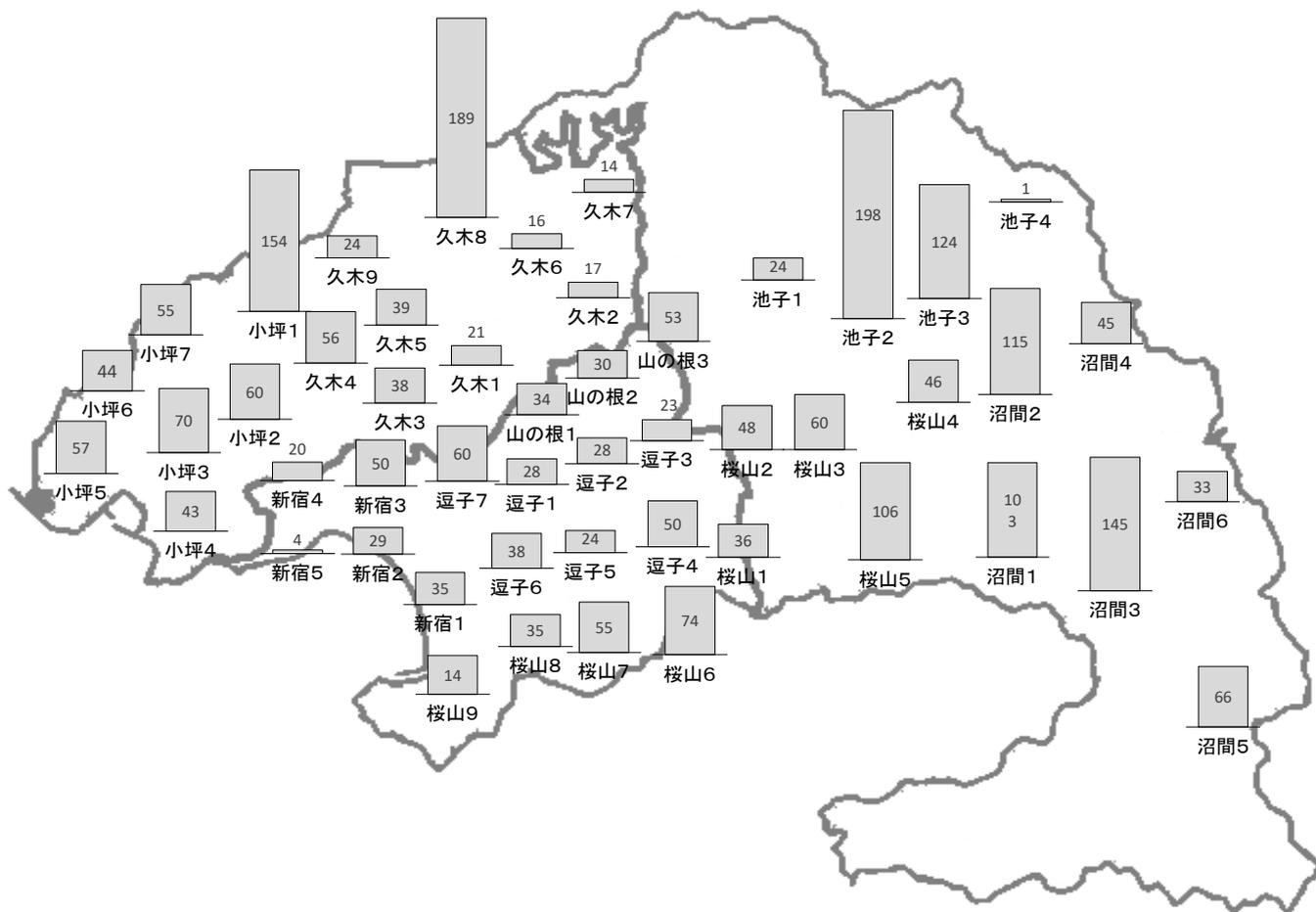


図表 総合事業対象 町丁別指数



2 生活機能

図表 町丁別総合事業対象人数の分布：総合事業対象

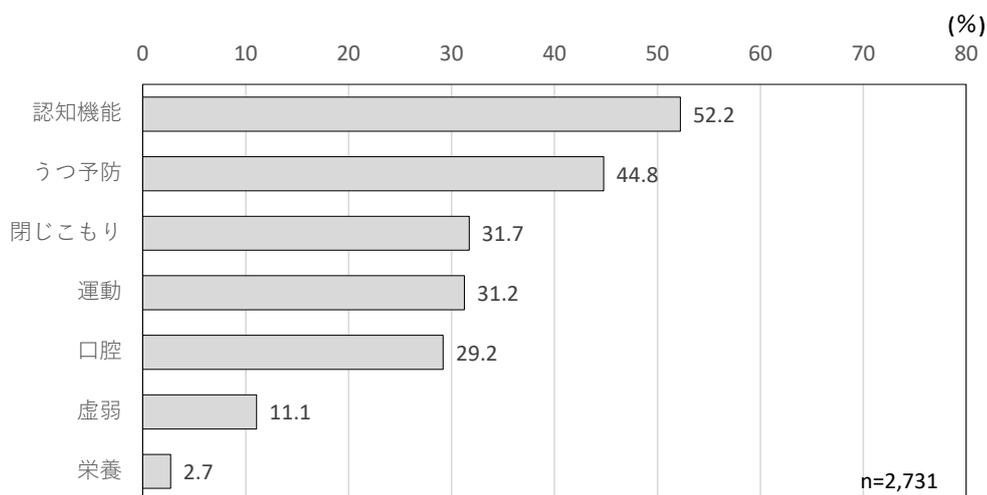


ウ 該当項目

総合事業対象相当の評価項目（運動、栄養、口腔、虚弱、閉じこもり、認知機能、うつ予防）については、重複している方がいますが、総合事業対象相当での該当項目の割合は以下の図表となっています。

評価項目で最も多いのは認知機能で総合事業対象相当全体の52.2%となっており、次いでうつ予防が44.8%となっています。

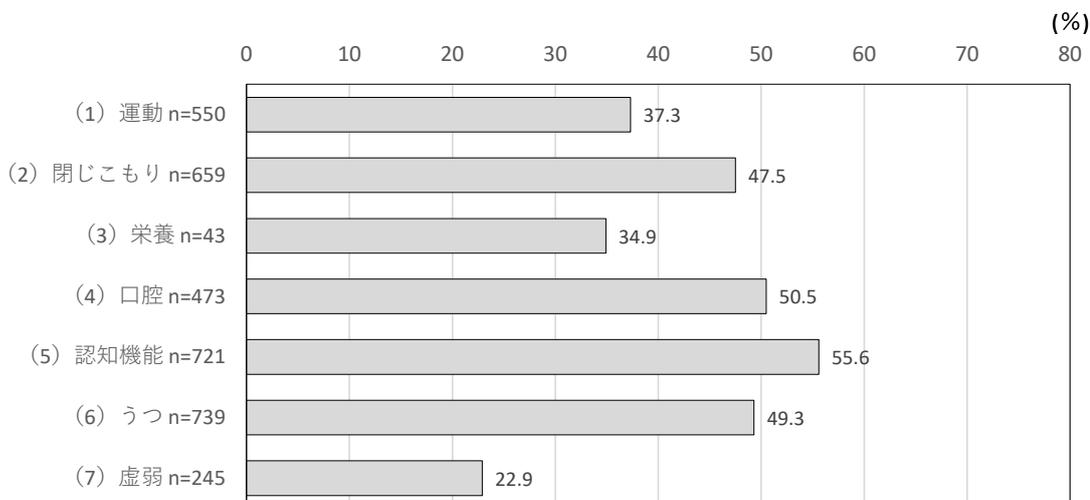
図表 リスク該当項目構成比（該当項目に重複する方あり）



エ 関連項目

昨年度に発生した新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響をみるため、各リスク該当者のうち、外出を控えている理由（問2・Q11-1）で新型コロナウイルスによる外出自粛と回答した割合をみると、「閉じこもり」（47.5%）、「うつ」（49.3%）でリスク該当者の半数近く、「口腔」（50.5%）、「認知機能」（55.6%）と半数を超えて多くなっています。

図表 新型コロナウイルス感染症による外出自粛と回答した者-リスク該当項目別



3 日常生活

3 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

ア 設問と評価

ニーズ調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。

このうち、手段的自立度 (IADL) については、各設問に「している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価が可能です。

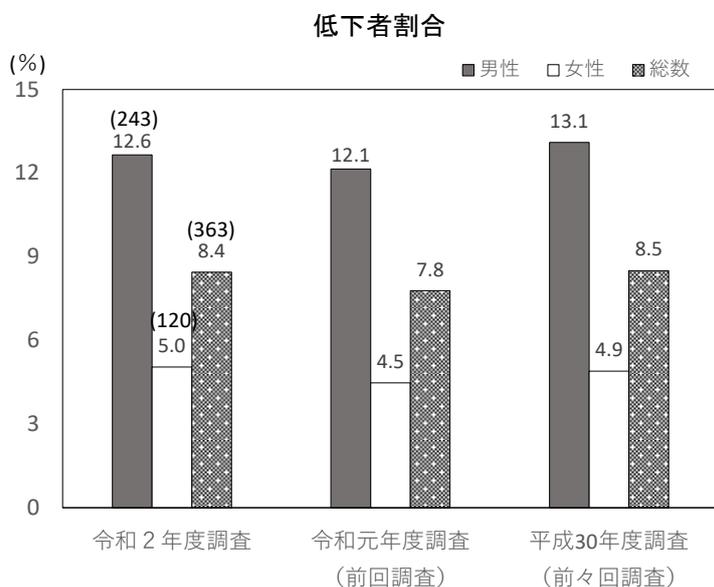
図表 手段的自立度に関する設問 (老研指標)

問番号	設問	配点と選択肢
問4Q5	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問4・Q7	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問4・Q8	自分で食事の用意をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問4・Q9	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「1. している」または「2. できるけどしていない」
問4・Q10	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「1. している」または「2. できるけどしていない」

イ 評価結果

4点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で363人8.4% (男性243人12.6%、女性120人5.0%) が低下者となっており、女性より男性で低下者割合が顕著に高くなっています。過去の調査と比較すると、全体では、平成30年度調査(前々回調査)から大きな変化はありません。

図表 低下者割合—手段的自立度 (IADL)



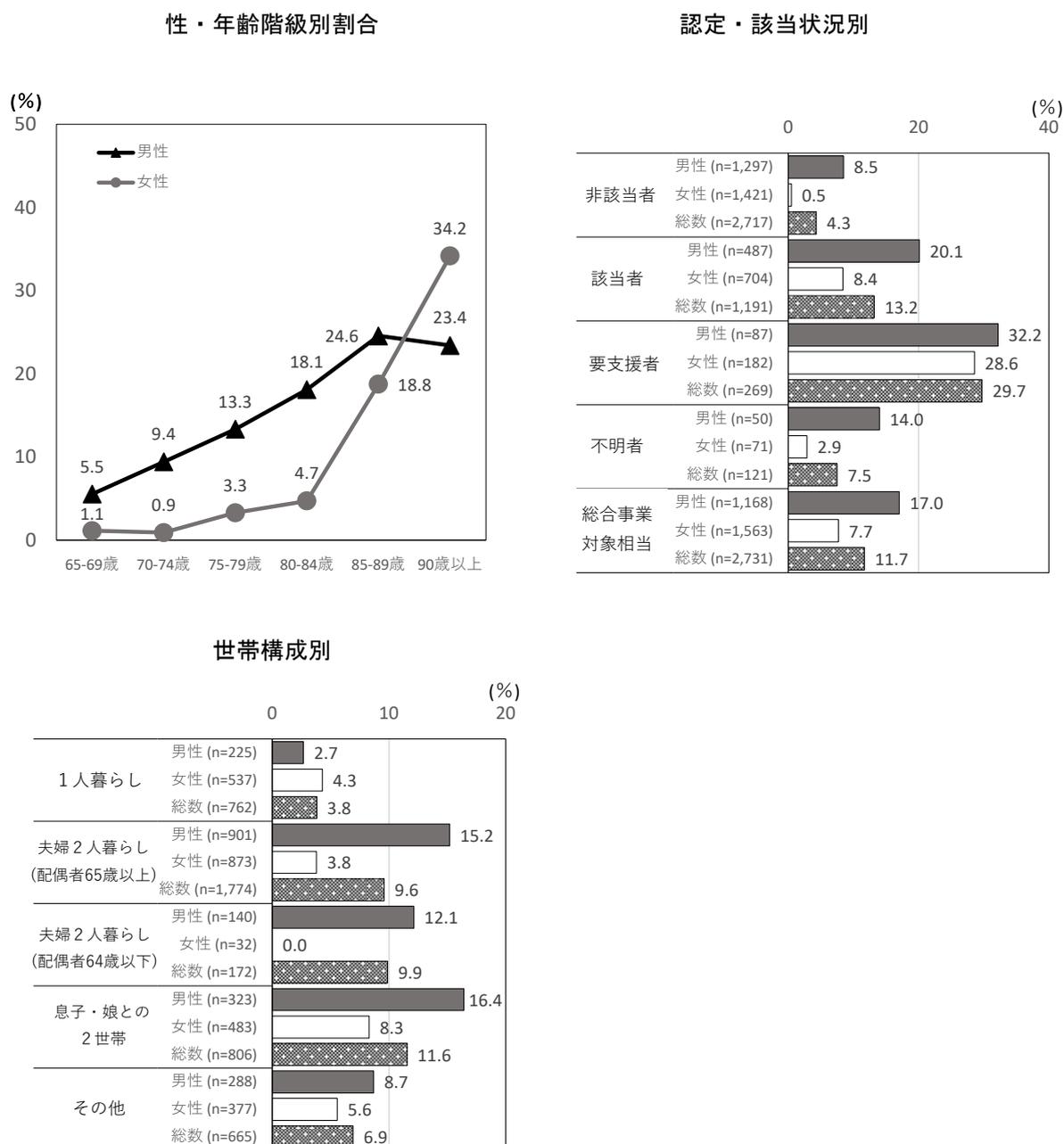
(1) 手段的自立度 (IADL)

性・年齢階級別にみると、90歳以上の男性を除き、年齢が高いほど低下者割合が高くなる傾向となっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者4.3%、該当者13.2%、要支援者29.7%、不明者7.5%、総合事業対象相当11.7%と、要支援者で低下者割合が比較的高くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の男性で15.2%、息子・娘との2世帯の男性で16.4%と低下者割合が高くなっています。

図表 IADL低下者割合－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

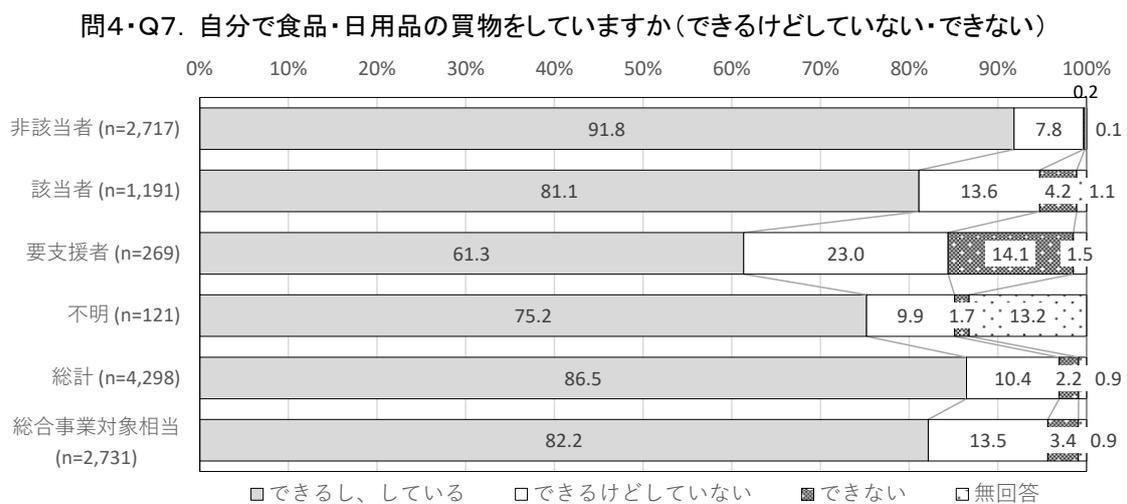
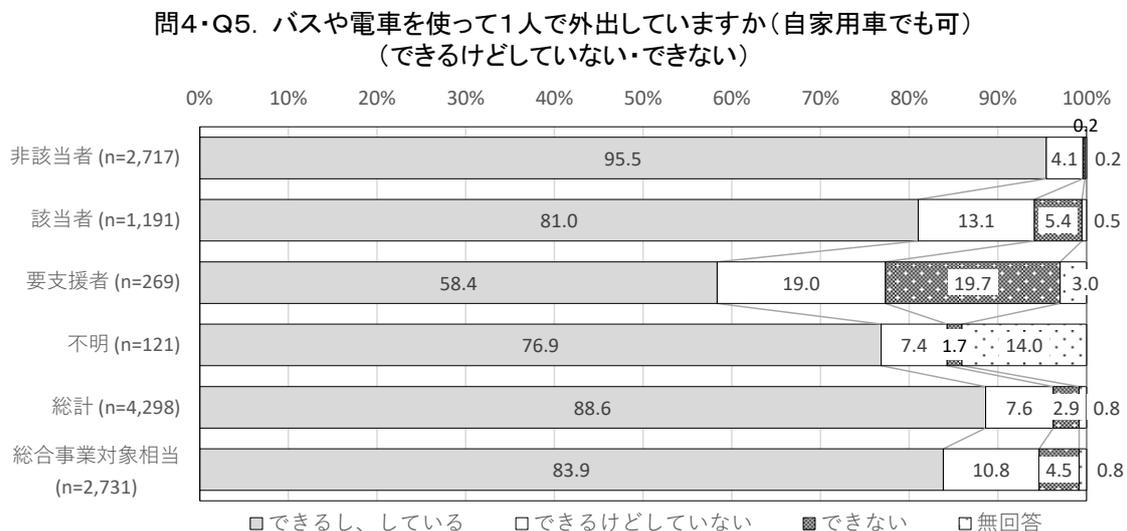


3 日常生活

ウ 回答結果

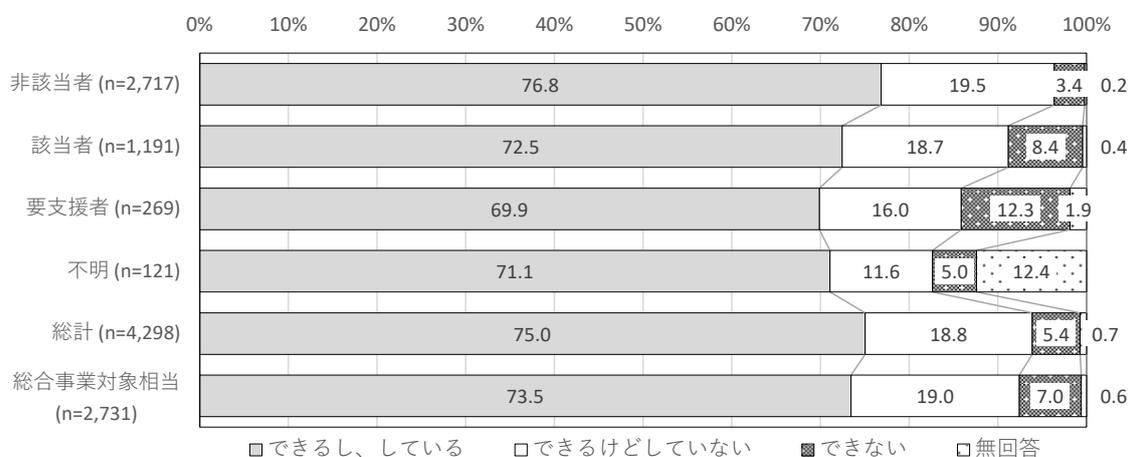
評価の基礎になった回答結果をみると、全体で「できるし、している」との回答は、食事の用意（問4・Q8）のみのみが80%を切っています。

図表 回答結果-1



図表 回答結果-2

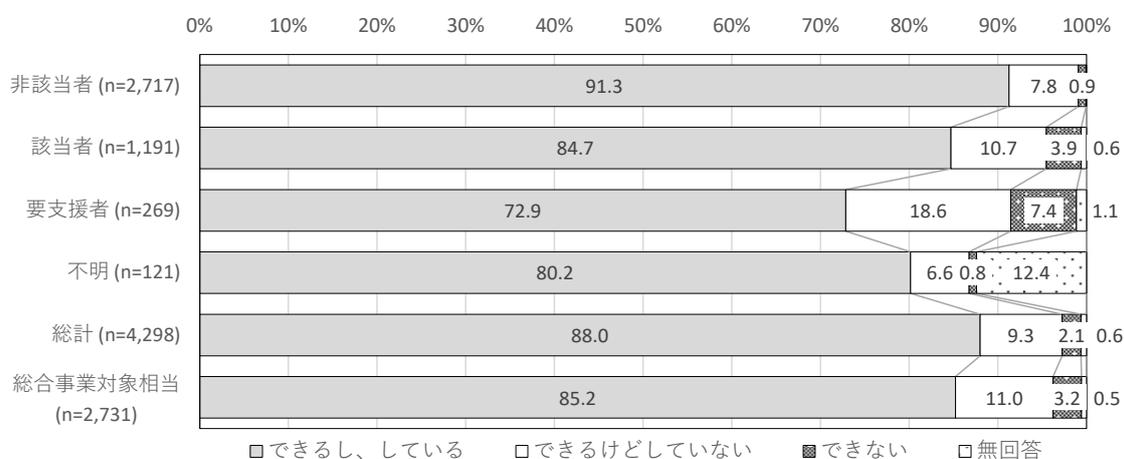
問4・Q8. 自分で食事の用意をしていますか(できるけどしていない・できない)



問4・Q9. 自分で請求書の支払いをしていますか(できるけどしていない・できない)



問4・Q10. 自分で預貯金の出し入れをしていますか(できるけどしていない・できない)



4 社会参加

4 社会参加

(1) 知的能動性

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

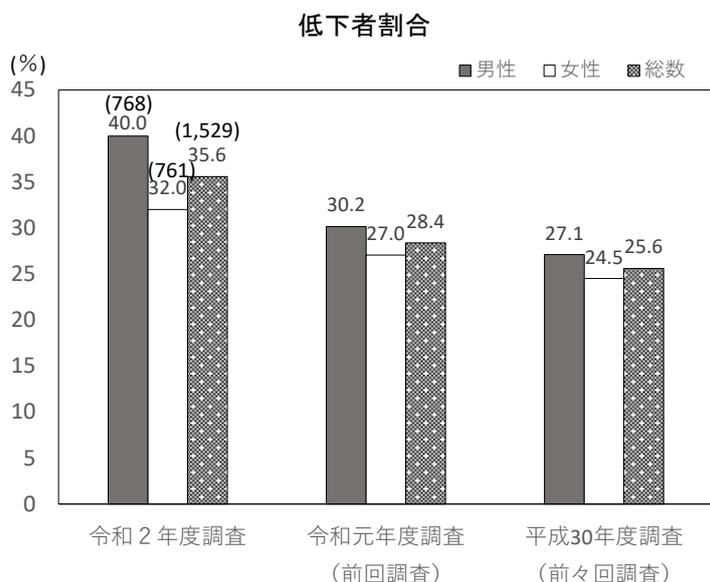
図表 知的能動性に関する設問（老研指標）

問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q11	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「1. はい」
問4・Q12	新聞を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q13	本や雑誌を読んでいますか	1:「1. はい」
問4・Q14	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で1,529人35.6%（男性768人40.0%、女性761人32.0%）が低下者となっており、女性より男性で8.0ポイント低下者割合が高くなっています。過去の調査と比較すると、平成30年度調査（前々回調査）から増加しており、全体で令和元年度調査（前回調査）よりも7.2ポイント高くなっています。

図表 低下者割合－知的能動性

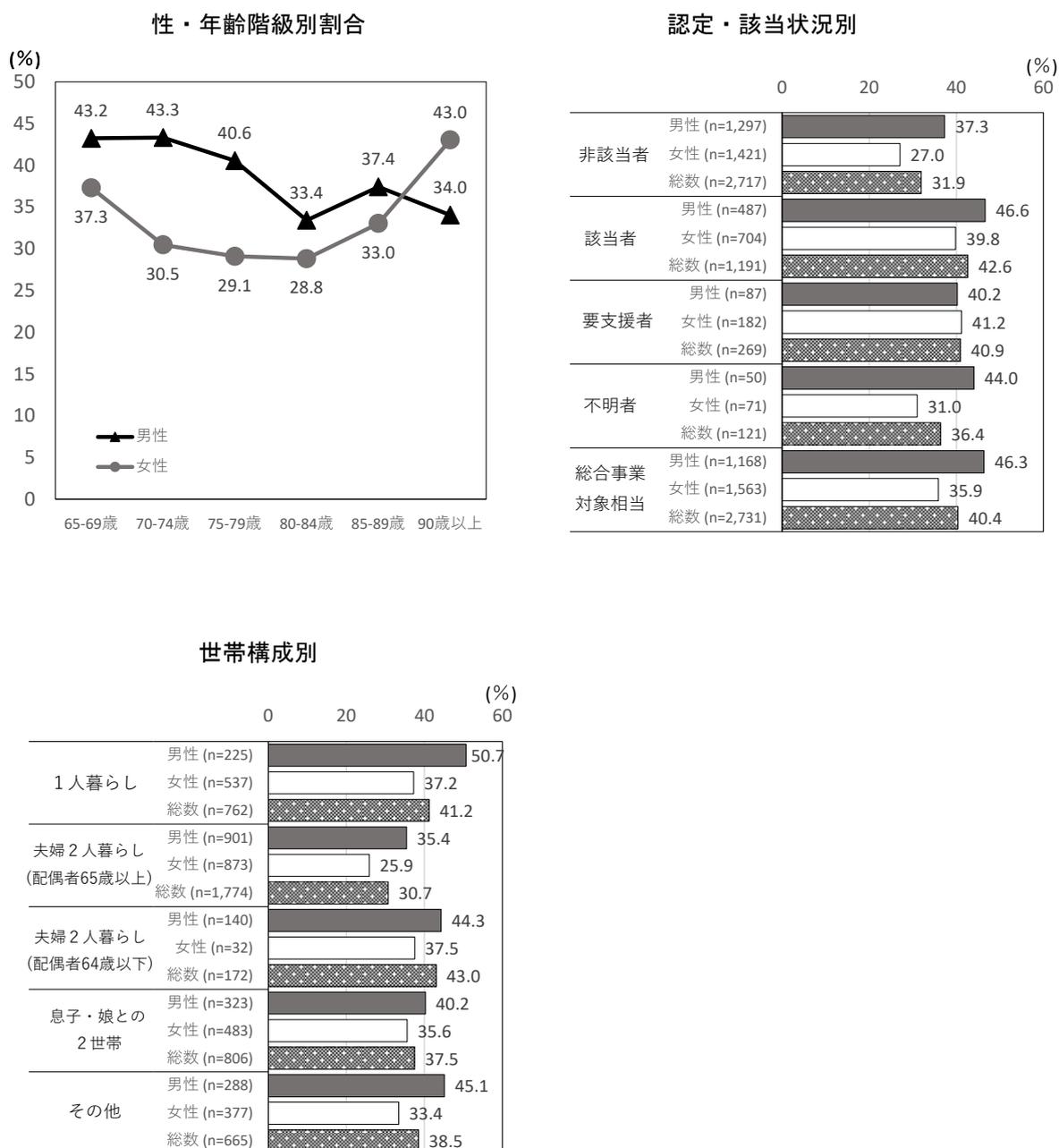


性・年齢階級別にみると、男性では70～74歳で43.3%、女性では90歳以上が43.0%と他の年齢と比べて低下者割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者31.9%、該当者42.6%、要支援者40.9%、不明者36.4%、総合事業対象相当40.4%が低下者になっています。

世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の男性で50.7%と知的能動性の低下者割合が高くなっています。

図表 知的能動性 低下者割合－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

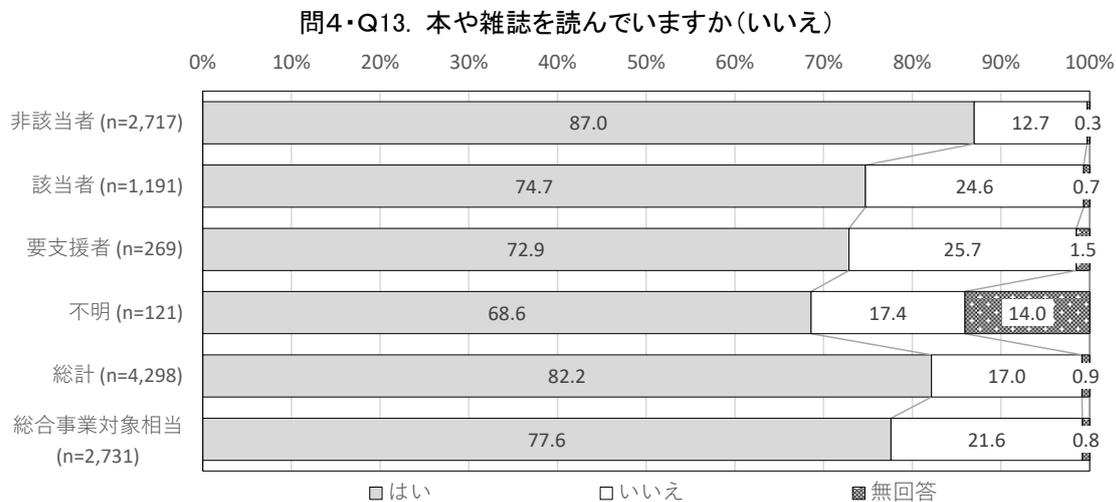
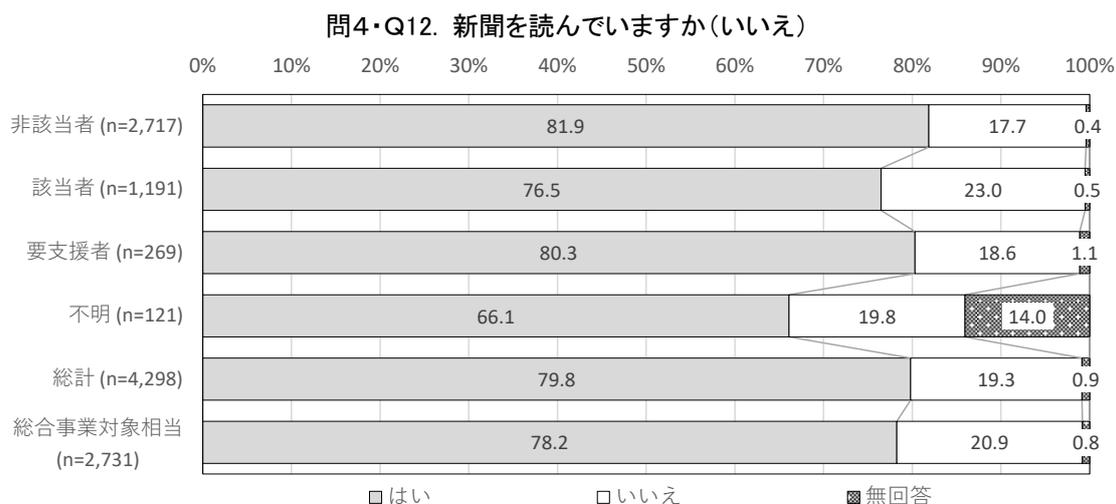
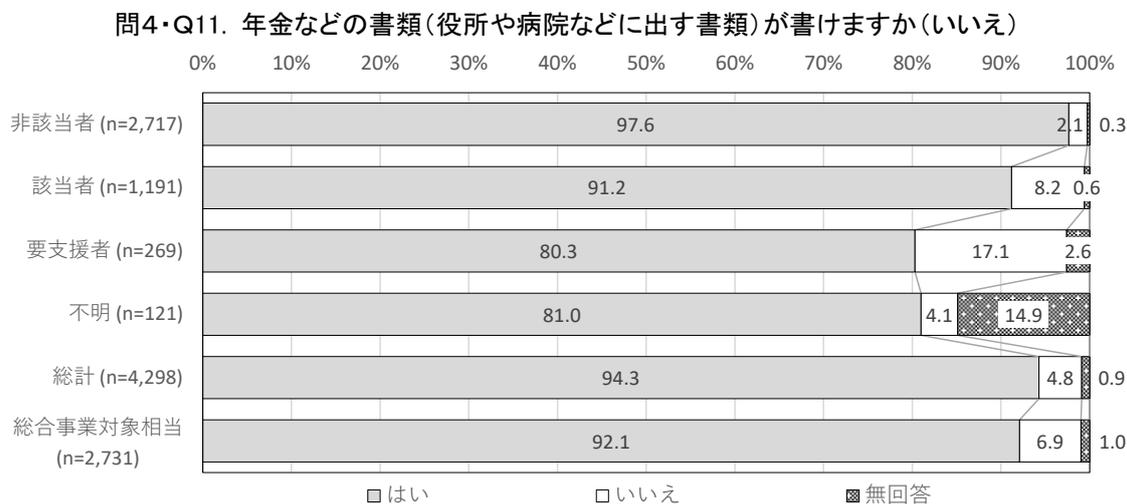


4 社会参加

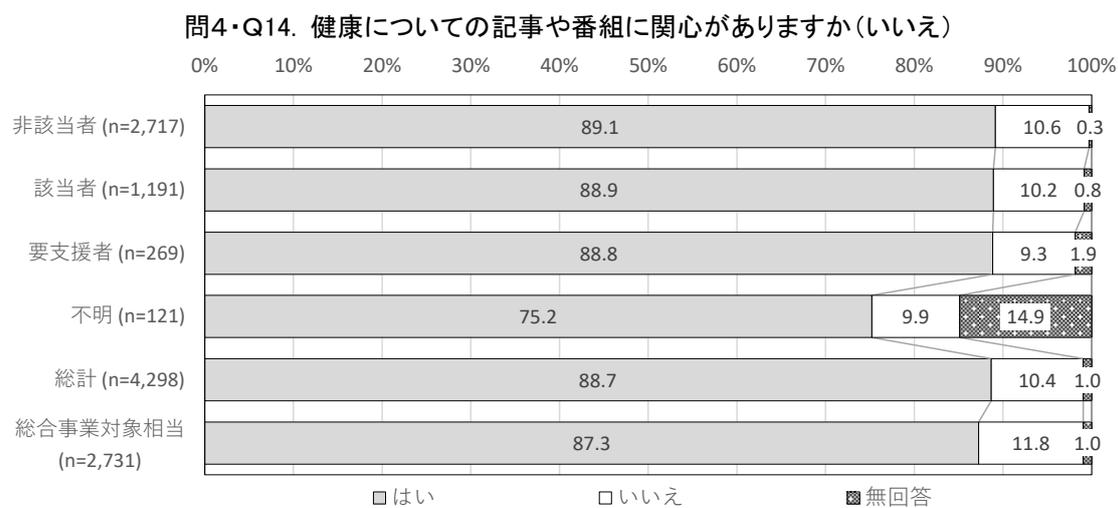
ウ 回答結果

評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、(問4・Q11)年金などの書類が書けますかについては、「はい」との回答が全体で90%以上と他の設問と比較して高くなっています。

図表 回答結果-1



図表 回答結果-2



4 社会参加

(2) 社会的役割

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています（問4・Q16～19）。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

図表 社会的役割に関する設問（老研指標）

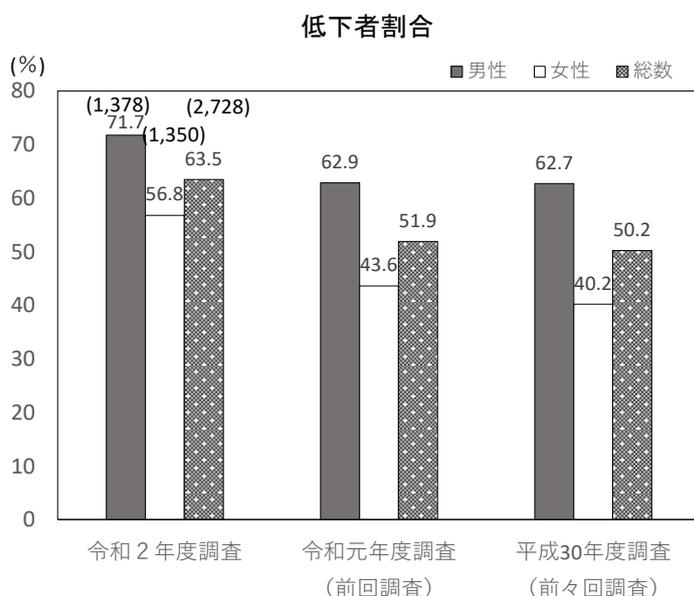
問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q16	友人の家を訪ねていますか	1:「1. はい」
問4・Q17	家族や友人の相談にのっていますか	1:「1. はい」
問4・Q18	病人を見舞うことができますか	1:「1. はい」
問4・Q19	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で2,728人63.5%（男性1,378人71.7%、女性1,350人56.8%）が低下者となっています。男性が女性よりも14.9ポイント高くなっています。

過去の調査と比較すると、平成30年度調査（前々回調査）から増加しており、令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で11.6ポイント高くなっています。

図表 低下者割合—社会的役割

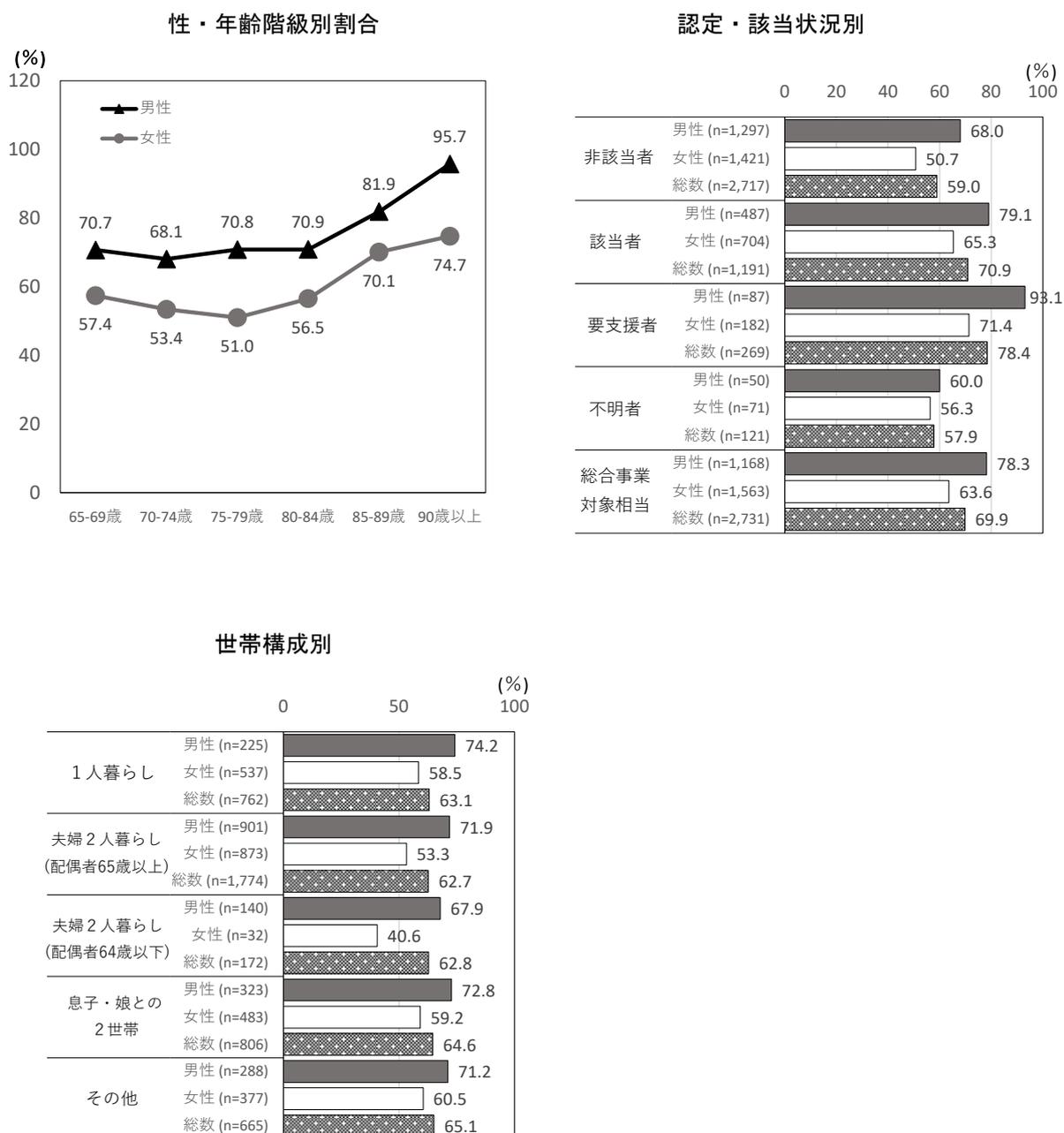


性・年齢階級別にみると、男性では70～74歳の68.1%、女性では75～79歳の51.0%から年齢が上がるにつれて低下者割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、男性が非該当者で68.0%、該当者79.1%、要支援者98.1%、不明者60.0%、総合事業対象相当78.3%といずれの状況でも女性よりも高くなっています。

また世帯構成別でも、いずれの世帯構成で男性の低下者割合が60%以上と高くなっています。

図表 社会的役割 低下者割合－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別

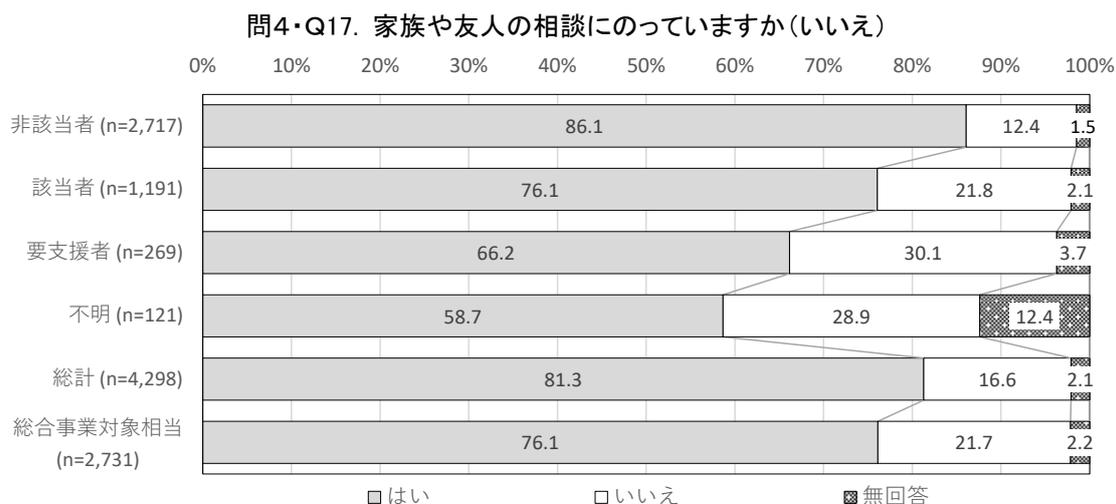
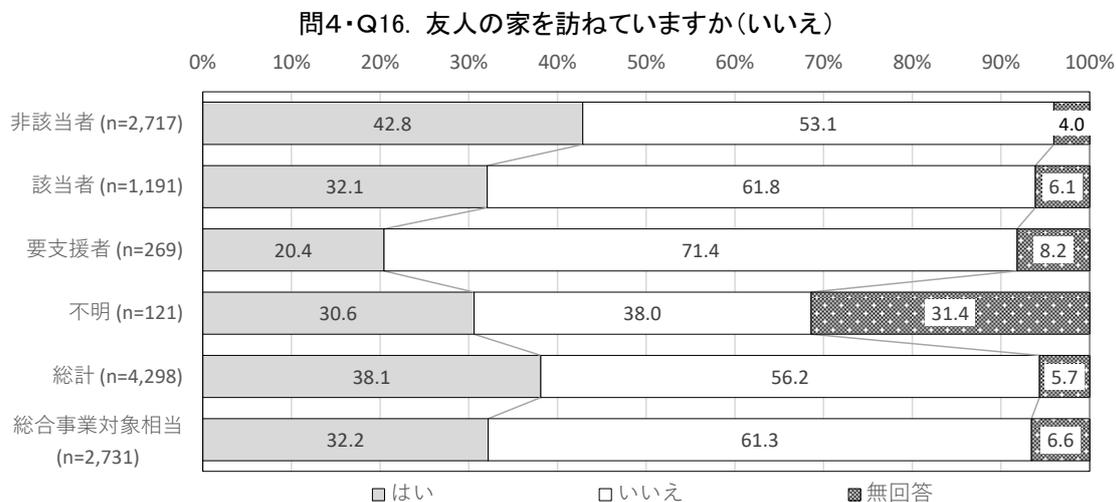


4 社会参加

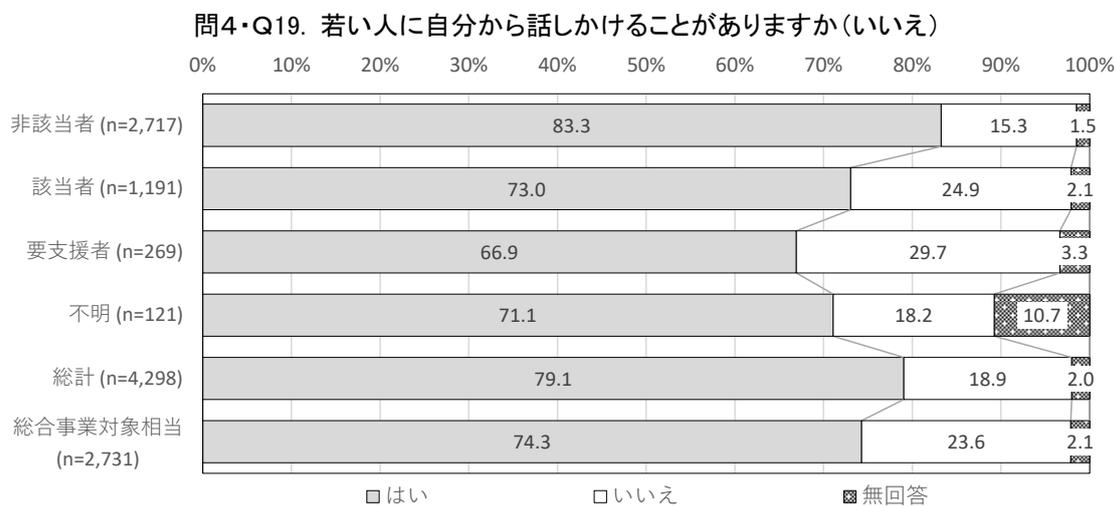
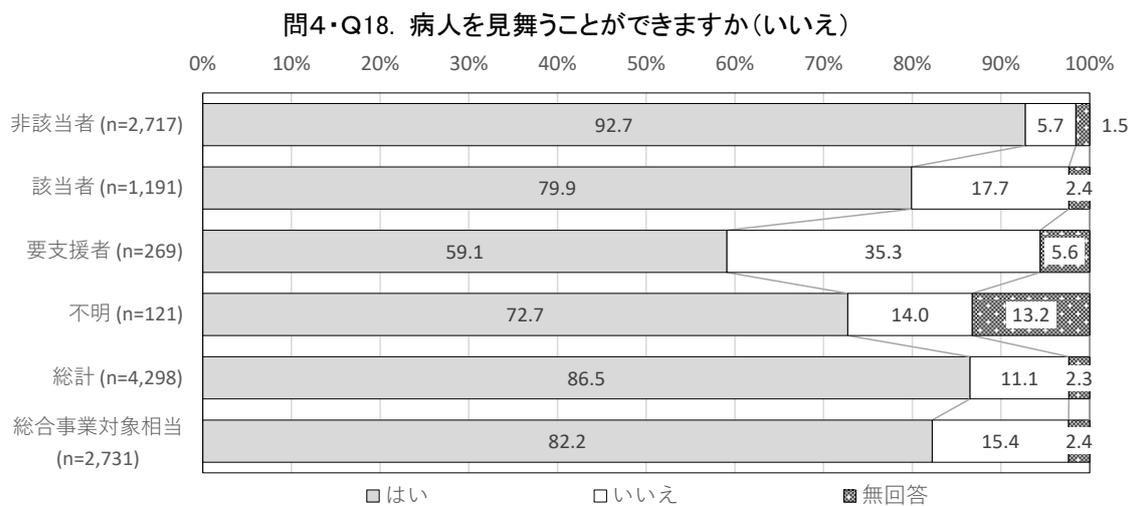
ウ 回答結果

評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、友人の家を訪ねているか（問4・Q16）との設問で「はい」との回答が最も少なくなっています。

図表 回答結果-1



図表 回答結果-2



4 社会参加

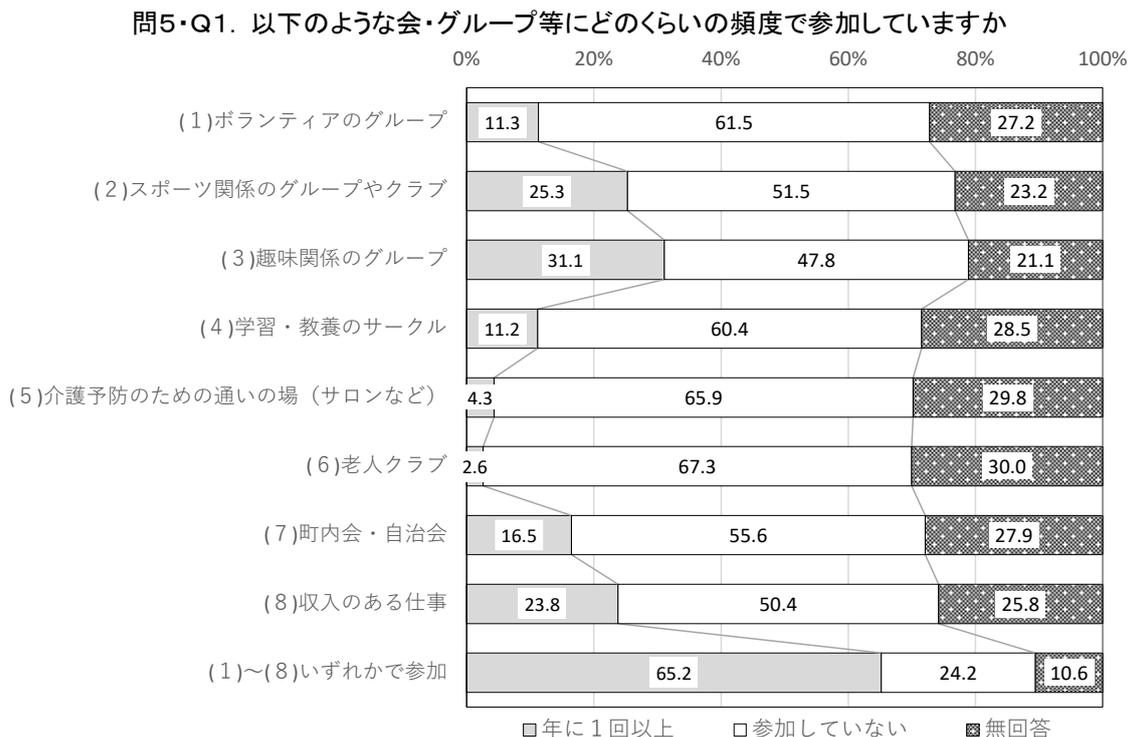
エ 関連設問

① 会の活動

関連設問である参加している会・グループについてみると、比較的多いのは「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。「老人クラブ」は「年に1回以上」が2.6%と他の会・グループ等と比べて低い割合となっています。

また、いずれの会・グループも参加していないのは24.2%となっています。

図表 参加している会・グループ1



上段：件 下段：%

	年に1回以上						参加して いない	無回答
	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回			
(1) ボランティアのグループ	482	27	47	81	183	144	2,645	1,171
	11.3	0.6	1.1	1.9	4.3	3.4	61.5	27.2
(2) スポーツ関係のグループ やクラブ	1,084	127	354	278	210	115	2,215	999
	25.3	3.0	8.2	6.5	4.9	2.7	51.5	23.2
(3) 趣味関係のグループ	1,336	56	185	235	621	239	2,056	906
	31.1	1.3	4.3	5.5	14.4	5.6	47.8	21.1
(4) 学習・教養のサークル	474	11	42	85	200	136	2,598	1,226
	11.2	0.3	1.0	2.0	4.7	3.2	60.4	28.5
(5) 介護予防のための通いの 場 (サロンなど)	185	6	25	55	59	40	2,834	1,279
	4.3	0.1	0.6	1.3	1.4	0.9	65.9	29.8
(6) 老人クラブ	117	6	10	6	58	37	2,893	1,288
	2.6	0.1	0.2	0.1	1.3	0.9	67.3	30.0
(7) 町内会・自治会	711	9	11	32	177	482	2,390	1,197
	16.5	0.2	0.3	0.7	4.1	11.2	55.6	27.9
(8) 収入のある仕事	1,021	463	308	76	95	79	2,166	1,111
	23.8	10.8	7.2	1.8	2.2	1.8	50.4	25.8
合計※(1)~(8)いずれかで 年1回以上参加	2,804						1,039	455
	65.2						24.2	10.6

n=4, 298

(2) 社会的役割

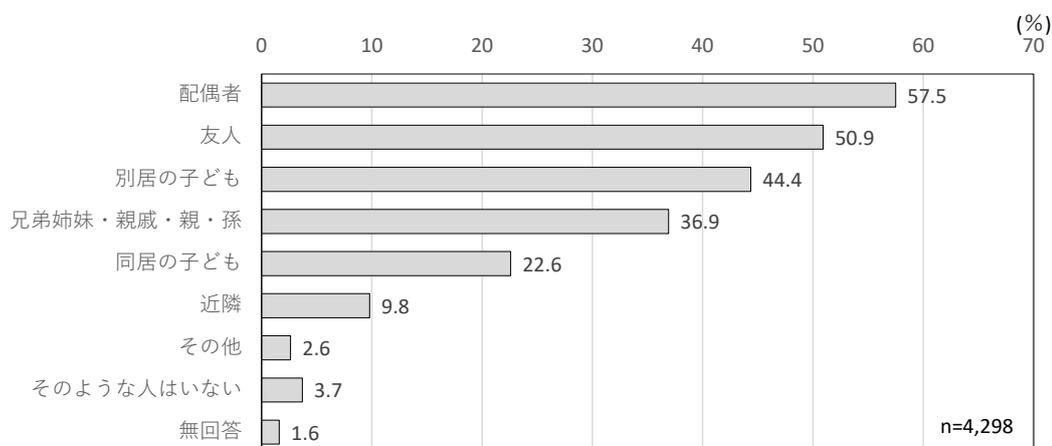
② まわりの人との助け合い

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」としては、「配偶者」が57.5%と最も多く、次いで「友人」(50.9%)、「別居の子ども」(44.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(36.9%)などが続いています。

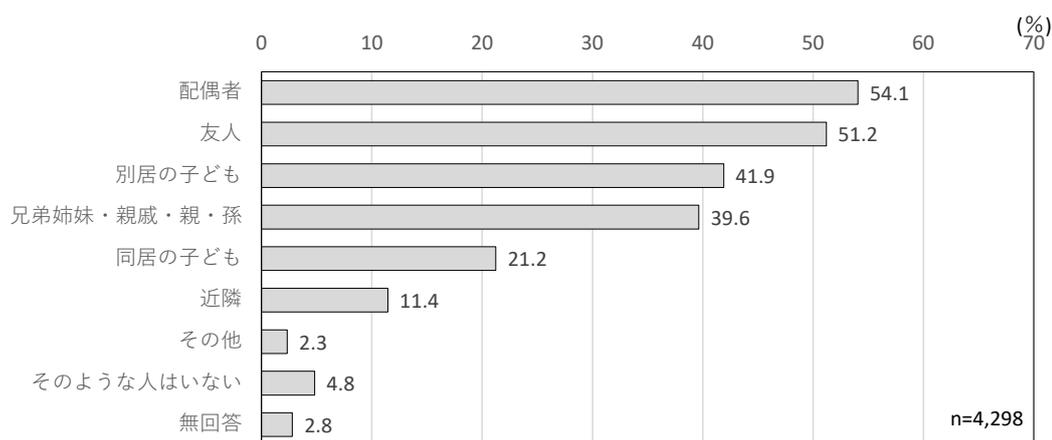
「心配事や愚痴を聞いてあげる人」も、「配偶者」が54.1%で最も多く、次いで「友人」(51.2%)、「別居の子ども」(41.9%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(39.6%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-1

問5・Q4. あなたとまわりの方の「たすけあい」についておうかがいします。
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの方の「たすけあい」についておうかがいします。
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)



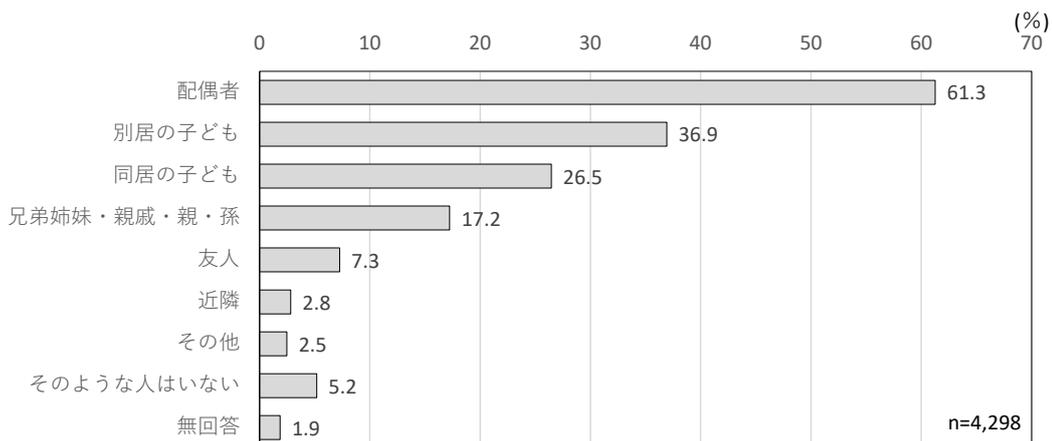
4 社会参加

「看病や世話をしてくれる人」は、「配偶者」が61.3%で最も多く、次いで「別居の子ども」(36.9%)、「同居の子ども」(26.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(17.2%)が続いています。

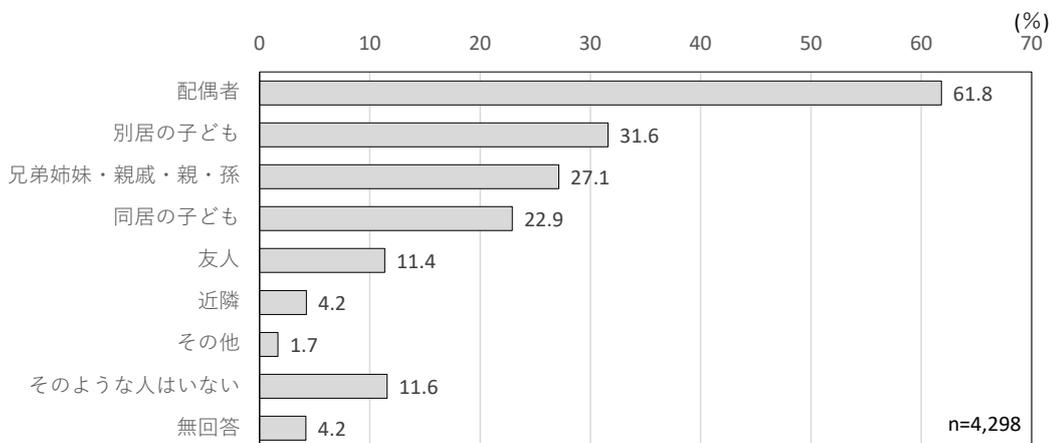
「看病や世話をしてあげる人」も、「配偶者」が61.8%で最も多く、次いで「別居の子ども」(31.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親」(27.1%)、「同居の子ども」(22.9%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-2

問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(3)あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



問5・Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(4)反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

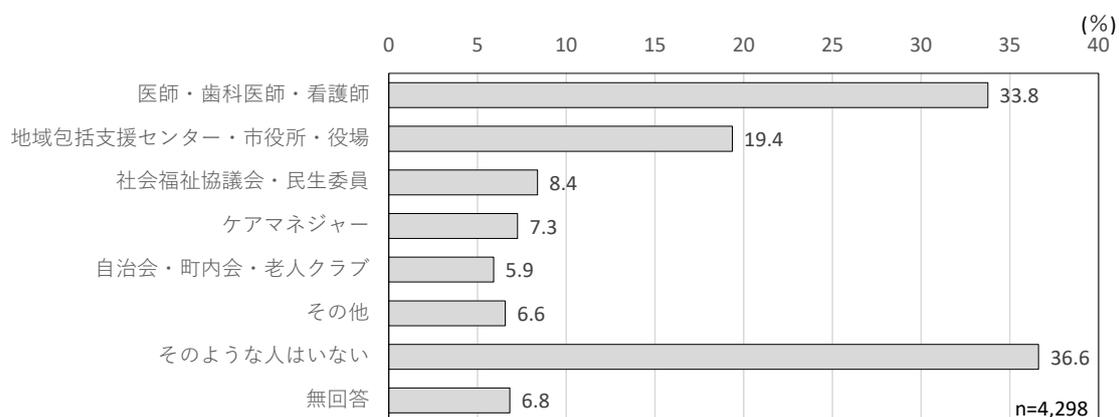


③ 相談相手

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が33.8%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(19.4%)と続いています。「そのような人はいない」との回答は36.6%となっています。

図表 何かあったときの相談相手

問5・Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)



4 社会参加

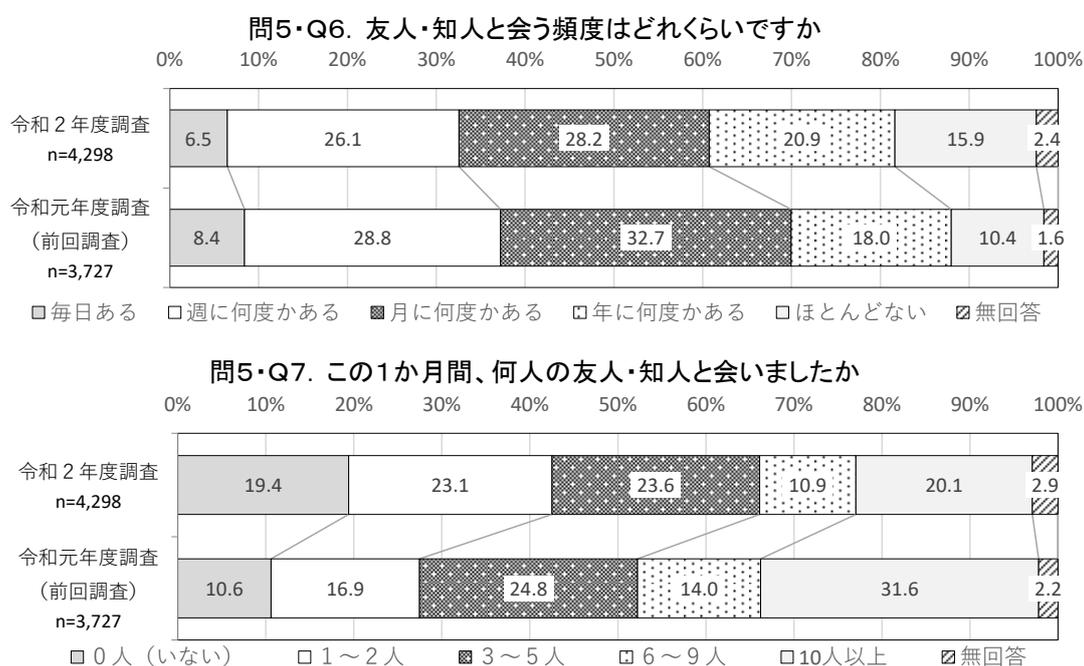
④ 知人・友人

「知人・友人に会う頻度」については、「月に何度かある」が28.2%で最も多くなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」の割合が減少し、「年に何度かある」と「ほとんどない」の割合が増加しています。

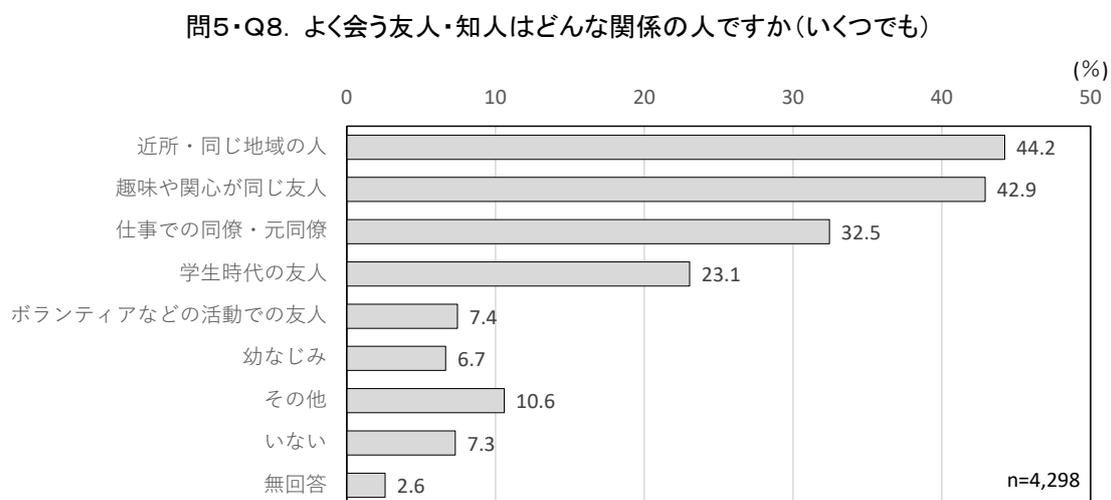
1か月に会った友人・知人の数としては、「3人～5人」が23.6%で最も多くなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、「0人（いない）」と「1～2人」の割合が増加した一方、それ以外の割合が減少しています。

「よく会う友人・知人」としては、「近所・同じ地域の人」が44.2%で最も多く、次いで「趣味や関心が同じ人」（42.9%）、「仕事での同僚・元同僚」（32.5%）と続いています。

図表 知人・友人と会う頻度・人数



図表 知人・友人の関係



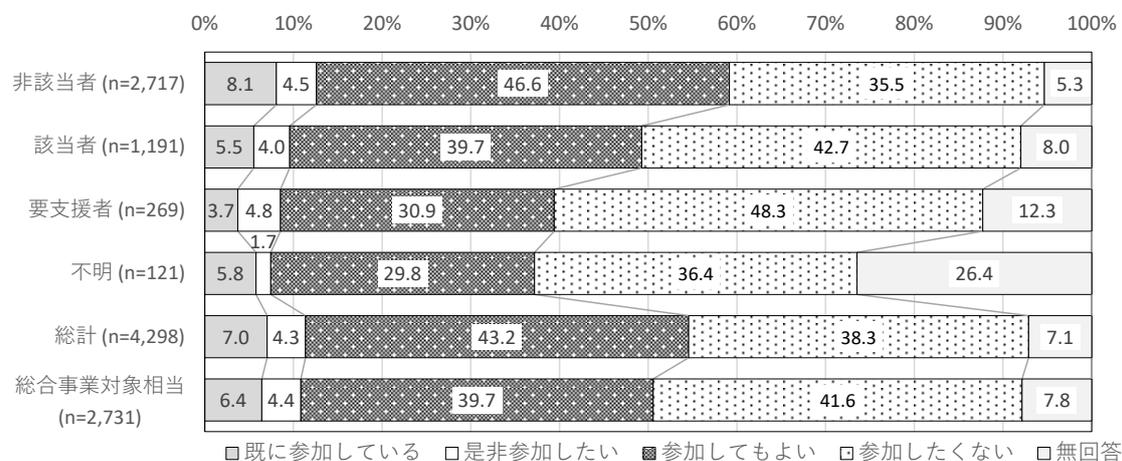
⑤ 地域づくり

「地域づくりを進めるために、あなたはその活動に参加者として参加したいか」については、全体では「参加してもよい」が43.2%と最も多く、次いで「参加したくない」(38.3%)、「既に参加している」(7.0%)「是非参加したい」(4.3%)となっています。非該当者と総合事業対象相当では、半数以上が参加の方向で回答しています。

「地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか」については、全体では「参加したくない」が57.6%と最も多く、次いで「参加してもよい」(30.7%)、「既に参加している」(4.7%)「是非参加したい」(1.5%)となっています。非該当者では約4割が参加の方向で回答しています。

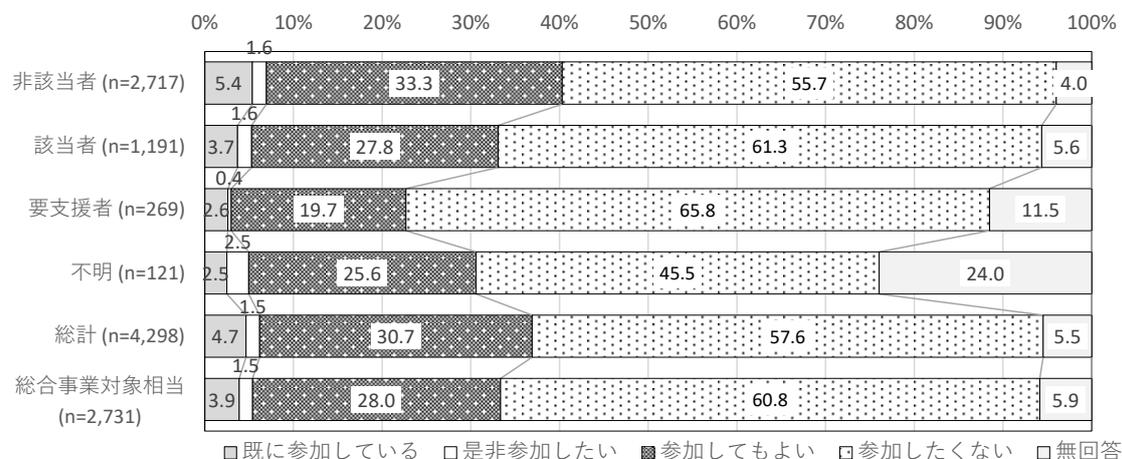
図表 活動に参加者として参加

問5・Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



図表 活動に企画・運営（お世話役）として参加

問5・Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



4 社会参加

(3) 老研式活動能力指標総合評価

ア 設問と評価

老研指標では、全13問の合計得点で生活機能において高次・複雑な対応ができるかどうか等の活動能力の総合評価ができます。

評価は13点満点で行いますが、ここでは11点以上を「高い」、9、10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しています。(設問の実行している状況の評価)

図表 老研式活動能力指標総合評価に関する設問

問番号	設問	配点と選択肢
問4・Q5	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q7	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q8	自分で食事の用意をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q9	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q10	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問4・Q11	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「はい」
問4・Q12	新聞を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q13	本や雑誌を読んでいますか	1:「はい」
問4・Q14	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「はい」
問4・Q16	友人の家を訪ねていますか	1:「はい」
問4・Q17	家族や友人の相談にのっていますか	1:「はい」
問4・Q18	病人を見舞うことができますか	1:「はい」
問4・Q19	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「はい」

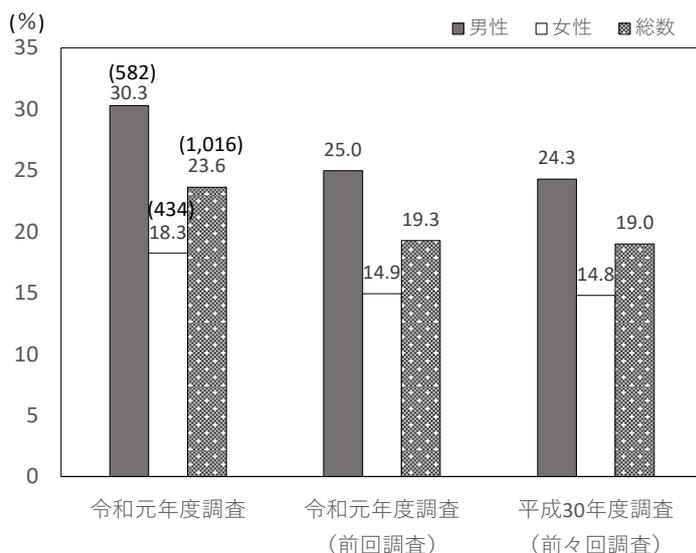
イ 評価結果

10点以下を低下者とした結果をみると、全体で1,016人23.6%（男性582人30.3%、女性434人18.3%）が低下者となっており、女性より男性で12.0ポイント低下者割合が高くなっています。過去の調査と比較すると、平成30年度調査（前々回調査）から増加しています。

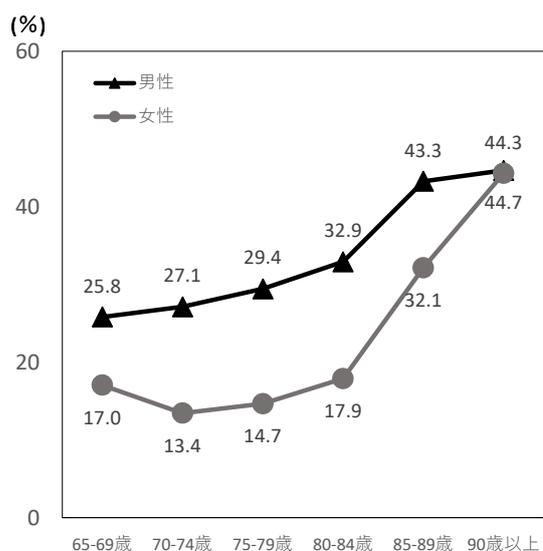
性・年齢階級別にみると、男性では年齢が上がるほど低下者割合が高くなっています。女性も70～74歳の13.4%から年齢が上がるほど低下者割合が高くなっています。

図表 低下者割合－老研指標総合評価

低下者割合



性・年齢階級別数

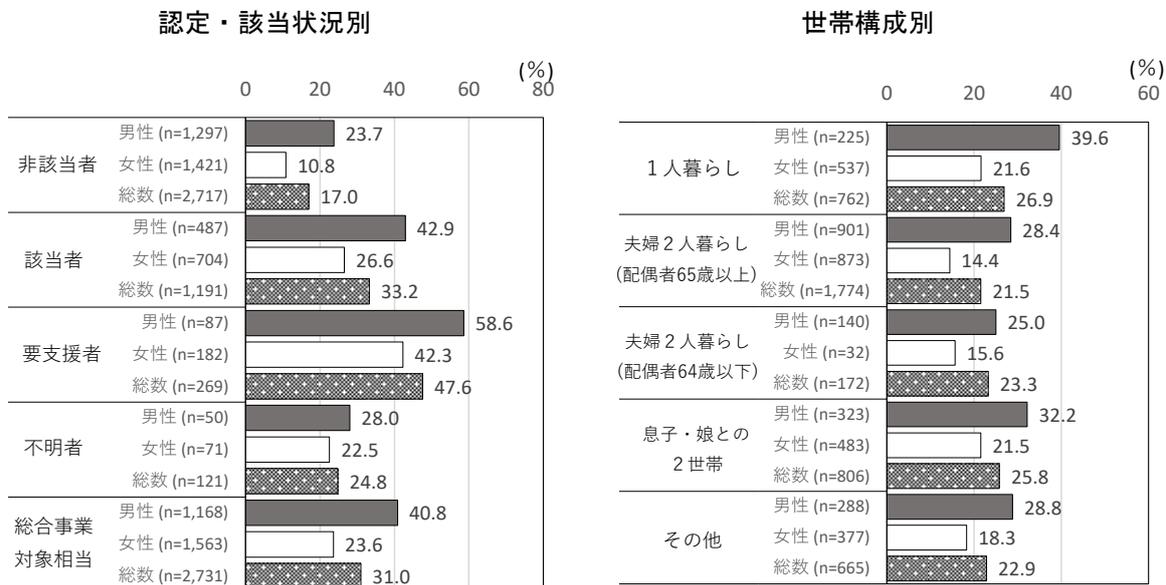


4 社会参加

これを認定・該当状況別にみると、非該当者 17.0%、該当者 33.2%、要支援者 47.6%、不明者 24.8%、総合事業対象相当 31.0%が低下者となっています。

また世帯構成別では、1人暮らし世帯の男性で低下者割合が 39.6%と高くなっています。

図表 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



(4) 生きがい

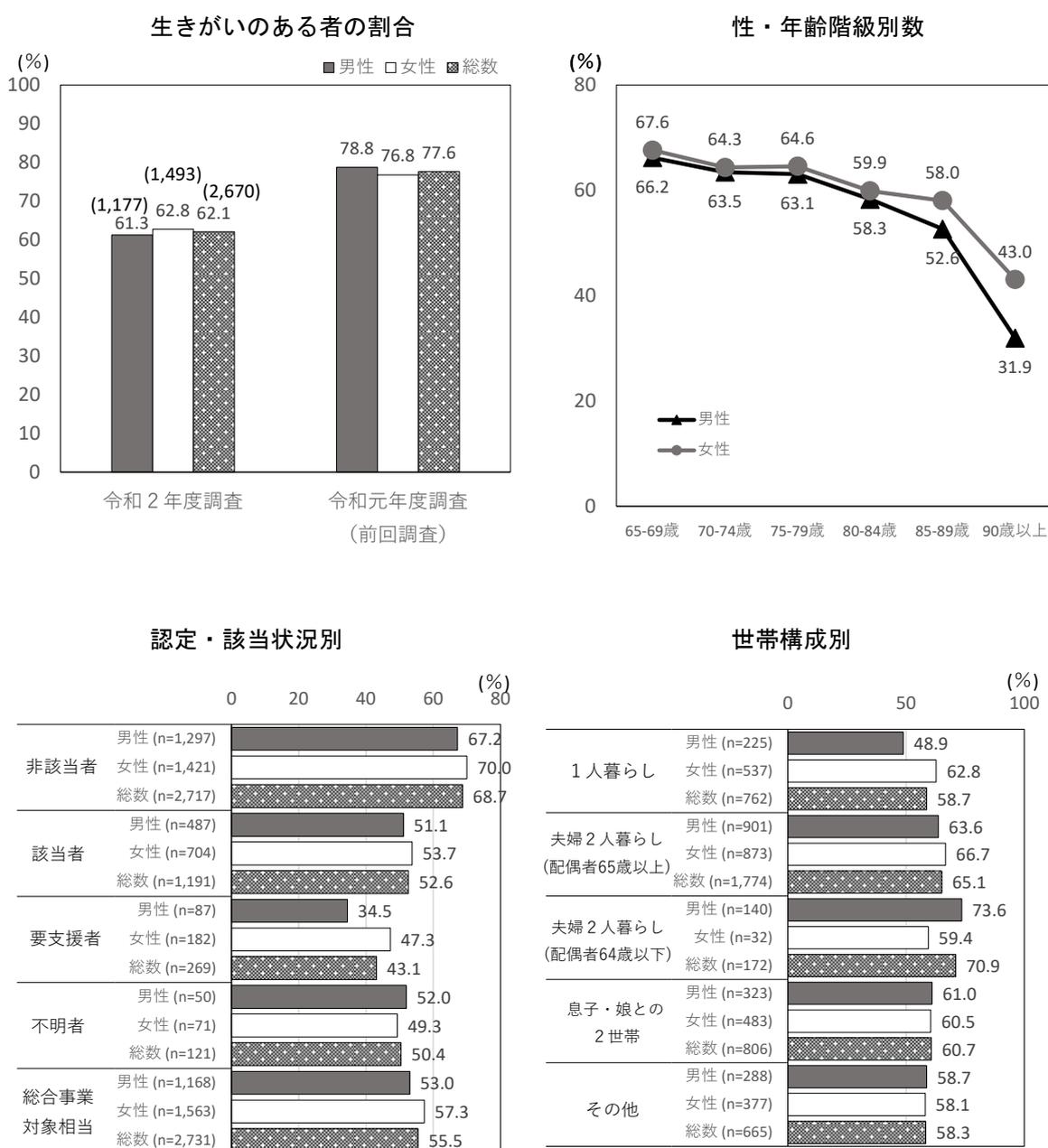
ニーズ調査では、いきがいの有無についての設問が設けられています。「生きがいはありますか」(問4・Q21)との設問に「はい」と回答したのは、全体で2,670人62.1%(男性1,177人61.3%、女性1,493人62.8%)となっています。また、令和元年度調査(前回調査)と比較すると、全体で15.5ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて低くなる傾向となっています。

認定・該当状況別では、要支援者では43.1%が「はい」と回答していますが、非該当者の68.7%より25ポイント以上低くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)世帯で70.9%と、他の世帯構成より高くなっています。

図表 生きがいがある者の割合



4 社会参加

(5) 趣味

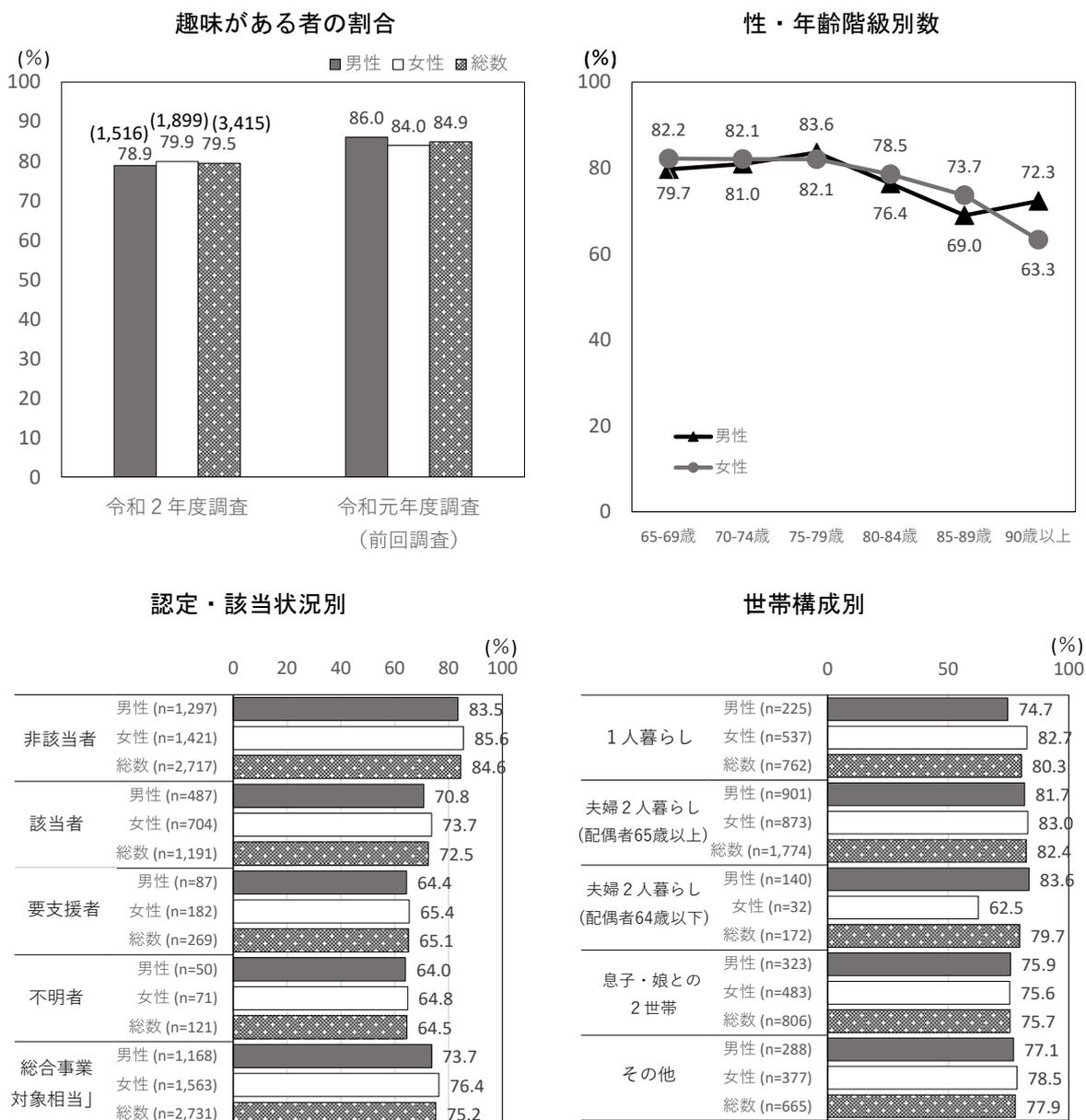
ニーズ調査では、趣味の有無についての設問が設けられています。「趣味はありますか」(問4・Q20)との設問に「はい」と回答したのは、全体で79.5%(男性78.9%、女性79.9%)となっています。また、令和元年度調査(前回調査)と比較すると、全体で5.4ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性では75~79歳で83.6%、女性では65~69歳の82.2%で高くなっています。

認定・該当状況別では、要支援者では65.1%が「はい」と回答していますが、非該当者の84.6%より約20ポイント低くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)の女性が62.5%と、低くなっています。

図表 趣味ある者の割合



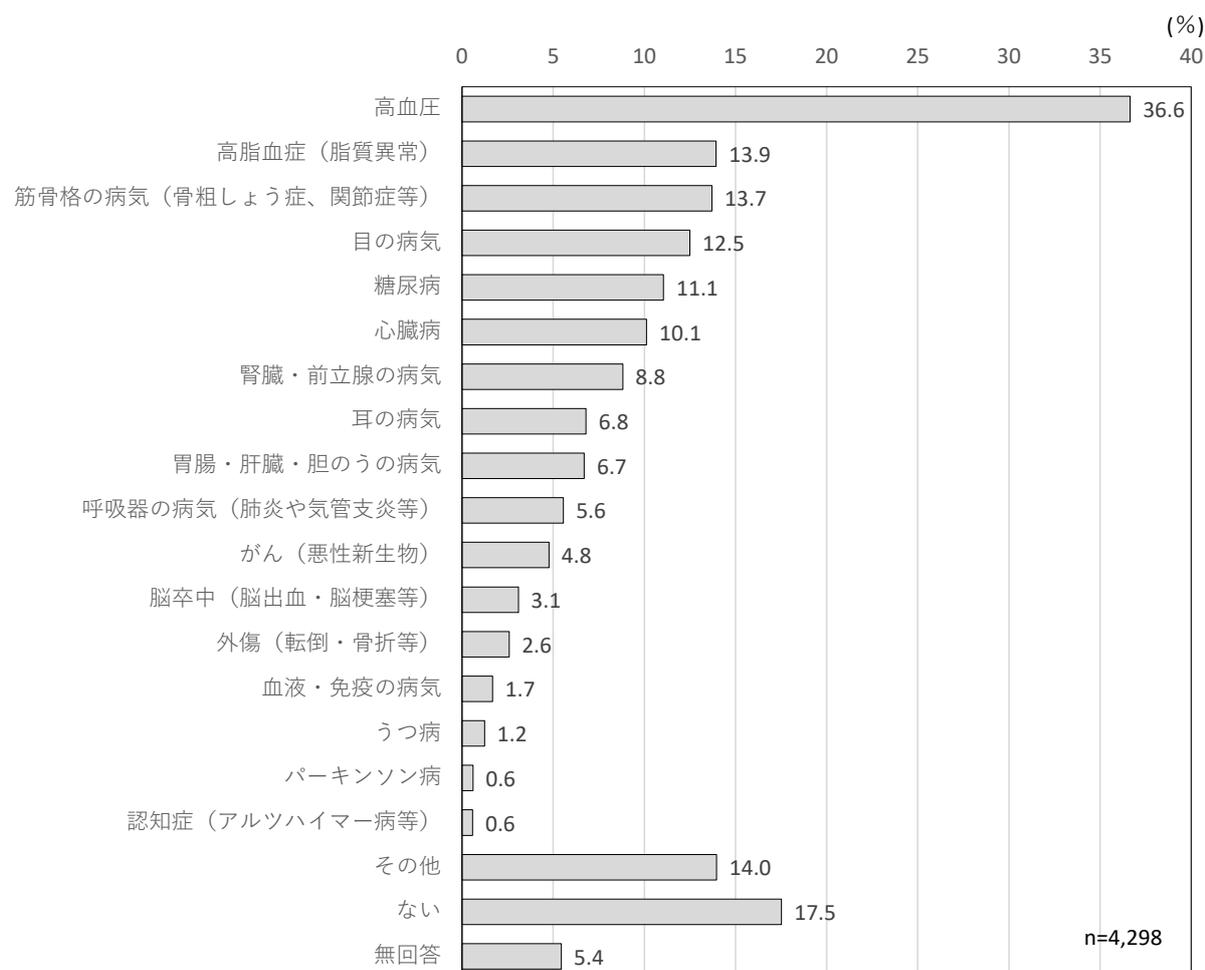
5 疾病

(1) 病気全体

現在治療中、又は後遺症のある病気はあるかについて聞いてみると、「高血圧」が36.6%で最も多く、次いで「高脂血症（脂質異常）」（13.9%）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」（13.7%）、「目の病気」（12.5%）、「糖尿病」（11.1%）、「心臓病」（10.1%）等が続いています。「なし」の回答は17.5%となっています。

図表 病気全体

問6・Q13. 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



5 疾病

(2) 高血圧

疾病に関する回答結果をみてみます（問6・Q13）。

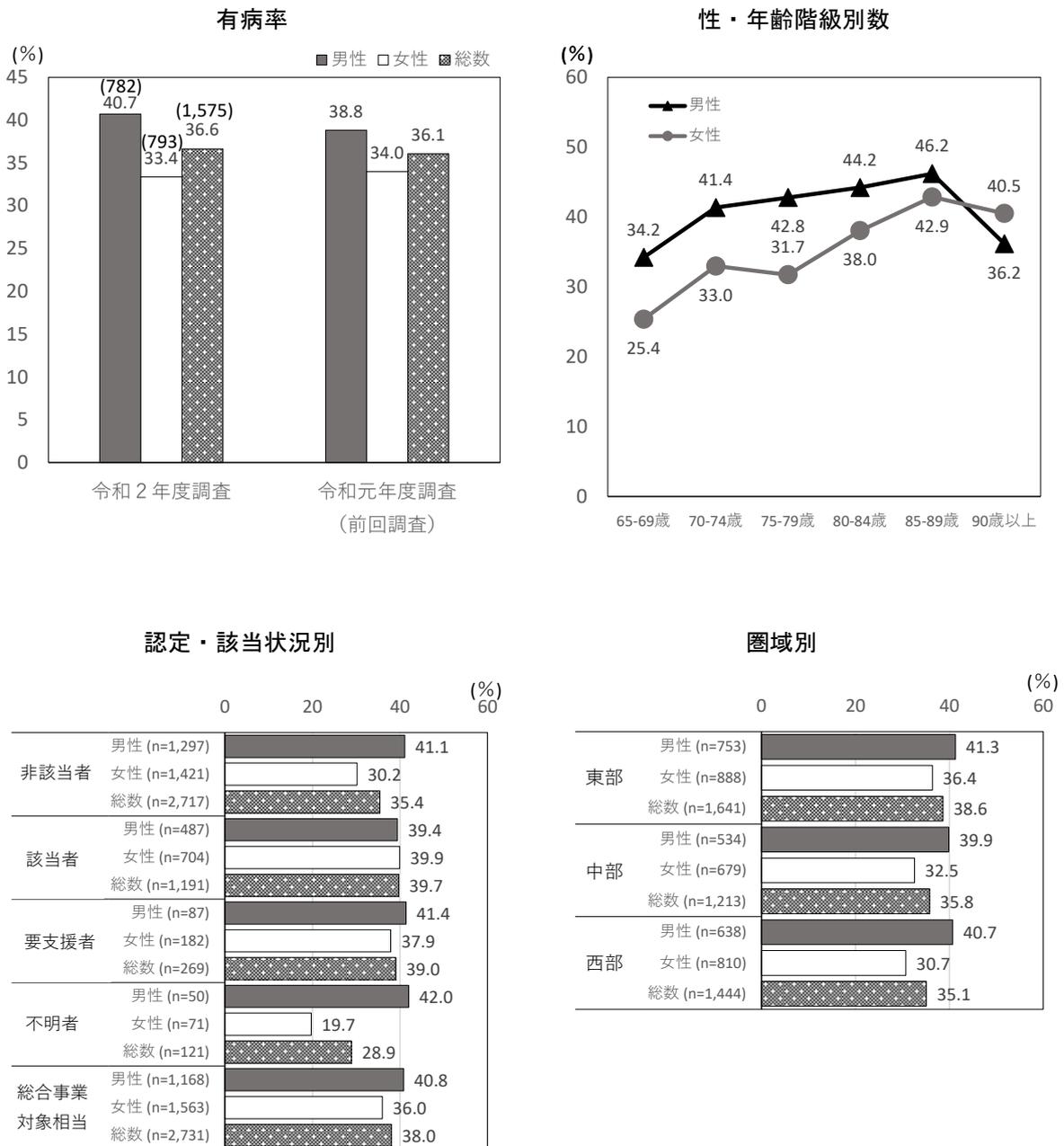
「現在治療中、または後遺症のある病気」があるとする割合（有病率）は、最も高いのが「高血圧」で、全体で1,575人36.6%（男性782人40.7%、女性793人33.4%）となっており、女性より男性のほうが7.3ポイント高くなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.5ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに85～89歳の有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、該当者で最も有病率が高くなっています。

圏域別では、東部圏域の男性が41.3%と高くなっています。一方、西部圏域の女性は30.7%と低くなっています。また、東部圏域では男女ともに35%を超えています。

図表 有病率—高血圧



(2) 高血圧

(3) 高脂血症（脂質異常）

疾病に関する回答結果をみてみます（問6・Q13）。

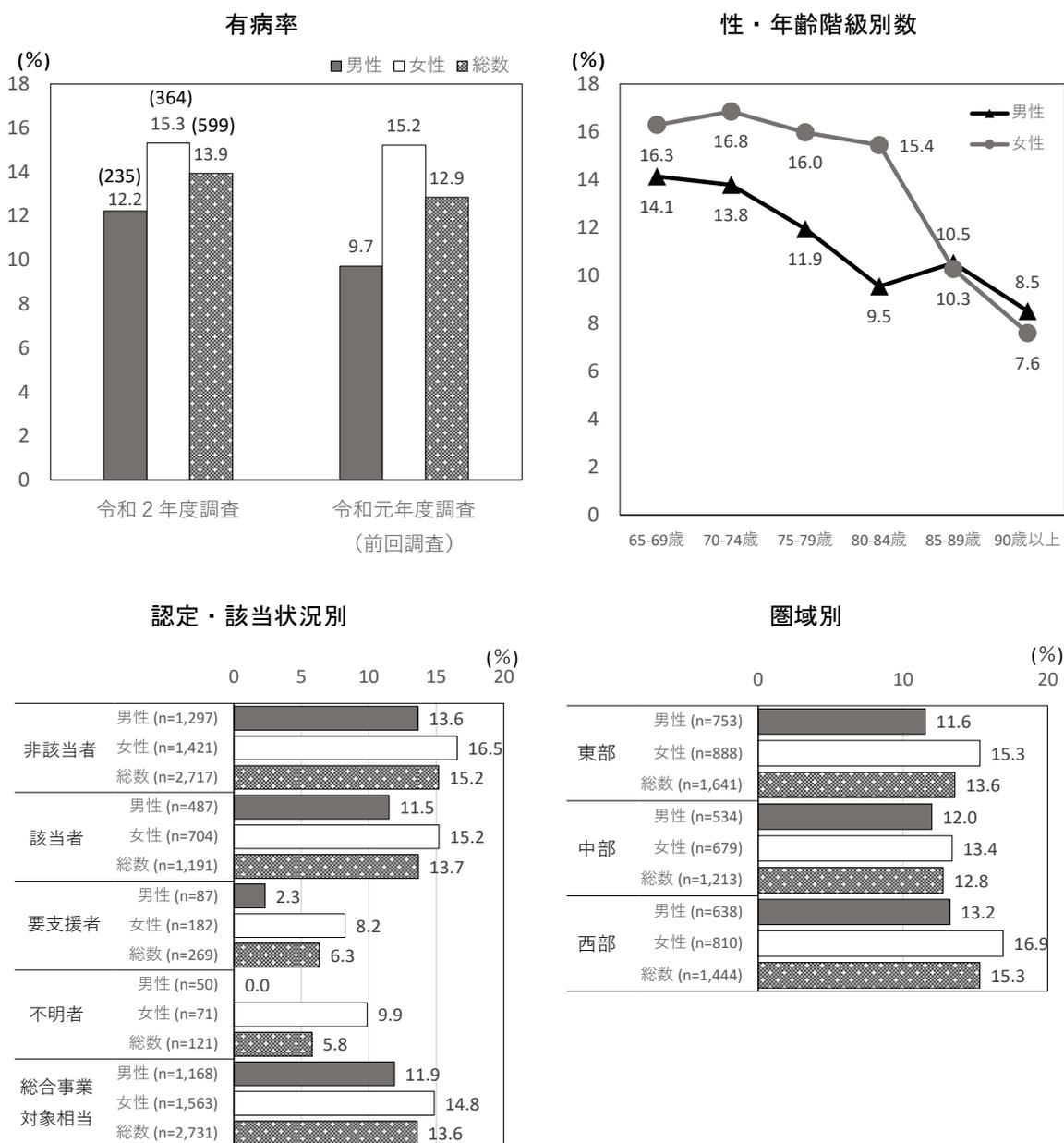
「現在治療中、または後遺症のある病気」があるとする割合（有病率）は、次に高いのが「高脂血症（脂質異常）」で、全体で599人13.9%（男性235人12.2%、女性364人15.3%）となっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で1.0ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性では65～69歳、女性では70～74歳で有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者で最も有病率が高くなっています。

圏域別では、西部圏域の女性が16.9%と高くなっています。一方、東部圏域の男性は11.6%と低くなっています。

図表 有病率—高脂血症（脂質異常）



5 疾病

(4) 筋骨格の病気

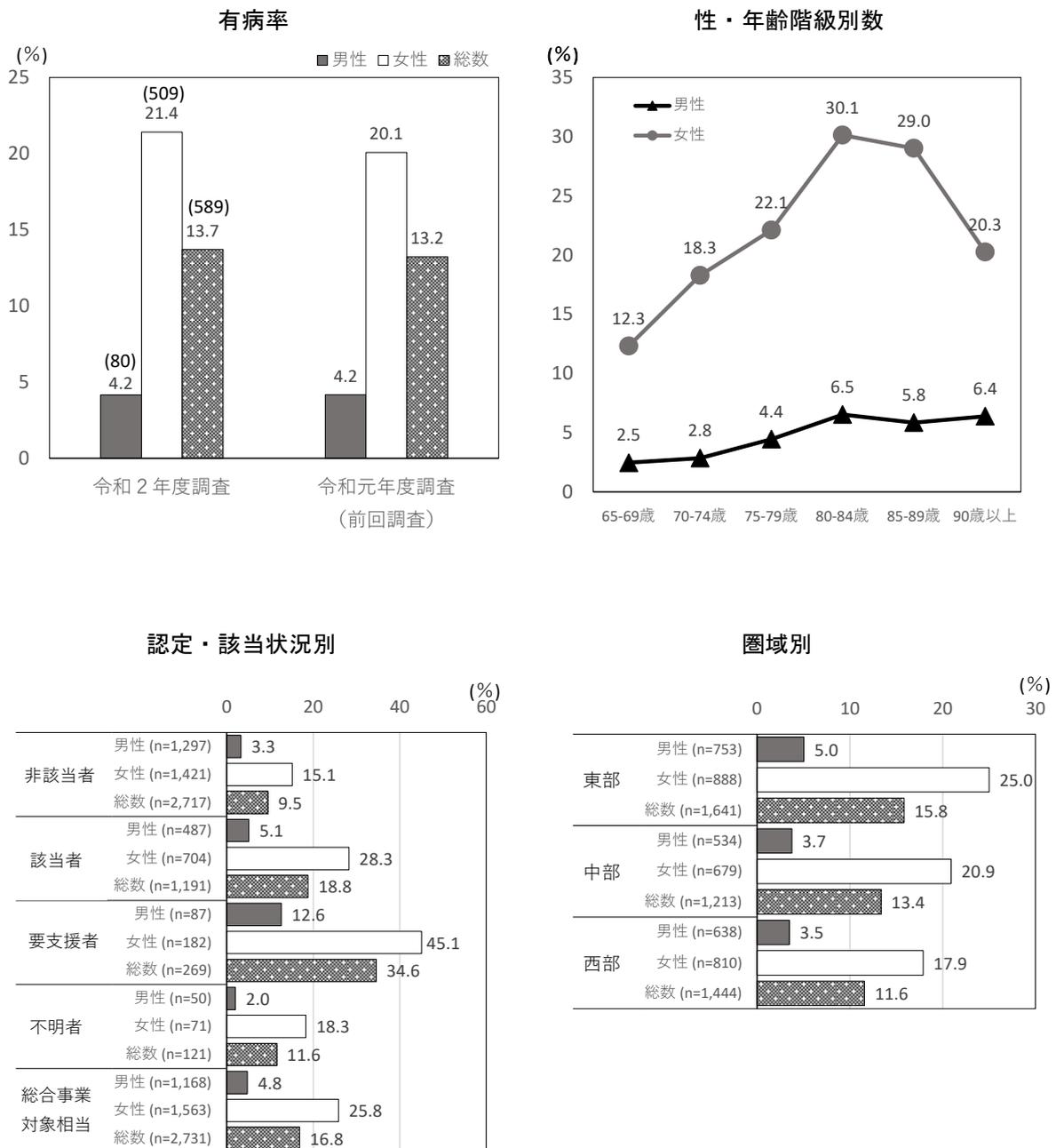
要介護の原因となりうる「筋骨格の病気」の有病率は、全体で 589 人 13.7%（男性 80 人 4.2%、女性 509 人 21.4%）となっており、男性より女性が顕著に高くなっています。また、令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 0.5 ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、80～84 歳の女性で有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が 45.1%と高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で女性の有病率が男性よりも高くなっています。特に東部圏域の女性で有病率が 25.0%となっています。一方、全ての圏域での男性の有病率は 5%以下となっており、特に西部圏域の男性が 3.5%と低くなっています。

図表 有病率－筋骨格の病気



(5) 目の病気

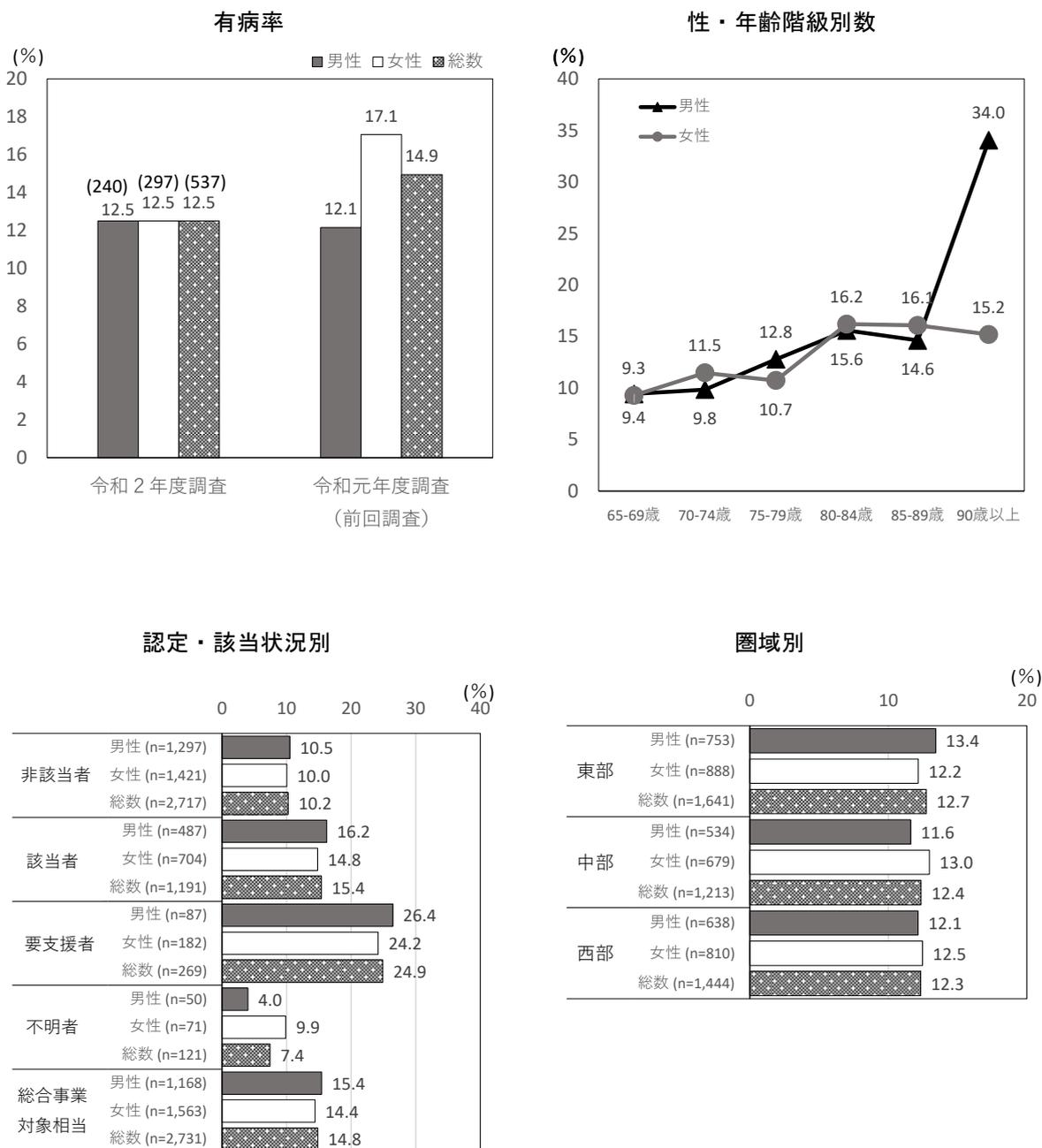
高齢者に多い「目の病気」の有病率は、全体で 537 人 12.5%（男性 240 人 12.5%、女性 297 人 12.5%）となっています。また、令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で 2.4 ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性では 90 歳以上が、女性では 80～84 歳の有病率が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が 26.4%と高くなっています。

圏域別では、東部圏域の男性で有病率が他圏域よりやや高くなっています。

図表 有病率—目の病気



5 疾病

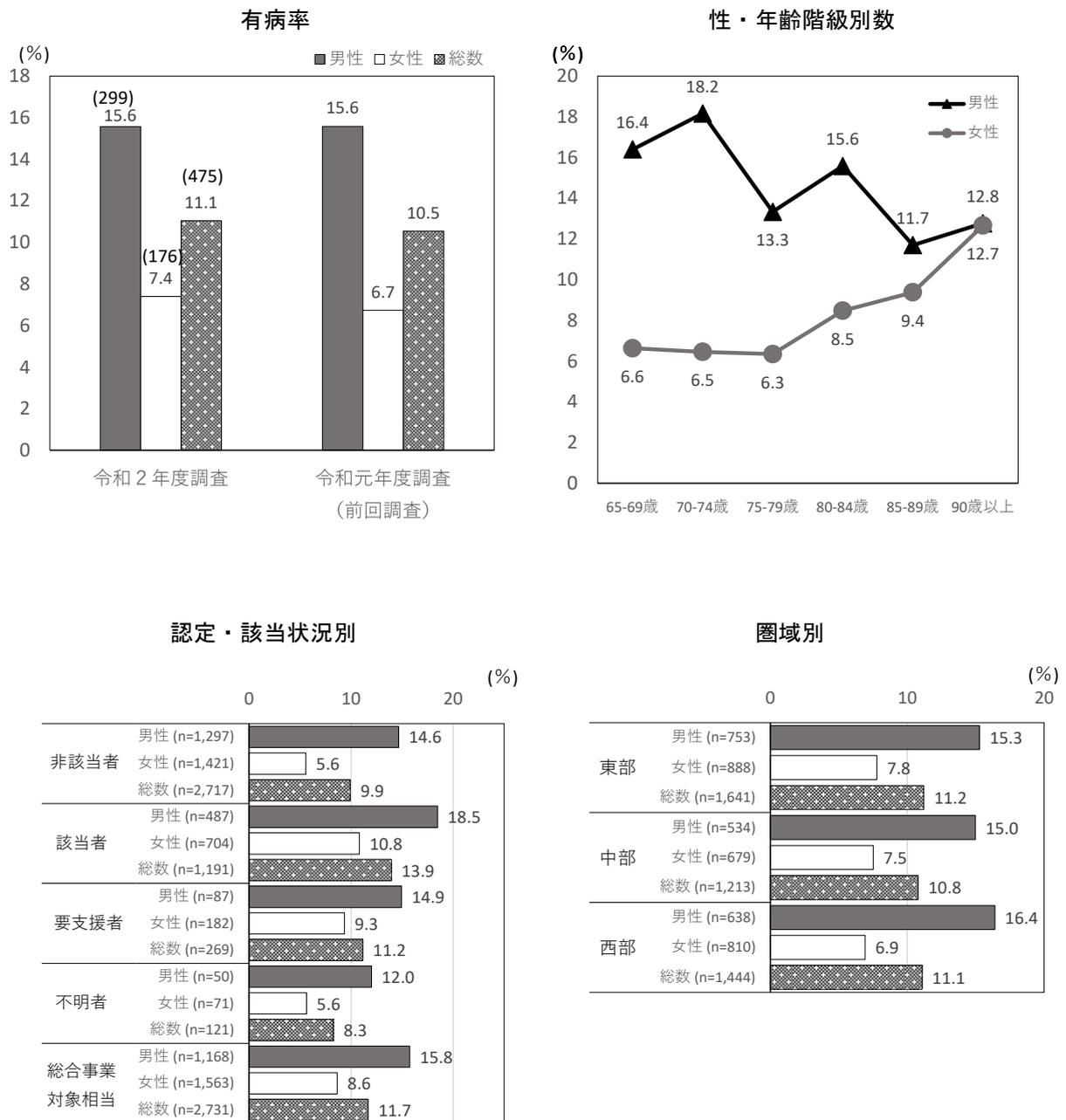
(6) 糖尿病

同様に要介護の原因となる「糖尿病」の有病率は、全体で475人11.1%（男性299人15.6%、女性176人7.4%）で、女性より男性で8.2ポイント有病率が高くなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.6ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者9.9%、該当者13.9%、要支援者11.2%、不明8.3%、総合事業対象相当11.7%と、該当者で有病率が高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に西部圏域の男性で有病率が16.4%となっています。一方、全ての圏域での女性の有病率は8%未満となっており、特に西部圏域の女性が6.9%と低くなっています。

図表 有病率—糖尿病



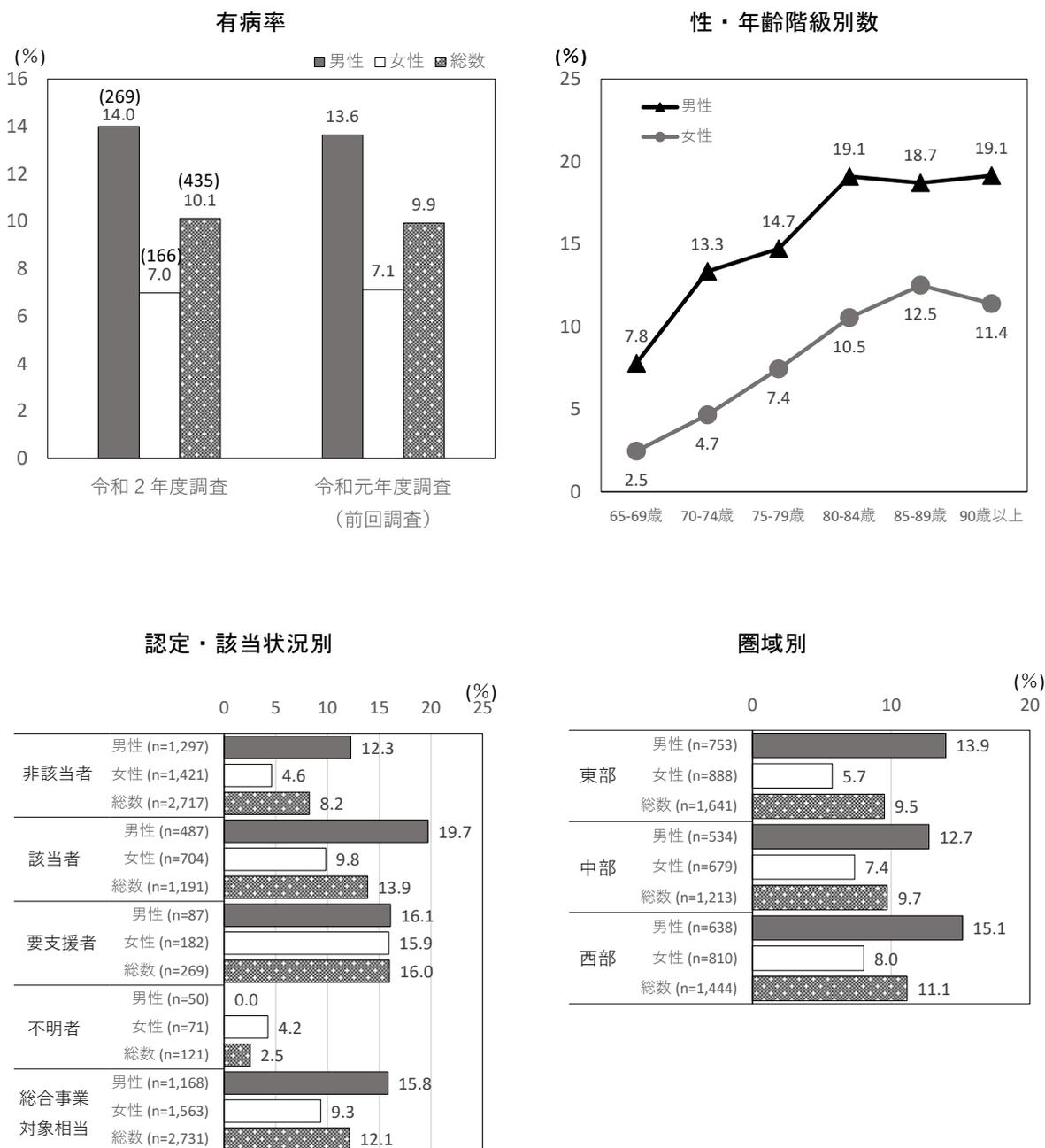
(7) 心臓病

主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「心臓病」の有病率は、全体で435人10.1%（男性269人14.0%、女性166人7.0%）となっています。女性より男性で、また年齢が高いほど有病率が上がる傾向がみられます。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.2ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、該当者の男性で有病率が19.7%と比較的高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に西部圏域の男性で有病率が15.1%となっています。

図表 有病率—心臓病



5 疾病

(8) 脳卒中

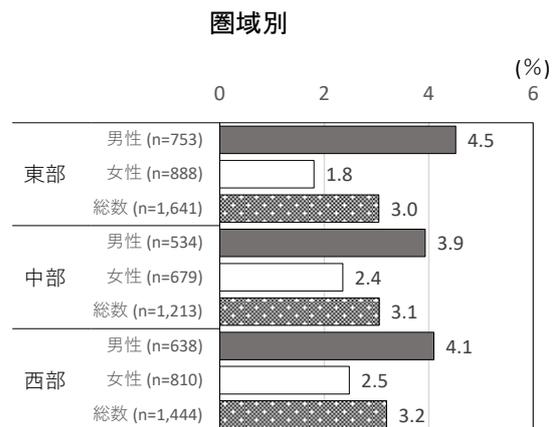
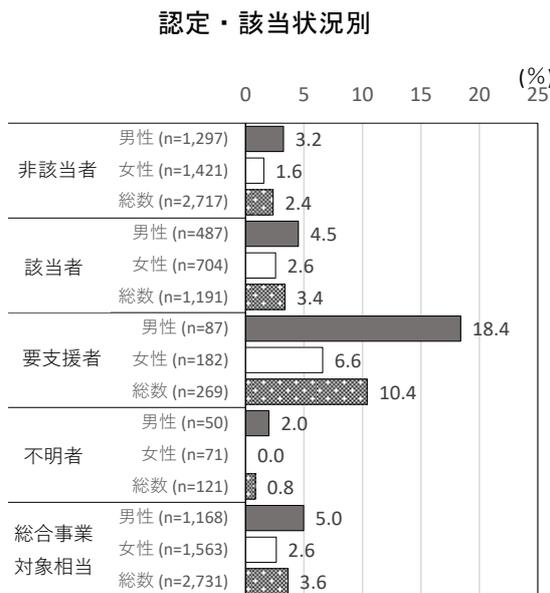
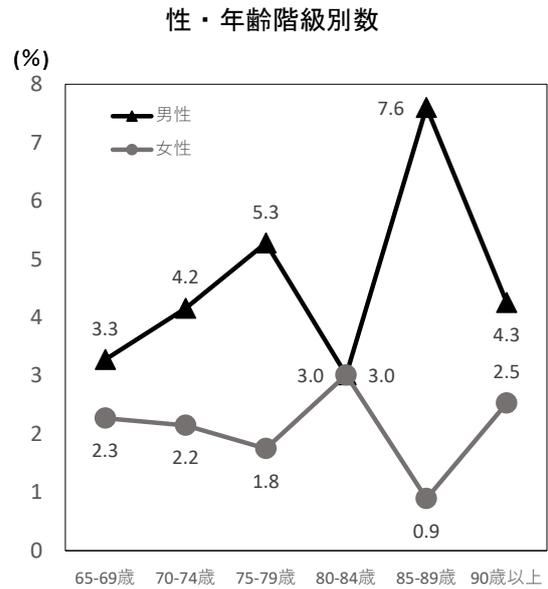
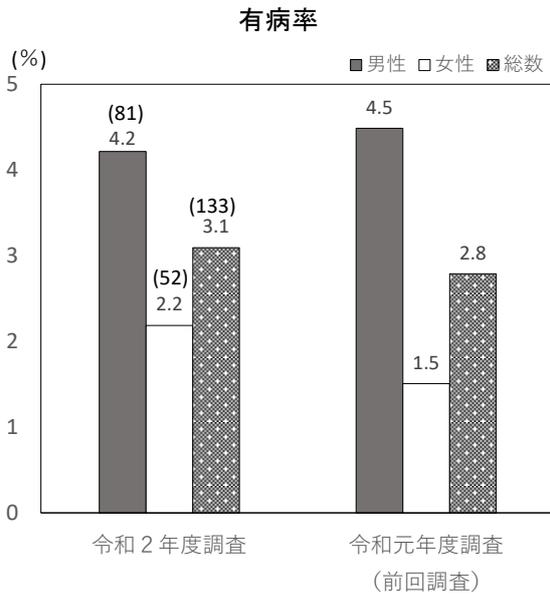
要介護の主原因となる「脳卒中」の有病率は、全体で133人3.1%（男性81人4.2%、女性52人2.2%）で、女性より男性で有病率が高くなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.3ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、85～89歳の男性の有病率が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が18.4%と顕著に高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に東部圏域の男性で有病率が4.5%となっています。

図表 有病率－脳卒中

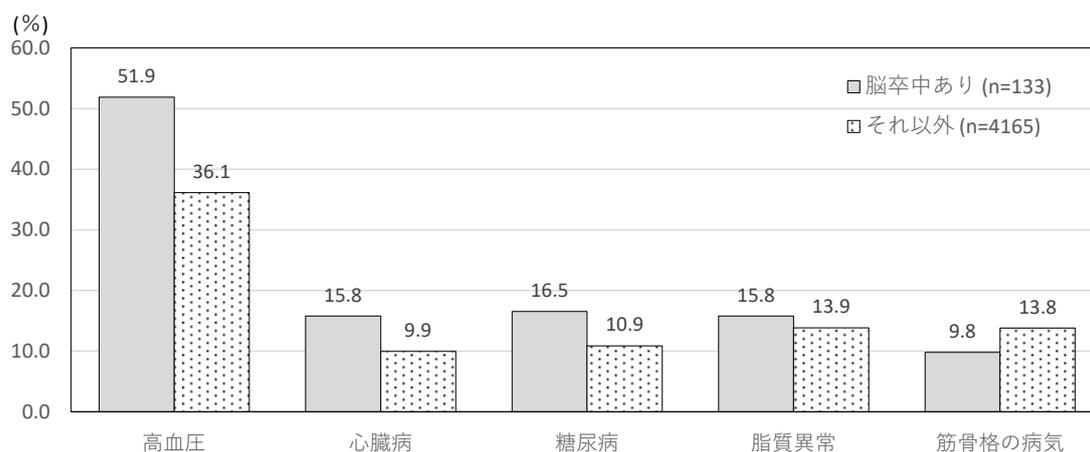


脳卒中については、リスク要因が概ね明らかとなっています。具体的には、加齢、性別、喫煙、肥満、高血圧、糖尿病などです。

今回の調査結果でも、「現在治療中、または後遺症のある病気」として「脳卒中」と回答した方とそれ以外の方の他の病気の有病率をみると以下の図表のとおりとなっており、高血圧、心臓病、糖尿病については、脳卒中有病者でそれぞれの有病率が顕著に高くなっています。

こうした疾病と脳卒中の関連が今回の調査結果からもうかがえます。

図表 脳卒中有病者の他の疾病（有病率）



5 疾病

(9) 通院

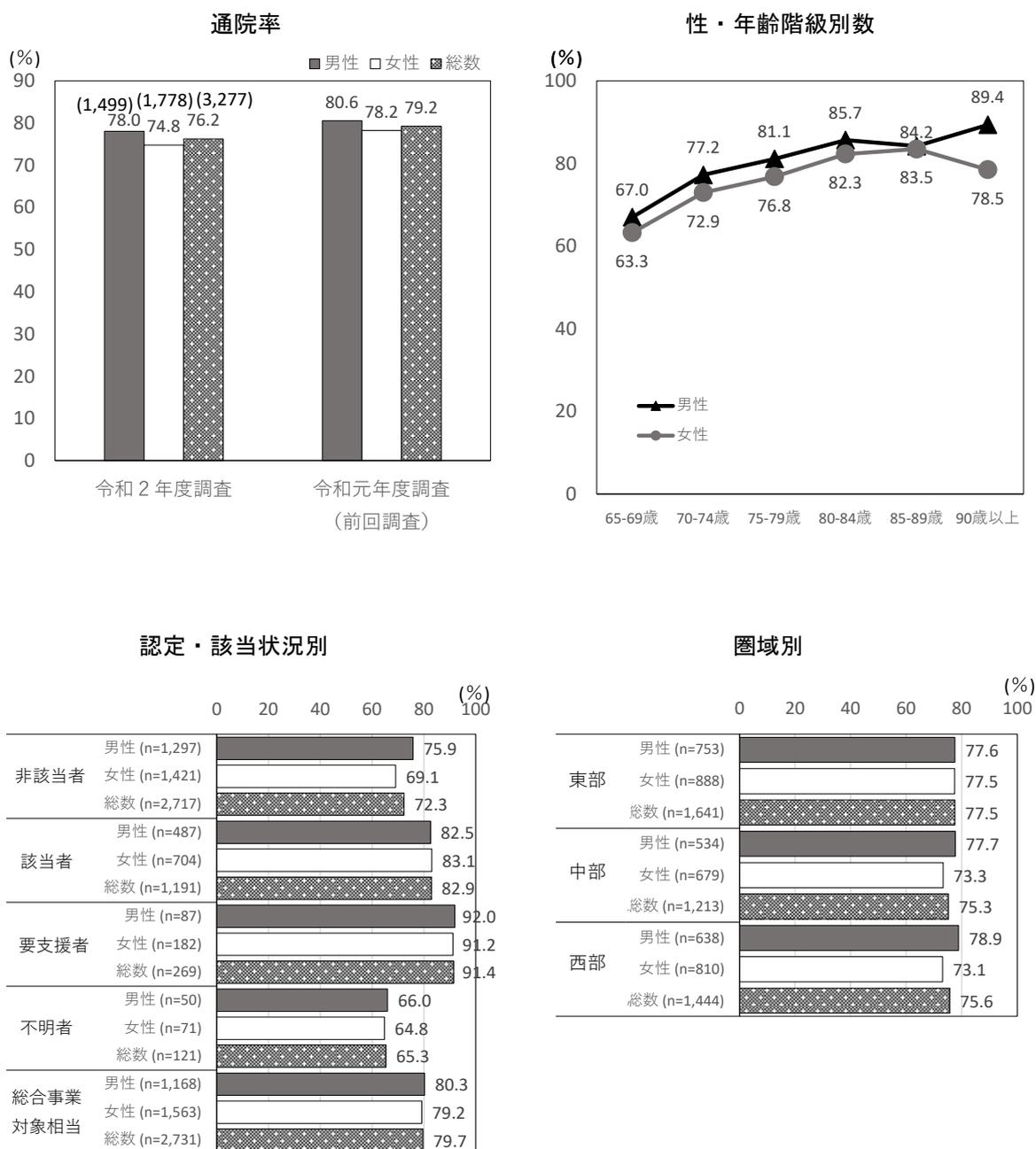
病院・医院（診療所、クリニック）への通院についてみます。

通院者の割合（通院率）についてみると、全体で3,277人76.2%（男性1,499人78.0%、女性1,778人74.8%）となっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で3.0ポイント低くなっています。

認定・該当状況別では、要支援者で通院率が91.4%と非該当者の72.3%より約20ポイント高くなっています。

圏域別では、西部圏域の男性で通院率が他圏域より少し高くなっています。

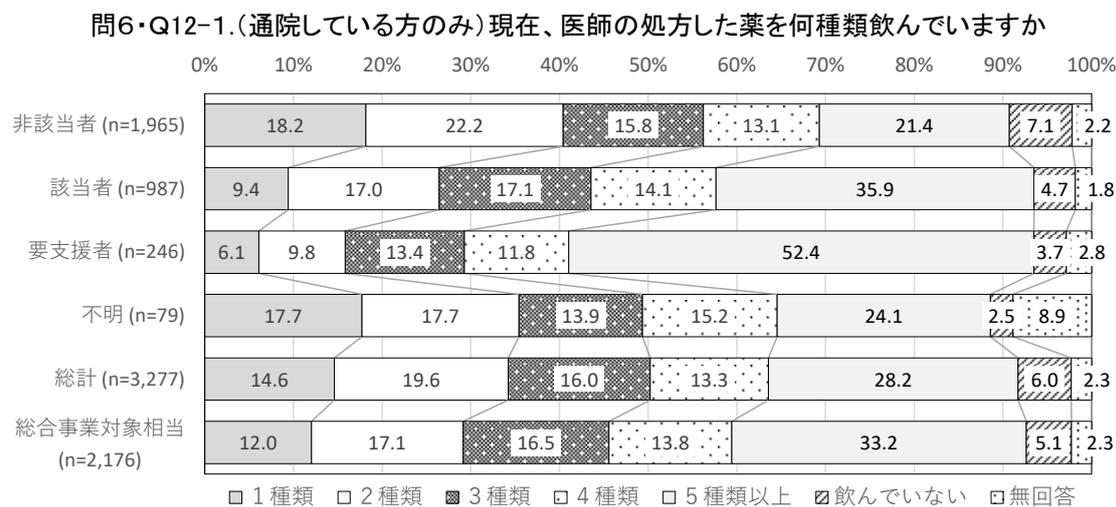
図表 通院状況



次に、通院している方に医師の処方した薬を何種類飲んでいるかについて質問したところ、「5種類以上」が28.2%で最も多く、次いで「2種類」(19.6%)、「3種類」(16.0%)、「1種類」(14.6%)となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者で5種類以上飲んでいる方が52.4%と半数を占めています。

図表 薬を飲む種類



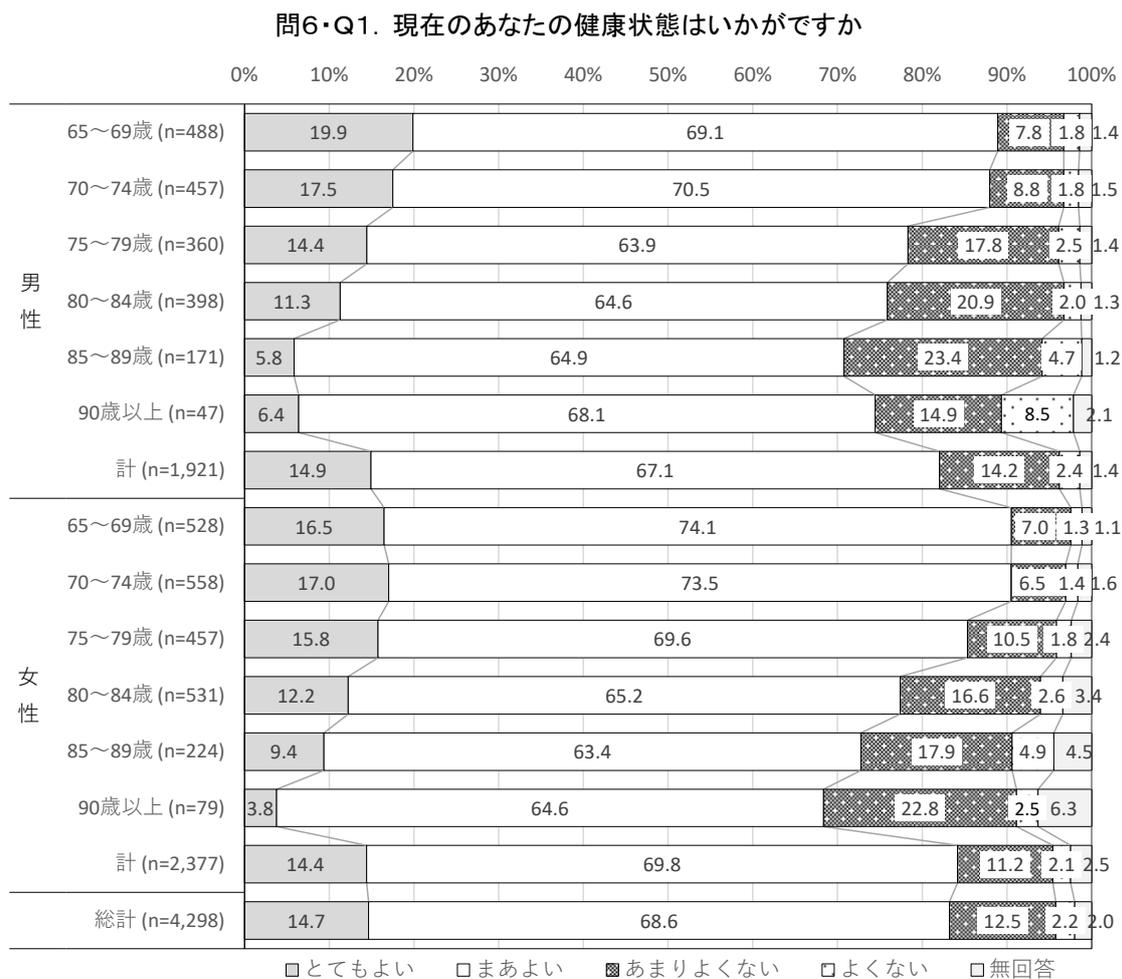
6 健康・生活習慣

6 健康・生活習慣

(1) 主観的健康感

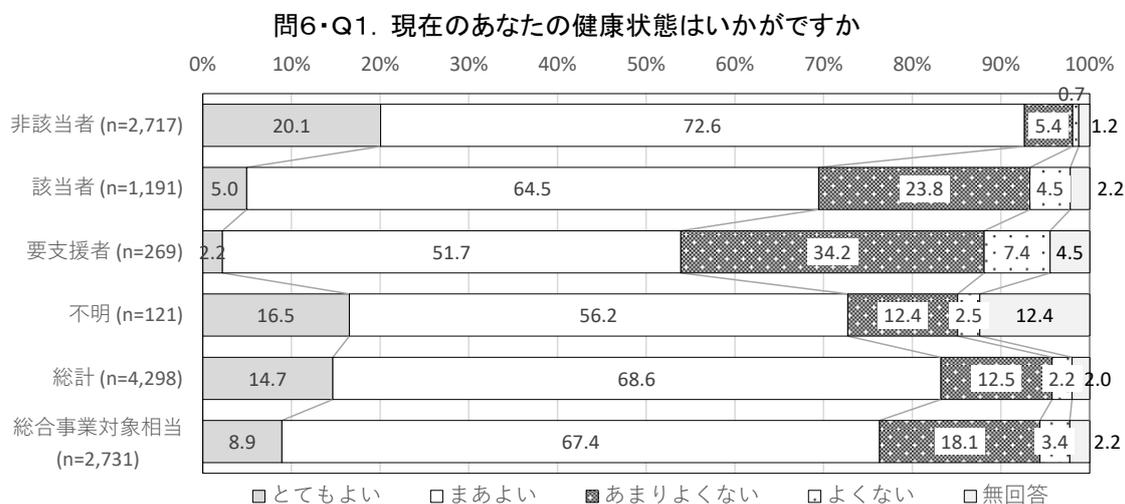
高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感（問6・Q1）の回答結果をみると、「とてもよい」「まあまあよい」との回答（健康群）は、全体でそれぞれ14.7%、68.6%、「あまりよくない」「よくない」（不健康群）はそれぞれ12.5%、2.2%となっています。また、年齢が高くなるほど健康群の割合が低くなる傾向がみられます。

図表 主観的健康感－性・年齢階級別



認定・該当状況別では、「(あまり)よくない」との回答は、該当者、要支援者がそれぞれ28.3%、41.6%と比較的高くなっている一方、「とてもよい」の回答は非該当者が20.1%と高くなっています。

図表 主観的健康感



6 健康・生活習慣

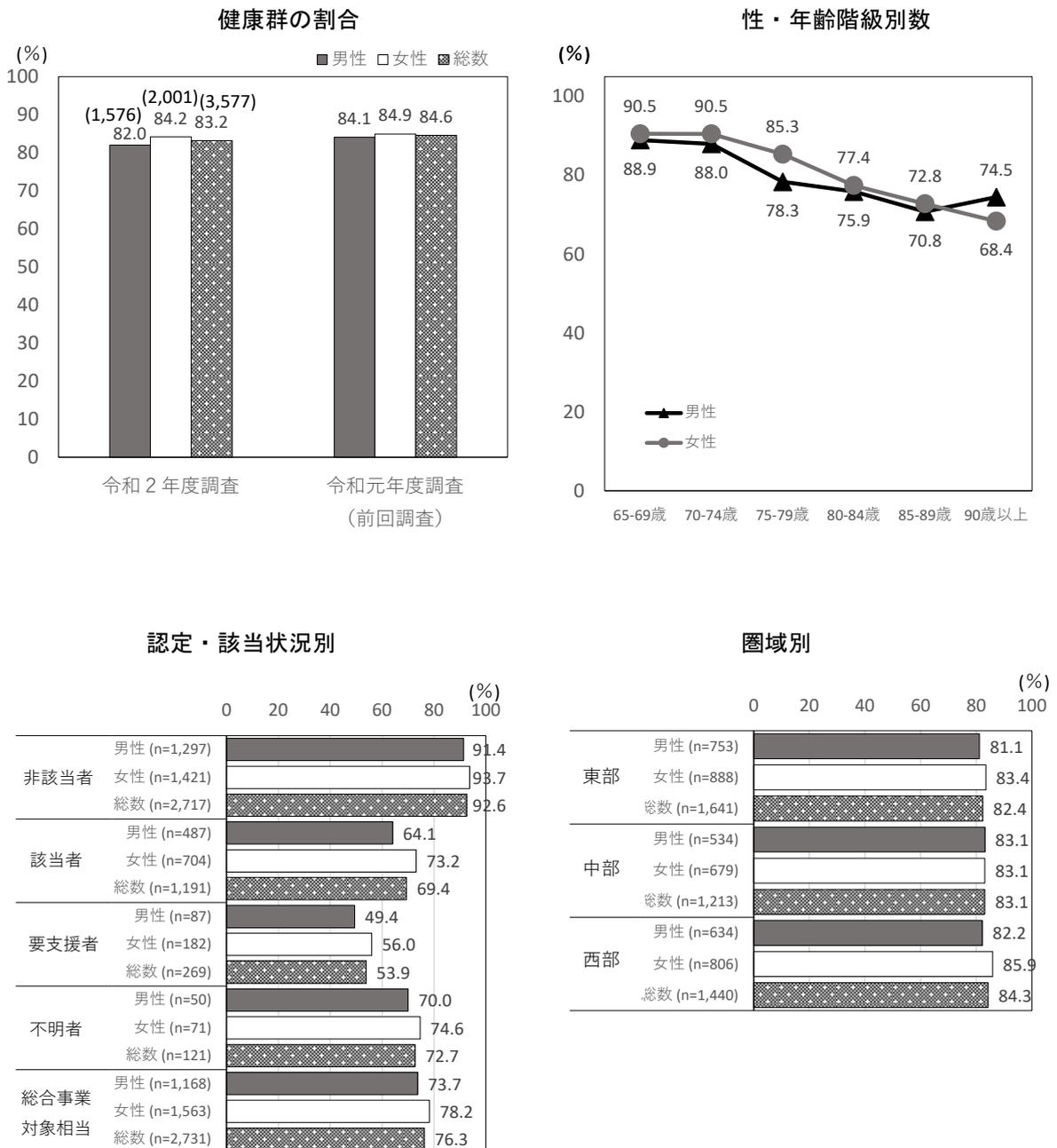
「(とても・まあ) よい」とする肯定的な回答をした者(健康群)についてまとめると、全体では3,577人83.2%(男性1,576人82.0%、女性2,001人84.2%)が健康群となっています。

性・年齢階級別では、年齢が高いほど健康群の割合が低くなる傾向がみられます。

認定・該当状況別に健康群の割合をみると、男女ともに非該当者が高く、該当者、要支援者で低くなっています。

圏域別では、西部圏域が84.3%とやや高くなっています。

図表 主観的健康感—健康群の割合



(2) 肥満度

生活習慣に関連する項目の1つとして、肥満度についてみます（問3・Q1）。

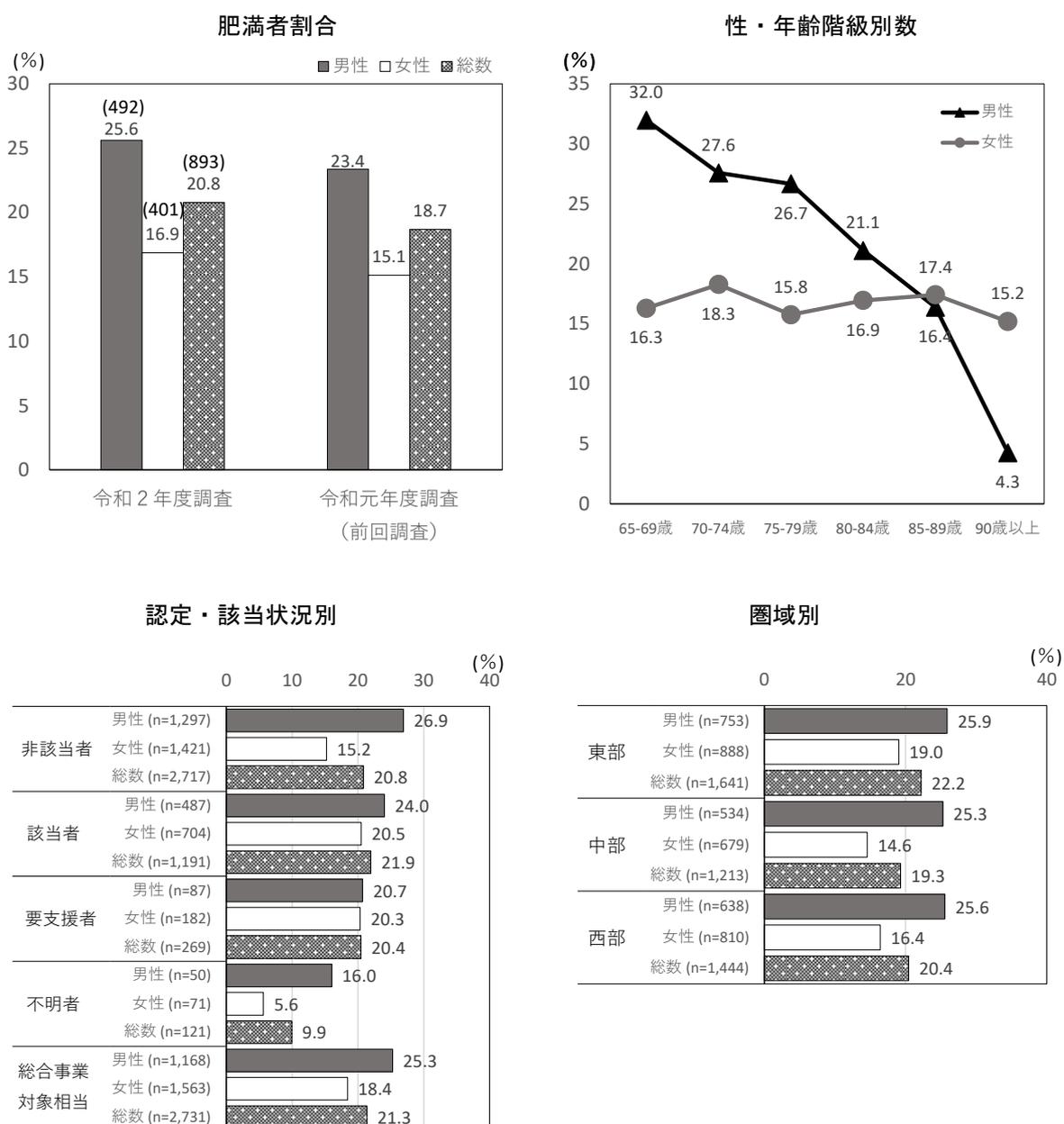
肥満者（BMI＝体重kg／身長m²≥25）の割合は全体で20.8%（男性25.6%、女性16.9%）となっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で2.1ポイント高くなっています。

性・年齢階級別では、65～69歳の男性で肥満者割合が高くなっています。

認定・該当状況別では、男性では、非該当者の肥満者割合が26.9%と高く、該当者、要支援者の順に低くなっていますが、女性では、非該当者の肥満者割合が15.2%と低く、該当者では20.5%、要支援者では20.3%となっています。

圏域別にみると、いずれの圏域の男性で肥満者割合が25%以上となっています。

図表 肥満者割合



6 健康・生活習慣

(3) 飲酒

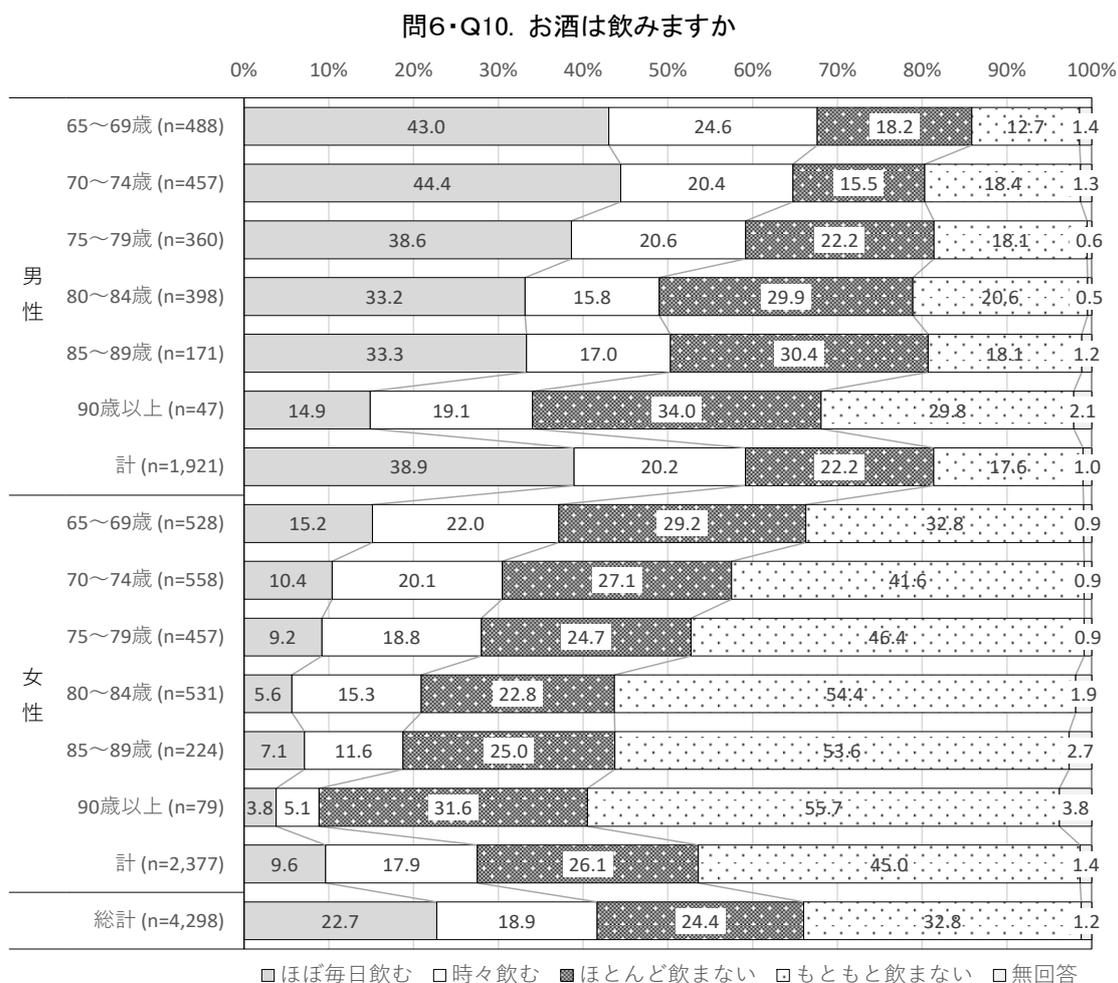
飲酒習慣についてみます（問6・Q10）。

「ほぼ毎日飲む」との回答は、全体で977人22.7%（男性748人38.9%、女性229人9.6%）となっており、性別による差が非常に大きくなっています。

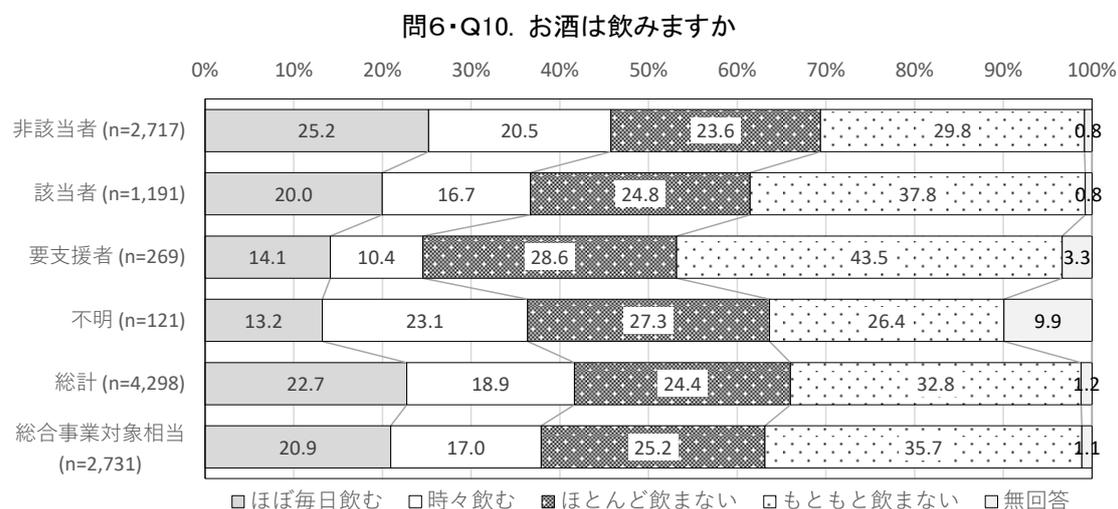
年齢階級別では、年齢が高いほどその割合が低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者でその割合が高くなっています。

図表 飲酒習慣一性・年齢階級別



図表 飲酒習慣一認定・該当状況別

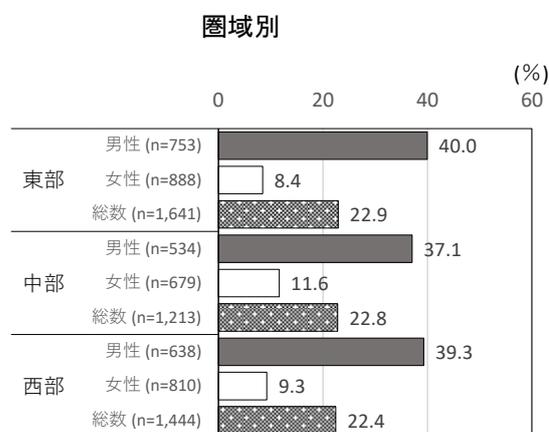
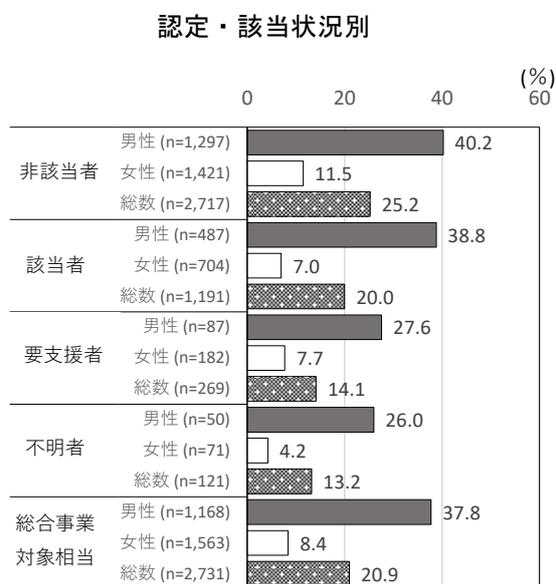
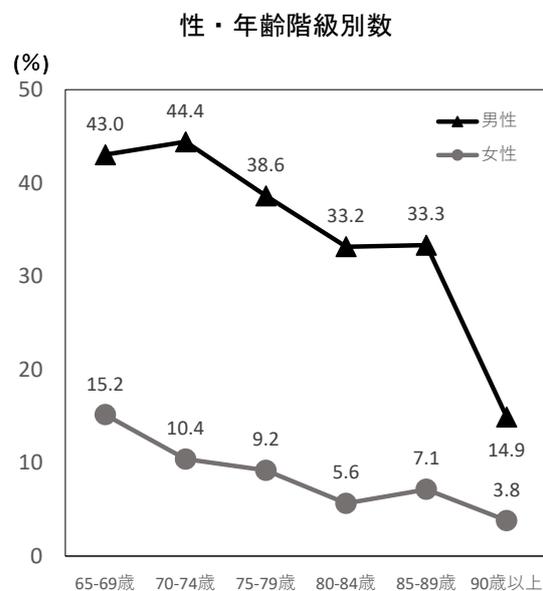
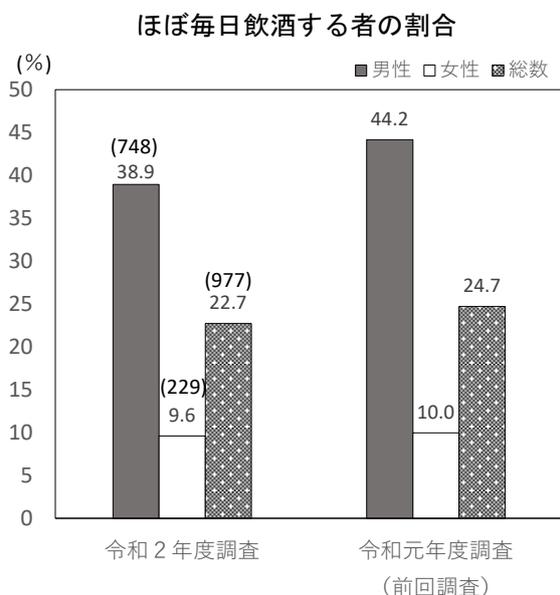


(3) 飲酒

令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で2.0ポイント低くなっています。
 認定・該当状況別でみると、「ほぼ毎日飲む」との回答が非該当者の男性で40.2%、該当者の男性で38.8%と高くなっています。

圏域別にみると、東部圏域の男性で飲酒する割合が40.0%と高くなっています。

図表 飲酒習慣



6 健康・生活習慣

(4) 喫煙

喫煙習慣についてみます（問6・Q11）。

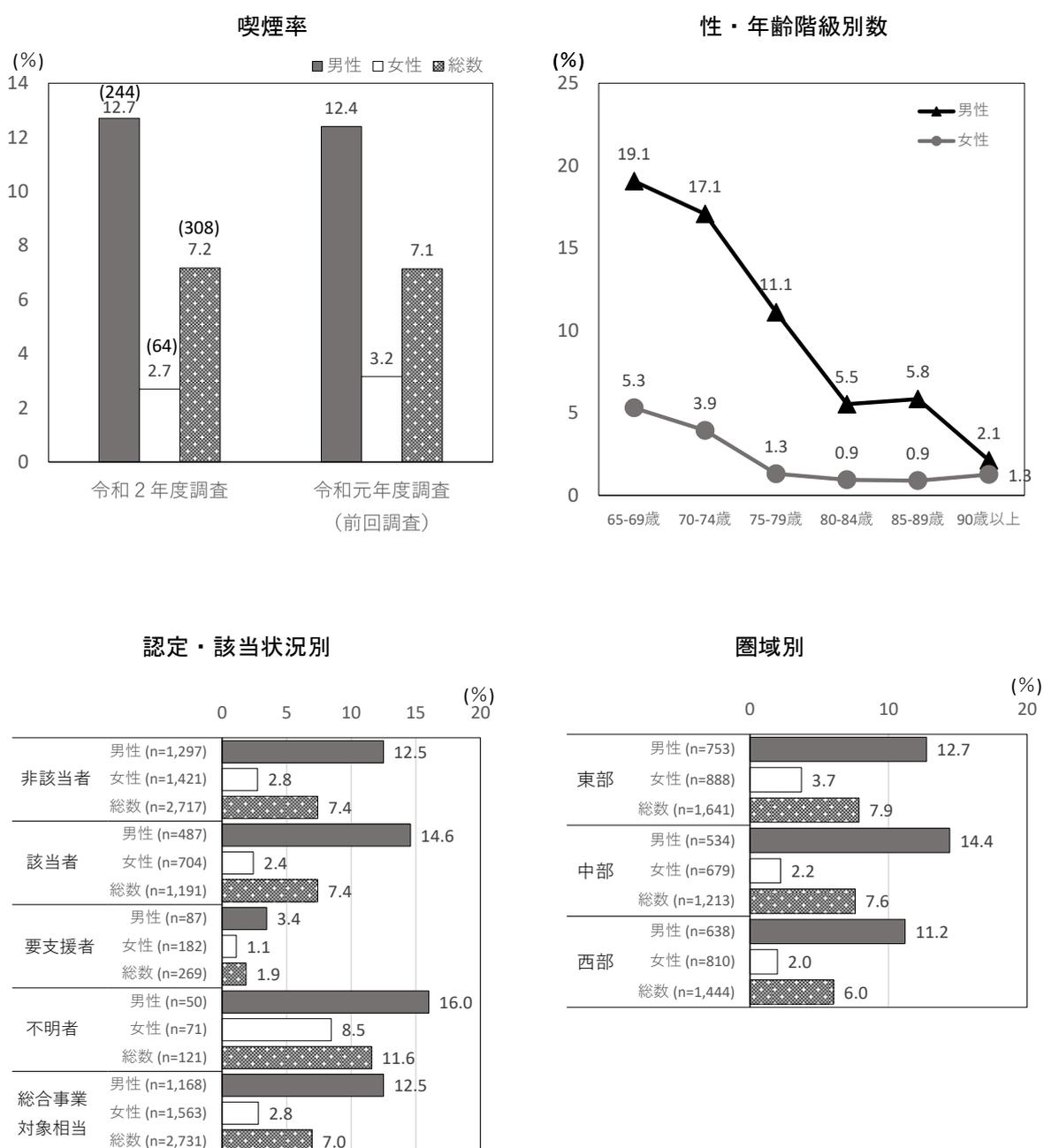
「ほぼ毎日（時々）吸っている」との回答の割合（喫煙率）は、全体で308人7.2%（男性244人12.7%、女性64人2.7%）となっており、飲酒同様、性別による差が非常に大きくなっています。令和元年度調査（前回調査）と比較すると、全体で0.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、年齢が高いほど喫煙率は低くなる傾向となっています。

認定・該当状況別では、非該当者7.4%、該当者7.4%、要支援者1.9%と、非該当者と該当者で喫煙率が比較的高くなっています。

圏域別では、中部圏域の男性で喫煙率が14.4%と比較的高くなっています。

図表 喫煙習慣

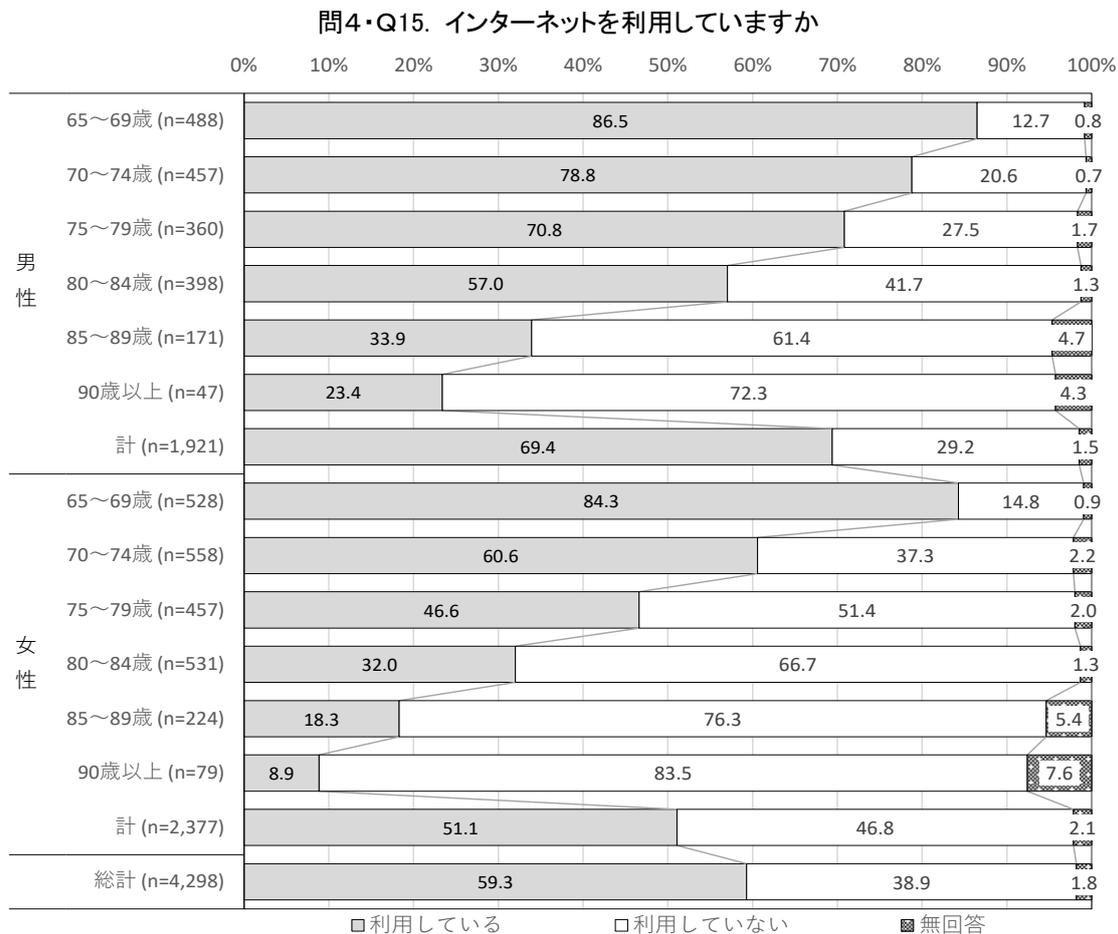


(5) インターネットの利用

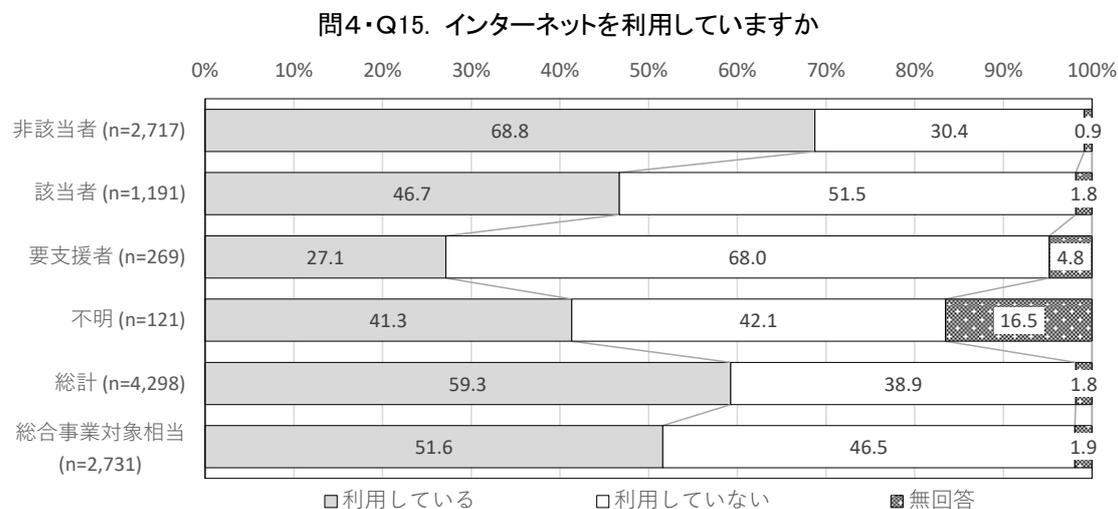
インターネットの利用について、全体として「利用している」の回答は59.3%、「利用していない」は38.9%となっています

性・年齢階級別にみると、年齢が高くなるほどインターネットの利用率が低下しています。65～69歳では、男女とも8割以上がインターネットを利用しているとの結果となっています。認定・該当状況別にみると、要支援者でインターネットの利用率が低くなっています。

図表 インターネットの利用—インターネットの利用



図表 インターネットの利用—認定・該当状況別



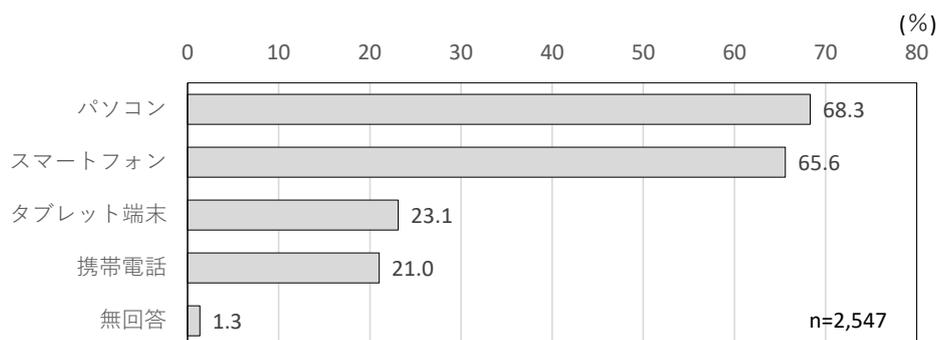
6 健康・生活習慣

インターネットを「利用している」のうち、使用端末については、「パソコン」が68.3%と最も多く、次いで「スマートフォン」(65.6%)、「タブレット端末」(23.1%)、「携帯電話」(21.0%)となっています。

また、インターネットの利用目的として、「メール」と「検索(ニュースや情報・単語、地図、道案内など)」が84.1%と最も多く、次いで「SNS」が62.0%などとなっています。

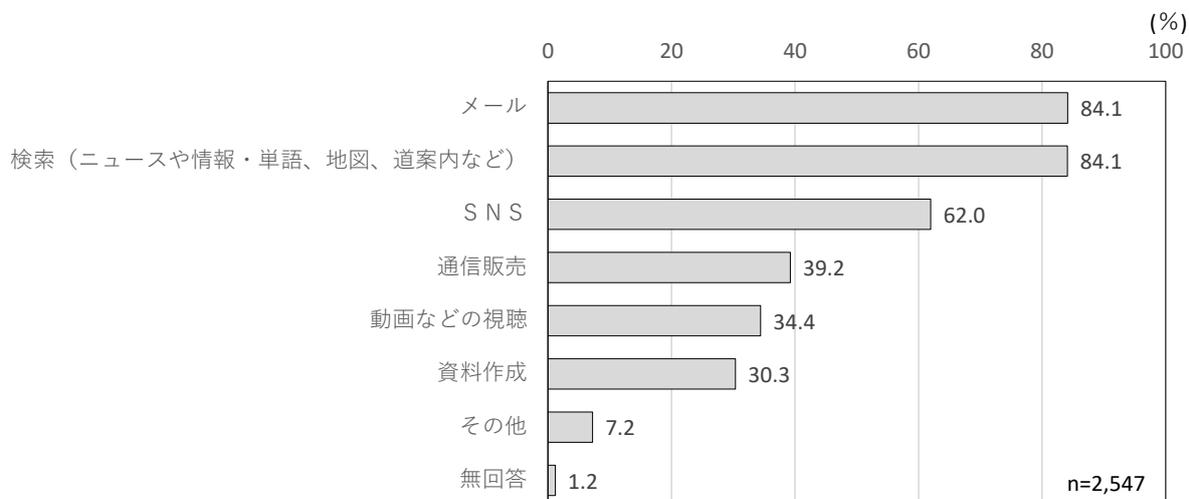
図表 インターネットの利用－使用端末

問4・Q15-1. 何を使用してインターネットを利用していますか(いくつでも)



図表 インターネットの利用－利用目的

問4・Q15-2. インターネットの利用は何ですか(いくつでも)



(6) 就労

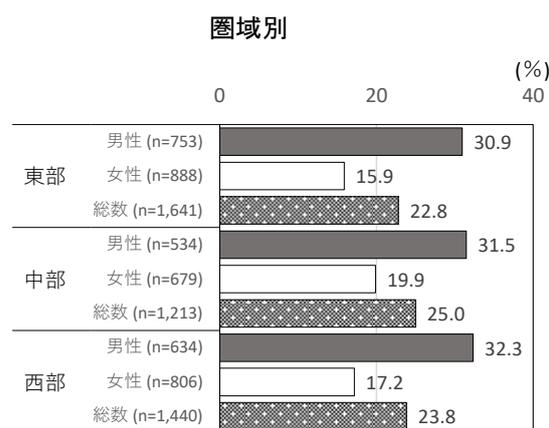
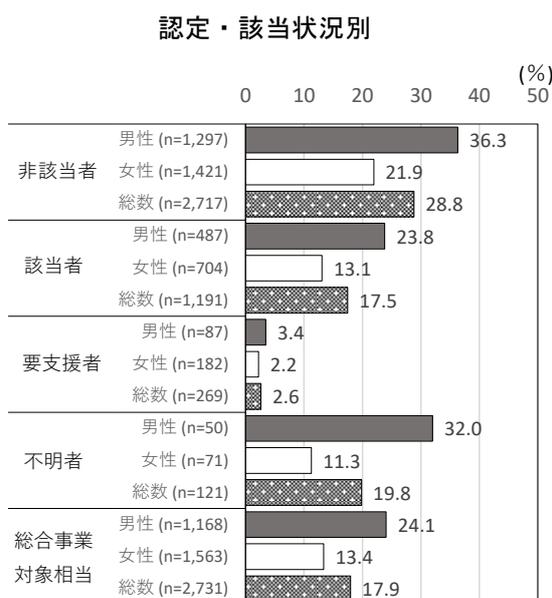
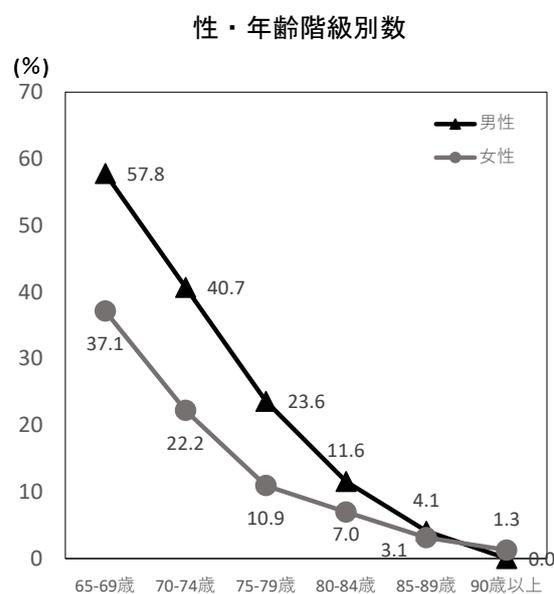
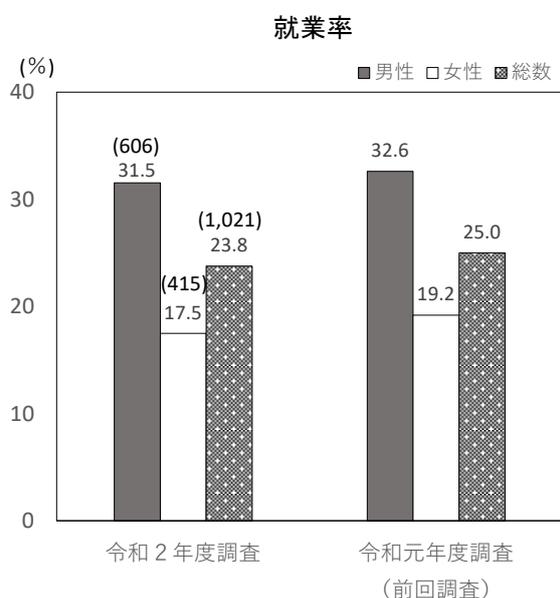
収入を伴う仕事の有無について、「収入のある仕事」(問5・Q1(8))を「週4回以上」～「年数回」と回答したのは、全体で1,021人23.8%(男性606人31.5%、女性415人17.5%)となっています。女性より男性で収入のある仕事をしている割合が高くなっています。

性・年齢階級別にみると、65～69歳の男性で57.8%、女性で37.1%と高くなっていますが、年齢が上がるほど割合は低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者の28.8%、該当者の17.5%、要支援者の2.6%、不明の19.8%、総合事業対象相当の17.9%が収入のある仕事をしていると回答しています。

圏域別でみると、中部圏域で25.0%と比較的高くなっています。

図表 就業率



7 介護の状況

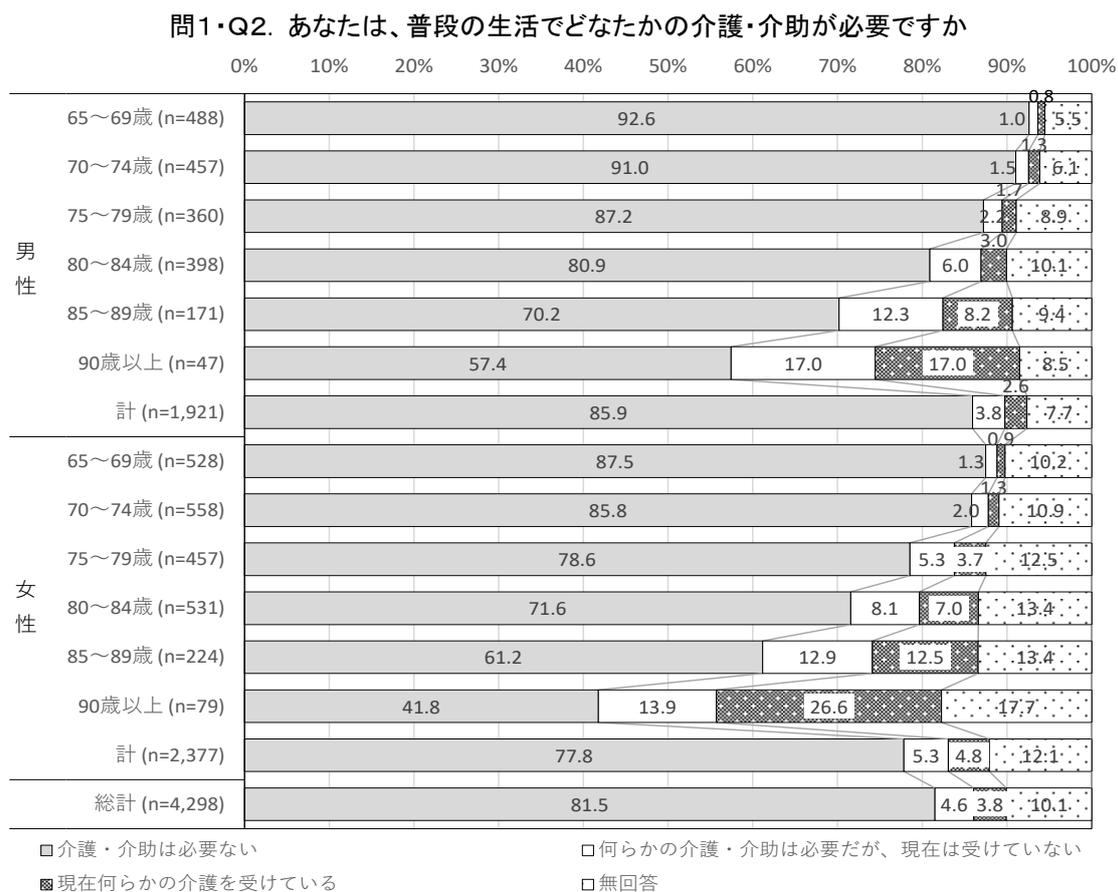
7 介護の状況

(1) 介護・介助の必要性

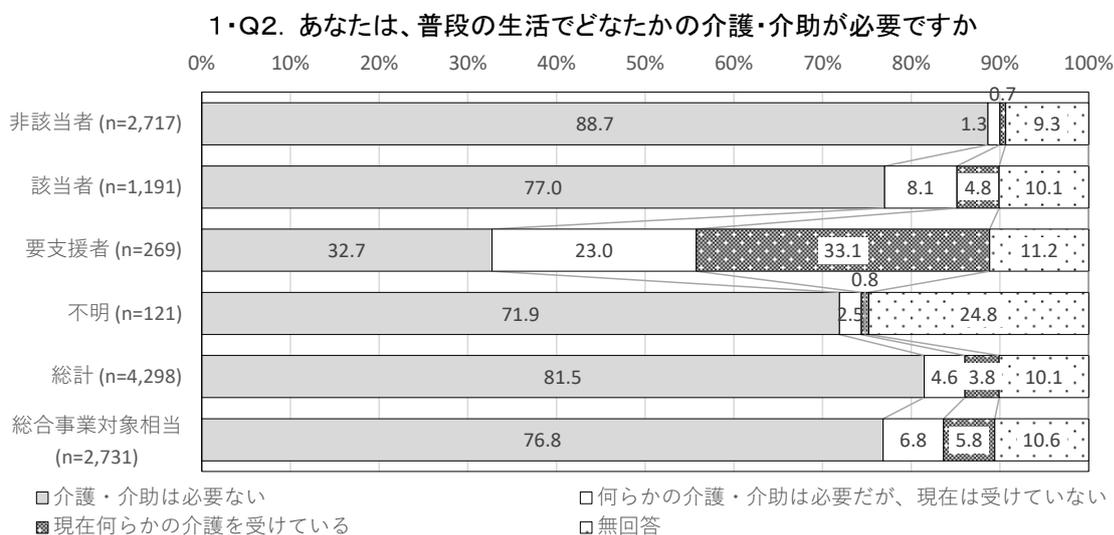
介護・介助（手助け）の必要性に関する設問（問1・Q2）に対する回答をみると、年齢が高いほど介護・介助を必要とする方の割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者では「介護・介助は必要ない」が32.7%、「現在、何らかの介護を受けている」が33.1%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が23.0%と回答しています。

図表 介護・介助の必要性－性・年齢階級別



図表 介護・介助の必要性－認定・該当状況別

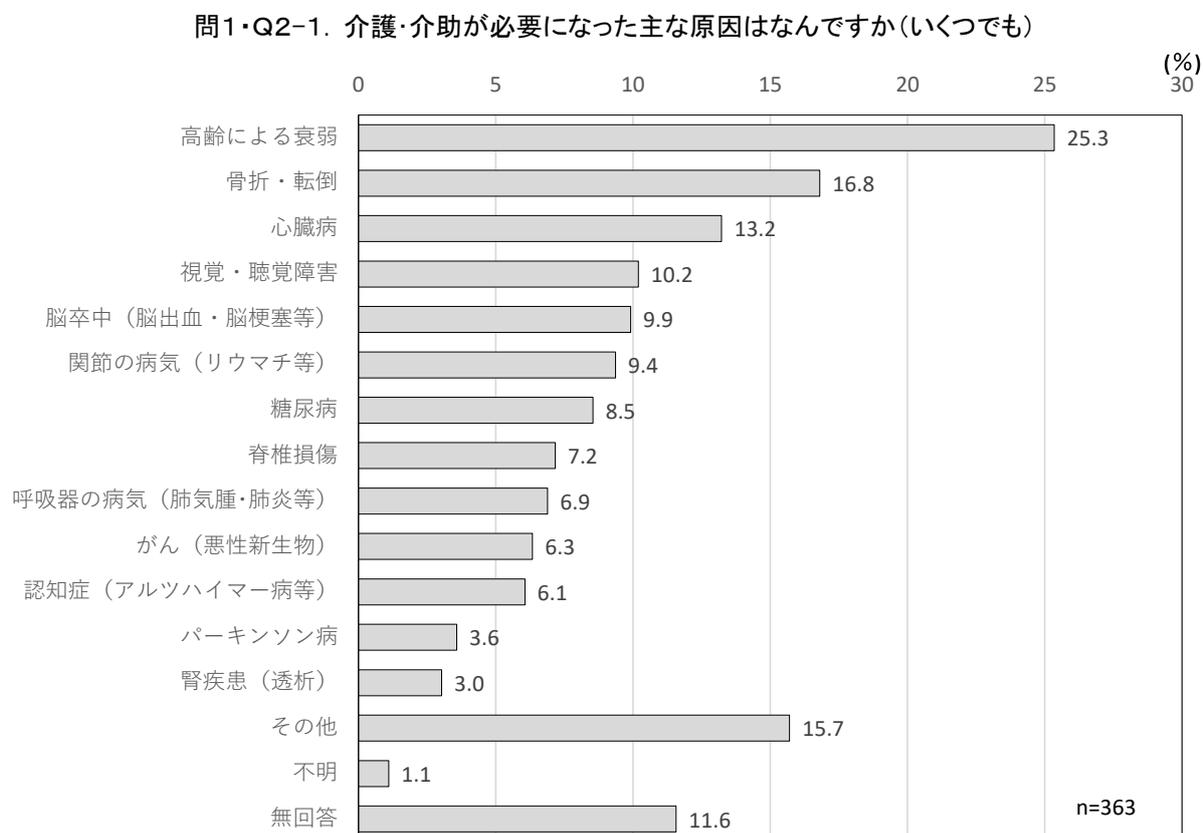


(1) 介護・介助の必要性

(2) 要介護・介助の原因

「介護・介助は必要」（「介護を受けている」を含む。）と回答した方について、その主な原因みると、最も多いのは「高齢による衰弱」が25.3%、次いで「骨折・転倒」（16.8%）、「心臓病」（13.2%）、「視覚・聴覚障害」（10.2%）と続いています。

図表 介護・介助が必要になった原因



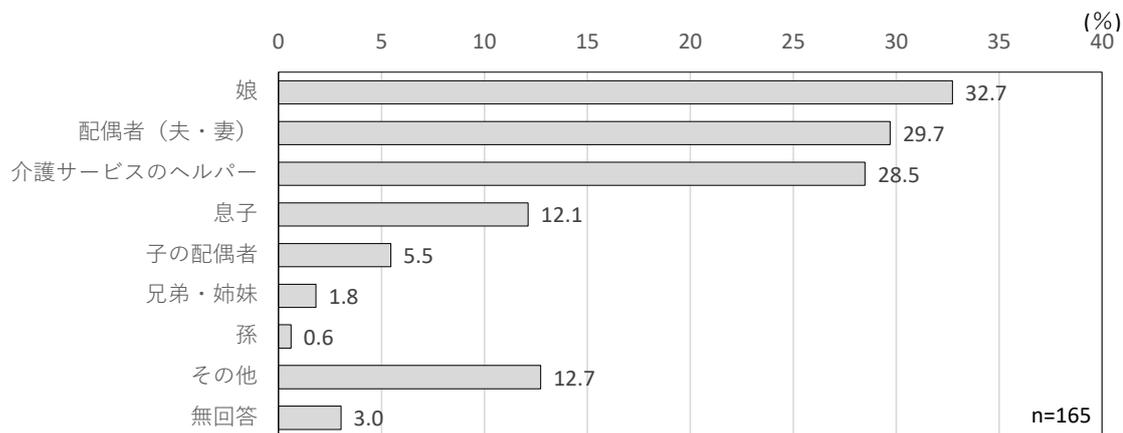
7 介護の状況

(3) 介護者

問1・Q2で「介護を受けている」と回答している方の介護者は、「娘」(32.7%)が最も多く、次いで「配偶者(夫・妻)」(29.7%)「介護のサービスヘルパー」(28.5%)、「息子」(12.1%)となっています。

図表 主な介護者

問1・Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか(複数回答)



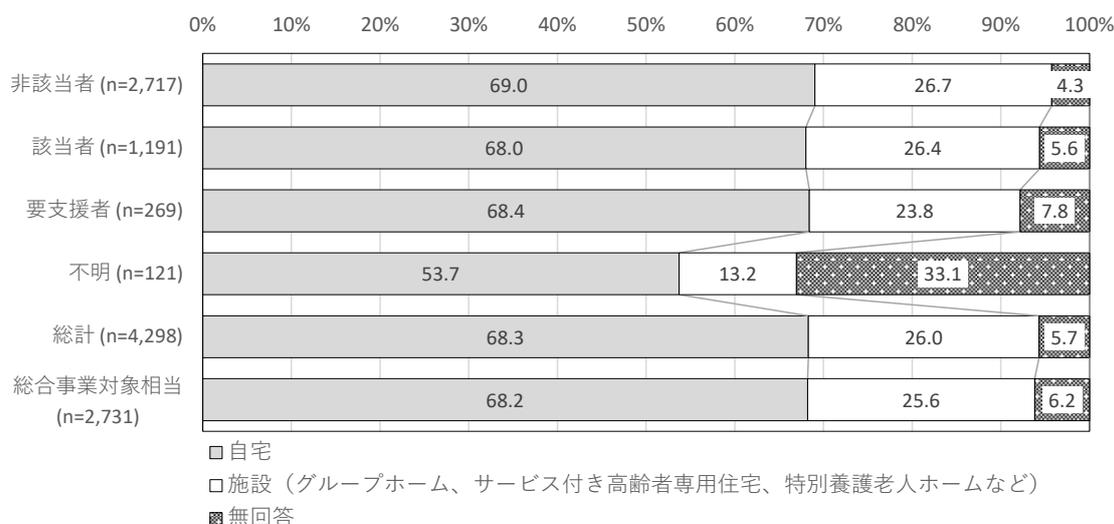
(4) 介護が必要な状態になった後の暮らし

介護が必要な状態になった後暮らしたい場所については、「自宅」が68.3%で多く、「施設」は26.0%となっています。

自宅に暮らすにあたり、どのようなサービスを受けたいかについては、「介護保険のサービスを受けたい」72.7%が最も多く、次いで「家族による介護を受けたい」(26.0%)、「民間事業者が提供する自費サービス」(4.5%)と続いています。

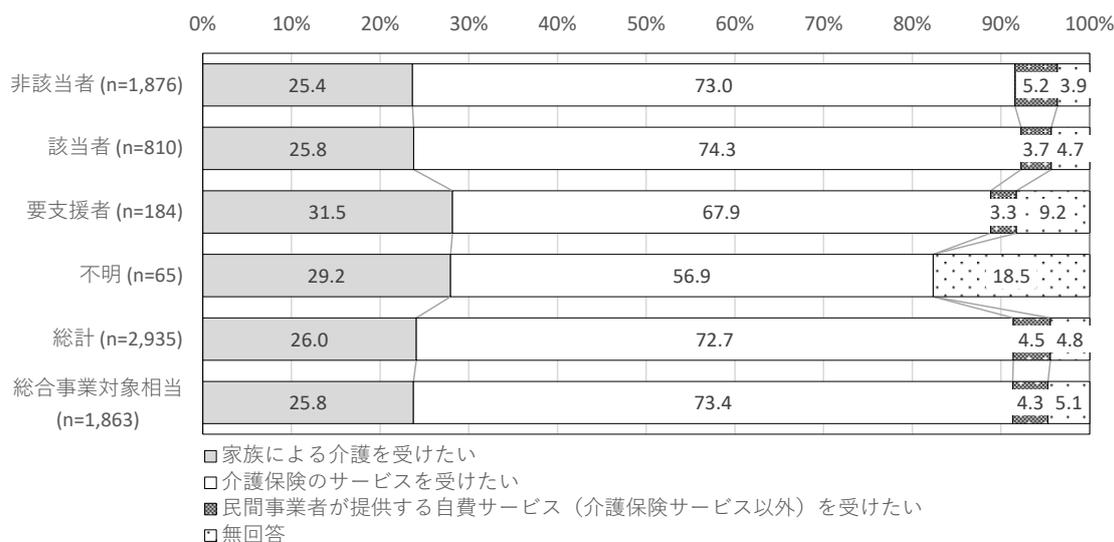
図表 暮らす場所

問1・Q5. 介護が必要な状態になったら(既に必要な状態の場合も含む)、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか



図表 サービス (支援)

問1・Q5-1.(自宅で暮らしたい方のみ) 自宅で暮らすにあたり、どのようなサービス(支援)を受けたいですか



8 保健福祉サービス

8 保健福祉サービス

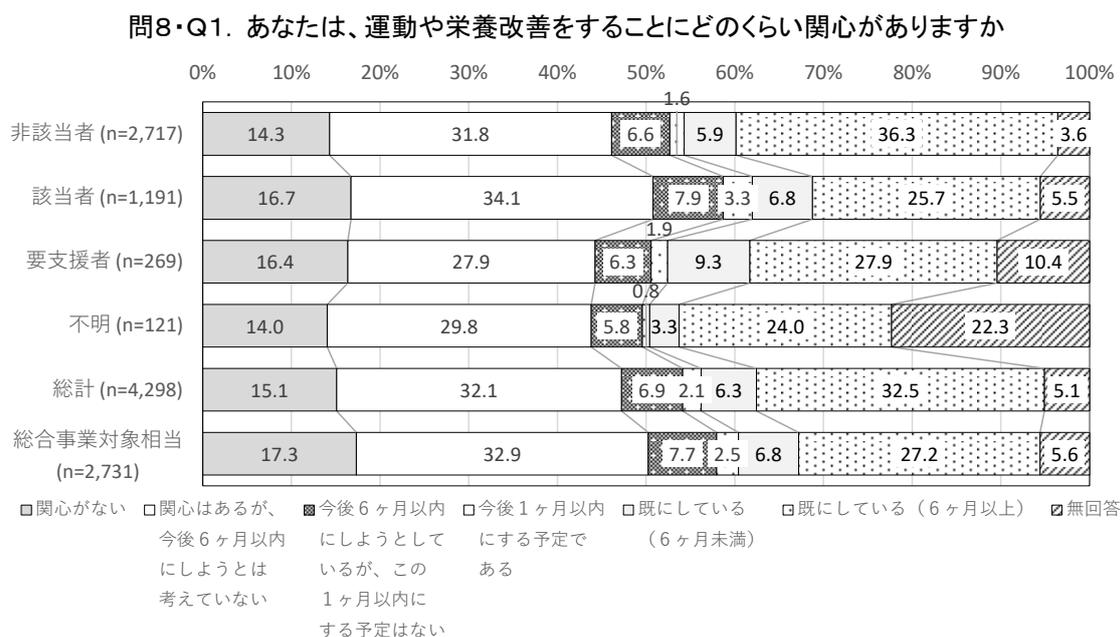
(1) 運動や栄養改善への関心度

介護予防事業への参加意向と関連する運動・栄養改善への関心度についてみてみます。

全体では、「既に行っている（6ヶ月以上）」が32.5%、「関心はあるが、今後（6ヶ月以内に）しようとは考えていない」が32.1%、「関心がない」が15.1%と続いています。

該当者と非該当者を比較すると、「関心はあるが今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」や「関心がない」といった消極的な回答の割合は、該当者で50.8%となっており、非該当者（46.1%）より高くなっています。

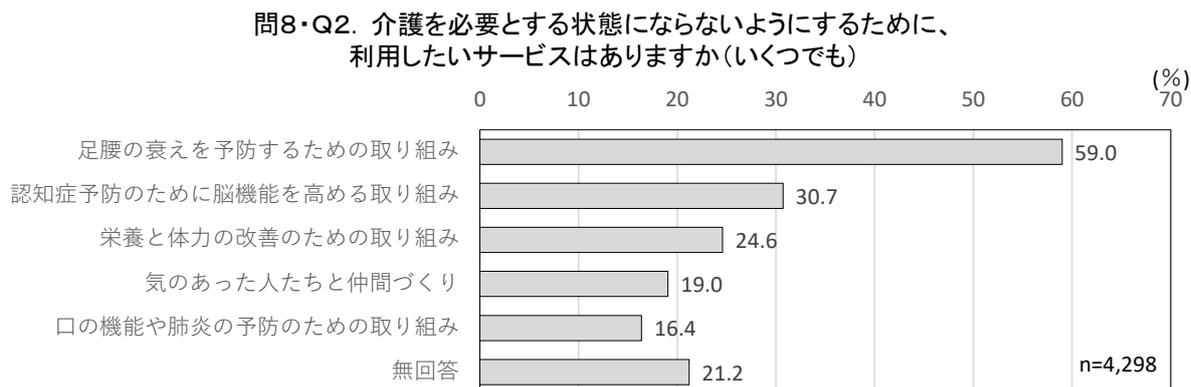
図表 運動・栄養改善への関心度



(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス

介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスとしては、「足腰の衰えを予防するための取り組み」が59.0%と最も多く、次いで「認知症予防のために脳機能を高める取り組み」（30.7%）、「栄養と体力の改善のための取り組み」（24.6%）、「気のあった人たちとの仲間づくり」（19.0%）などが続いています。

図表 介護状態にならないためのサービス



(1) 運動や栄養改善への関心度

(2) 介護を必要とする状態にならないためのサービス

(3) 利用しているサービス

利用しているサービスとしては、「通所介護/通所型（デイ）サービス（介護保険）」が2.2%で最も多く、次いで「訪問介護/訪問型サービス（介護保険）」(1.6%)、などとなっています。

「利用していない」との回答は83.0%となっています。

生活援助サービスを利用しているかについては、「掃除」が72.1%で最も多く、「買い物」が18.0%となっています。

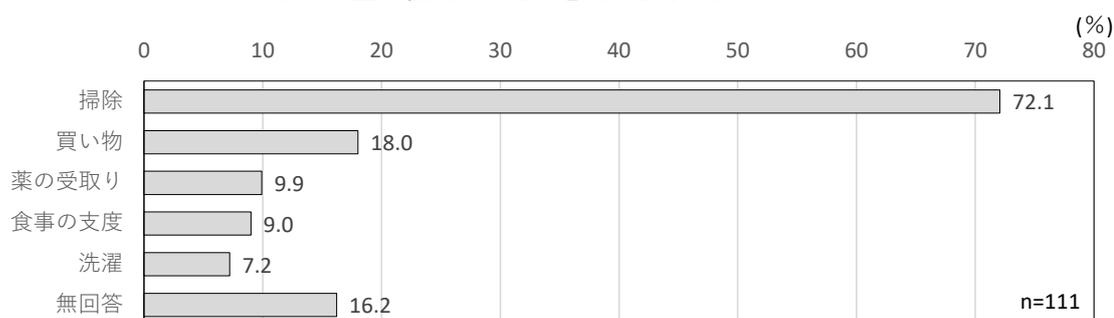
図表 利用しているサービス

問8・Q3. 以下のサービスを利用していますか(いくつでも)



図表 生活援助サービスの利用

問8・Q3-1.(Q3で「訪問介護(介護保険)」と回答された方のみ)
以下の生活援助サービスを利用していますか



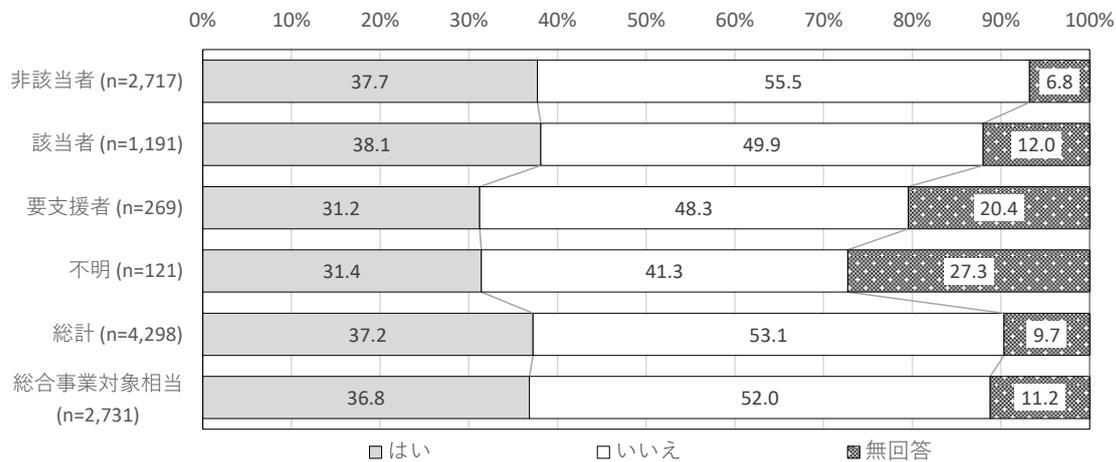
8 保健福祉サービス

(4) 介護予防教室への参加意向

逗子市で行う介護予防のための教室に参加したいかについては、「はい」（参加したい）が37.2%、「いいえ」が53.1%となっています。

図表 介護予防教室への参加意向

問8・Q4. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか（介護予防機能向上トレーニング・シニアヘルスアップ運動教室）



9 住宅・暮らし

(1) 住宅の所有関係

住宅の所有関係をみると、最も多いのは「持家（一戸建て）」（75.4%）、次いで「持家（集合住宅）」（12.6%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（4.1%）の順となっています。（問1・Q4）。

図表 住宅の所有関係

問1・Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらにあたりますか



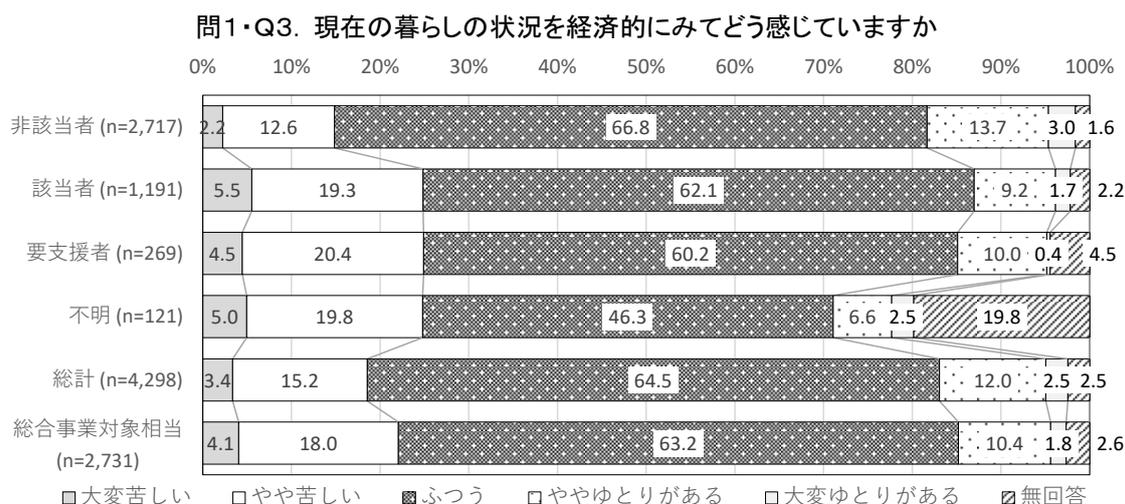
9 住宅・暮らし

(2) 現在の暮らしの状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が64.5%で最も多く、次いで「やや苦しい」(15.2%)、「ややゆとりがある」(12.0%)、「大変苦しい」(3.4%)となっています。

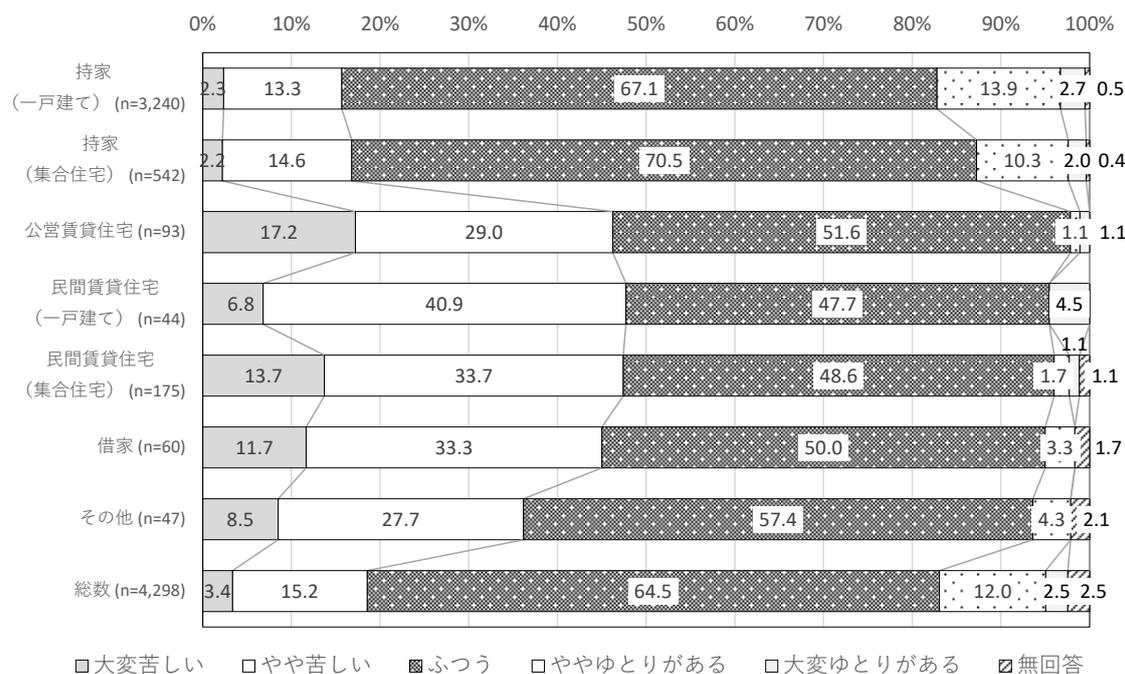
住宅の所有関係別にみると、持家と回答した者では「(大変・やや) 苦しい」との回答が2割以下となっている一方、公営賃貸住宅、民間賃貸住宅、借家と回答した者では4割以上と高くなっています。

図表 現在の暮らしの状況－認定・該当状況別



図表 現在の暮らしの状況－住宅所有関係別

問1・Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(住宅所有関係別)

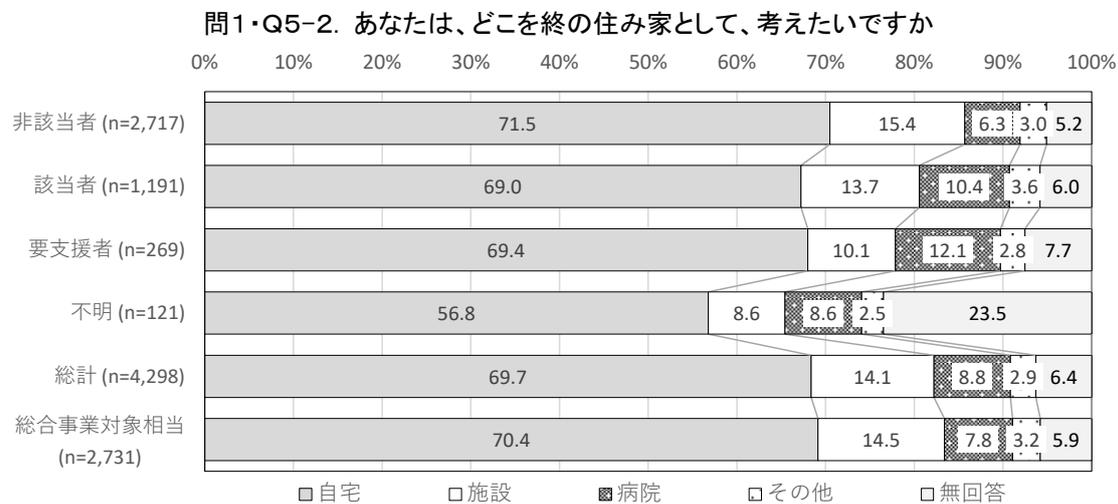


(2) 現在の暮らしの状況

(3) 終の住み家、エンディング

終の住み家として考えている場所については、「自宅」が 69.7%で多く、次に「施設」が 14.1%、「病院」が 8.8%となっています。

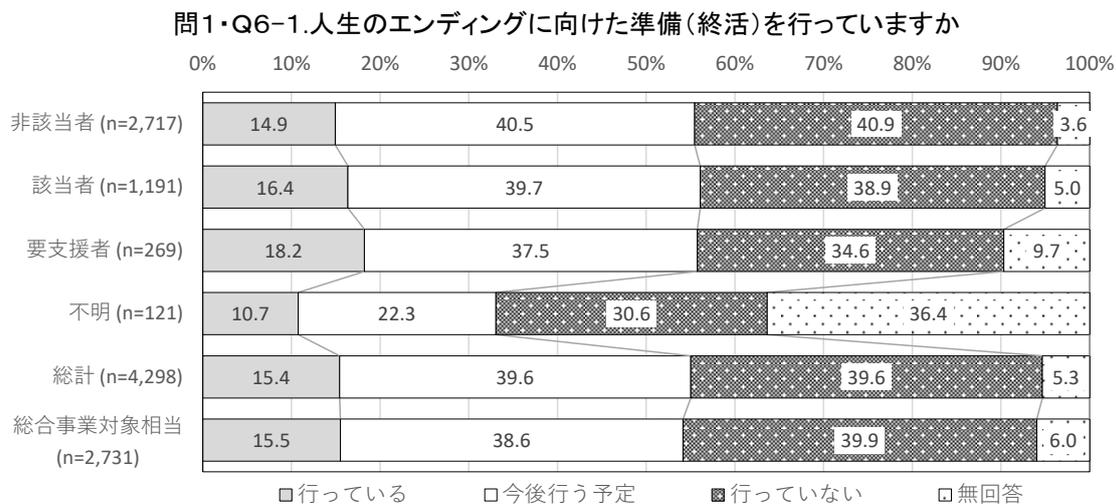
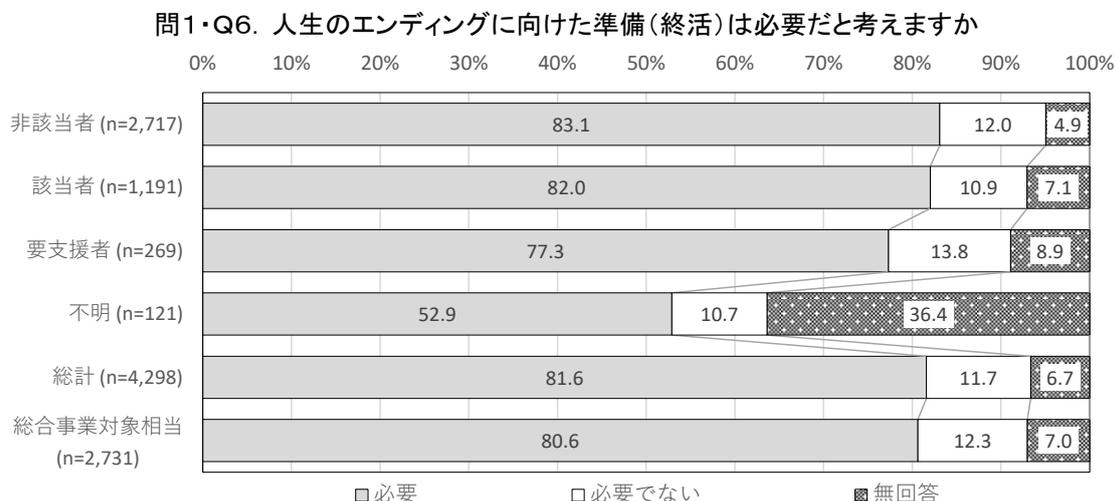
図表 終の住み家



9 住宅・暮らし

人生のエンディングに向けた準備（終活）については、「必要」が全体で81.6%となっていますが、人生のエンディングに向けた準備（終活）を「今後行う予定」と「行っていない」が39.6%と最も多く、次いで「行っている」が15.4%となっています。

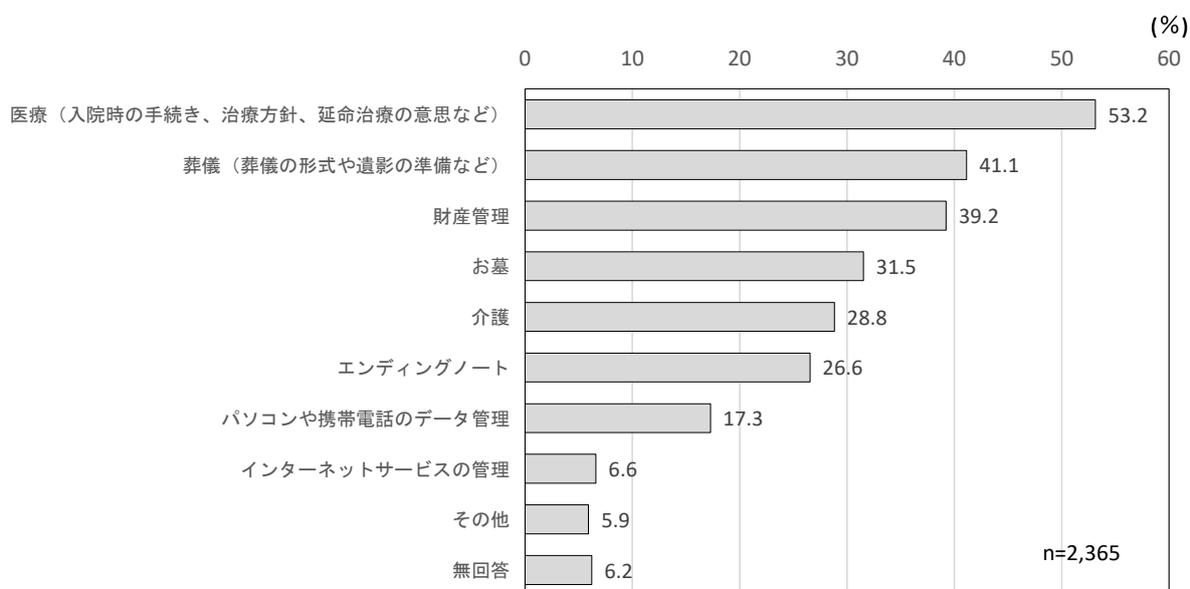
図表 エンディングに向けた準備



人生のエンディングに向けた準備（終活）の内容については「医療」が 53.2%最も多く、次いで「葬儀」（41.1%）、「財産管理」（39.2%）、「お墓」（31.5%）、「介護」（28.8%）、「エンディングノート」（26.6%）等の順に続きます。

図表 エンディングに向けた準備内容

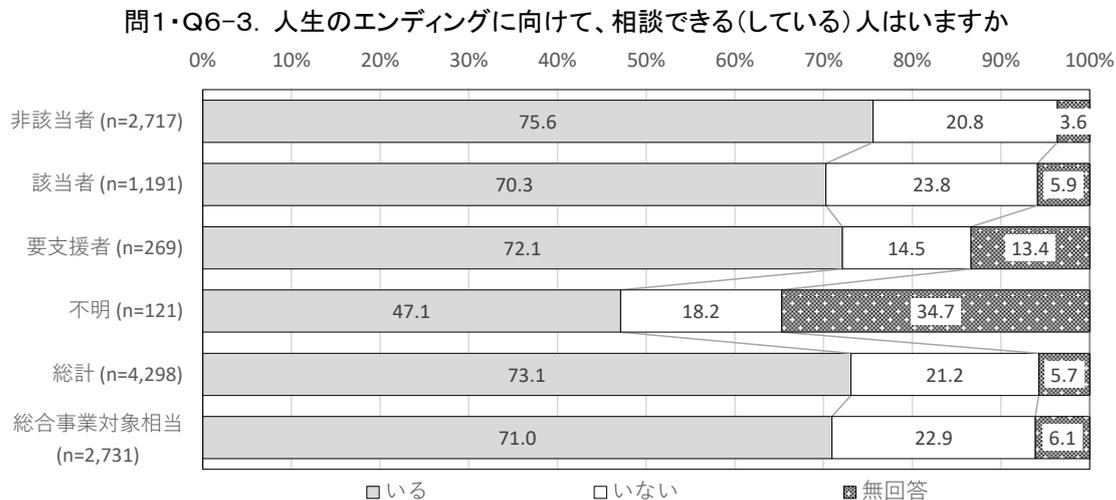
問1・Q6-2.（行っている、今後行う予定の方）具体的にはどのような内容の準備をされていますか（行う予定ですか）（いくつでも）



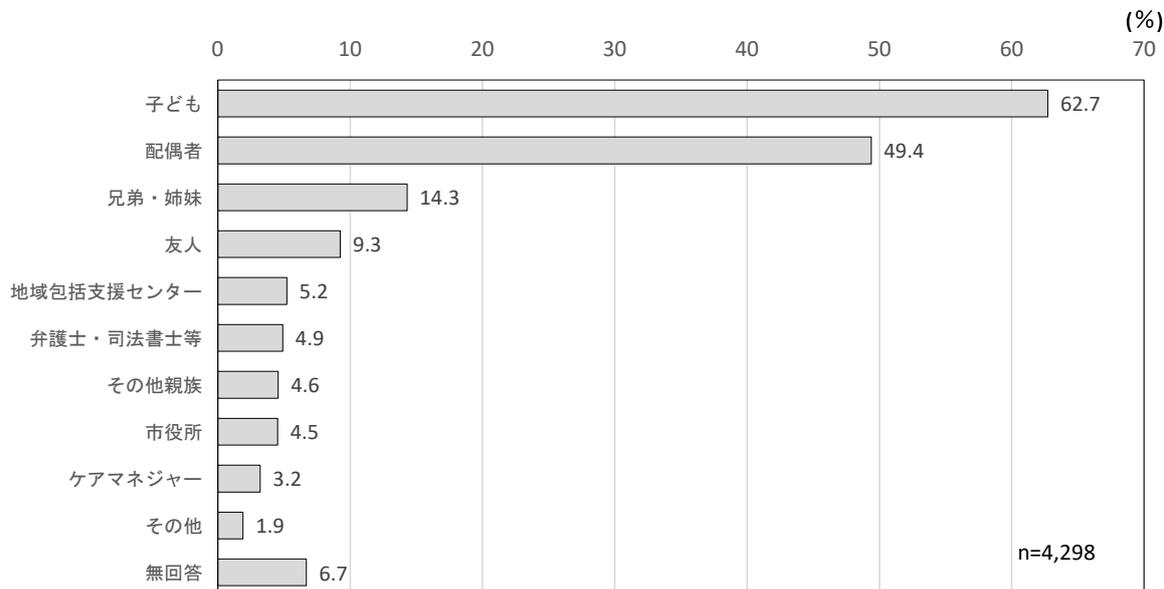
9 住宅・暮らし

人生のエンディングに向けて相談できる人は、全体の73.1%が「いる」と回答しています。また、相談する相手として「子ども」が62.7%と最も多く、次いで「配偶者」(49.4%)、「兄弟・姉妹」(14.3%)、「友人」(9.3%)等の順に続きます。

図表 エンディングに向けた相談相手



問1・Q6-4. 相談できる(している)人がいる方は、誰と相談できますか(していますか)
相談できる(している)人がいない方は、誰に相談したいと思いますか(いくつでも)

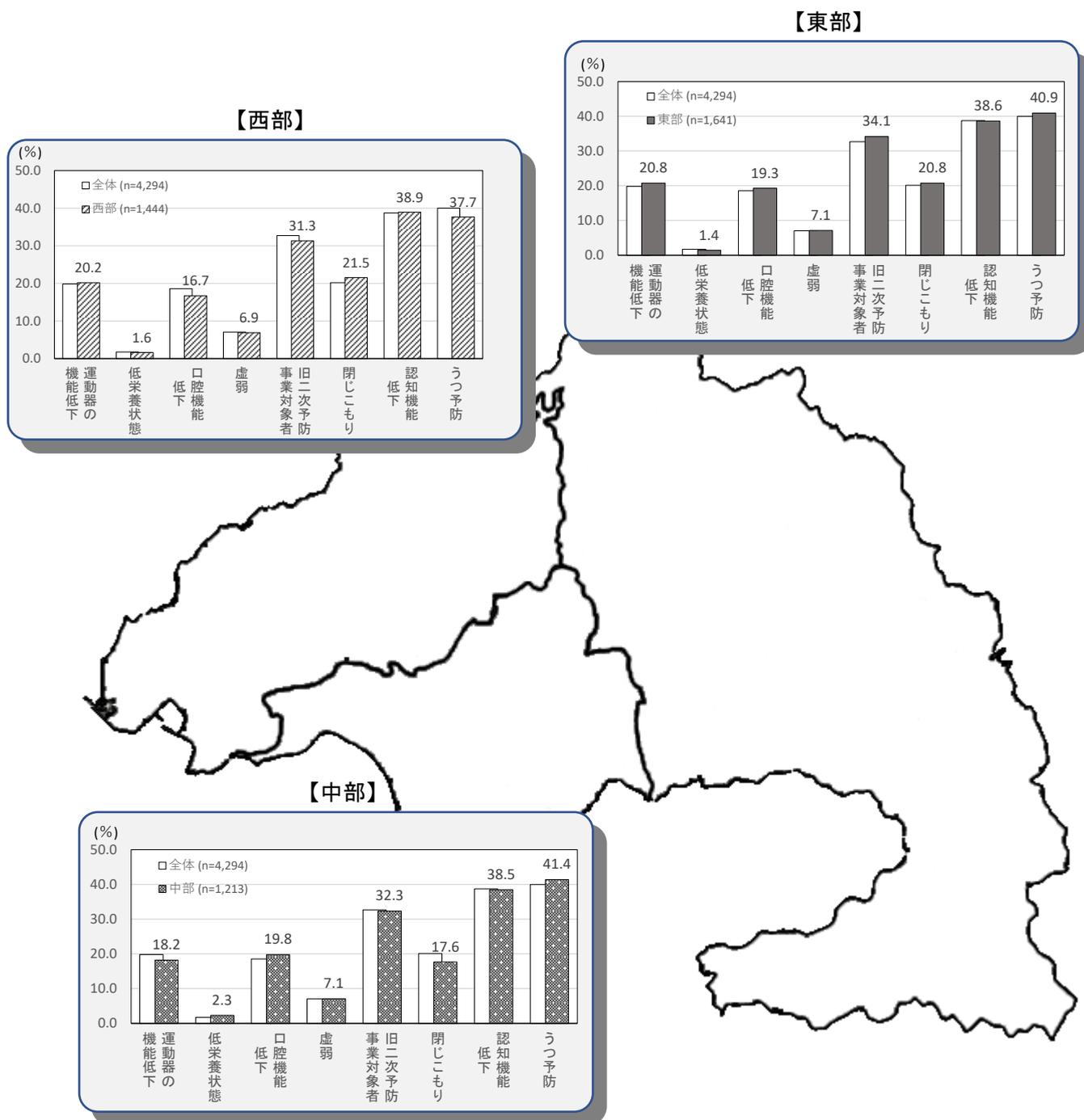


10 圏域別の概況

(1) 生活機能等リスク該当者

各圏域別に生活機能等リスク該当者状況についてまとめると下図のとおりとなります。

図表 生活機能等リスク該当者（圏域別）

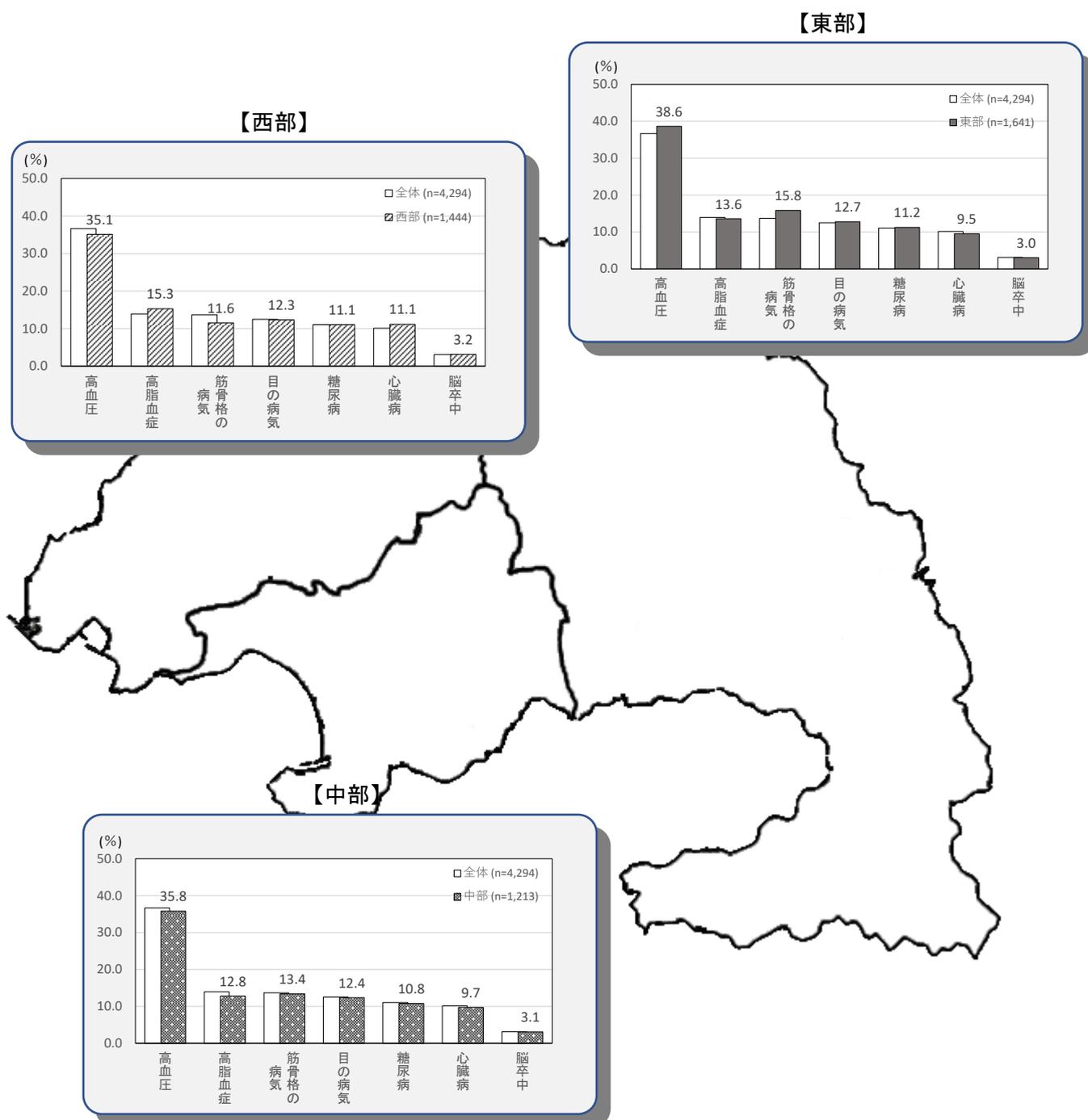


10 圏域別の概要

(2) 疾病

各圏域別に疾病の状況についてまとめると、下図のとおりとなっています。

図表 有病率（圏域別）



(3) 健康に関する事項

健康観及び健康に関する事項についての状況をまとめると下図のとおりとなります。

図表 健康観及び健康に関する事項（圏域別）



参考資料（調査票）

人生100年 いきいきと暮らそう！



介護予防・日常生活圏域二一ズ調査（健康寿命 100）

【調査票】

調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○を付けてください。

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて

9月22日(火)までに投函してください。

記 入 日	令和 2 年 月 日
●調査票を記入されたのはどなたですか 1. 宛名のご本人が記入 2. ご家族が記入(続柄_____) 3. その他()	
●ご回答のない質問があった場合、お電話でお聞きしてもよろしいですか 1. はい 2. いいえ	

※以下は宛名のご本人の情報を記入してください。

電 話 番 号	— —
年 齢 ・ 性 別	() 歳 男 ・ 女
生 年 月 日	明治 ・ 大正 ・ 昭和 年 月 日

ご記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、令和2年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上で3歳毎（65歳、68歳、71歳…）の年齢に該当し、要介護認定を受けていない方及び施設に入所していない方。
2. ご家族の方がご本人に代わって回答されたり、一緒に記入してもかまいません。
3. ご回答に当たっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め（例.

0	6	2
---	---	---

 kg）でご記入ください。
4. 「あなたの～」と尋ねている質問項目がいくつかあります。
この場合「あなた」とは、宛名のご本人を指しますので、ご本人以外のご家族が回答された場合でも、宛名のご本人に関して回答してください。
5. 「～していますか」と尋ねている質問項目が多くあります。できる能力があっても、していない場合は「いいえ」と回答してください。
この質問は、ご本人の主観に基づき「している」、「していない」という「活動」や「参加」の状況をチェックすることを目的としており、「できる」「できない」という「能力」をチェックすることを目的としていません。
（例 問2・Q7 新聞を読んでいますか）
6. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れてお送りください。
7. この調査についてのお問合せは以下までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

調査票の記入方法など	0120-775-335	コールセンター ※委託先：(株)グリーンエコ
調査全般（目的など）	046-873-1111	逗子市社会福祉課地域共生係

【個人情報の取扱いについて】

個人情報の保護及び使用目的は、以下の通りですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとみなさせていただきます。

■個人情報の保護及び使用目的について

- ・ この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、逗子市高齢者保健福祉計画策定、効果評価、地域包括支援センターによる支援活動に利用させていただきます（アンケート結果に応じて地域包括支援センターから連絡が入ることがあります）。
- ・ 高齢者保健福祉計画策定時および効果の評価時に、本調査で得られたデータを使用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース（地域包括ケア「見える化システム」）内に情報を登録し、集計・分析を行いません。

逗子市福祉部

質問の該当する答えの番号に○印をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1 あなたのご家族や生活状況について

Q1. 家族構成をお教えてください

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上） | |
| 3. 夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下） | 4. 息子・娘との2世帯 | 5. その他 |

Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない → **Q3へ**
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない → **Q2-1へ**
3. 現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
→ **Q2-1、Q2-2へ**

【Q2において、「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

- | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------|----------|--------|
| 1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） | 2. 心臓病 | 3. がん（悪性新生物） | | |
| 4. 呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等） | 5. 関節の病気（リウマチ等） | | | |
| 6. 認知症（アルツハイマー病等） | 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 | | |
| 9. 腎疾患（透析） | 10. 視覚・聴覚障害 | 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 | |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他（ | | ） | 15. 不明 |

【Q2において、「3. 現在、何らかの介護を受けている」方のみ】

Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか

- | | | | |
|----------------|---------|----------|---|
| 1. 配偶者（夫・妻） | 2. 息子 | 3. 娘 | |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 | |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他（ | | ） |

Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

Q4. お住まいは戸建て、または集合住宅のどちらにあたりますか

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------|
| 1. 持家（戸建て） | 2. 持家（集合住宅） | 3. 公営賃貸住宅 |
| 4. 民間賃貸住宅（戸建て） | 5. 民間賃貸住宅（集合住宅） | 6. 借家 |
| 7. その他 | | |

Q5. 介護が必要な状態になったら（既に必要な状態の場合も含む）、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか

1. **自宅**
2. 施設（グループホーム、サービス付き高齢者専用住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設など） → **Q5-2へ**

Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか
1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
Q5. 転倒に対する不安は大きいですか
1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない
Q6. 背中が丸くなってきましたか
1. はい 2. いいえ
Q7. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか
1. はい 2. いいえ
Q8. 杖を使っていますか
1. はい 2. いいえ
Q9. 週に1回以上は外出していますか
1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上
Q10. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか
1. とても減っている 2. 減っている 3. あまり減っていない 4. 減っていない
Q11. 外出を控えていますか
1. はい 2. いいえ → Q12 へ
Q11-1. (外出を控えている方のみ) 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)
1. 病気 2. 障害(脳卒中の後遺症など) 3. 足腰などの痛み
4. トイレの心配(失禁など) 5. 耳の障害(聴こえの問題など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない 9. 交通手段がない
10. 家の周辺に坂がある 11. 車の交通量が多い 12. その他 ()
Q12. 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)
1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車(自分で運転)
5. 自動車(人に乗せてもらう) 6. 電車 7. 路線バス 8. 病院や施設のバス
9. 車いす 10. 電動車いす(カート) 11. 歩行器・シルバーカー
12. タクシー 13. その他 ()

問3 食べることについて

Q1. 身長と体重をご記入ください
身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm 体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg
Q2. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
1. はい 2. いいえ

Q3. お茶や汁物等でむせることがありますか
1. はい 2. いいえ
Q4. 口の渇きが気になりますか
1. はい 2. いいえ
Q5. 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか
1. はい 2. いいえ
Q6. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
Q6-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか
1. はい 2. いいえ
Q7. 噛み合わせは良いですか
1. はい 2. いいえ
Q8. 定期的に歯科受診(健診を含む)をしていますか
1. はい 2. いいえ
Q9. 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか
1. はい 2. いいえ
Q10. 1日の食事の回数は何回ですか
1. 朝昼晩の3食 2. 朝晩の2食 3. 朝昼の2食 4. 昼晩の2食 5. 1食 6. その他
Q11. どなたかと食事をとにする機会がありますか
1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある
5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

Q1. 物忘れが多いと感じますか
1. はい 2. いいえ
Q2. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われるか
1. はい 2. いいえ
Q3. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか
1. はい 2. いいえ
Q4. 今日が何月何日かわからないときがありますか
1. はい 2. いいえ

Q17. 家族や友人の相談にのっていますか
 1. はい 2. いいえ

Q18. 病人を見舞うことができますか
 1. はい 2. いいえ

Q19. 若い人に自分から話しかけることがありますか
 1. はい 2. いいえ

Q20. 趣味はありますか
 1. 趣味あり 【具体的に】 ()
 2. 思いつかない

Q21. 生きがいはありますか
 1. 生きがいあり 【具体的に】 ()
 2. 思いつかない

問5 地域での活動について

Q1. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない
(1) ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
(2) スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
(3) 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
(4) 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
(5) 介護予防のための通いの場(サロンなど)	1	2	3	4	5	6
(6) 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
(7) 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
(8) 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Q2. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか
 1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない
 4. 既に参加している

Q3. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない
4. 既に参加している

Q4. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない

Q5. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー
4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・市役所・役場 6. その他
7. そのような人はいない

Q6. 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある
4. 年に何度かある 5. ほとんどない

Q7. この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
（同じ人には何度会っても1人と数えることとします）

1. 0人（いない） 2. 1～2人 3. 3～5人 4. 6～9人 5. 10人以上

Q8. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

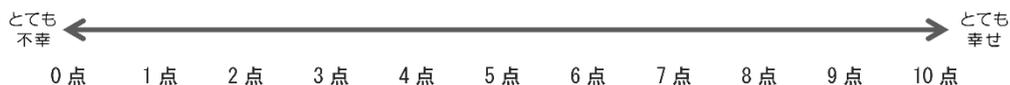
問6 健康について

Q1. 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

Q2. あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数を○で囲んでください)



Q3. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

Q4. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

Q5. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない

1. はい 2. いいえ

Q6. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

1. はい 2. いいえ

Q7. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

1. はい 2. いいえ

Q8. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない

1. はい 2. いいえ

Q9. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする

1. はい 2. いいえ

Q10. お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

Q11. タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

Q12. 現在、病院や診療所に通院していますか

1. はい 2. いいえ → **Q13** へ

Q12-1. (通院している方のみ) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいましたか

1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類
4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない

Q13. 現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

- | | | | |
|-------------------------|----------------|---------------------|--------|
| 1. ない | 2. 高血圧 | 3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) | 4. 心臓病 |
| 5. 糖尿病 | 6. 高脂血症(脂質異常) | 7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) | |
| 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | 9. 腎臓・前立腺の病気 | | |
| 10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) | 11. 外傷(転倒・骨折等) | | |
| 12. がん(悪性新生物) | 13. 血液・免疫の病気 | 14. うつ病 | |
| 15. 認知症(アルツハイマー病等) | 16. パーキンソン病 | 17. 目の病気 | |
| 18. 耳の病気 | 19. その他() | | |

問7 認知症にかかる相談窓口の把握について

Q1. 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

1. はい 2. いいえ

Q2. 認知症に関する相談窓口を知っていますか

1. はい 2. いいえ

問8 運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービスについて

Q1. あなたは、運動や栄養改善をすることにどのくらい関心がありますか

1. 関心がない
2. 関心はあるが、今後6ヶ月以内にしようとは考えていない
3. 今後6ヶ月以内にしようとしているが、この1ヶ月以内にする予定はない
4. 今後1ヶ月以内にする予定である
5. 既にしている（6ヶ月未満）
6. 既にしている（6ヶ月以上）

Q2. 介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスはありますか（いくつでも）

1. 足腰の衰えを予防するための取り組みをしてみたい
2. 口の機能や肺炎の予防のための取り組みをしてみたい
3. 栄養と体力の改善のための取り組みをしてみたい
4. 認知症予防のために脳機能を高める取り組みをしてみたい
5. 気のあった人たちと仲間づくりをしてみたい

